2026 年度

教　育　要　項

（シラバス）

第５学年

岩手医科大学歯学部

目　　次

教育要項の利用の仕方 …… 6
入学者受入方針（アドミッション・ポリシー） …… 7
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー） …… 9
教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー） …… 10
評価方針（アセスメント・ポリシー） …… 11
岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー …… 13
2026 年度歯学部カリキュラム×コンピテンス･コンピテンシーマトリックス表 …… 16
2026 年度履修系統図 …… 18
2026 年度第 5 学年カリキュラム …… 19
2026 年度第 5 学年授業時間割 …… 20
歯学部歯学科教育課程ナンバリング表 …… 23
2026 年度第 5 学年カリキュラム履修科目一覧 …… 25
矢巾キャンパス教場平面図 …… 26
歯学部教場平面図 …… 32

授業科目

総合講義（Ⅰ） …… 38
解剖学 …… 40
組織学・発生学 …… 44
生理学 …… 47
生化学 …… 49
微生物学・免疫学 …… 52
薬理学 …… 55
病理学 …… 57
歯科理工学 …… 61
法歯科医学・災害歯科医学 …… 65
歯内療法学 …… 67
保存修復学 …… 70
歯周病学 …… 73
有床義歯補綴学 …… 76
冠橋義歯学・口腔インプラント学 …… 79
摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学 …… 83

口腔外科学 …… 86
歯科麻酔学 …… 89
歯科放射線学 …… 92
歯科矯正学 …… 94
小児歯科学 …… 97
障害者歯科学 …… 101
関連医学・内科学 …… 103
衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学 …… 105

臨床実習（Ⅰ・Ⅱ） …… 110
臨床実習Ⅰ　予防歯科学・歯周病学 …… 112
臨床実習Ⅰ　保存修復学・歯内治療学 …… 114
臨床実習Ⅰ　有床義歯補綴学・冠橋義歯補綴学・口腔インプラント学 …… 116
臨床実習Ⅰ　口腔外科学 …… 118
臨床実習Ⅰ　歯科麻酔学 …… 121
臨床実習Ⅰ　歯科放射線学 …… 122
臨床実習Ⅰ　歯科矯正学 …… 123
臨床実習Ⅰ　小児歯科学 …… 125
臨床実習Ⅰ　障害者歯科学 …… 127

臨床実習Ⅱ　総合歯科学 …… 128
臨床実習Ⅱ　予防歯科学 …… 131
臨床実習Ⅱ　保存修復学・歯内治療学 …… 133
臨床実習Ⅱ　歯周病学 …… 137
臨床実習Ⅱ　有床義歯補綴学 …… 140
臨床実習Ⅱ　冠橋義歯補綴学 …… 144
臨床実習Ⅱ　口腔インプラント学 …… 148
臨床実習Ⅱ　摂食嚥下・口腔リハビリテーション学 …… 151
臨床実習Ⅱ　口腔外科学 …… 154
臨床実習Ⅱ　歯科麻酔学 …… 158
臨床実習Ⅱ　歯科放射線学 …… 160
臨床実習Ⅱ　歯科矯正学 …… 164
臨床実習Ⅱ　小児歯科学 …… 168
臨床実習Ⅱ　障害者歯科学 …… 172

臨床実習Ⅱ　内科学 …… 174
臨床実習Ⅱ　臨床薬学 …… 176

リクワイアメント　総合歯科学 …… 178
リクワイアメント　予防歯科学 …… 179
リクワイアメント　保存修復学・歯内治療学 …… 180
リクワイアメント　歯周病学 …… 181
リクワイアメント　有床義歯補綴学 …… 182
リクワイアメント　冠橋義歯補綴学 …… 183
リクワイアメント　口腔インプラント学 …… 184
リクワイアメント　摂食嚥下・口腔リハビリテーション学 …… 185
リクワイアメント　口腔外科学 …… 186
リクワイアメント　歯科麻酔学 …… 187
リクワイアメント　歯科放射線学 …… 188
リクワイアメント　歯科矯正学 …… 189
リクワイアメント　小児歯科学 …… 190
リクワイアメント　障害者歯科学 …… 191
リクワイアメント　内科学 …… 192
リクワイアメント　臨床薬学 …… 193

第 58 期生 臨床実習実施要領 …… 194
2026 年度 第 5 学年 看護・介護体験実習実施要領 …… 197
2026 年度 第 5 学年 地域医療体験実習実施要領 …… 198
2026 年度 第 5 学年 高次臨床実習実施要領 …… 199

自由科目

海外英語演習 …… 222
地域医療課題解決演習 …… 224

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則 …… 228

岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程 …… 246
岩手医科大学歯学部における人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程 …… 248
学生心得 …… 250
岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程 …… 257
岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領 …… 258
岩手医科大学歯学部試験規程 …… 259
岩手医科大学歯学部試験規程の取扱内規 …… 262
進級・卒業に関する申し合わせ事項 …… 264
成績評価に対する異議申し立てに関する内規 …… 265
岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程 …… 269
歯学部歯学科カリキュラムマップ …… 273
GPA・CAP 制度 …… 274
大学における単位の考え方と授業外学修について …… 275
岩手医科大学生命倫理規範 …… 276
岩手医科大学における人体標本取扱指針 …… 277
教育成果物の利用に関して …… 277
学生健康診断規程 …… 278
2026 年度学生健康診断等実施要領 …… 280
オフィスアワー …… 282

教育要項（シラバス）の利用の仕方

この教育要項は、本学歯学部の授業を受ける学生諸君に、各教育科目とそれぞれの授業計画および授業内容を知らせるためのものです。

学生諸君が本学における歯学教育の内容を把握するとともに、充実した履修を行うために本要項を有意義に活用されることを希望します。

具体的な利用の仕方について以下に示します。

授業計画、授業内容について

科目ごとに 学修方針、教育成果*1、到達目標*2 を掲げています。

＊1 教育成果 —— 学習の成果であり、学習された知識･技能･態度が将来どのように利用されるかが分かります。

＊2 到達目標 —— 行動目標ともいわれ、学習者がこの授業で学んだことにより、具体的に何ができるようになるかを記したものです。

また、授業ごとに 内容、到達目標 を記載してありますので、各回の授業で何を理解し、何が出来るようになればよいかを予め確認し、日々の予習復習に役立ててください。

教科書（教）・参考図書（参）・推薦図書（推）について

授業科目ごとに、教科書（教）または、学習に必要な参考図書（参）・推薦図書（推）を掲げています。図書館にもありますから、積極的に利用してください。

なお、教科書として指定された図書については各自購入してください。

成績評価方法について

授業科目毎に、学習者の成績を評価するための基準を明示していますから、あらかじめ理解したうえで授業に臨んでください。

なお、試験に関する全体的なことについては、「歯学部試験規程」および「同取扱内規」によります。

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。

学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

(方　式)

1．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

2．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

スモールグループチュートリアル（SG）について

スモールグループチュートリアル（SG）は、チューター1 人が 5～10 名の学生を担当し、随時、学生と接することにより学生の学業・生活面などについて把握し、その長所を伸ばすとともに問題点を改善する方策などをアドバイスするものです。

歯学部教務委員会

岩手医科大学　歯学部入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、「医療人たる前に、誠の人間たれ」という建学の精神のもとに、地域医療に貢献する医療人育成を使命として設立されました。学則には、「まず人間としての教養を高め、充分な知識と技術とを習得し、更に進んでは専門の学理を極め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献する」ことが掲げられています。歯学教育・教養教育を通して、優れた資質と深い人間愛を有する医療人、研究者、人格的に成長できる人材の育成が、本学の目指すところです。

歯学部では、次のような人材を求めています。

1. 全人的な立場で周囲と交流できる協調性のある人
2. 明確な目的意識を持って、積極的に社会貢献のできる人
3. 科学的な思考のもとに周囲の現象を捉えることができる人
4. 医学や歯学を生涯学習の対象として捉え、意欲的に勉学のできる人
5. 国際社会における医療や研究活動に、積極的に参加する意欲のある人

多様な人材を募るために、一般選抜、大学入学共通テスト利用選抜、医学部入学試験利用選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学者選抜により、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性などを多面的・総合的に評価し、入学者を選抜します。

一般選抜、医学部入学試験利用選抜では、高等学校で履修する３教科（理科、数学、英語）についての筆記試験と面接試験により、入学後の修学に必要な学力を有しているかを確認します。筆記試験では、歯科医学を修得するために必要とされる生命現象を理論的に捉える力を評価するため、理科の試験を課します。また、歯科医療の現場で必要とされる医療統計の理解に必要な基礎学力や、国際的コミュニケーション能力の修得に資する基礎学力を確認するために、「数学」、「英語」の試験を課します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確かめるとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

大学入学共通テスト利用選抜では、大学入学共通テストの結果をもとに、「外国語（英語）」、「国語、数学のいずれか１科目」、「理科、地歴公民、情報のいずれか１科目」について、基本的な学力を有するかを判定します。面接試験では歯科医師を志す熱意、必要とされる一般常識、社会性（協調性）などを確認するとともに、高等学校在籍時における学修態度、課外活動等については調査書をもとに評価します。

これらの試験を通して、歯科医師にふさわしい資質とバランスの取れた人格とを備えているかの総合的な判断をおこないます。

学校推薦型選抜では、志望理由書や調査書に基づいて学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、歯科医療の実践に必要とされる問題発見力とその問題解決に必要な思考力を有しているかを小論文にて評価します。面接試験では、歯科医療の現場で必要とされる自己の考えを人にわかりやすく説明する力や人の意見を聞きそれについて議論する力を評価するとともに、高校在籍時における学修態度、課外活動などを調査書により評価します。

総合型選抜では、志望理由書や調査書に基づき、学修に必要な基礎知識を有しているかを確認するとともに、模擬授業で得た知識をもとに思考・表現する力を、理解度確認テストによって評価します。また、自己推薦書では、本学の建学の精神や教育理念に対する理解、地域医療への貢献意欲、多職種との協働姿勢などを確認し、面接と併せて、歯科医師としての適性・意欲・学力を多面的に評価します。

編入学者選抜は、高い目的意識をもつ他分野の履修者や社会経験者を受け入れ、それまでの経験を生かしながら歯科医師としての知識・態度・技能を修得することを目的に実施しています。選抜は小論文と面接とでおこない、歯科医師を志す熱意に加え、基礎知識や一般常識を確認し、学修に必要な資質を備えているかを総合的に判断します。

なお、入学者の受け入れにあたっては、民族、宗教、国籍、年齢、性別、家庭環境、居住地域および性的指向などを問わず、多様な人材を募集します。

岩手医科大学　歯学部学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得し、チーム医療や地域社会において活躍できる歯科医師として以下の各資質を身につけ、かつ所定の課程を修めた者に対して学士（歯学）の学位を授与します。

1. 歯科医師として患者や地域住民の健康と生命を守るという責務を理解し、高度な専門性と豊かな人間性と倫理観を有すること。（プロフェッショナリズム）
2. 患者･家族や他職種と良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を備えること。加えて ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルを身につけていること。（コミュニケーション能力）
3. 医療チームの一員として、相手の立場を尊重しお互いの協力のもとに医療を円滑に実践すること。（チーム医療の実践能力）
4. 科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践すること。（包括的歯科医療の実践能力）
5. 地域の保健、医療、福祉、介護の現状や問題点を把握して、地域医療の向上に取組む態度・技能が備わっていること。（地域保健・医療の実践能力）
6. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で修得していること。（高水準の診療能力）
7. 国際的な保健・医療活動に貢献するための態度と基本的な語学能力を有すること。（国際貢献への資質）
8. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究を遂行するために必要な知識と技能を有すること。（研究マインドの保持）
9. 生涯にわたり歯科医療に対する自己研鑽を続ける態度が備わっていること。生涯学習のための ICT スキルを含む情報リテラシーを有していること。（生涯学習の実践）

以上の教育成果を達成することができるように六年一貫でカリキュラムが構成されています。本学のすべてのカリキュラムを完遂し、年次ごとの科目を着実に修得することが必要です。そのため、学則第２条に定める期間を在学し、かつ第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得しなければなりません。その上で、各学年および卒業時に定められた成果評価試験（筆記式の試験、客観的臨床技能試験、態度評価）に合格したものを卒業とし、学士（歯学）の学位を授与します。

岩手医科大学歯学部教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

学士（歯学）の学位授与の方針を実現するために、汎用的な共通教育科目と、幅広い分野にわたる基礎専門科目、より専門的な臨床専門科目による教育課程を整備し、体系的な歯学の履修を可能にします。

1. 歯科医師の社会的責任を自覚し、初年時から継続的なプロフェッショナリズム教育を行います。（プロフェッショナリズムの育成）
2. 患者やその家族および他職種とのコミュニケーション能力を高めるため、医療面接を理解し体験する科目、チーム医療に関する科目を設置します。それらの科目のなかで、ICT <Information and Communication Technology> を利用したコミュニケーションを図るためのスキルについても学修します。（コミュニケーション能力の向上）
3. 地域の医療施設ならびに居宅、福祉施設等で多職種と協働して適切な保健・医療を提供するためには地域保健・医療の問題点の疫学的把握方法、職種間の相互理解と円滑なコミュニケーションが必要です。そのために社会歯科学系科目に加え、演習によるシミュレーション、現場実習等を行う科目を初年次から 6 年次までに設置します。（地域保健・医療、チーム医療の実践能力の育成）
4. 科学的根拠に基づいた診断と歯科診療の計画立案ならびに実践のために、基礎、臨床科目を統合した、包括的臨床科目教育を実施します。（包括的臨床歯科医学教育）
5. 歯科医師として求められる基本的診療技術を高い水準で獲得するために、スチューデントクリニシャンシステムを導入し、自験を充実させた診療参加型実習を行います。（高水準の基本的診療能力の獲得）
6. 国際的な歯科医療活動に参加するための基本的な英語能力を身につけるために、歯科医療に関連する英単語から英会話を学修する歯科専門英語の科目を設置します。さらに培った語学力を実践する国際的体験コースを設置します（選択制）。（国際貢献の資質の育成）
7. 歯科医学や医療の発展に寄与する研究マインドを涵養するために実際に課題に対する研究を行う科目を設置します。（研究マインドの涵養）
8. 生涯にわたる自己研鑽を継続するために必要な問題発見・解決能力を身につけるため、プレゼンテーション、PBL などの能動的学修機会を各科目に設けます。これらの中で生涯学習に必要な ICT スキルを含む情報リテラシーを学修する機会を設けます。（能動的学修の習慣化）

歯学部における評価方針（アセスメント・ポリシー）

【大学】
本学の建学の精神「医療人たる前に、誠の人間たれ」を深く理解したうえで、医療人として必要な資質を備えているかを、多面的な評価方法で判定します。

【歯学部】
本学歯学部は、医療人として備えるべき資質を学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に定め、歯科医師として必要な知識・技能・態度を修得するためのカリキュラムを構成しています。「誠の人間を育成する」との大学・学部の理念に立脚し、以下の指針に則って学年ごとあるいは科目ごとに、認知領域、精神運動領域並びに情意領域を多面的に評価します。

1．講義・演習のみの科目では、知識とその応用を査定します。実習を伴う科目では、技能、態度、コミュニケ-ション能力も評価します。臨床現場での実習科目では更に倫理・遵法精神と利他精神を評価対象にします。
2．知識とその応用に関しては筆記試験や口頭試問、技能は実技試験、その他の能力は実習現場評価（レポート、スケッチ、段階的技能・行動表と業務現場評価法、および自己進達度表等を取りまとめたポートフォリオ）で査定します。
3．筆記試験、口頭試問、実技試験は数値化して達成度を査定します。実習現場評価では、可能な限り数値化できる評価法を用いて達成度を査定します。
4．評価方法の選定と合否基準の設定にあたっては、その妥当性、客観性ならびに実現可能性を考慮し、担当委員会にて定期的に見直しを行い、次年度開始時に被評価者と評価者にシラバスで呈示します。
5．歯学教育における順次性を考慮し、原則的に年度ごとの統括評価（進級判定あるいは卒業判定）を行います。
6．科目合否判定や進級あるいはまた卒業時の判定に用いる統括評価に加え、形成的評価を随時行うことで到達目標に至る道程を明らかにします。
7．卒業に拘わる試験を除く各学年での統括試験では、所定の到達目標に達しなかった場合は、再試験を行います。また、何らかの事情で試験を受験できなかった場合は、追試験を行うことがあります（獲得した点数の 9 割に減じられたのが、最終評価になります)。
8．第 5 学年次で臨床実習を行うことができる知識・技能・態度が備わっているか否かは、共用試験（CBT と OSCE）と統括試験で判定します。
9．科目履修は出席することが前提です。各学年次の講義・演習・実習を 1/3 以上欠席した場合、第 5 学年次の臨床実習を 1/5 以上欠席または学外連携プログラムを欠席した場合は、原則として評価対象から外れます。統括評価に出席状況は加えられません。
10．各学年の進級・卒業要件と各科目の合否基準の詳細は、シラバスに明示するとともに、学年当初に被評価者に確認をとります。

11. 各科目の査定をもとにGrade Point Average; GPAを算出し、進路に対する助言をします。
12. 被評価者からの照会に応じる体制を整備します(統括試験問題と正答あるいは判定基準の保管、照会時の答案開示、等)。

注

- 大学入学者選抜時のアセスメント・ポリシーは、アドミッション・ポリシーに含めます。
- 本学学生としての資質に欠けると思われる行動をとった場合は、他に定める処罰規定によって、処分します。
- やむを得ない事由で欠席した場合の取り扱いに関しては、進級・卒業要件に記します。

用語説明

- 判定;合否で表すものとして用いる、査定;連続変数で表すものに用いる、評価;判定・査定を包括した用語
- 段階的技能・行動表;ルーブリック、業務現場評価法;ワーク・プレイス・アセスメント WBAと言われるもので、代表的なものはMini-CEX (mini-clinical evaluation exercise)

岩手医科大学歯学部卒業時コンピテンス・コンピテンシー

Ⅰ　プロフェッショナリズム

関連コンピテンシー

1．医療倫理

医療は個人の尊厳・福利のためのものであることを理解し、歯科医療を行う上で、常に個人の尊厳が冒されるようなことのない方法を選択できる。

2．研究倫理

基礎医学研究、疫学研究、人を対象とした研究の計画において、倫理的かつ道義的な問題点を指摘することができる。

3．法と制度に則った歯科医療の提供

歯科医療に係わる法ならびに社会保障制度を理解し、法と制度に則った適正な歯科保健・医療サービスについて概説することができる。

4. 情報リテラシー

医学情報の適切な収集と理解および利用に関し高度な情報リテラシーを有し、患者情報の保護を実践できる。

Ⅱ　コミュニケーション能力

関連コンピテンシー

1．医療面接

歯科保健医療の提供のため、医学的に必要な情報を患者・家族から得ることができる。

2．インフォームドコンセント

検査を含む全ての診療行為の前に患者からの同意を得る態度が身についており、必要に応じて書面でのインフォームドコンセントを取得するための説明を行うことができる。

3．コミュニケーションスキル

基本的なコミュニケーションスキルを医療面接において適用できる。

4．プレゼンテーション能力

患者・家族や他職種に歯科専門職からの情報提供を行うための適切な説明またはプレゼンテーションを行うことができる。

5. ICT スキル

ICT を用いた遠隔コミュニケーションを円滑に行うことが出来る。

Ⅲ　チーム医療

関連コンピテンシー

1．他職種への理解

歯科保健医療に係わる職種を列挙し、チーム医療におけるそれらの役割を説明することができる。

2．コンサルテーション能力

他職種または専門医、上級医の専門性を理解し、コンサルテーションが必要な時機とコンサルテーション相手を判断することができる。

3．人間関係の構築

チーム医療を行うための良好な人間関係を構築するのに適切な態度をとることができる。

4．地域包括ケアシステムへの理解

地域包括ケアシステムの制度、構造と実践でのチーム医療の重要性を理解し、歯科医師としてシステム内で機能するための方法を列挙できる。

Ⅳ　包括的・継続的歯科医療

関連コンピテンシー

1．歯科医学的知識

疾患の病因、病態、治療法などを基礎歯科医学的知識に基づいて説明することができる。

2．歯科医学的診断能力

診察結果や検査値または画像検査結果から疾病の診断ならびにリスクの把握をすることができる。

3．EBM の実践能力

診療ガイドライン等による最新の根拠を参照し、適切かつ効率的な診療・予防計画策定を立案しようと努め、患者等の価値観を考慮した計画を策定することができる。

4．包括的・継続的歯科保健医療計画

歯科保健医療の包括性と継続性の重要性を説明でき、患者等の QOL の維持・向上のための予防、リハビリテーションを含めた長期的視点に立った歯科保健医療計画を策定することができる。

5．ライフステージに応じた歯科保健医療の提供

周術期ケア、終末期の食支援等を含めた様々なライフステージに応じた歯科保健医療を提案することができる。

6．健康教育

保健・医療への患者等の積極的参加の重要性を理解し、適切な行動変容を生じさせるための基本的行動科学理論を概説できる。

7．患者等への配慮

全ての局面で患者・家族等の苦痛や不安に配慮した診療を行うことができる。

Ⅴ　地域保健・医療

関連コンピテンシー

1．健康課題の疫学的把握

集団、地域の健康課題を把握するための統計指標を列挙し、与えられた資料から、集団、地域の健康課題を統計学的に分析することができる。

2．健康課題への公衆衛生的介入

集団、地域に認められる健康課題に対して公衆衛生的介入方法を提案することができる。

3．健康課題の変化への対応

地域、時代によって変化する健康課題を把握することができる。

4．医療連携

医療施設の種類を列挙し、それぞれの役割と連携方法を概説できる。

5．訪問歯科診療

訪問歯科診療の特殊性を理解し、生活の場における歯科医療の現場に参加できる。

Ⅵ　高水準の基本的診療能力の獲得

関連コンピテンシー

1．基本的治療の習得

高頻度に接する代表的歯科疾患（う蝕、歯周病など)、外傷（打撲、裂傷など）に対する検査、診断、基本的治療ができる。

2．高度技能習得への準備

高度な知識、技能を要する検査、治療の原理と手順を理解してそれらに対する介助ができる。

3．医療安全

歯科診療に必要な医療安全管理、感染対策を講じることができる。

Ⅶ　歯科医師としての可能性の追究

関連コンピテンシー

1．国際貢献

国際的な歯科保健・医療・研究活動に参加するための基本的な英会話ができる。また、国際社会の一員として文化、社会的背景の差違を考慮した国際交流を行うことができる。

2．研究（リサーチ）マインド

歯科医学に関わる疑問点に対する最新の情報を収集し、その内容を説明することができる。また、自ら研究計画を立案し、その研究を行うために必要な研究環境について説明できる。

3．生涯学習

生涯にわたる自己研鑽を継続するために自己の問題を発見することができ、問題解決のための方略を策定することができる。

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが単位認定の要件である

レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

卒業時コンピテンス	関連コンピテンシー	レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	医療倫理学	法学	心理学	医療における社会・行動科学	医療面接の基礎	データサイエンス	情報リテラシー	物理学	物理学実習	専門課程への化学	化学実習	エッセンシャル生物	専門課程への生物学	生物学実習	ERW Ⅰ	ERW Ⅱ	ESL Ⅰ	ESL Ⅱ	健康運動科学	ベーシック生物	スタンダード生物	アドバンスト生物	自然・文化人類学	ベーシック化学	ベーシック物理	解析学入門	医療とスポーツ	医療とコミュニケーション	道徳のしくみ	ベーシック数学	アドバンスト数学	アドバンスト化学	文学の世界	実践英語	医療と福祉	科学英語	医療と物語	人間関係論	パーソナリティ心理学	哲学の世界	医療と法律	歯科医学概論	解剖学Ⅰ	組織学基礎	生理学Ⅰ	生化学Ⅰ	臨床歯科学入門	医学統計学
		全体選択数					第1学年　教養科目																																										第1学年　専門科目						第2学年 教養科目
Ⅰ プロフェッショナリズム	医療倫理																																																						
	研究倫理																																																						
	法と制度に則った歯科医療の提供																																																						
	情報リテラシー																																																						
Ⅱ コミュニケーション能力	医療面接																																																						
	インフォームドコンセント																																																						
	コミュニケーションスキル																																																						
	プレゼンテーション能力																																																						
	ICTスキル																																																						
Ⅲ チーム医療	他職種への理解																																																						
	コンサルテーション能力																																																						
	人間関係の構築																																																						
	地域包括ケアシステムへの理解																																																						
Ⅳ 包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																						
	歯科医学的診断能力																																																						
	EBMの実践能力																																																						
	包括的・継続的歯科保健医療計画																																																						
	ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																						
	健康教育																																																						
	患者等への配慮																																																						
Ⅴ 地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																						
	健康課題への公衆衛生的介入																																																						
	健康課題の変化への対応																																																						
	医療連携																																																						
	訪問歯科診療																																																						
Ⅵ 高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																						
	高度技能習得への準備																																																						
	医療安全																																																						
Ⅶ 歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																						
	研究（リサーチ）マインド																																																						
	生涯学習																																																						

公開準備中

2026年度 歯学部カリキュラム×コンピテンス・コンピテンシー マトリックス表

レベルの概要

レベルE：修得する機会がない

レベルD：触れる機会はあるが単位認定に関係がない
（形成的評価には用いることができる）

レベルC：基礎知識を有していることが
単位認定の要件である

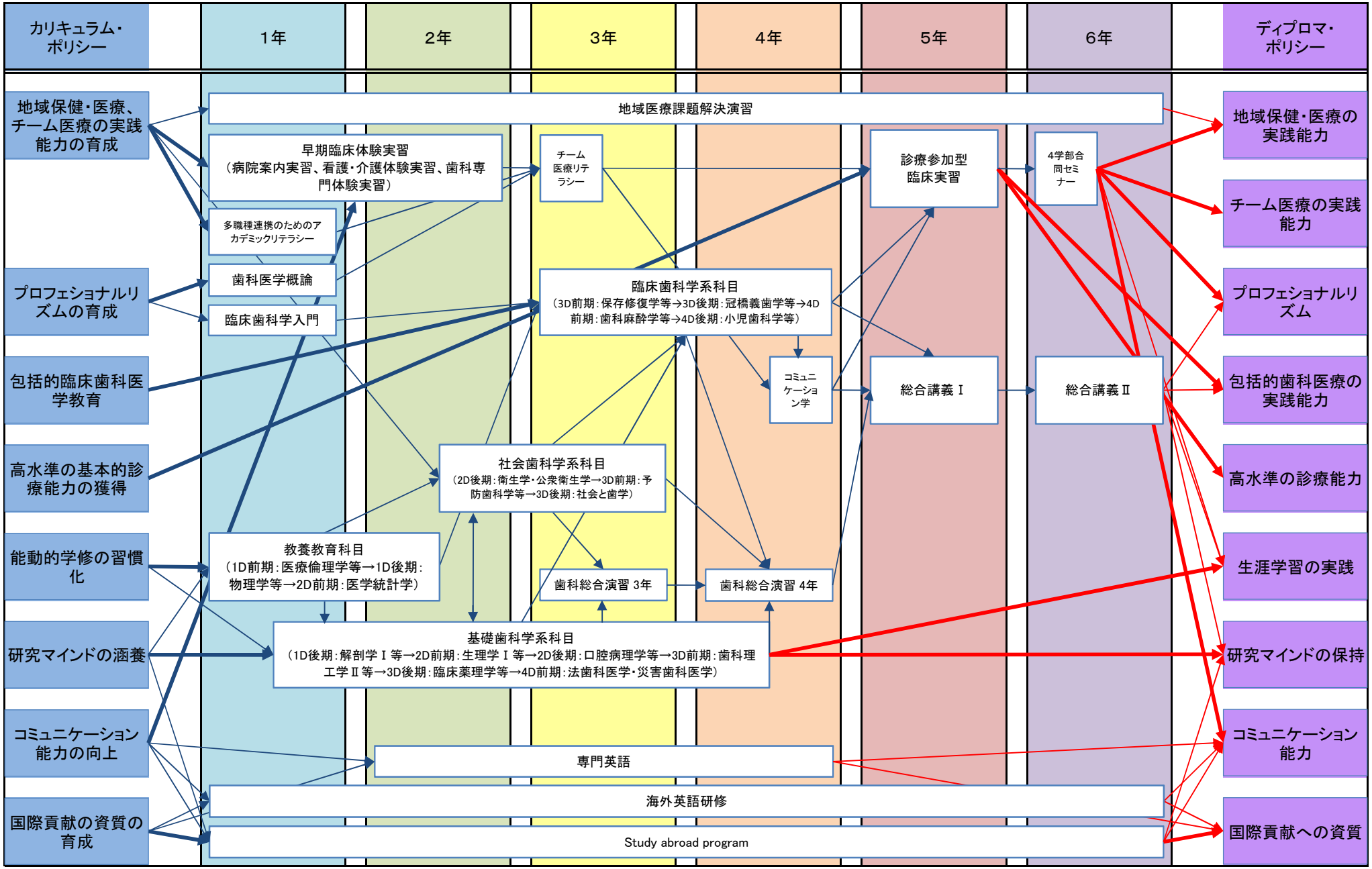
レベルB：基礎知識を活用（実践）できることが
単位認定の要件である

レベルA：修得していることが単位認定の要件である
（＝卒業時コンピテンシーに到達している）

			全体選択数					第2学年　専門科目											第3学年　専門科目																			第4学年　専門科目														5D 専門		6D 専門		自由科目	
卒業時コンピテンス		関連コンピテンシー	レベルE	レベルD	レベルC	レベルB	レベルA	解剖学Ⅱ	組織学・発生学	生理学Ⅱ	生化学Ⅱ	微生物学・免疫学Ⅰ	歯科理工学Ⅰ	薬理学Ⅰ	病理学総論	衛生学・公衆衛生学	歯科専門体験実習	専門英語（2年）	微生物学・免疫学Ⅱ	歯科理工学Ⅱ	薬理学Ⅱ	口腔病理学	予防歯科学	保存修復学	補綴学総論	歯科放射線学	医科学（3年）	歯周病学	臨床薬理学	社会と歯学	歯内療法学	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	冠橋義歯学	基礎科学演習	医療リベラルアーツ	歯科総合演習（3年）	チーム医療リテラシー	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	部分床義歯補綴学	口腔インプラント学	歯科麻酔学	法歯科医学・災害歯科医学	医科学（4年）	口腔外科学	歯科矯正学	小児歯科学	障害者歯科学	高齢者歯科医学	歯科総合演習（4年）	専門英語（4年）	コミュニケーション演習	総合講義（Ⅰ）	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	総合講義（Ⅱ）	4学部合同セミナー	海外英語演習	地域医療課題解決演習
Ⅰ	プロフェッショナリズム	医療倫理																																																					
		研究倫理																																																						
		法と制度に則った歯科医療の提供																																																					
		情報リテラシー																																																					
Ⅱ	コミュニケーション能力	医療面接																																																					
		インフォームドコンセント																																																					
		コミュニケーションスキル																																																					
		プレゼンテーション能力																																																					
		ICTスキル																																																					
Ⅲ	チーム医療	他職種への理解																																																					
		コンサルテーション能力																																																					
		人間関係の構築																																																					
		地域包括ケアシステムへの理解																																																					
Ⅳ	包括的・継続的歯科医療	歯科医学的知識																																																					
		歯科医学的診断能力																																																					
		EBMの実践能力																																																					
		包括的・継続的歯科保健医療計画																																																					
		ライフステージに応じた歯科保健医療の提供																																																					
		健康教育																																																					
		患者等への配慮																																																					
Ⅴ	地域保健・医療	健康課題の疫学的把握																																																					
		健康課題への公衆衛生的介入																																																					
		健康課題の変化への対応																																																					
		医療連携																																																					
		訪問歯科診療																																																					
Ⅵ	高水準の基本的診療能力の獲得	基本的治療の習得																																																					
		高度技能習得への準備																																																					
		医療安全																																																					
Ⅶ	歯科医師としての可能性の追究	国際貢献																																																					
		研究（リサーチ）マインド																																																					
		生涯学習																																																					

公開準備中

カリキュラム・ポリシー、カリキュラム、ディプロマ・ポリシーの関連（2026年度）



2026年度　第5学年　カリキュラム

学期区分	期　　間	週　数
オリエンテーション	2026年 3月27日（金）　午前	
臨床実習Ⅰオリエンテーション	3月27日（金）　午後	
臨床実習Ⅰ	3月30日（月）～ 4月 7日（火）	2週
実力確認試験	4月 9日（木）	
臨床実習Ⅱオリエンテーション	4月10日（金）	
臨床実習Ⅱ①（前期授業）	4月13日（月）～ 8月 3日（月）	16週
夏期休業	8月 4日（火）～ 8月19日（水）	3週
前期試験	8月20日（木）～ 8月21日（金） 総合講義（Ⅰ）	1週
同上解説講義	8月24日（月）～ 8月27日（木）	1週
臨床実習Ⅱ②（後期授業）	8月31日（月）～ 12月24日（木）	17週
介護体験実習	10月 6日（火）～ 10月16日（金）	2週
冬期休業	12月25日（金）～ 2027年 1月 4日（月）	2週
臨床実習Ⅱ③（後期授業）	1月 5日（火）～ 2月25日（木）	7週
一斉技能試験	1月21日（木）	
後期試験	1月28日（木）～ 1月29日（金） 総合講義（Ⅰ）	1週
同上解説講義	2月 1日（月）～ 2月 4日（木）	1週
一次判定（試験成績）	2月12日（金）	
一斉技能再試験	2月16日（火）	
再試験	2月22日（月）	1週
進級判定	3月 3日（水）	
春期休業	2月26日（金）～ 3月25日（木）　予定	4週
備考		授業44週 試験3週 休み9週

2026年度　第5学年　前期　授業時間割

	月					火					水					木					金					土				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
講義	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
臨床実習	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30
3/23	春季休業					3/24	春季休業				3/25	春季休業				3/26	春季休業				3/27	オリエンテーション	臨実Ⅰオリエンテーション			3/28	×	×		
3/30	臨床実習Ⅰ					3/31	臨床実習Ⅰ				4/1	臨床実習Ⅰ				4/2	臨床実習Ⅰ				4/3	臨床実習Ⅰ				4/4	×	×		
4/6	臨床実習Ⅰ					4/7	臨床実習Ⅰ				4/8	×	×	×	×	4/9	実力確認試験				4/10	臨実Ⅱオリエンテーション	×	×	×					
4/13	臨床実習Ⅱ					4/14	解剖	障害者	予防	組織	内科	4/15	臨床実習Ⅱ			4/16	臨床実習Ⅱ				4/17	臨床実習Ⅱ								
4/20	臨床実習Ⅱ					4/21	生化	生理	放射線	病理	週復1	4/22	臨床実習Ⅱ			4/23	×	×	健康診断	×	4/24	臨床実習Ⅱ				4/25	×	×		
4/27	臨床実習Ⅱ					4/28	理工	口外	＊	冠イン	週復2	4/29	昭和の日			4/30	臨床実習Ⅱ				5/1	臨床実習Ⅱ				5/2	＊	＊		
5/4	みどりの日					5/5	こどもの日					5/6	振替休日			5/7	臨床実習Ⅱ				5/8	臨床実習Ⅱ								
5/11	臨床実習Ⅱ					5/12	月復1	法歯	予防	＊	週復3	5/13	臨床実習Ⅱ			5/14	臨床実習Ⅱ				5/15	臨床実習Ⅱ								
5/18	臨床実習Ⅱ					5/19	解剖	口外	矯正	薬理	週復4	5/20	臨床実習Ⅱ			5/21	臨床実習Ⅱ				5/22	臨床実習Ⅱ				5/23	×	×		
5/25	臨床実習Ⅱ					5/26	理工	全部床	摂食	修復	週復5	5/27	臨床実習Ⅱ			5/28	臨床実習Ⅱ				5/29	臨床実習Ⅱ								
6/1	臨床実習Ⅱ					6/2	微生物	予防	病理	生化	週復6	6/3	臨床実習Ⅱ			6/4	臨床実習Ⅱ				6/5	臨床実習Ⅱ				6/6	月復2	×		
6/8	臨床実習Ⅱ					6/9	歯内	組織	生理	部分床	週復7	6/10	臨床実習Ⅱ			6/11	臨床実習Ⅱ				6/12	臨床実習Ⅱ								
6/15	臨床実習Ⅱ					6/16	理工	冠イン	小児	放射線	週復8	6/17	臨床実習Ⅱ			6/18	臨床実習Ⅱ				6/19	臨床実習Ⅱ								
6/22	臨床実習Ⅱ					6/23	微生物	歯周	法歯	薬理	週復9	6/24	臨床実習Ⅱ			6/25	臨床実習Ⅱ				6/26	臨床実習Ⅱ				6/27	×	×		
6/29	臨床実習Ⅱ					6/30	生理	麻酔	口外	冠イン	週復10	7/1	臨床実習Ⅱ			7/2	臨床実習Ⅱ				7/3	臨床実習Ⅱ				7/4	月復3	×		
7/6	臨床実習Ⅱ					7/7	小児	生化	内科	歯周	週復11	7/8	臨床実習Ⅱ			7/9	臨床実習Ⅱ				7/10	臨床実習Ⅱ								
7/13	臨床実習Ⅱ					7/14	解剖	摂食	組織	薬理	週復12	7/15	臨床実習Ⅱ			7/16	臨床実習Ⅱ				7/17	臨床実習Ⅱ								
7/20	海の日					7/21	微生物	病理	麻酔	矯正	週復13	7/22	臨床実習Ⅱ			7/23	臨床実習Ⅱ				7/24	臨床実習Ⅱ				7/25	×	×		
7/27	臨床実習Ⅱ					7/28	週復14	月間4	×	×	×	7/29	自己学習日（臨床実習）			7/30	自己学習日（臨床実習）				7/31	自己学習日（臨床実習）				8/1	×	×		
8/3	自己学習日（臨床実習）					8/4	夏季休業					8/5	夏季休業			8/6	夏季休業				8/7	夏季休業					夏季休業			
8/10	夏季休業/山の日					8/11	夏季休業					8/12	夏季休業			8/13	夏季休業				8/14	夏季休業					夏季休業			
8/17	夏季休業					8/18	夏季休業					8/19	夏季休業			8/20	総合試験 前期（2日間）				8/21	総合試験 前期（2日間）				8/22	×	×		
8/24	解説講義 △					8/25	解説講義					8/26	解説講義			8/27	解説講義 ▲				8/28	試験等予備日								

△ 地域医療体験実習説明会（8/24 夕方）

▲ CPX説明会（8/27 夕方）

→ 連絡会（試験がある場合は試験後に実施）

2026年度　第5学年　後期　授業時間割

	月					火					水					木					金					土				
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
講義	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50
臨床実習	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30	8:30～12:00		13:00～16:30		17:00～18:30
8/31	臨床実習Ⅱ					9/1	冠イン	予防	部分床	解剖	連絡会	9/2	臨床実習Ⅱ				9/3	臨床実習Ⅱ				9/4	臨床実習Ⅱ				9/5	病院案内実習/臨実Ⅱ白枠			
9/7	臨床実習Ⅱ					9/8	組織	放射線	口外	麻酔	週復1	9/9	臨床実習Ⅱ				9/10	臨床実習Ⅱ				9/11	臨床実習Ⅱ								
9/14	臨床実習Ⅱ					9/15	生化	小児	矯正	冠イン	週復2	9/16	臨床実習Ⅱ				9/17	臨床実習Ⅱ				9/18	ワークショップ	摂食	全部床	＊					
9/21	敬老の日					9/22	国民の休日					9/23	秋分の日				9/24	臨床実習Ⅱ				9/25	臨床実習Ⅱ				9/26	×	×		
9/28	臨床実習Ⅱ					9/29	生理	歯内	障害者	介護オリエ	週復3	9/30	臨床実習Ⅱ				10/1	臨床実習Ⅱ				10/2	臨床実習Ⅱ				10/3	病院案内実習/臨実Ⅱ白枠			
10/5	臨床実習Ⅱ					10/6	介護体験実習/臨床実習Ⅱ					10/7	介護体験実習/臨床実習Ⅱ				10/8	介護体験実習/臨床実習Ⅱ				10/9	介護体験実習/臨床実習Ⅱ								
10/12	スポーツの日					10/13	介護体験実習/臨床実習Ⅱ					10/14	介護体験実習/臨床実習Ⅱ				10/15	介護体験実習/臨床実習Ⅱ				10/16	介護体験実習/臨床実習Ⅱ								
10/19	臨床実習Ⅱ					10/20	月間1	週復4	インフル予防接種	×		10/21	臨床実習Ⅱ				10/22	臨床実習Ⅱ				10/23	臨床実習Ⅱ				10/24	×	×		
10/26	臨床実習Ⅱ					10/27	微生物	歯周	理工	薬理	修復	10/28	臨床実習Ⅱ				10/29	全国模試（麻布120-2）				10/30	全国模試（麻布120-2）								
11/2	臨床実習Ⅱ					11/3	文化の日					11/4	病理	口外	矯正	放射線	週復5	11/5	臨床実習Ⅱ				11/6	臨床実習Ⅱ				11/7	病院案内実習/臨実Ⅱ白枠			
11/9	臨床実習Ⅱ					11/10	組織	口外	予防	冠イン	週復6	11/11	臨床実習Ⅱ				11/12	臨床実習Ⅱ				11/13	臨床実習Ⅱ				11/14				
11/16	臨床実習Ⅱ					11/17	小児	生理	冠イン	内科	週復7	11/18	臨床実習Ⅱ				11/19	臨床実習Ⅱ				11/20	臨床実習Ⅱ								
11/23	勤労感謝の日					11/24	月間2	摂食	歯周	麻酔	週復8	11/25	臨床実習Ⅱ				11/26	臨床実習Ⅱ				11/27	臨床実習Ⅱ				11/28	×	×		
11/30	臨床実習Ⅱ					12/1	微生物	予防	小児	生化	週復9	12/2	臨床実習Ⅱ				12/3	臨床実習Ⅱ				12/4	臨床実習Ⅱ				12/5	病院案内実習/臨実Ⅱ白枠			
12/7	臨床実習Ⅱ					12/8	法歯	歯内	口外	部分床	週復10	12/9	臨床実習Ⅱ				12/10	臨床実習Ⅱ				12/11	臨床実習Ⅱ								
12/14	臨床実習Ⅱ					12/15	冠イン	放射線	全部床	障害者	週復11	12/16	臨床実習Ⅱ				12/17	臨床実習Ⅱ				12/18	臨床実習Ⅱ								
12/21	臨床実習Ⅱ					12/22	月間3	薬理	矯正	病理	週復12	12/23	臨床実習Ⅱ				12/24	臨床実習Ⅱ				12/25	冬季休業				12/26	冬季休業			
12/28	冬季休業					12/29	冬季休業					12/30	冬季休業				12/31	冬季休業				1/1	冬季休業					冬季休業			
1/4	冬季休業					1/5	歯周	口外	内科	麻酔	週復13	1/6	臨床実習Ⅱ				1/7	臨床実習Ⅱ				1/8	臨床実習Ⅱ								
1/11	成人の日					1/12	解剖	予防	修復	理工	週復14	1/13	臨床実習Ⅱ				1/14	臨床実習Ⅱ				1/15	臨床実習Ⅱ								
1/18	臨床実習Ⅱ					1/19	週復15	月間4				1/20	臨床実習Ⅱ（白枠）				1/21	臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験 本試験）				1/22	臨床実習Ⅱ（白枠）				1/23	×	×		
1/25	臨床実習Ⅱ（白枠）					1/26	臨床実習Ⅱ（白枠）					1/27	臨床実習Ⅱ（白枠）				1/28	総合試験 後期（2日間）				1/29	総合試験 後期（2日間）				1/30				
2/1	解説講義					2/2	解説講義					2/3	解説講義				2/4	解説講義				2/5	試験等予備日/臨実Ⅱ白枠				2/6	×	×		
2/8	臨床実習Ⅱ（白枠）					2/9	臨床実習Ⅱ（白枠）					2/10	臨床実習Ⅱ（白枠）				2/11	建国記念の日				2/12	進級判定Ⅰ/臨実Ⅱ白枠								
2/15	臨床実習Ⅱ（白枠）					2/16	臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験 追再試験）/臨実Ⅱ白枠					2/17	臨床実習Ⅱ（白枠）				2/18	ケースプレゼンテーション				2/19	臨床実習Ⅱ（白枠）				2/20				
2/22	総合試験 再試験/臨実Ⅱ白枠					2/23	天皇誕生日					2/24	再試験等予備日/臨実Ⅱ白枠				2/25	再試験等予備日/臨実Ⅱ白枠				2/26					2/27	×	×		
3/1						3/2						3/3	進級判定Ⅱ				3/4					3/5	卒業式				3/6	春季休業予定			
3/8	春季休業予定					3/9	春季休業予定					3/10	春季休業予定				3/11	春季休業予定				3/12	春季休業予定					春季休業予定			
3/15	春季休業予定					3/16	春季休業予定					3/17	春季休業予定				3/18	春季休業予定				3/19	春季休業予定					春季休業予定			
3/22	春季休業予定/振替休日					3/23	春季休業予定					3/24	春季休業予定				3/25	春季休業予定													

→ 連絡会（試験がある場合は試験後に実施）

2026年度 第5学年 総合試験解説講義日程

8月

総合講義（Ⅰ）前期試験解説講義

20	木	前期総合試験								
21	金									
24	月		9:30-10:10	10:25-11:05	11:05-11:40	13:00-13:35	13:50-15:10		16:00～	
			生理40	生化40	病理35	薬理35	冠インプ80		地域医療説明会	
25	火		9:30-10:05			13:00-13:50	13:50-14:20	14:35-15:00	15:00-15:35	
			組織35			有床50	内科30	障害25	微生物35	
26	水	8:50-9:30	9:30-10:15	10:30-11:25		13:00-13:40	13:55-14:45	14:45-15:20	15:35-16:40	
		歯内40	修復45	小児55		理工40	嚥下50	解剖35	歯周65	
27	木	8:50-9:55	10:10-11:00			13:00-14:10	14:25-15:15	15:15-15:40	15:55-17:20	17:30～
		矯正65	麻酔50			予防70	放射50	法歯災害25	口外85	CPX学生説明会

1-2月

総合講義（Ⅰ）後期試験解説講義

28	木	後期総合試験								
29	金									
1	月					13:00-13:30	13:30-14:30	14:45-15:55	16:10-16:35	
						解剖30	放射60	予防70	障害25	
2	火	8:50-9:20		10:35-11:50		13:00-13:50	14:05-15:00	15:15-15:45	16:00-17:35	
		微生物30		矯正75		有床50	嚥下55	内科30	口外95	
3	水	8:50-9:35	9:35-10:20	10:35-11:30	11:30-12:00	13:00-13:40	13:40-14:10	14:25-15:00		
		歯内45	修復45	小児55	組織30	理工40	病理30	生化35		
4	木	8:50-9:25	9:25-9:55	10:10-11:10		13:00-14:10	14:25-14:50	15:05-16:35		
		生理35	薬理30	麻酔60		歯周70	法歯災害25	冠インプ90		

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	01	D1-L1-A01	多職種連携のためのアカデミックリテラシー
				Z:教養	01	D1-L1-Z01	医療倫理学
					02	D1-L1-Z02	法学
					03	D1-L1-Z03	心理学
					04	D1-L1-Z04	医療における社会・行動科学
					05	D1-L1-Z05	医療面接の基礎
					06	D1-L1-Z06	データサイエンス
					07	D1-L1-Z07	情報リテラシー
					08	D1-L1-Z08	物理学
					09	D1-L1-Z09	物理学実習
					10	D1-L1-Z10	専門課程への化学
					11	D1-L1-Z11	化学実習
					12	D1-L1-Z12	エッセンシャル生物
					13	D1-L1-Z13	専門課程への生物学
					14	D1-L1-Z14	生物学実習
					15	D1-L1-Z15	English Reading & WritingⅠ
					16	D1-L1-Z16	English Reading & WritingⅡ
					17	D1-L1-Z17	English Speaking & ListeningⅠ
					18	D1-L1-Z18	English Speaking & ListeningⅡ
					19	D1-L1-Z19	健康運動科学
			2:選択必修	Z:教養	20	D1-L2-Z20	ベーシック生物
					21	D1-L2-Z21	スタンダード生物
					22	D1-L2-Z22	アドバンスト生物
					23	D1-L2-Z23	自然・文化人類学
					24	D1-L2-Z24	ベーシック化学
					25	D1-L2-Z25	ベーシック物理
					26	D1-L2-Z26	解析学入門
					27	D1-L2-Z27	医療とスポーツ
					28	D1-L2-Z28	医療とコミュニケーション
					29	D1-L2-Z29	道徳のしくみ
					30	D1-L2-Z30	ベーシック数学
					31	D1-L2-Z31	アドバンスト数学
					32	D1-L2-Z32	アドバンスト化学
					33	D1-L2-Z33	文学の世界
					34	D1-L2-Z34	実践英語
					35	D1-L2-Z35	医療と福祉
					36	D1-L2-Z36	科学英語
					37	D1-L2-Z37	医療と物語
					38	D1-L2-Z38	人間関係論
					39	D1-L2-Z39	パーソナリティ心理学
					40	D1-L2-Z40	哲学の世界
					41	D1-L2-Z41	医療と法律
		S:専門	1:必修	B:プロフェッショナリズム	01	D1-S1-B01	歯科医学概論
				C:基礎歯科医学	01	D1-S1-C01	解剖学Ⅰ
					02	D1-S1-C02	組織学基礎
					03	D1-S1-C03	生理学Ⅰ
					04	D1-S1-C04	生化学Ⅰ
				B:プロフェッショナリズム	02	D1-S1-B02	臨床歯科学入門
	2:2年次 （基礎レベル）	L:教養	1:必修	Z:教養	42	D2-L1-Z42	医学統計学
		S:専門		C:基礎歯科医学	06	D2-S1-C06	解剖学Ⅱ
					07	D2-S1-C07	組織学・発生学
					08	D2-S1-C08	生理学Ⅱ
					09	D2-S1-C09	生化学Ⅱ
					10	D2-S1-C10	微生物学・免疫学Ⅰ
					11	D2-S1-C11	歯科理工学Ⅰ
					12	D2-S1-C12	薬理学Ⅰ
					13	D2-S1-C13	病理学総論
				D:社会歯科医学	01	D2-S1-D01	衛生学・公衆衛生学
				B:プロフェッショナリズム	03	D2-S1-B03	歯科専門体験実習
				C:基礎歯科医学	14	D2-S1-C14	専門英語（2年）
	3:3年次 （応用/発展レベル）	S:専門	1:必修	C:基礎歯科医学	15	D3-S1-C15	微生物学・免疫学Ⅱ
					16	D3-S1-C16	歯科理工学Ⅱ
					17	D3-S1-C17	薬理学Ⅱ
					18	D3-S1-C18	口腔病理学
				E:臨床歯科医学	01	D3-S1-E01	予防歯科学
					02	D3-S1-E02	保存修復学
					03	D3-S1-E03	補綴学総論
					04	D3-S1-E04	歯科放射線学
					05	D3-S1-E05	医科学（3年）
					06	D3-S1-E06	歯周病学
				C:基礎歯科医学	19	D3-S1-C19	臨床薬理学
				D:社会歯科医学	02	D3-S1-D02	社会と歯学
				E:臨床歯科医学	07	D3-S1-E07	歯内療法学
					08	D3-S1-E08	全部床義歯補綴学（Ⅰ）
					09	D3-S1-E09	冠橋義歯学
				C:基礎歯科医学	20	D3-S1-C20	基礎科学演習
				D:社会歯科医学	03	D3-S1-D03	医療リベラルアーツ
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	01	D3-S1-F01	歯科総合演習（3年）
				A:IPE	02	D3-S1-A02	チーム医療リテラシー

歯学部歯学科教育課程ナンバリング表

学部	レベル	科目種別	科目区分	中分類	小分類	ナンバリング	科目名
D:歯学部	4:4年次 （高度レベル）	S:専門	1:必修		11	D4-S1-E11	全部床義歯補綴学（Ⅱ）
					12	D4-S1-E12	部分床義歯補綴学
					14	D4-S1-E14	歯科麻酔学
				C:基礎歯科医学	21	D4-S1-C21	法歯科医学・災害歯科医学
				E:臨床歯科医学	15	D4-S1-E15	医科学（4年）
					16	D4-S1-E16	口腔外科学
					17	D4-S1-E17	口腔インプラント学
					18	D4-S1-E18	歯科矯正学
					19	D4-S1-E19	小児歯科学
					20	D4-S1-E20	障害者歯科学
					21	D4-S1-E21	専門英語（4年）
					22	D4-S1-E22	高齢者歯科医学
				F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	02	D4-S1-F02	歯科総合演習（4年）
				E:臨床歯科医学	23	D4-S1-E23	コミュニケーション学
	5:5年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	03	D5-S1-F03	総合講義（Ⅰ）
				G:臨床実習	01	D5-S1-G01	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）
	6:6年次配当レベル	S:専門	1:必修	F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	04	D6-S1-F04	総合講義（Ⅱ）
				A:IPE	03	D6-S1-A03	4学部合同セミナー
	1:1年次 （入門/導入レベル）	L:教養	3:自由	Z:教養	43	D1-L3-Z43	海外英語演習
		S:専門		A:IPE	04	D1-S3-A04	地域医療課題解決演習

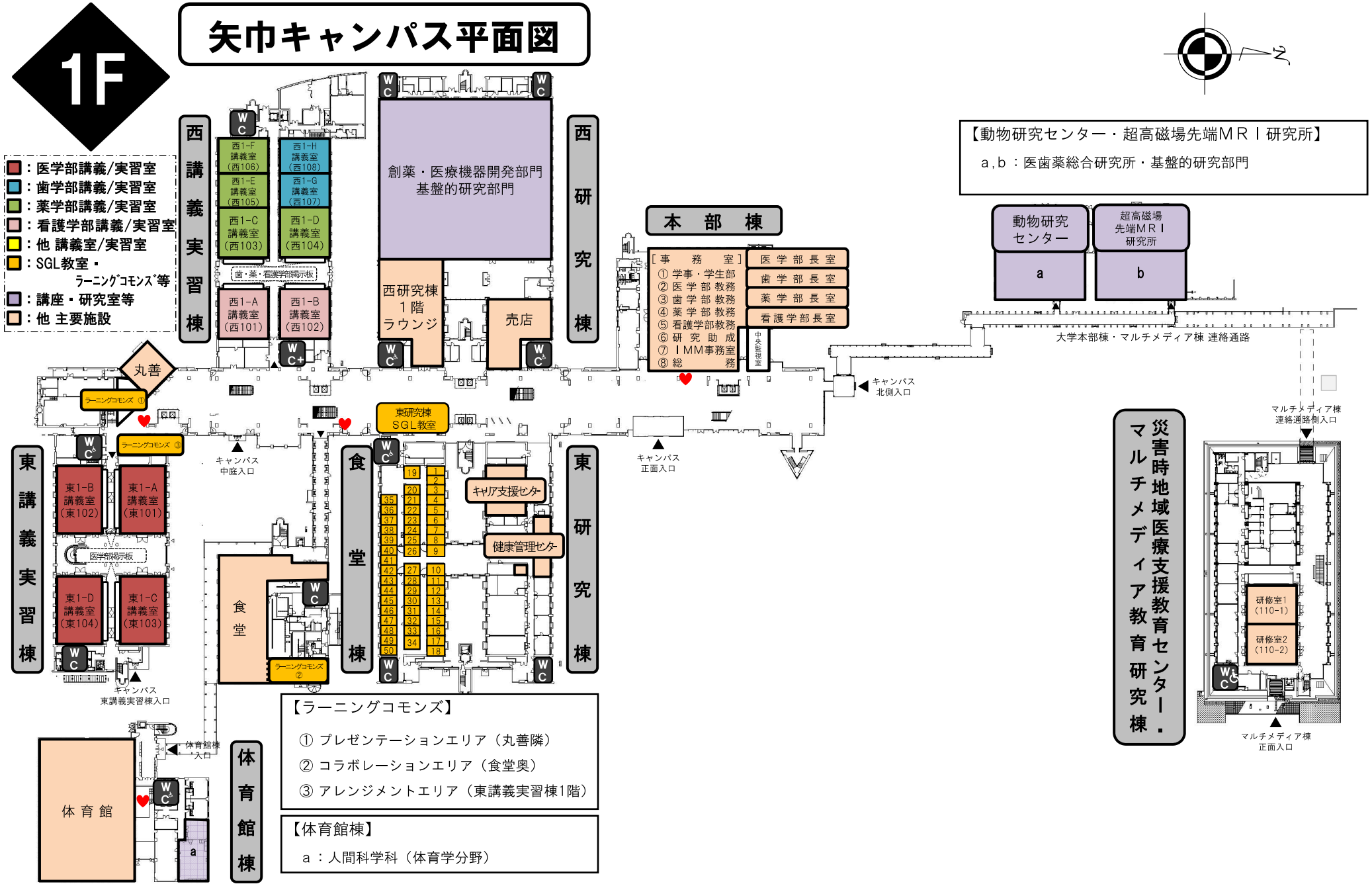
D1ーS1ーA1
①②ー③④ー⑤⑥

①学部	②レベル	③科目種別	④科目区分	⑤中分類	⑥小分類
M:医学部	1:1年次配当レベル（または入門／導入レベル）	L:教養	1:必修	A:IPE	通し番号（2桁）
D:歯学部	2:2年次配当レベル（または基礎レベル）	S:専門	2:選択必修	B:プロフェッショナリズム	
P:薬学部	3:3年次配当レベル（または応用／発展レベル）		3:自由	C:基礎歯科医学	
N:看護学部	4:4年次配当レベル（または高度レベル）			D:社会歯科医学	
	5:5年次配当レベル			E:臨床歯科医学	
	6:6年次配当レベル			F:総合歯科医学（基礎・社会・臨床）	
	※学年跨ぎ、自由科目については、1～4のレベルで振り分ける。			G:臨床実習	
				Z:教養	

2026年度　第5学年カリキュラム　履修科目一覧

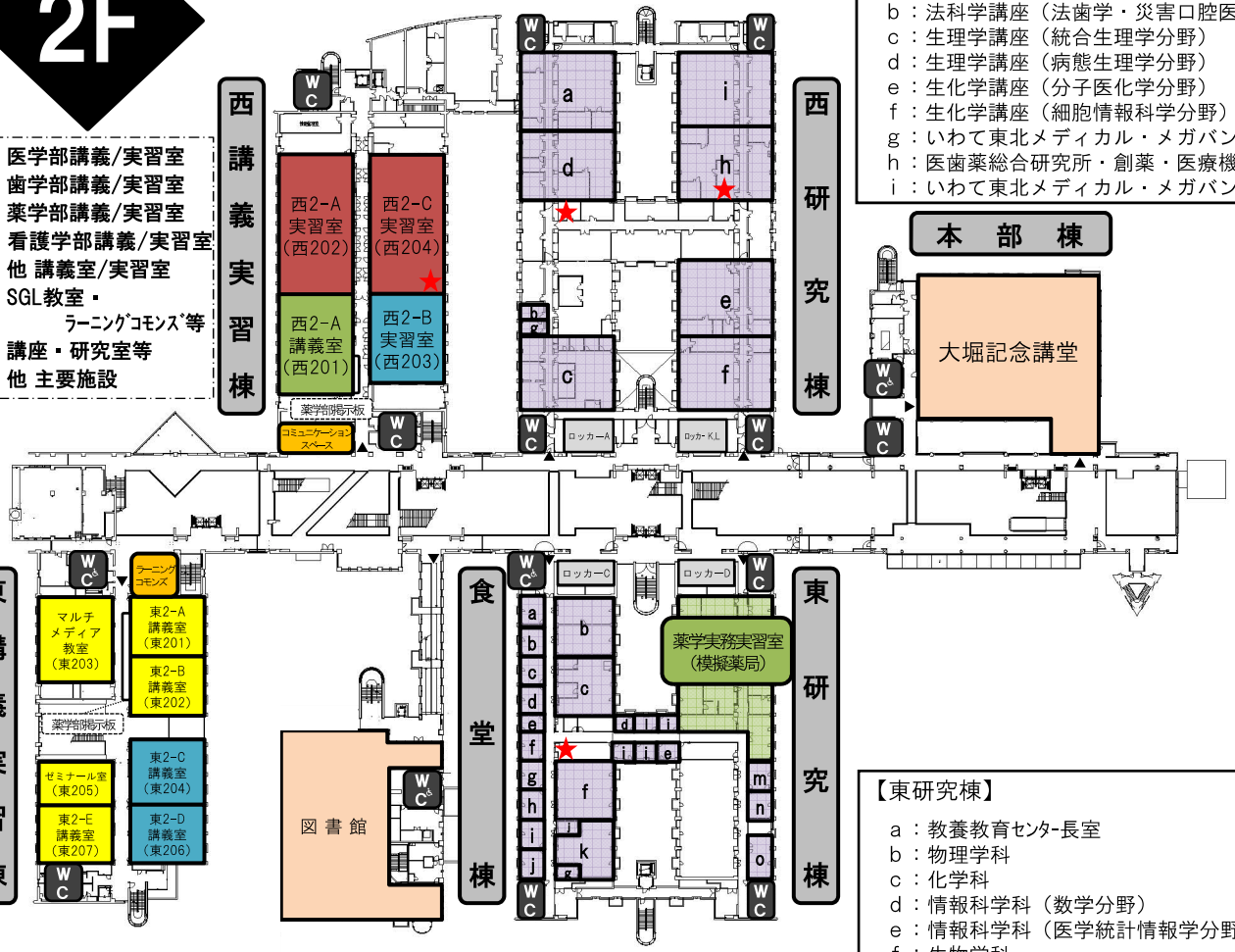
区分	科目名		前期		後期		総時間数		単位	備考
			コマ数	時間	コマ数	時間	コマ数	時間		
専門科目	総合講義（Ⅰ）	講義	―	132.0	―	144.7	―	276.7	10.0	
	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	実習	―	504.0	―	708.0	―	1212.0	33.5	
合計				636.0		852.7		1488.7	43.5	

矢巾キャンパス平面図


1F
■：医学部講義/実習室
■：歯学部講義/実習室
■：薬学部講義/実習室
■：看護学部講義/実習室
■：他 講義室/実習室
■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
■：講座・研究室等
■：他 主要施設
西講義実習棟
西1-F講義室（西106）
西1-H講義室（西108）
西1-E講義室（西105）
西1-G講義室（西107）
西1-C講義室（西103）
西1-D講義室（西104）
歯・薬・看護学部掲示板
西1-A講義室（西101）
西1-B講義室（西102）
創薬・医療機器開発部門
基盤的研究部門
西研究棟1階ラウンジ
売店
西研究棟
本部棟
［事務室］
① 学事・学生部
② 医学部教務
③ 歯学部教務
④ 薬学部教務
⑤ 看護学部教務
⑥ 研究助成
⑦ IMM事務室
⑧ 総務
医学部長室
歯学部長室
薬学部長室
看護学部長室
中央監視室
キャンパス北側入口
大学本部棟・マルチメディア棟 連絡通路
動物研究センター
a
超高磁場先端MRI研究所
b
【動物研究センター・超高磁場先端MRI研究所】
a,b：医歯薬総合研究所・基盤的研究部門
丸善
ラーニングコモンズ①
ラーニングコモンズ③
キャンパス中庭入口
東研究棟SGL教室
キャリア支援センター
健康管理センター
キャンパス正面入口
東講義実習棟
東1-B講義室（東102）
東1-A講義室（東101）
医学部掲示板
東1-D講義室（東104）
東1-C講義室（東103）
キャンパス東講義実習棟入口
食堂
食堂棟
ラーニングコモンズ②
東研究棟
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟
マルチメディア棟連絡通路側入口
研修室1（110-1）
研修室2（110-2）
マルチメディア棟正面入口
体育館
体育館棟入口
体育館棟
【ラーニングコモンズ】
① プレゼンテーションエリア（丸善隣）
② コラボレーションエリア（食堂奥）
③ アレンジメントエリア（東講義実習棟1階）
【体育館棟】
a：人間科学科（体育学分野）
：AED（自動体外式除細動器）
：トイレ（♿：多目的付，＋：オストメイト対応）

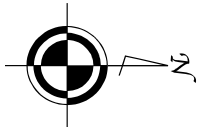
2F

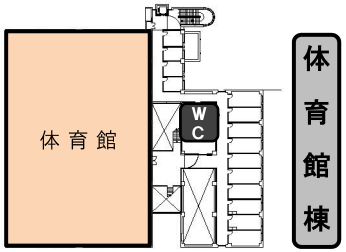
- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

- a：法科学講座（法医学分野）
- b：法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）
- c：生理学講座（統合生理学分野）
- d：生理学講座（病態生理学分野）
- e：生化学講座（分子医化学分野）
- f：生化学講座（細胞情報科学分野）
- g：いわて東北メディカル・メガバンク機構
- h：医歯薬総合研究所・創薬・医療機器開発部門
- i：いわて東北メディカル・メガバンク機構

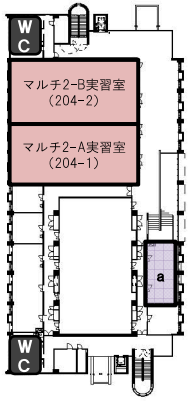




【東研究棟】

- a：教養教育センター長室
- b：物理学科
- c：化学科
- d：情報科学科（数学分野）
- e：情報科学科（医学統計情報学分野）
- f：生物学科
- g：人間科学科（心理学・行動科学分野）
- h：人間科学科（文学分野）
- i：外国語学科（英語分野）
- j：人間科学科（哲学分野）
- k：人文社会語学系研究室
- l：人間科学科（法学分野）
- m：全学教育推進機構長室
- n：口腔医学講座（歯科医学教育学分野）
- o：看護専門基礎講座

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



【災害時地域医療支援教育センター】

- a：救急・災害医学講座

★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

3F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ﾗｰﾆﾝｸﾞｺﾓﾝｽﾞ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設

【西研究棟】

- a：医療工学講座
- b：衛生学公衆衛生学講座
- c：微生物学講座（感染症学・免疫学分野）
- d：微生物学講座（分子微生物学分野）
- e：薬理学講座（情報伝達医学分野）
- f：薬理学講座（病態制御学分野）
- g：病態薬理学講座（分子細胞薬理学分野）
- h：病態薬理学講座（薬剤治療学分野）
- i：医学教育学講座教育支援システム開発分野

【東研究棟】

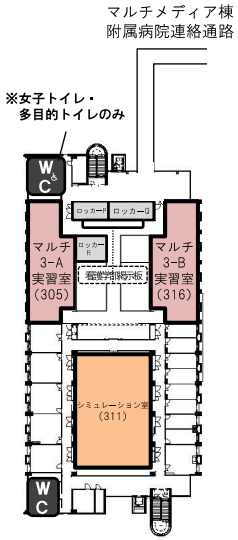
- a：生物薬学講座（生体防御学分野）
- b：生物薬学講座（機能生化学分野）
- c：臨床薬学講座（情報薬科学分野）
- d：臨床薬学講座（臨床薬剤学分野）
- e：臨床薬学講座（地域医療薬学分野）
- f：臨床薬学講座（薬学教育学分野）
- g：病態薬理学講座（臨床医化学分野）
- h：いわて東北メディカル・メガバンク機構

★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

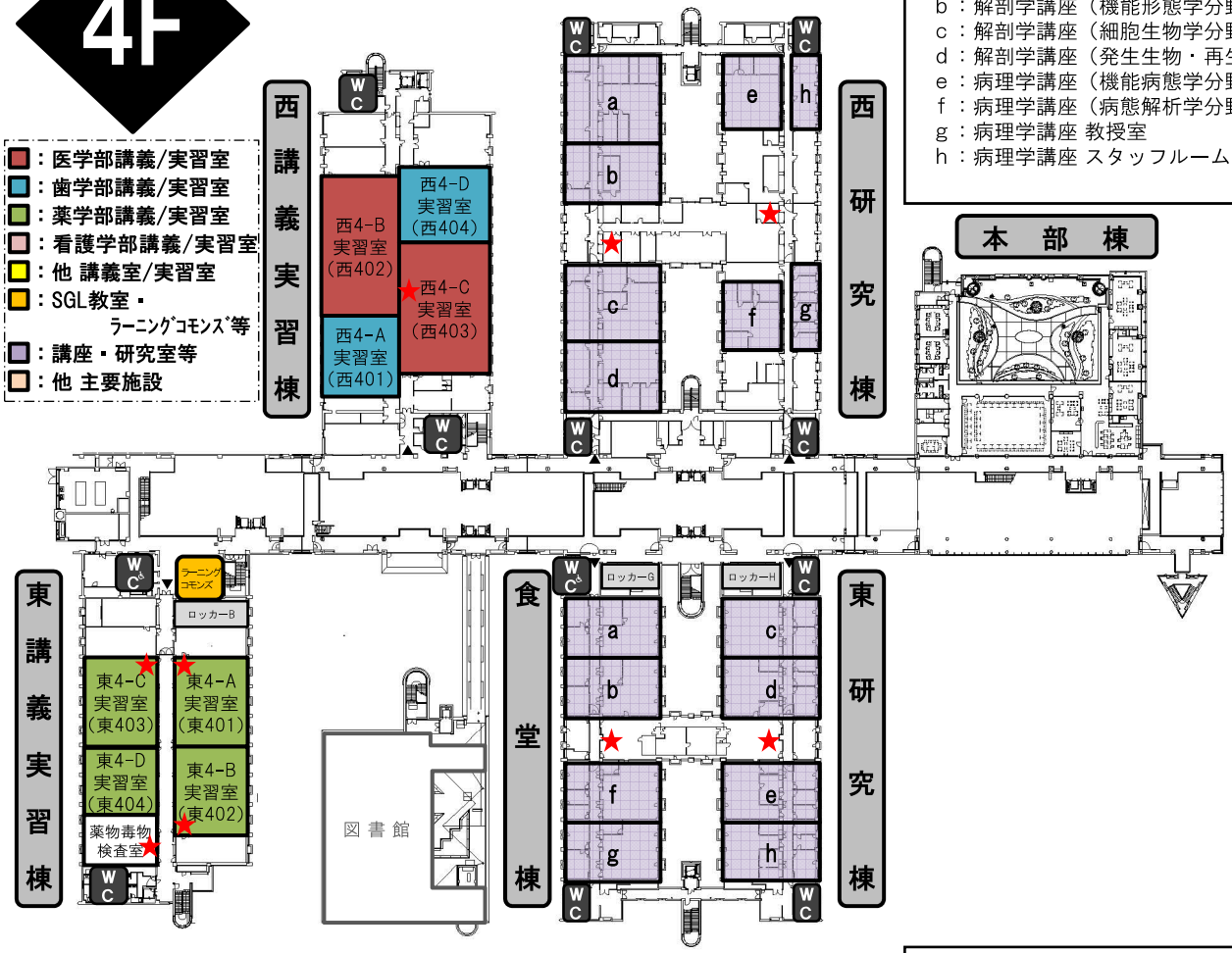
動物研究センター

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟



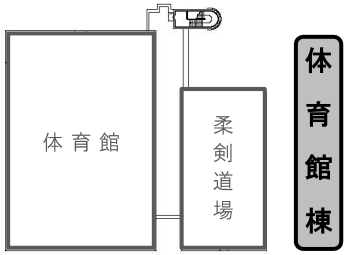
4F

- ■：医学部講義/実習室
- ■：歯学部講義/実習室
- ■：薬学部講義/実習室
- ■：看護学部講義/実習室
- ■：他 講義室/実習室
- ■：SGL教室・ラーニングコモンズ等
- ■：講座・研究室等
- ■：他 主要施設



【西研究棟】

- a：解剖学講座（人体発生学分野）
- b：解剖学講座（機能形態学分野）
- c：解剖学講座（細胞生物学分野）
- d：解剖学講座（発生生物・再生医学分野）
- e：病理学講座（機能病態学分野）
- f：病理学講座（病態解析学分野）
- g：病理学講座 教授室
- h：病理学講座 スタッフルーム



体育館棟

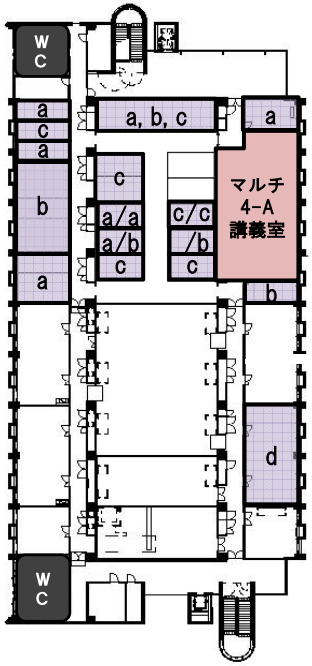
★：緊急時用シャワー

WC：トイレ（♿：多目的付）

【東研究棟】

- a：生物薬学講座（神経科学分野）
- b：薬科学講座（分析化学分野）
- c：薬科学講座（天然物化学分野）
- d：薬科学講座（創薬有機化学分野）
- e：薬科学講座（構造生物薬学分野）
- f：医療薬科学講座（薬物代謝動態学分野）
- g：医療薬科学講座（創剤学分野）
- h：医療薬科学講座（衛生化学分野）

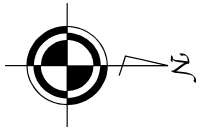
災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟

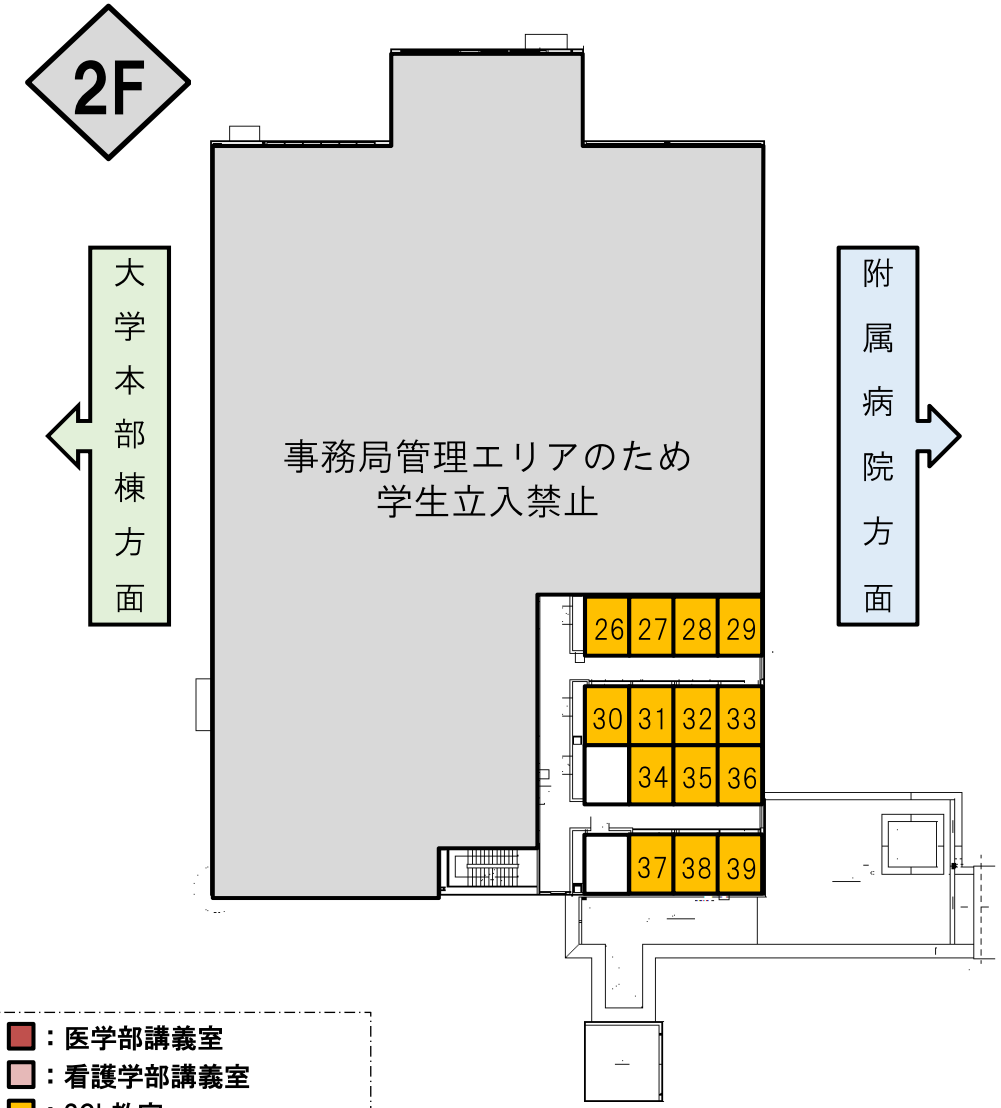


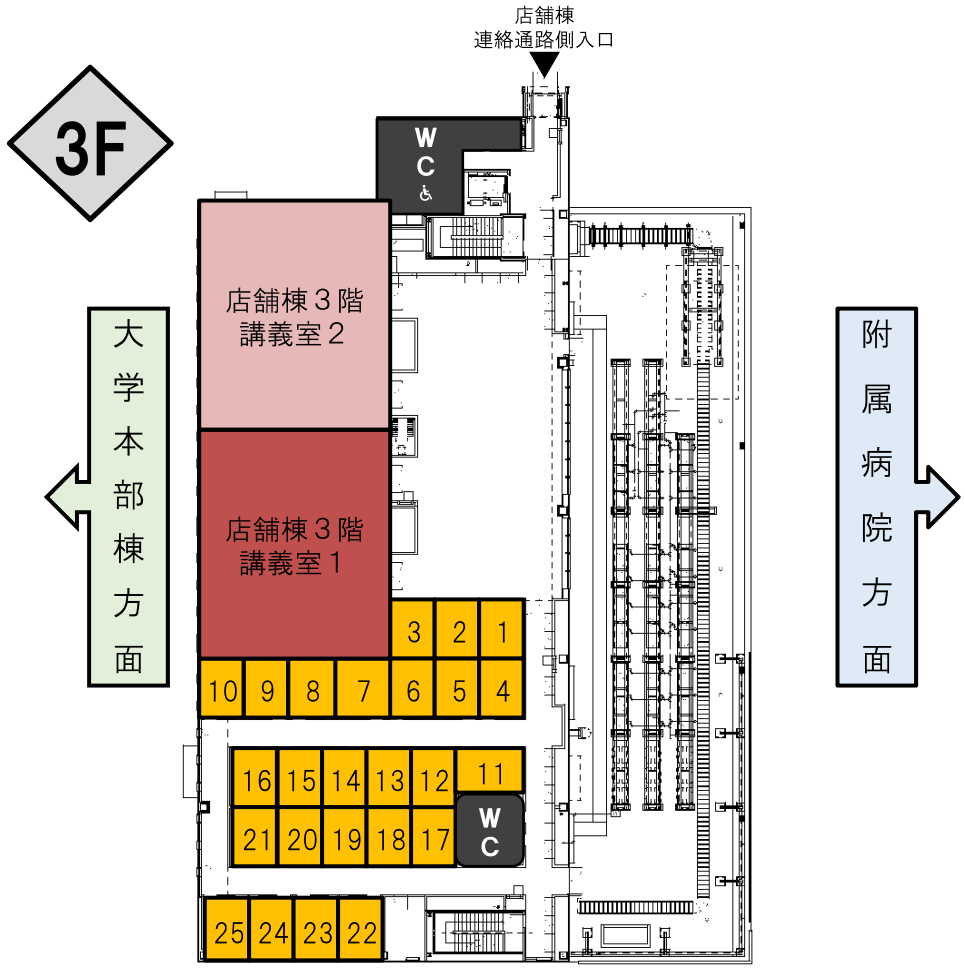
【マルチメディア教育研究棟】

- a：共通基盤看護学講座
- b：地域包括ケア講座
- c：成育看護学講座
- d：医学教育学講座

トクタヴェール（店舗棟）



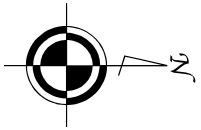




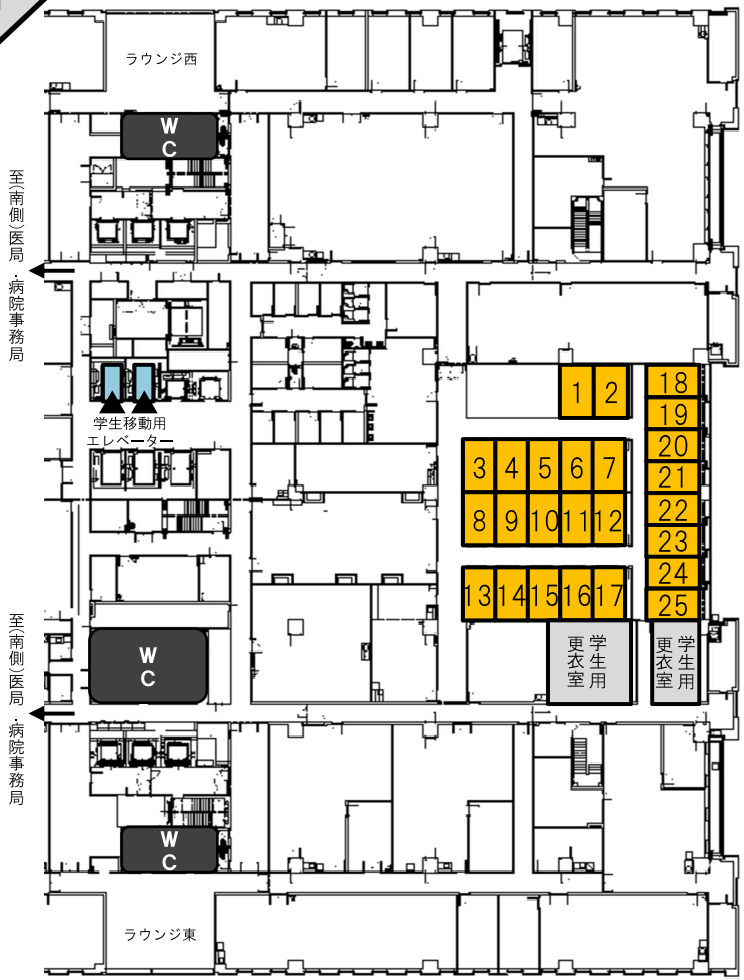
■：医学部講義室
■：看護学部講義室
■：SGL教室
WC：トイレ（♿ ：多目的付）

※店舗棟のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

附　属　病　院



5F



■：SGL教室
W C：トイレ（♿ ：多目的付）

※附属病院のSGL教室は、各学部で調整の上、運用方法を定める

歯学部教場平面図

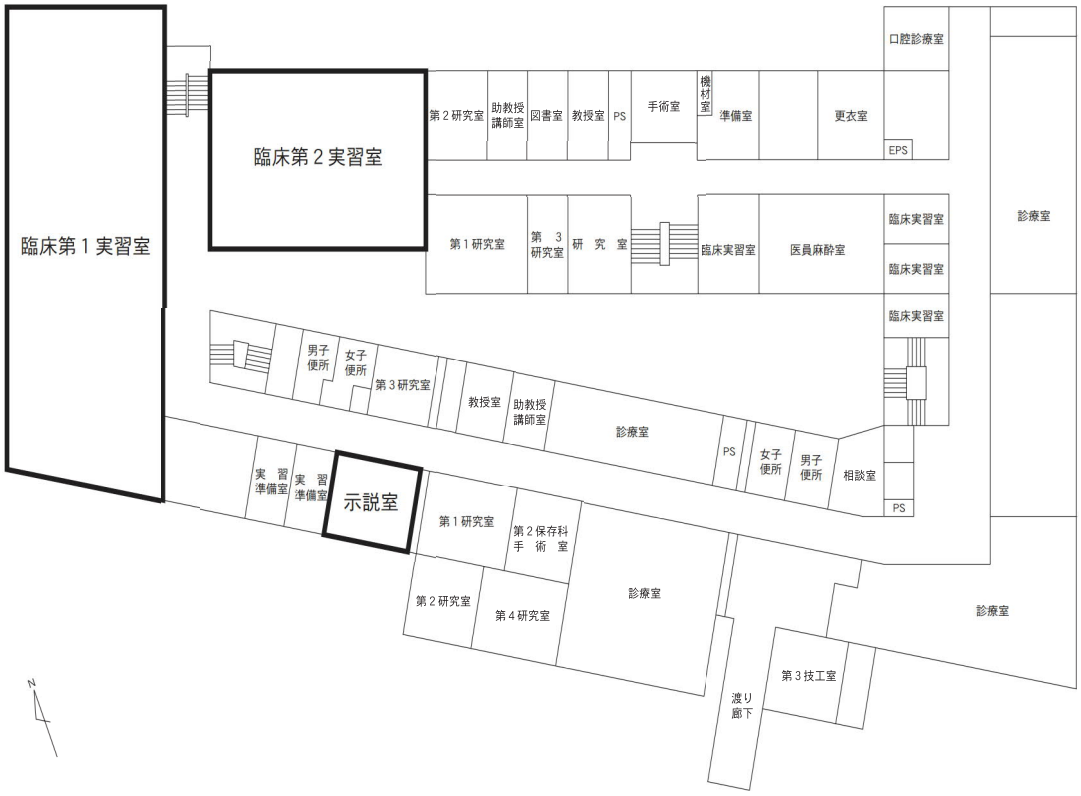
歯学部地下１階

歯学部１階

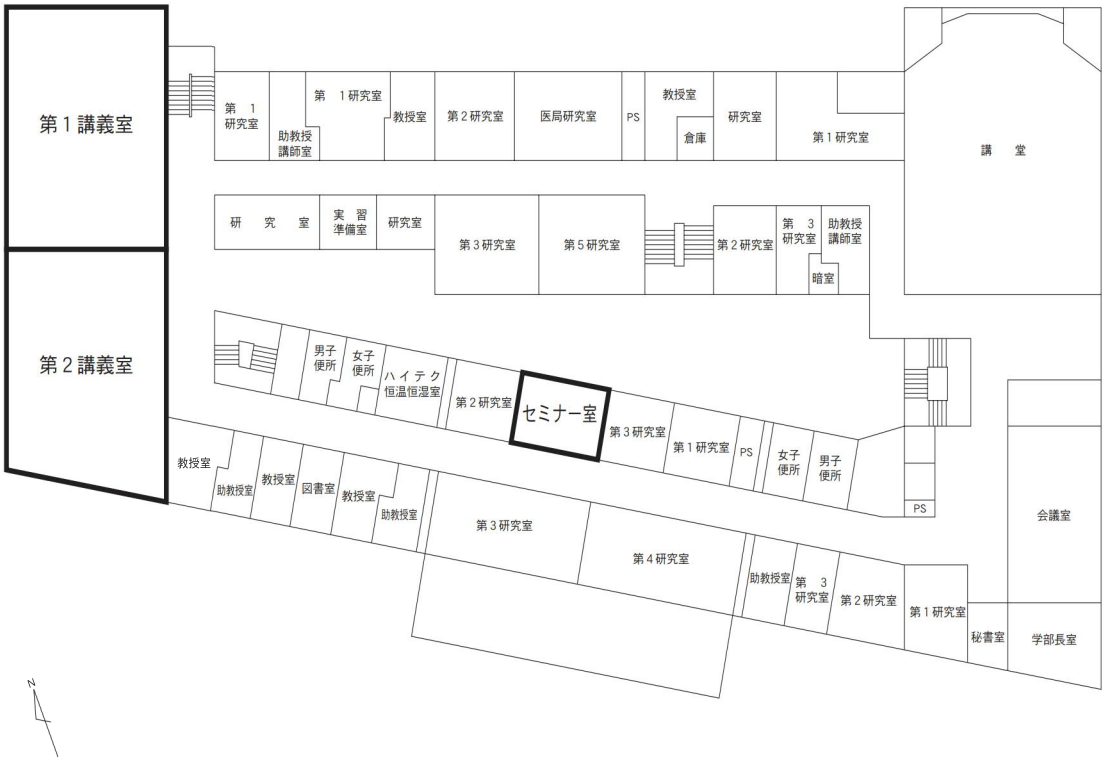
歯学部2階

基礎第２実習室
基礎第３実習室
第１研究室
第２研究室
第３研究室
助教授講師室
第１研究室
教授室
第２研究室
PS
学生技工室
第１技工室
EPS
診療室
第4研究室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
医員技工室
機械室
倉　庫
陶材室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第３研究室
診療室
PS
女子便所
男子便所
歯　科材料室
PS
実　習準備室
実　習準備室
助講室
研究室
教授室
第１研究室
第２研究室
診療室
診療室
診療室
N

歯学部3階


臨床第１実習室
臨床第２実習室
第２研究室
助教授講師室
図書室
教授室
PS
手術室
機材室
準備室
更衣室
口腔診療室
EPS
第１研究室
第３研究室
研　究　室
臨床実習室
医員麻酔室
臨床実習室
臨床実習室
臨床実習室
診療室
男子便所
女子便所
第３研究室
教授室
助教授講師室
診療室
PS
女子便所
男子便所
相談室
PS
実　習準備室
実　習準備室
示説室
第１研究室
第２保存科手　術　室
第２研究室
第４研究室
診療室
診療室
第３技工室
渡り廊下
N

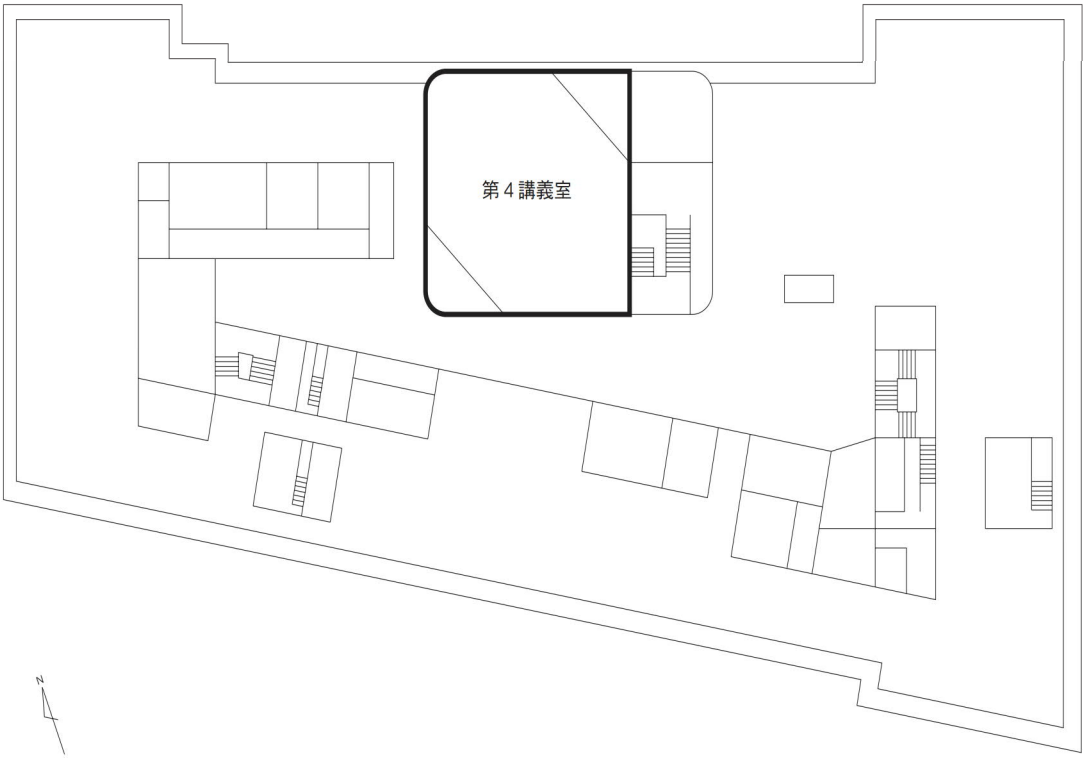
歯学部4階


第１講義室
第２講義室
第 1 研究室
助教授講師室
第 1研究室
教授室
第２研究室
医局研究室
PS
教授室
倉庫
研究室
第１研究室
講 堂
研 究 室
実 習 準備室
研究室
第３研究室
第５研究室
第２研究室
第 3 研究室
助教授講師室
暗室
男子便所
女子便所
ハイテク恒温恒湿室
第２研究室
セミナー室
第３研究室
第１研究室
PS
女子便所
男子便所
PS
教授室
助教授室
教授室
図書室
教授室
助教授室
第３研究室
第４研究室
助教授室
第 3 研究室
第２研究室
第１研究室
秘書室
会議室
学部長室
N

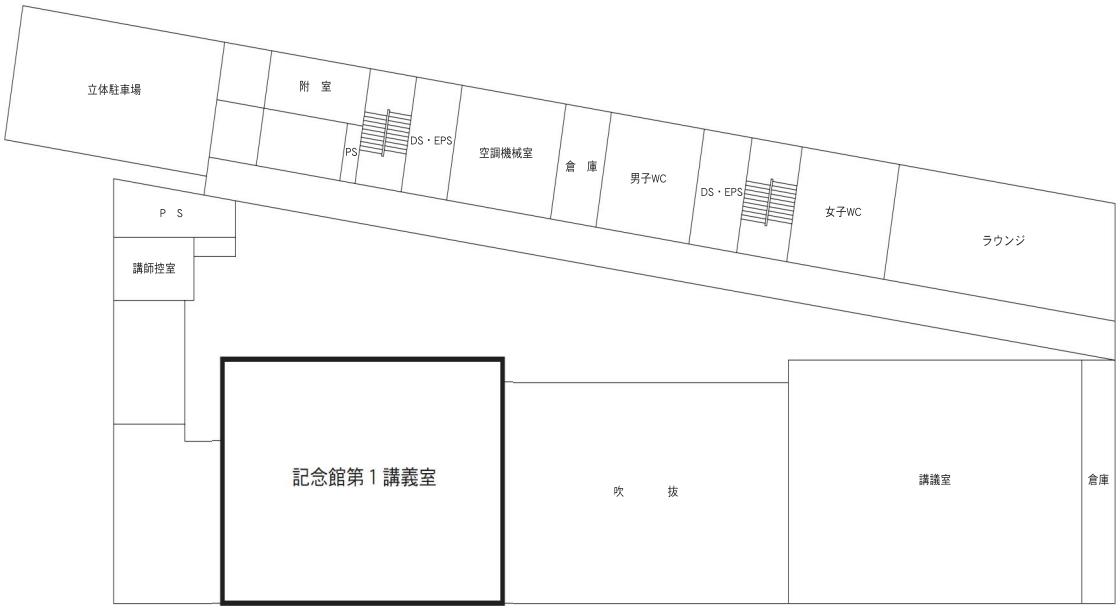
歯学部5階

助教授室
講師室
研究室
第１研究室
暗室
第３研究室
第 4 研究室
教授室
第４研究室
研究室
PS
第２研究室
第３研究室
暗室
講 堂
ハイテク機器分析室
第 7 研究室
暗 室
助教授講師室
教授室
コピー室
第 5 研究室
第３研究室
第 2 研究室
第１研究室
教授室
助教授講師室
第３講義室
男子便所
女子便所
第６研究室
第５研究室
第４研究室
第３研究室
PS
女子便所
男子便所
工作室
PS
教授室
図書室
助教授講師室
第 1 研究室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
第１研究室
第２研究室
助教授講師室
教授室
助教授講師室
教授室
第５研究室
コンファランスルーム
機械室
ハイテク組織像解析室
ハイテク生体イメージング解析室
第２研究室
第３研究室
第４研究室
N

歯学部6階

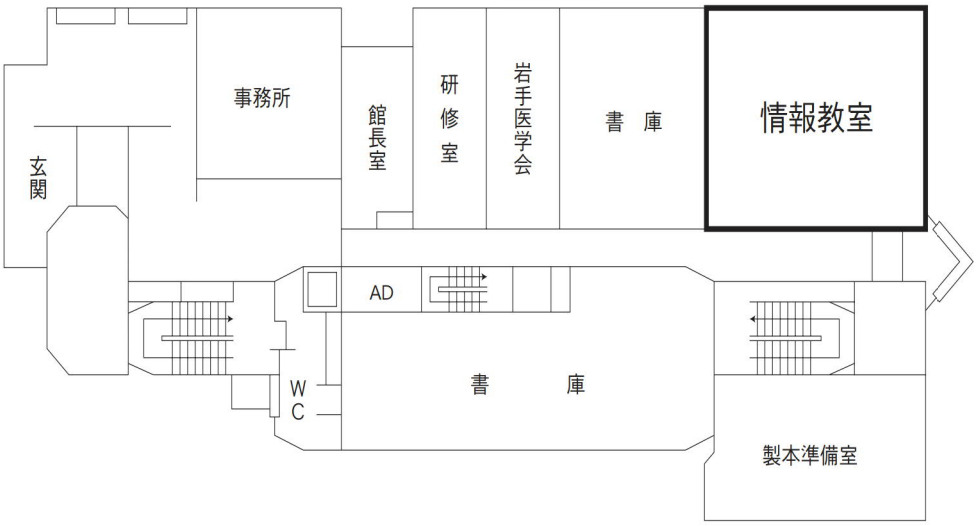

第４講義室
N

記念館9階

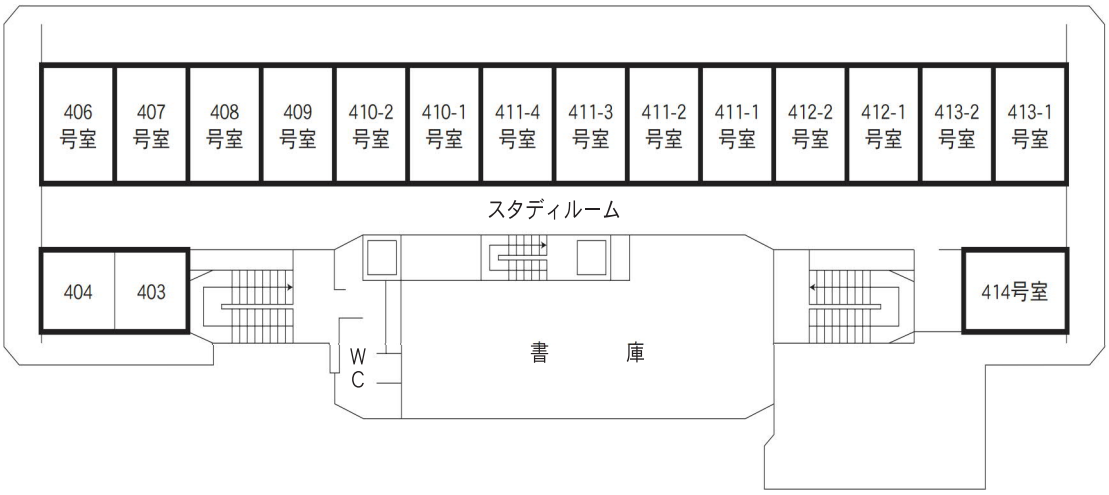

立体駐車場
附　室
PS
DS・EPS
空調機械室
倉　庫
男子WC
DS・EPS
女子WC
ラウンジ
P　S
講師控室
記念館第１講義室
吹　　抜
講議室
倉庫

内丸図書館

〔１階〕


玄関
事務所
館長室
研修室
岩手医学会
書庫
情報教室
AD
W
C
書庫
製本準備室

〔４階〕


406号室
407号室
408号室
409号室
410-2号室
410-1号室
411-4号室
411-3号室
411-2号室
411-1号室
412-2号室
412-1号室
413-2号室
413-1号室
スタディルーム
404
403
414号室
W
C
書庫

授　業　科　目

総合講義（Ⅰ）

責任者・コーディネーター	法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野）　熊谷 章子 教授 解剖学講座（機能形態学分野）　藤原 尚樹 教授				
担当講座（分野）	歯学部専門科目担当講座				
対象学年	5	区分・時間数		講義/演習	実習
期間	通期		前期	132.0時間	—
			後期	144.7時間	—

学修方針（講義概要等）

４年生までに履修した基礎系科目および臨床系科目の講義と実習を通して、歯科医学の基礎知識を学修してきている。５年生では臨床実習を通してこれまでに習得している科学的な根拠となる基礎知識を確認し、歯科臨床との関わりを理解することが重要である。総合講義（Ⅰ）では、基礎系科目と臨床系科目との有機的な結びつきを深めることで、臨床実習での専門的知識への理解度を深め、総合的な歯科医学の見識を深めることを目的とする。本講義を通じて、スチューデントデンティストとして臨床実習の実践に必要な知識を中心に講義を行う。

教育成果（アウトカム）

臨床実習において診療参加型実習を実践している中で、科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践するために、歯科医学臨床に直結する内容で今までに学んだ専門分野の知識を振り返り、知識と技能の融合を行う。

（関連するディプロマポリシー：1、2、5、7、8、9）

到達目標（SBOs）

臨床上必要な歯科医学および口腔衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識を習得する。全体として下記を到達目標とするが、それぞれの講義毎の到達目標は日程表に記す。
1）医の倫理と歯科医師のプロフェショナリズムを説明できる。
2）社会と歯科医療の仕組みを説明できる。
3）健康管理・増進に関わる取り組みを説明できる。
4）人体の正常構造と機能を説明できる。
5）人体の発生・成長・発達・加齢変化を説明できる。
6）主要な疾患と障害の病因と病態を説明できる。
7）全身の症候、口腔・顎顔面領域の症候を説明できる。
8）全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候を説明できる。
9）薬物に関連する口腔/顎顔面領域の症候を説明できる。
10）診察の基本事項を説明できる。
11）検査・臨床の判断の基本を説明できる。
12）歯科材料の使用方法を材料の基礎的性質と結びつけて説明できる。
13）成長・発育に関連した疾患および病態に関連する治療方法を説明できる。
14）歯・歯髄・歯周組織の疾患に関連する治療方法を説明できる。
15）顎・口腔領域の疾患に関連する治療方法を説明できる。
16）歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害に関連する治療方法を説明できる。
17）配慮が必要な高齢者・有病者・障害者などに関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療を説明できる。
18）歯科疾患の予防・管理を説明できる。

事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、第４学年までに修了している各系統講義で用いた学修資料（教科書、レジメ等）や事前にWeb Classにアップされた講義資料等を用いて事前学修を行うこと。講義終了後は、教科書や講義資料等を活用し、事後学修を行うこと。各講義に対する事前事後学修の時間は平均75分を要する。本内容は全講義に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する　事後学修：平均45分を要する）

総合講義（Ｉ）講義日程表：解剖学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	1	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**印象採得に関わる解剖学** 印象採得時に理解しておくべき口腔内の構造について理解する。	1.印象採得時に注意すべき解剖学的ランドマークとリリーフする構造の解剖学的背景について説明できる。 2.口腔底、下顎骨、口蓋～口蓋帆の構造と裏打ちする筋の走行や関連する組織について説明できる。 3.咀嚼筋の走行、機能と口腔内の構造の関係性について説明できる。 **[必修-4-ア-e,総論Ⅱ-4-ア,イ,ウ,エ,オ,カ,キ,6-ア-a,b,イ-a,c,ウ-a,エ,オ,カ,Ⅳ-2-エ,オ,カ,キ,ク]** 事前学修：「口腔解剖学第２版 第19章　義歯と筋」を読み概要をまとめると共に、口腔内の解剖学的特徴・咀嚼筋・口蓋帆の筋の走行について復習しておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義の内容を元に印象採得において注意すべき口腔内の構造と、それらを裏打ちする骨、筋及び関連組織との関係などについてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	5/19（火）	1	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**歯の形態と排列、咬合** 歯の正常形態と好発する異常形態、歯の排列と咬合の関係について理解する。	1.前歯部の上顎・下顎の歯の形態的特徴から咬合について説明できる。 2.小臼歯～大臼歯部の上顎・下顎の形態的特徴から咬合について説明できる。 3.歯の排列の特徴、正常な咬合関係について説明できる。 **[必修-4-ア-e,5-ウ-a,総論Ⅱ-5-ア,6-イ-a,c,ウ-a,7-エ,8-ア,イ,エ,Ⅳ-2-ア,イ,ウ,各論Ⅰ-2-ア,イ]** 事前学修：永久歯と乳歯、各歯の解剖学的特徴についてまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：各歯の咬頭数、歯根数、根管数や各歯の形態的特徴及び好発する異常形態についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	7/14（火）	1	藤原尚樹教授（解剖学講座 機能形態学分野）	**口腔顎顔面の成長と加齢変化** 鼻上顎複合体の成長と関連する構造、老化や歯の喪失に伴う顎骨の変化について理解する。	1. 頭蓋縫合部と関連する成長について説明できる。 2. 上顎骨と下顎骨の成長における骨添加と骨吸収の部位について説明できる。 3. 歯の喪失や加齢に伴う顎骨の変化について説明できる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ-b, 総論Ⅱ-8ア-b, ウ-a, b]** 事前学修：口腔解剖学第２版（医歯薬出版）の第16章加齢と歯の喪失に伴う顎骨の変化について読んで要点をまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義の内容を元に頭蓋の成長に伴う変化と顎骨の加齢変化についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授（解剖学講座 機能形態学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 **[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ]** 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間10分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/1（火）	4	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**唾液腺の構造と支配神経** 大唾液腺の解剖学的特徴と支配神経について理解する。	1. 大唾液腺の位置と手術時に注意すべき周辺の解剖学的構造について説明できる。 2. 唾液腺の分泌を調節する支配神経、関連する神経節について説明できる。 3. 唾液腺の分泌を調節する神経の走行経路と障害を関連づけて説明できる。 **［必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, Ⅳ-2-エ, オ, カ, キ, ク］** 事前学修：「口腔解剖学第２版 第15章　PP178-184」を読み、唾液腺の解剖学的特徴、支配神経とその走行経路についてまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：大唾液腺を支配する自律神経の走行経路について模式図を作成すると共に、各唾液腺の解剖学的特徴を簡潔に整理すること。所要時間45分程度
講義	1/12（火）	1	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**嚥下と筋** 口唇、頰、舌、口蓋帆及び頸部の筋の走行とそれぞれの機能的関連性から、臨床における嚥下機能を解剖学的に理解する。	1. 舌骨上筋群と舌骨下筋群の構成と機能及び神経支配を説明できる。 2. バクシネータメカニズムについて説明できる。 3. 舌筋の種類と機能及び神経支配を説明できる。 4. 口蓋帆の筋の機能と支配神経を説明できる。 5. 喉頭周辺の構造と嚥下時の動きを説明できる。 6. 嚥下のステージと関与する筋群を順序立てて説明できる。 **［必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, Ⅳ-2-エ, オ, カ, キ, ク］** 事前学修：嚥下５期の各ステージと関係する筋肉について「口腔解剖学第２版 第17章　咀嚼と嚥下」を読み概要をまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：嚥下5期の各ステージごとに関係する筋とその支配神経、機能との関係について簡潔にまとめること。所要時間45分程度

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 （解剖学講座 機能形態学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 **［必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, Ⅳ-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ］** 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間10分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：組織学・発生学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	4	原田英光教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**上皮の総括的理解～その構造と機能破綻を考える** **＜口腔疾患と全身1＞** 上皮の基本的な構造・機能とその破綻によって引き起こされる疾患との関連を理解できるようになる。	1.上皮の基本的構造が説明できる。 2.上皮の細胞と細胞間接着装置について説明できる。 3.上皮に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる。 4.細胞間接着装置に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる **[必修4-ア-d,総論II-1-ア, 総論III-2-ア,総論IV-1-イ, 各論III-1-ク-b]** 事前学修：細胞間接着装置・細胞外基質に関連した疾患について，最新口腔外科学第5版を用いて事前に学修しておくこと。。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。
講義	6/9（火）	2	原田英光教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**結合組織の総括的理解～顎骨の発生・成長～その破綻による先天性疾患を考える** **＜口腔疾患と全身2＞** 結合組織の正常発生と加齢にともなう変化、異常について説明できるようになる。	1.結合組織の基本的構造が説明できる。 2.結合組織の細胞と細胞外基質について説明できる。 3.細胞外基質に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる骨の発生について説明できる。 4.顎骨の発生について説明できる。 5.大理石病、鎖骨頭蓋異形成症などの全身的な症状とともに、顎顔面に異常が見られる疾患やその原因について組織学的知識と連携させて説明できる。 **[必修4-ア-d,必修5-ウ,エ,総論II-1-ア, イ,総論II-8-ア、ウ, 総論III-2-ア-e, 総論IV-2-オ, 各論-1]** 事前学修：最新口腔外科学第5版と小児の口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常についての疾患を事前に学修しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。

講義	7/14 (火)	3	池﨑晶二郎講師 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**顎顔面発生の総括的理解～顎顔面の発生・成長～その破綻による先天性疾患を考える** **＜口腔疾患と全身3＞** 顎顔面の正常発生と加齢にともなう変化、異常について説明できるようになる。	1. 鰓弓由来の骨、筋の発生と神経支配について説明できる。 2. 咽頭溝、咽頭嚢由来の器官について説明できる。 3. 甲状腺の発生過程とその異常について理解する。 4. 舌の発生過程とその異常について理解する 5. 神経堤に由来する細胞から形成される顎顔面領域の組織について説明できる。 6. 頭蓋の形成について説明できる。 7. 顔面の形成について説明できる。 8. 一次口蓋と二次口蓋の形成機序について説明できる。 9. 顔面領域の先天異常の発生機序を発生過程に基づき説明できる。 **[必修5-ア-a, 総論II-8-ア, 総論III-2-ア-a, 各論I-1, 各論III-1-ア]** 事前学修：最新口腔外科学第5版と小児の口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常についての疾患を事前に学修しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	池﨑晶二郎講師 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/8（火）	1	原田英光教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**発生からみた歯の構造の正常と異常Ⅰ** 歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようになる。 歯の先天的疾患について説明できるようになる。	1. 歯胚を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯の発生の過程について説明できる 3. 歯の数や歯冠の形態などの遺伝子疾患に関わる病因について説明できる。 **[必修5-ウ,エ, 総論II-5-ア, イ,-8-ア,イ、各論I-2, 3-ア]** 事前学修：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学4版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。
講義	11/10（火）	1	大津圭史教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**発生からみた歯周組織の構造の正常と異常** 歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようになる。歯の先天的疾患について説明できるようになる。	1. 歯周組織を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯根の発生と歯根の形態異常について説明できる。 3. 歯周組織に関わる疾患に関わる病因について説明できる。 **[必修5-ウ,エ, 総論II-5-ア, イ,-8-ア,イ, ウ、各論II-3-ア]** 事前学修：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学4版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	大津圭史教授 （解剖学講座 発生生物・再生医学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：生理学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/21（火）	2	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**顎口腔機能とその検査（1）** 歯科臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 顎口腔機能検査の種類を列記する。 2. 咀嚼/嚥下を説明できる。 3. 発声・構音検査を説明できる。 4. 発声・構音機能を説明できる。 **［総論Ⅱ-6-ウエオ，総論Ⅵ-1-イ］** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	6/9（火）	3	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**顎口腔機能とその検査（2）** 歯科臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 唾液分泌機構を説明できる。 2. 唾液検査を列記できる。 3. 分泌に関連する薬剤を列記できる。 **［総論Ⅱ-6-カ，総論Ⅵ-1-イ］** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	6/30（火）	1	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**生体機能機能とその検査** 臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 生体機能検査の種類を列記する。 2. 呼吸/心機能を説明できる。 3. 腎機能検査を説明できる。 4. 泌尿器の機能を説明できる。 **［総論Ⅱ-1，総論Ⅵ-4-ア］** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事後学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** **事前学修**：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 **事後学修**：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/29（火）	1	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**内分泌機能と内分泌疾患** 内分泌機能と病態を学び、他職種連携や在宅での診療を視野に有病者の状態を理解出来る。	1.外分泌と内分泌を説明出来る。 2.ホルモンの種類を列記できる。 3:ホルモンの作用を説明できる。 4:フィードバックを説明できる。 5.内分泌疾患を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ケ]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事前学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	11/17（火）	2	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**身体機能と中枢神経系** 中枢神経系について学び、関連する各種生理学的機能を理解する。	1.中枢神経系を区分できる。 2.中枢神経系の構造を説明できる。 3:生理機能と中枢神経系の関連を説明できる。 **[総論Ⅱ-1-ク]** **事前学修**：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 **事前学修**：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 （生理学講座 病態生理学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：生化学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/21（火）	1	帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**唾液の生化学** 唾液の成分と作用について理解する。	1.唾液成分を列挙し、その作用を説明できる。 2.唾液中の酵素の働きを説明できる。 3.唾液中の抗菌因子の作用機序を説明できる。 **［必修-4-ア，総論Ⅱ-6-カ］** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	6/2（火）	4	帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**血液の生化学** 血液の成分と機能について理解する。	1. 血球細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる。 2. 血漿成分の働きや疾患における変化について説明できる。 3. 血液凝固因子の特徴ならびに血液凝固と線溶の過程を説明できる。 4. ヘム・ポルフィリン代謝を説明できる。 **［必修4-ア，必修-9-エ，総論Ⅵ-3-ア］** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	7/7（火）	2	帖佐直幸准教授（生化学講座 細胞情報科学分野）	**ホルモンの生化学** ホルモンの構造と作用機序を理解する。	1.細胞膜受容体と細胞内受容体について説明できる。 2.ペプチドホルモンとステロイドホルモンの作用機序を説明できる。 3.プロテインキナーゼによる細胞内情報伝達機構を概説できる。 **［必修-4-ア，総論Ⅱ-1-ケ］** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/15（火）	1	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**炎症の生化学** 炎症調節細胞や分子の作用を理解する。	1. 炎症関連細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる 2. 代表的なケミカルメディエーターを列挙し、その作用を説明できる。 3. アラキドン酸カスケードを説明できる。 **［必修-6-ア-d，総論Ⅲ-1-カ］** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	12/1（火）	4	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**骨の生化学** 骨の成分や骨代謝について理解する。	1. 硬組織を構成する成分と細胞の役割を説明できる。 2. 破骨細胞による骨吸収を分子レベルで説明できる。 3. 骨形成や骨吸収と体内カルシウム動態との関連性について説明できる。 **［必修-4-ア，総論Ⅱ-8-ウ］** 事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 （生化学講座 細胞情報科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：微生物学・免疫学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/2（火）	1	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**1. 微生物学総論** **2. 細菌学各論** 微生物の性状と病原細菌による感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 **[A-4-1全般]** 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	6/23（火）	1	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**1. ウイルス学各論** **2. 免疫学** ウイルスによる感染症およびその病原因子を理解する。 生体防御の仕組みを理解する。	1. ウイルスの性状を説明できる。 2. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 3. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 4. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 **[A-4-1全般、A-4-2全般]** 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	7/21（火）	1	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**1. 口腔細菌** 口腔のフローラ、口腔細菌の性状およびう蝕・歯周疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明できる。 2. 口腔微生物の性状を説明できる。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明できる。 **[A-4-1全般、A-4-2全般、D-3-1-3-1、D-3-2-2,3,4、D-3-1-10-2、D-5-2-3-1]** 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	三浦利貴助教 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	10/27（火）	1	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学領域必修問題，一般問題** 模擬試験出題問題などを用い、微生物学・免疫学領域の必修問題，一般問題について具体的出題例を参考に理解する。	1. 微生物学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 **[〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	12/1（火）	1	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**微生物学・免疫学領域の苦手領域の補完** 問題演習を通じ苦手な領域を理解し、問題解決に必要な基本的な考え方を理解する。	1. 微生物学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題，一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 3. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 4. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 **[〈必修〉4-ア-g, イ、6-ア-e, f、9-エ-e、〈総論〉Ⅱ-2, 3、Ⅲ-1-キ, ク、Ⅵ-3-ア-e]** 事前学習：過去５年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	石河太知教授 （微生物学講座 分子微生物学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：薬理学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/19（火）	4	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**薬理学総論復習** 薬力学（用量反応曲線）、薬物動態、治療薬物モニタリング、臨床試験、薬事関連法規(医薬品医療機器等法)	1. 薬力学、薬物動態学、臨床薬理学を説明できる。 2.薬事関連法規を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	6/23（火）	4	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**鎮痛薬** NSAIDs、麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、漢方薬（立効散）	1. 鎮痛薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	7/14（火）	4	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**抗血栓薬、骨粗鬆症治療薬** 抗血小板薬、抗凝固薬、抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン ビスホスホネート製剤、抗RANKL抗体、顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023	1. 抗血栓薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験に関連する内容を復習する。	1.関連する国家試験問題を正しく解答できる。 **[必修-11-コ、総論Ⅶ-8]** 事前学修：前期講義の内容を復習する。 事後学修：解説内容を復習する。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/27（火）	4	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**抗微生物薬** 抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、歯性感染症ガイドライン	1. 抗微生物薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	12/22（火）	2	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**抗腫瘍薬** 化学療法薬、分子標的治療薬、漢方薬（半夏瀉心湯薬）、口腔癌ガイドライン	1. 抗腫瘍薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	中村正帆教授 田村晴希講師 （薬理学講座 病態制御学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験に関連する内容を復習する。	1. 関連する国家試験問題を正しく解答できる。 **［必修-11-コ、総論Ⅶ-8］** 事前学修：後期講義の内容を復習する。 事後学修：解説内容を復習する。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：病理学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/21（火）	4	佐藤泰生講師 （病理学講座 病態解析学分野）	**口腔粘膜疾患** 臨床症状からみた口腔粘膜疾患の病理学的特徴を理解する。	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 **［必修6-ｲ-m，総論Ⅲ-2-ｱ-c，各論Ⅲ-1-ｸ］** 事前学修：新口腔病理学p143-161, p283-291を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/2（火）	3	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**嚢 胞** 歯原性嚢胞および非歯原性嚢胞の病理学的特徴を理解する。	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 3. 顎骨内に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 4. 軟組織に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 **［必修6-ｲ-k，総論Ⅲ-1-ｹ-a，b，c，各論Ⅲ-1-ｴ-a，b］** 事前学修：新口腔病理学p182-195を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/21 (火)	2	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**唾液腺の非腫瘍性病変と唾液腺腫瘍** **唾液腺の非腫瘍性病変と腫瘍性病変について病理学的特徴を理解する。**	1. 唾液腺の発育異常について説明できる。 2. 唾液腺の退行性・進行性病変について説明できる。 3. 唾石症・唾液腺の嚢胞について説明できる。 4. 唾液腺の炎症性疾患について説明できる。 5. 唾液腺の自己免疫疾患について説明できる。 6. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明できる。 7. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明できる。 8. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。 **[必修6-ｲ-n, 総論Ⅲ-2-ｱ-f, 各論Ⅲ-3-ｱ]** 事前学修：新口腔病理学p257-282を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	11/4（水）	1	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍** 歯原性・非歯原性腫瘍の病理学的特徴を理解する。	1.良性歯原性腫瘍について説明できる。 2.悪性歯原性腫瘍について説明できる。 3.線維性病変について説明できる。 4.骨形成性病変について説明できる。 5.軟骨形成性病変について説明できる。 6.巨細胞性病変について説明できる。 7. 円形細胞腫瘍について説明できる。 **［必修6-ｱ-g, 総論Ⅲ-2-ｱ-e, 各論Ⅲ-2-ｶ］** 事前学修：新口腔病理学p196-233を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/22（火）	4	佐藤泰生講師 （病理学講座 病態解析学分野）	**腫瘍** 正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。 **顎口腔の発育異常、口腔領域に徴候をみる症候群** 顎口腔の発育異常や口腔領域に徴候をみる症候群の病因と病態について理解する。	1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 腫瘍の生物学について説明できる。 5. 腫瘍の発生について説明できる。 6. 宿主に及ぼす腫瘍の影響について説明できる。 7. 良性腫瘍の組織型について説明できる。 8. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。 9. 口腔顎顔面に異常を示す奇形症候群について説明できる。 10. 口腔領域に徴候をみる症候群について説明できる。 **[A-5-6-1～6､D-3-1-1、D-3-1-10-5]** 事前学修：新口腔病理学p132-142、p229- 238、p331-340を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 （病理学講座 病態解析学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：歯科理工学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/28（火）	1	武本真治教授 （医療工学講座）	**印象用材料/模型用材料** 歯科臨床での印象採得、模型作製の材料学的基礎を確認する。	1. 歯科臨床での印象採得に用いる印象材の選択基準を説明できる。 2. 印象材の種類とタイプを説明できる。 3. 印象材の成分、組成と硬化機構を説明できる。 4. 印象採得の方法を説明できる。 5. 模型材の種類と特徴を説明できる。 **[必修11セa,c,d、総論VIII3ア,イ、総論VIII4ア、各論IV3イ,4イ,5イ]** 事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：臨床場面に応じて印象採得の方法、印象材の選択、その選択理由を説明できるようにする（30分程度）。
講義	5/26（火）	1	武本真治教授 （医療工学講座）	**義歯用材料** 義歯用材料（アクリルレジン）およびフレームワークに使用される材料およびその製作法を学ぶ。	1. 歯科臨床での義歯用材料の選択基準を説明できる。 2. 義歯用材料の種類を説明できる。 3. 義歯用材料の成分および性質を説明できる。 4. 義歯用材料の取扱い上の注意点を説明できる。 5. 義歯の製作過程を説明できる。 6. 義歯のフレームワークに使用する材料の性質を説明できる。 **[必修11セf、総論VIII6ア,イ、総論VIII7ア、各論IV4ウ,5ウc]** 事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：義歯床用材料とフレームワークに使用する材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。

講義	6/16 (火)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	**歯冠修復材とその製作過程1** 歯科臨床での歯冠修復材の材料学的基礎とその製作方法の特徴を確認する。特に、陶材焼き付け金属冠とレジン前装冠の製作方法の違いを確認する。	1. 歯科臨床での歯冠修復材の選択基準を説明できる。 2. 歯冠修復材の種類を説明できる。 3. 歯冠修復材の特徴を説明できる。 4. 歯冠修復物の製作方法を説明できる。 5. レジン支台築造で用いる材料の特性を説明できる。 **[必修11セｆ、総論VIII6イ,ウ,エ、総論VIII7イ,ウ,エ、各論IV3ウ]** 事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：鋳造冠、陶材焼付金属冠、レジン前装冠、CAD/CAM冠の材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 (医療工学講座)	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	10/27（火）	3	武本真治教授 （医療工学講座）	**補綴装置とその製作過程** 歯科臨床での補綴装置の材料学的基礎とその製作方法の特徴を確認する。特に、デジテル技術を応用した補綴装置の製作方法の違いを確認する。	1. 歯科臨床での補綴装置の選択基準を説明できる。 2. 補綴装置に用いる材料の種類を説明できる。 3. デジタル技術で製作する補綴装置を列挙できる。 4. 切削加工及び付加製造で製作する補綴装置の製作方法を説明できる。 **［必修11セｆ、総論VIII6イ，ウ，エ、総論VIII7イ，ウ，エ、各論IV3ウ］** 事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：CAD/CAM冠および付加製造用材料の材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。
講義	1/12（火）	4	武本真治教授 （医療工学講座）	**合着と接着** 接着性レジンセメントとコンポジットレジンを応用した直接修復の材料学的基礎を確認する。	1. コンポジットレジンの構成、成分を説明できる。 2. 直接修復に関する材料の構成を説明できる。 3. 間接修復用コンポジットレジンの構成と成分を説明できる。 4. 支台築造材の特徴を説明できる。 5. 歯冠修復物、補綴装置を強固に装着する方法を説明できる。 **［必修11セh、総論VIII5アa、総論VIII8、総論VIII9、各論IV3イa］** 事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：接着応用した修復装置・補綴装置の装着方法をまとめる。直接修復での表面処理をまとめる（30分程度）。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 （医療工学講座）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：法歯科医学・災害歯科医学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/12（火）	2	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**災害発生時の病院初動** 発災直後に歯科医師としての適切な対応ができる。	1.業務遂行計画（BCP）の概念を説明できる。 2.歯科治療中に災害が発生した際の適切な対応を説明できる。 3.発災後安全に患者誘導ができる。 4.頭頚部領域の災害傷病者に対応できる。 5.ロールプレーイングを通して、発災後超急性期から急性期での医療機関における歯科医師の役割と多職種連携による災害対応を理解することができる。 **[必修2-ウ-a、b] [総論Ⅰ-1-エ-i、j] [総論Ⅰ-1-オ-h]** 事前学修：「災害歯科医学」p26-91を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で習得した基本的事項をまとめること。所要時間45分程度。
講義	6/23（火）		熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**大規模災害犠牲者対応** 災害時の歯科医師の役割と多職種が連携した対応について理解できる。	1. 国際的大規模災害での犠牲者個人識別方法について理解できる。 2. 犠牲者に対する他職種の役割を理解できる。 3. ロールプレーイングを通して、多職種と連携した適切で正確な犠牲者の身元調査方法を理解する。 **[C-1-3-2, C-1-3-3, C-1-3-4, C-1-3-5, C-4-2-1, C-4-2-2, C-4-3-8, C-4-4-1]** 事前学修：「災害歯科医学」p93-101を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で習得した基本的事項をまとめること。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授（法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	12/8（火）	1	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**ヒトの死** 終末期医療、死亡診断、死因究明・身元調査制度について理解できる。	1.緩和医療と終末期医療について説明できる。 2.アドバンスケアプランニングの意義を説明できる。 3.在宅医療における看取りについて説明できる。 4.死亡診断ができる。 5.死亡診断と死体検案の違いを説明できる。 6.日本の死因究明・身元調査制度と歯科医師の関わりについて説明できる。 **［必修1-ア-a、b、イ-a、b］［必修2-ウ-a、b、c］［総論Ⅰ-1-オ-j］［総論Ⅰ-3-ア-a］［総論Ⅲ-3-ア、イ］** 事前学修：法歯科医学p6-16を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 （法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯内療法学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/9（火）	1	高満正宜助教 相上雄亮助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**齲蝕　歯内療法学1** **検査・診断** **根管治療の手順と方法** 歯髄の検査・診断と根管治療の手順について理解する。	1. 歯内疾患の診断に必要な検査法を説明できる。 2. 歯内疾患の診断ができる。 3. 検査に必要な器具と使用方法を説明できる。 4.根管治療の手順と方法が説明できる 5.根管切削器具のISO規格が説明できる。 6.Ni-Tiロータリーファイルの使用方法と材料学的観点から見た使用時の注意点を説明できる。 7.各種手用ファイルの使用方法と根管拡大法を説明できる。 **[必修6、11-ケ-c、各論Ⅱ-2-イ-ｂ、ｃ、ｄ]** 事前学修：歯髄疾患の検査診断、根管形成について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	大塚泰寛助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/29（火）	2	大塚泰寛助教 相上雄亮助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**齲蝕　歯内療法学2** **歯髄炎** **根尖性歯周炎** 歯髄炎、根尖性歯周炎について理解する。	1. 歯髄腔の解剖学的特徴を説明できる。 2. 炎症の病態を説明できる 3. 高齢者の歯髄変化が説明できる。 4. 急性化膿性根尖性歯周炎の４期とそれぞれの対応について説明できる。 5. その他の根尖性歯周疾患について説明できる。 6. その他の根尖性歯周疾患の治療法について説明できる。 **[各論Ⅱ-2-ア]** 事前学修：歯髄炎、根尖性歯周炎について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）で確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/8（火）	2	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**齲蝕　歯内療法学3** **根管充填** **根管治療時の偶発症** **外科的歯内療法** 根管充填、偶発症、外科的歯内療法について理解する。	1. 根管充填の目的について説明できる。 2. 根管充填可能な時期について説明できる。 3. 根管充填に使用する器具、材料について説明できる。 4. 根管充填後の根尖周囲組織の治癒機転について説明できる。 5. 根管治療時の偶発症について説明できる。 6. 外科的歯内療法の適応について説明できる。 7. 外科的歯内療法の術式を説明できる。 8. 外科的歯内療法に使用する器具と、器具の使用方法について説明できる。 **[各論Ⅱ-2-イ-e, g, j]** 事前学修：根管充填と根管治療時の偶発症について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：保存修復学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	5/26（火）	4	鈴木大平助教 東　兼司助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**齲蝕　保存修復学1** **齲蝕** **検査・診断** **窩洞の分類** 齲蝕、齲蝕の検査について理解する。 窩洞の名称、分類について説明できるようになる。	1.エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕、根面齲蝕について説明できる。 2.齲蝕歯質において残すべき歯質、除去すべき歯質について説明できる。 3.齲蝕検知液の成分、分子量について説明できる。 4.ICDASについて説明できる。 5.齲蝕の検査法を説明できる。 6.齲蝕の診断ができる。 7.急性齲蝕と慢性齲蝕の違いを説明できる。 8.窩洞の分類を説明できる。 9.窩洞の具備すべき条件を説明できる。 **［必修６-イ-a、各論Ⅱ-1-ア-a,b、各論Ⅱ-1-ウ-c］** 事前学修：齲蝕の検査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	大塚泰寛助教 （歯科保存学講座う蝕治療学分野）	**総合講義（Ｉ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	10/27（火）	5	相上雄亮助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**齲蝕　保存修復学2** **直接修復** コンポジットレジン修復について理解する。修復用のグラスアイオノマーセメント、アマルガムについて理解する。	1.コンポジットレジン修復の手順について説明できる。 2.コンポジットレジン修復時の補助法について説明できる。 3.コンポジットレジン修復時に使用するバーと、その使用目的の違いについて説明できる。 4.従来型、レジン添加型グラスアイオノマーセメントの成分と硬化機序を説明できる。 5.グラスアイオノマーセメント修復の手順について説明できる。 6.それぞれの修復方法について比較できる。 **[必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ-a]** 事前学修：直接修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	1/12（火）	3	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**齲蝕　保存修復学3** **間接修復（インレー）** メタルインレー、コンポジットレジンインレーについて理解する。	1.各種インレー修復の窩洞形態の違いについて説明できる。 2.各種インレーの内面処理の違いを説明できる。 3.各種インレーの装着時の手順の違いについて説明できる。 4.レジンコーティングの目的、使用材料について説明できる。 **[必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ-b]** 事前学修：講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	東　兼司助教 （歯科保存学講座 う蝕治療学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯周病学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/23（火）	2	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周病学の基盤形成講義Ⅰ** 4年次までに修得した歯周病学の知識を臨床の場で活用できる。	1. 歯周病治療の対象となる歯周組織の病態、診査・診断・治療方法を総合的に説明できる。 **[必修6-イ-c，必修7-イ-d，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c、総論Ⅶ-2-ア-c、各論Ⅱ-3-ア･イ･ウ･エ]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/7（火）	4	村井治講師 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**歯周病学の基盤形成講義Ⅱ** 4年次までに修得した歯周病学の知識（検査･診断）を臨床の場で活用できる。	1. 歯周病の診査・診断を説明できる。 2. 歯周病診査に必要な器具を列挙できる。 3. 歯周病の診断の臨床的意義を説明できる。 **[必修7-イ-d，必修8-キ-c，必修9-ア-a･b，必修9-オ-b，総論Ⅴ-1-ア･イ、総論Ⅵ-1-ア-c，各論Ⅱ-3-ア-a･b･c･e･g、各論Ⅱ-3-イ-d･e]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	10/27（火）	2	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**臨床実習に即した歯周病学知識確認（歯周基本治療）** 歯周病学の臨床実習を通して修得した知識を確認する。	1. 応急処置を説明できる。 2. プラークコントロールを説明できる。 3. SRPを説明できる。 4. 超音波スケーラーを説明できる。 5. 外傷性咬合を説明できる。 6. 咬合調整，暫間固定を説明できる。 7. 象牙質知覚過敏症を説明できる。 **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-2-ア-f，各論Ⅱ-3-ア-d･e，f各論Ⅱ-3-ウ-a･b]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノート、臨床実習で提出したレポートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/24（火）	3	八重柏隆客員教授 佐々木大輔教授 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**臨床実習に即した歯周病学知識確認（歯周外科治療）** 歯周病学の臨床実習を通して修得した知識を確認する。	1. 切除療法を説明できる。 2. 組織付着療法を説明できる。 3. 歯周組織再生療法を説明できる。 4. 歯周形成外科を説明できる。 **[必修8-キ-c，必修9-ア-a，必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，総論Ⅶ-2-ア-c，総論Ⅷ-11-エ･オ，各論Ⅱ-3-ウ-d･e･f]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノート、臨床実習で提出したレポートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	1/5 (火)	1	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**臨床実習に即した歯周病学知識確認（薬物療法，口腔機能回復治療，メインテナンス，SPT）** 歯周病学の臨床実習を通して修得した知識を確認する。	1. 薬物療法を説明できる。 2. 口腔機能回復治療を説明できる。 3. メインテナンスを説明できる。 4. SPT（Supportive Periodontal Therapy）を説明できる。 **[必修9-オ-b，必修11-ケ-d，総論Ⅲ-1-ウ-a･b、総論Ⅵ-1-ア-c，各論Ⅱ-3-ウ-h・i・j]** 事前学修：3年次で使用したレジメ，講義ノート、臨床実習で提出したレポートおよび教科書を把握してくること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	鈴木啓太助教 （歯科保存学講座 歯周療法学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：有床義歯補綴学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/26（火）	2	米澤　悠助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学1** **全部床義歯学①** 全部床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する	1. 全部床義歯の各操作の目的を説明出来る。 2. 全部床義歯製作術式を説明出来る。 3. 印象採得や顎間関係の記録を説明できる。 **[必修11-ケ-e][各論Ⅳ-5-イ-a, b]** 事前学修：全部床義歯製作術式や印象採得や顎間関係の記録について教科書と４年の講義資料を確認し、疑問点を整理しておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。
講義	6/9（火）	4	米澤　悠助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学2** **部分床義歯学①** 部分床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する。	1. 部分床義歯の各操作の目的を説明できる。 2. 部分床義歯製作術式を説明出来る。 4. サベイングについて説明できる。 3. レスト、大連結子、隣接面板を説明できる。 **[必修11-ケ-e][各論Ⅳ-4-ア][各論Ⅳ-4-ウ-c, d]** 事前学修：部分床義歯製作、構成要素について、4年時の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/1（火）	3	原総一朗助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学3** **部分床義歯学②** 部分床義歯の支台装置の種類、構造を理解する。 フレームワークの特徴と製作方法を理解する。	1. 支台装置の種類、特徴を説明できる。 2. フレームワークの特徴と製作方法を理解する。 **[各論Ⅳ-4-ウ-d]** 事前学修：支台装置、フレームワーク製作について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。
講義	9/18（金）	4	米澤悠助教 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学4** **全部床義歯学②** 全部床義歯製作における人工歯の排列とろう義歯試適を理解する。	1. 人工歯の選択を説明できる。 2. 前歯部人工歯の排列を説明できる。 3. 臼歯部人工歯の排列を説明できる。 **[各論Ⅳ-5-ウ-b, c]** 事前学修：義歯製作における人工歯の選択、人工歯の排列について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。

講義	12/8（火）	4	佐藤宏明講師（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学5** 床義歯製作に必要な埋没・重合・研磨の方法を理解する。 義歯装着と調整を理解する。	1.床義歯の埋没・重合・研磨の方法を説明出来る。 2.埋没・重合・研磨の手順を説明出来る。 3,義歯装着と調整を説明できる。 **[各論Ⅳ-4-ウ-f][各論Ⅳ-5-ウ - d]** 事前学修：義歯製作における埋没と重合、義歯装着と調整について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。
講義	12/15（火）	3	原総一朗助教（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**有床義歯学6** 義歯装着後の変化と対応、義歯修理を理解する。	1. 義歯装着後の口腔内の変化について説明できる。 2. リベースとリラインの違いを説明できる。 3. 義歯修理について説明できる。 **[各論Ⅳ-8-オ-b, c, d, e]** 事前学修：義歯製作における義歯装着後の変化について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授（歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：冠橋義歯・口腔インプラント学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/28（火）	4	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯学1** **クラウン・ブリッジの治療の流れ** クラウン・ブリッジの臨床の手順について理解する	1.診療室と技工室での治療の流れを理解する。 2.診療室と技工室で使用する機器や材料の特性を理解する。 **［総論：Ⅶ-2-ア-d～e］** アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/16（火）	2	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント学1** インプラント治療の流れを理解する。	1.インプラントの基本構造を理解し、治療の検査方法と診断について説明できる 2.インプラント治療で用いる材料について説明できる **［各論：Ⅳ-ア-a～c、イ-a,b、ウ-a,b］** 事前学習：口腔インプラント学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/30（火）	4	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント学2** インプラント外科について治療の流れを理解する。	1.インプラント1次手術および2次手術のの術式を理解し、一連の外科処置の流れを説明できる。 2.インプラント外科に必要な器具、材料を列挙できる。 **［各論：Ⅳ-ア-a～c、イ-a,b、ウ-a,b］** 事前学習：口腔インプラント学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	深澤　翔太准教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/1（火）	1	齊藤裕美子助教 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯学2** **鋳造法によるクラウン製作** クラウン・ブリッジのワックスアップについて理解する。	1.クラウンの鋳造法による製作の特徴を説明できる。 2.クラウンのワックスパターン形成を説明できる。 **[各論：Ⅳ-ウ-a,c]** アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/15（火）	4	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント学3** インプラント補綴について治療の流れを理解する。	1.インプラント治療における補綴処置の流れを説明できる。 2.インプラント補綴に必要な器具、材料を列挙できる。 3.口腔内スキャナーの活用法について説明できる。 **[各論：Ⅳ-6-ア-a～c、ウ-b～g、エ-a～d]** 事前学修：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	11/10（火）	2	深澤翔太准教授（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯学3** クラウン・ブリッジの接着 クラウン・ブリッジ接着について理解する。	1.クラウン・ブリッジ補綴に使用する材料と表面処理について理解する。 2.セメントの種類と特徴を理解する。 **[各論：Ⅳ-6-ア、イ-j]** アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/17（火）	3	深澤翔太准教授（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**冠橋義歯学4** CAD/CAM冠と光学印象 CAD/CAM冠と光学印象について理解する。	1.CAD/CAM冠の製作法を理解する。 2.光学印象を理解する。 **[各論：Ⅳ-イ-d,f、ウ-b]** アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/15（火）	1	福徳暁宏講師（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**口腔インプラント学4** インプラントのメインテナンスと合併症について理解する。	1.メインテナンスの重要性と方法を理解する。 2.インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎の特徴と治療法を説明できる。 **[各論：Ⅳ-ア-a～c、]** 事前学修：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	今一裕教授 （冠橋義歯・口腔インプラント学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅱ）講義日程表：摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/26（火）	3	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション①** 摂食嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害の検査法と診断を理解する。	1. 摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 2. 摂食嚥下の5期モデルについて説明できる。 3. 摂食嚥下障害のスクリーニングテストについて説明できる。 4. 摂食嚥下障害の精密検査について説明できる。 **[総論Ⅱ-6-エ-a, b][総論Ⅱ-7-ウ-a][総論Ⅴ-5-ア, イ][各論Ⅴ-1-ウ-c]** 事前学修：老年歯科医学ｐ299～325、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ2～156を読み、疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。
講義	7/14（水）	2	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション②** 摂食嚥下障害に対する口腔衛生管理と治療法を理解する。	1. 高齢者の口腔健康管理について説明できる。 2. 摂食嚥下障害患者に対する口腔衛生管理を説明できる。 3. 摂食嚥下障害患者に対する姿勢調整を説明できる。 4. 摂食嚥下障害患者に対する食事介助を説明できる 5. 摂食嚥下障害患者に対する食形態の調整を説明できる。 **[必修11-イ-b][各論Ⅴ-1-ウ-c][各論Ⅴ-1-オ]** 事前学修：老年歯科医学ｐ212～357、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ182～195、ｐ196～212を読み、疑問点を500字程度にまとめ発表できるようにしておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/18	3	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション③** 摂食嚥下障害患者に対する診察、診断に必要な検査を理解する。 それぞれの検査の目的を理解する。 摂食嚥下障害を持つ患者への対応を理解する。	1. 摂食嚥下障害の原因となる疾患について説明できる. 2. 摂食嚥下障害患者に対する診察、診断に必要な検査について説明できる。 3. 治療的アプローチを説明できる。 4. 代償的アプローチを説明できる。 **[総Ⅶ-6-イ-a][各論Ⅴ-1-ウ-c][各論Ⅴ-1-オ][各論Ⅴ-3-ア-b][各論Ⅴ-7-アイウエオ]** 事前学修：老年歯科医学ｐ353～372、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ214～233老年歯科医学ｐ262～298を読み、よくわかる高齢者歯科学 P186-208を読み、疑問点を抽出しておくこと疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。

講義	11/24（火）	2	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**摂食嚥下リハビリテーション④** 摂食嚥下障害を持つ患者への対応を理解する。 摂食嚥下障害患者に対する診察から治療計画の立案法を理解する。	1. 摂食嚥下障害に対する診断および対応について説明できる. 2. 多職種による様々な対応の連携について説明できる。 3. 治療計画の立案ができる。 **[総Ⅶ-6-イ-a][各論Ⅴ-1-ウ-c][各論Ⅴ-1-オ][各論Ⅴ-2-ア-ab][各論Ⅴ-3-ア-b][各論Ⅴ-7-アイウエオ]** 事前学修：老年歯科医学ｐ353～372、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学ｐ214～233老年歯科医学ｐ262～298を読み、よくわかる高齢者歯科学 P186-208を読み、疑問点を抽出しておくこと疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 （歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：口腔外科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	4/28（火）	2	山田浩之教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**炎症** 炎症の概念を理解し、歯性感染症に関する知識を習得する。	1.顎口腔の炎症の症状、診断法、治療法を説明する。 2.歯性感染症の概念と感染経路を説明する。 3.顎骨骨髄炎の症状、経過、治療法について説明する。 **［総論Ⅲ-1-カ，各論Ⅲ-1-ウ，2-エ，3-ア-d，e］** 事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出版P122～172を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	5/19（火）	2	平野大輔講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**嚢胞・良性腫瘍** 口腔顎顔面領域に発生する嚢胞・良性腫瘍の分類、発生病因、診断、治療法を習得する。	1.顎骨および軟組織に発生する嚢胞・良性腫瘍を説明する。 2.顎骨および軟組織に発生する嚢胞・良性腫瘍の治療法を説明する。 **［総論Ⅲ-1-ケ，コ，各論Ⅲ-2-オ，カ，キ，3-ア-f，g］** 事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出版P233～269、305～334、405～413を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/30（火）	3	古城慎太郎講師 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**顎変形症** 顎変形症の症状、診断、治療法を習得する。	1.顎変形症の概念と成因について説明する。 2.顎変形症を説明する。 3.顎変形症の治療法を説明する。 **［各論Ⅲ-2-ア，イ］** 事前学修:口腔外科学第4版医歯薬出版P81～87、596～633を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/8（火）	3	太田藍里助教 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**唾液腺疾患** 唾液腺疾患の症状、診断、治療法を習得する。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明する。 2. 唾液腺の腫瘍性疾患を説明する。 3. 唾液腺の閉塞性を説明する。 **［各論Ⅲ-3-ア］** 事前学修:口腔外科学第4版医歯薬出版P376～430を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/4（水）	2	川井　忠准教授 （口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野）	**外傷** 口腔顎顔面領域に見られる損傷の概念、症状、治療について習得する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれの症状、治療法および治癒過程を説明する。 2. 歯の損傷の種類と特徴、治療法および治癒過程を説明する。 3. 一般的な骨折の種類と特徴、治療法および治癒過程を説明する。 **［各論Ⅲ-1-イ，2-ウ］** 事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出版P88～121を読み疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	11/10（火）	2	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**悪性腫瘍** 顎口腔領域に発生する悪性腫瘍に関する知識を習得する。	1.　顎口腔領域の悪性腫瘍の臨床症状を説明する。 2.　顎口腔領域の悪性腫瘍の治療、予後について説明する。 **[各論Ⅲ-1-カ，キ，3-ア-h]** 事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出版P213～232、414～424、634～691を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/8（火）	3	川又慎介助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**顎関節疾患** 顎関節疾患の症状、診断、治療法を習得する。	1.顎関節症の概念と成因を説明できる。 2.顎関節症の分類と治療法を説明できる。 3.その他の顎関節疾患を説明できる。 **[各論Ⅲ-3-ウ]** 事前学修:口腔外科学第4版医歯薬出版P335～375を読み疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	1/5（火）	2	秋本祐基助教 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**口腔粘膜疾患** 口腔粘膜疾患の症状、診断、治療法を習得する。	1.口内炎やアフタの症状、治療法について説明する。 2.水疱性疾患、ウィルス性疾患の症状、治療法について説明する。 3.角化性疾患、色素沈着などの口腔粘膜疾患の症状について説明する。 **[各論Ⅲ-1-ク，4-イ，エ，オ]** 事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出版P173～212を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	大橋祐生准教授 （口腔顎顔面再建学講座　口腔外科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：歯科麻酔学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	6/30（火）	2	坂野上和奏助教（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科治療時の偶発症** 局所麻酔薬投与時の偶発症とそのメカニズムを理解する。	1. 局所麻酔時の局所的偶発症を説明できる。 2. 局所麻酔薬及び歯科治療時の全身的偶発症を説明できる。（血管迷走神経反射、過換気症候群、アナフィラキシーショック、局所麻酔薬中毒、血管収縮薬に対する反応、メトヘモグロビン血症） 3. ショックを説明できる。 4. 局所麻酔時の内科的疾患の増悪を説明できる。（狭心症発作、脳血管障害、低血糖性昏睡、不整脈、仰臥位低血圧症候群） **［各論Ⅲ-4-ソ、各論-Ⅴ-2-エ］** 事前学習：局所麻酔投与時の全身的偶発症について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。
講義	7/21（火）	3	坂野上和奏助教（口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**精神鎮静法** 精神鎮静法の特徴を理解する。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適応、禁忌、種類、実施法を説明できる。 2. 笑気吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法及びその使用薬剤を説明できる。 **［総論Ⅶ-4-ウ-c］** 事前学習：精神鎮静法の特徴について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	9/8（火）	4	坂野上和奏助教 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**全身麻酔法** 全身麻酔法と全身麻酔薬を理解する。	1. 全身麻酔薬の理論、概念、機序を説明できる。 2. 全身麻酔に使用する装置、器具、回路を説明できる。 3. 全身麻酔における気道確保法を説明できる。 4. 全身麻酔薬の種類と特徴を説明できる。 5. 麻酔前投薬、筋弛緩薬の種類と薬理作用を説明できる。 **［総論Ⅶ-4-ウ-b］** 事前学習：全身麻酔法および麻酔薬について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

講義	11/24 (火)	4	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**歯科麻酔学5** **ペインクリニック** 顎口腔領域の疼痛性および麻痺性疾患を学ぶことで疼痛管理の重要性を理解することができる。	1.顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2.三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3.顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4.星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 **[各論-Ⅲ-3-イ]** 事前学習：精神鎮静法の特徴について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。[E-1-4)-(3)]
講義	1/5 (火)	4	坂野上和奏助教 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**救急蘇生法** 救急蘇生法(BLS)を理解する。	1.バイタルサインを説明できる。 2.成人の1次救命処置を説明できる。 3.自動体外式除細動器を説明できる。 4.小児の1次救命処置を説明できる。 5.異物による気道閉塞とその解除法を説明できる。 **[必須10、総論Ⅶ-3]** 事前学習：救急蘇生法について永末書店　第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤健一教授 （口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：歯科放射線学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/21（火）	3	佐藤　仁助教 （口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野）	**画像診断まとめ1** 口腔領域の画像診断について学習する。	1.　嚢胞性病変を列挙できる。 2.　腫瘍性病変を列挙できる。 3.　炎症性疾患を列挙できる。 4.　上記病変の画像所見を列挙できる。 **[E-1-2, ①～⑨]** 事前学修：3年次履修の際のレジュメ、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。
講義	6/16（火）	4	佐藤　仁助教 （口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野）	**画像診断まとめ1** 口腔領域の画像診断について学習する。	1.　嚢胞性病変を列挙できる。 2.　腫瘍性病変を列挙できる。 3.　炎症性疾患を列挙できる。 4.　上記病変の画像所見を列挙できる。 **[E-1-2, ①～⑨]** 事前学修：3年次履修の際のレジュメ、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤　仁助教 （口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野）	**総合講義（Ｉ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/8（火）	2	田中良一教授 （放射線医学講座）	**胸部X線画像** （教科書p449） 胸部X線検査は歯科麻酔手術の術前検査にも広く利用される検査である。基本的正常像および異常像の典型を理解する。	1.胸部X線写真の撮影法を述べることができることができる。 2.胸部X線写真の正常解剖像を述べることができることができる。 3.胸部X線写真の異常像を列挙できる。 **[D-2-5-9]**

講義	11/4 (水)	4	佐藤　仁助教 (口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野)	**画像診断まとめ2** 口腔領域の画像診断について学習する。	1.　CT、MRI、US、RI検査を説明できる。 2.　各疾患の画像検査所見を検査種毎に列挙、説明できる。 3.　放射線領域の一般、臨床実地問題に必要な知識を列挙できる。 **[E-1-2, ①～⑨]** 事前学修：3年次履修の際のレジュメ、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。
講義	12/15 (火)	2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野)	**放射線治療** 口腔癌の放射線治療の種類、適応について習得する。	1.　放射線の治療法を列挙し、適応について説明できる。 2.　治療時の口腔管理について説明できる。 3.　放射線治療に関連した各種問題に解答できる。 **[D-3-6-3]** 事前学修：3年次履修の際のレジュメ、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	佐藤　仁助教 (口腔顎顔面再建学講座　歯科放射線学分野)	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯科矯正学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	5/19（火）	3	深澤慶子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学1** **頭蓋顎顔面の成長発育** 口腔と頭蓋顎顔面の成長発育について理解する。	1. 口腔の発生について説明できる。 2. 頭蓋骨の成長について説明できる。 3. 鼻上顎複合体の成長について説明できる。 4. 下顎骨の成長について説明できる。 **[必修Ⅴ-ウ-a, b、総論Ⅳ-2-ウ]** 事前学修：歯科矯正学p15～p44を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/21（火）	4	上田　茜助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学2** **矯正歯科治療における診断** 矯正診断用の口腔模型およびエックス線セファロ写真と機能分析の意義・分析法について理解する。	1. 口腔模型について説明できる。 2. セットアップモデルについて説明できる。 3. 画像検査について説明できる。 4. 機能検査について説明できる。 **[各論Ⅰ-6]** 事前学修：歯科矯正学p145～p176を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/15（火）	3	吉田弘法助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学3** **矯正歯科治療における抜歯と固定** 矯正歯科治療における抜歯と固定の必要性について理解する。	1.矯正歯科治療における抜歯の目的について説明できる。 2.Tweedの抜歯基準について説明できる。 3.Tooth size ratioについて説明できる。 4.矯正歯科治療における固定について説明できる。 **[各論Ⅰ-6-ウ、各論Ⅰ-10-ウ]** 事前学修：歯科矯正学p151,p182～p188,p200～p201を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
	11/4（水）	3	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学4** **器械的矯正装置と機能的矯正装置** 器械的矯正装置と機能的矯正装置の種類、構造、特徴について理解する。	1. 器械的矯正装置と機能的矯正装置の基本的条件および分類について説明できる。 2. 器械的矯正装置と機能的矯正装置の構造を説明できる。 3. 器械的矯正装置と機能的矯正装置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明できる。 **[D-5-5-4]** 事前学修：歯科矯正学p151,p182～p188,p200～p201を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/22（火）	3	浅沼莞奈助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**歯科矯正学5** **矯正歯科治療のフォースシステム** 矯正力と顎整形力について理解する。	1.矯正力の大きさと作用様式について説明できる。 2.矯正力と顎整形力について説明できる。 3.マルチブラケット装置における矯正力について説明できる。 **[各論Ⅰ-7、各論Ⅰ-9-ウ]** 事前学修：歯科矯正学p195～p199,p229～p239を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	菊池恵美子助教 （口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：小児歯科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	6/16（火）	3	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**全身の成長・発達** **歯の発育と異常** 小児の全身の発達・顔面頭蓋の成長・発達、歯の発生・発育・萌出とその障害の機構について多角的に理解する。	1. 小児の身体の成長を説明できる。 2. 小児の精神の発達を説明できる。 3. 頭蓋の成長発育を説明できる。 4. 顔面の成長発育を説明できる。 5. 小児の口腔機能の発達について説明できる。 6. 乳歯並びに永久歯の発生、形成時期、萌出順序を説明できる。 7. 歯の発生の各ステージにおける異常と症状の関連性を説明できる。 **[必修5-イ-a～c, 必修5-ウ-a～b, 総論Ⅱ-7-ア-a～c, 総論Ⅱ-7-イ-a～c, 各論Ⅰ-2-ア, イ, ウ]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	7/7（火）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児期の齲蝕治療** 小児期の齲蝕や歯髄疾患の特徴を多角的に理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴と治療方法について説明できる。 2. 歯髄炎の診断法を説明できる。 3. 生活歯髄切断法を説明できる。 4. 暫間的間接覆髄法を説明できる。 5. 根未完成歯の歯内療法を説明できる。 **[総論Ⅳ-2-ア, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a～d, 各論Ⅱ-2-ウ-a～d]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/15（火）	2	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児への対応法** **特別な配慮が必要な小児への歯科治療** 小児患者や障害児の特徴、歯科治療の際の正しい対応法を理解する。	1. 小児の恐れや不安の対象を列挙できる。 2. 小児の情動に配慮した対応法を説明できる。 3. 発達障害の特性について説明できる。 4. 障害児の特徴に配慮した対応法を説明できる。 5. 行動変容法を説明できる。 6. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べることができる。 **[必修11-ス-b, 総論Ⅲ-2-ア-g, 総論Ⅲ-2-イ-a～b, 各論Ⅰ-1-イ-c～f, 各論Ⅰ-1-ウ-c, 各論Ⅰ-1-エ-a～b]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/17（火）	1	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児期の歯周疾患と静的咬合誘導** 小児期の歯周疾患特徴と静的咬合誘導について多角的に理解する。	1. 小児の健全な歯周組織の特徴を列挙できる。 2. 小児と成人の歯周疾患の違いを説明できる。 3. 保隙を行う際の診断基準を症例に応じて説明できる。 4. 診断に基づいた適切な保隙装置の選択法を症例に応じて説明できる。 **[総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-10-ア-a, 各論Ⅱ-3-エ-a～b]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	12/1（火）	3	齊藤桂子講師（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**小児の外傷・口腔粘膜疾患** 小児の歯の外傷や口腔粘膜疾患を多角的に理解する。	1. 小児の歯の外傷の疫学的特徴を説明できる。 2. 小児の歯の外傷の診査と診断について説明できる。 3. 小児の歯の外傷に対する的確な対応法を説明できる。 4. 小児の口唇の疾患を列挙できる。 5. 小児の舌の疾患を列挙できる。 6. 小児の歯肉の疾患を列挙できる。 **[各論Ⅰ-4-ア～オ, 各論Ⅰ-3-イ-a～e, 各論Ⅰ-3-ウ-a～e, 各論Ⅲ-1-ア-c～d,]** 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 （口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：障害者歯科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	2	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障がい者歯科１** **各論復習 1** 各障害の特徴と行動調整を理解する。	1.行動調整 2.各障害者（知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、脳性麻痺、てんかんなど）について説明できる。 **［必修11イa・b・c、総論Ⅰ2カｃ、総論Ⅴ2オa・b・c、総論Ⅴ3ア、イa・b・c・d、ウ、エ、オ、カ、総論Ⅴ6アg、総論Ⅶ1オ、各論Ⅴ2オ、各論Ⅴ8アa・ｂ、イa・b・ｃ、ウ、エ］** 事前学修：教科書p40～63とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/29（火）	3	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障がい者歯科２** **各論復習　２** 各障害の特徴と行動調整を理解する。	1. 行動調整 2. 各障害者（知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、脳性麻痺、てんかんなど）について説明できる。 **[必修11イa・b・c、総論Ⅰ2カｃ、総論Ⅴ2オa・b・c、総論Ⅴ3ア、イa・b・c・d、ウ、エ、オ、カ、総論Ⅴ6アg、総論Ⅶ1オ、各論Ⅴ2オ、各論Ⅴ8アa・ｂ、イa・b・ｃ、ウ、エ]** 事前学修：教科書p40～63とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/15（火）	4	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**障がい者歯科３** **症候群復習** 障害者歯科で取り扱う症候群について理解する。	1. 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常の病態・特徴を説明できる。 2. 主として全身に関連する疾患の病態・特徴を説明できる。 **[各論Ⅰ1イa・b・ｃ・ｄ・e、ウa・b・ｃ・ｄ・e、エa・b、各論Ⅲ4アa・b・ｃ・d・e・f・g・h・i・j・k・l・m・n・o]** 事前学修：教科書pp168～200を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	磯部可奈子助教（口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：関連医学・内科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	5	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**内科学Ⅰ** **循環器疾患、悪性新生物** 代表的な循環器疾患、悪性新生物について理解する。	1.代表的な循環器疾患、悪性新生物について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-b, j][各論Ⅲ4-ス-b][各論Ⅴ2-エ-c]** 事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/7（火）	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**内科学Ⅱ** **呼吸器疾患、消化器疾患** 代表的な呼吸器疾患、消化器疾患について理解する。	1.代表的な呼吸器疾患、消化器疾患について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-a, c][各論Ⅲ4-ス-a, c][各論Ⅴ2-エ-b, d]** 事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	11/17（火）	4	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**内科学Ⅲ** **代謝・内分泌、血液疾患** 代表的な代謝・内分泌、血液疾患について理解する。	1.代表的な代謝・内分泌、血液疾患について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-d,h][各論Ⅲ4-ス-d,h][各論Ⅴ2-エ-e,i]** 事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	1/5（火）	3	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**内科学Ⅳ** **腎疾患、精神疾患** 代表的な腎疾患、精神疾患について理解する。	1.代表的な腎疾患、精神疾患について理解し説明できる。 **[必修11-ス-b][総論Ⅴ6-ア-e,f][各論Ⅲ4-ス-e, f][各論Ⅴ2-エ-f,g]** 事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 （口腔医学講座 関連医学分野 内科学）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ｉ）講義日程表：衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学

前期：

区分	月日（曜）	時限	担当教員（講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	4/14（火）	3	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**疫学・保健統計学** 疫学の基本的考え方を学ぶことで、診療、地域補年に対する論理的な方略を策定できるようになる。	1. 疫学の研究方法を列挙できる。 2. リスク指標を算出できる。 3. EBMを概説できる。 4.基本統計量を列挙できる。 5.統計学的検定の原理を説明できる。 6.主な口腔の疫学指標を算出できる。 7.主な保健医療統計調査を列挙できる。 8.人口統計を概説できる。 **[必修9-ク-a～d、総論Ｉ-6-ア～ウの小項目すべて]** 事前学修：2年次衛生・公衆衛生学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。
講義	5/12（火）	3	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**医療関連法規** 医療関連法規を学ぶことで、臨床における歯科医師の役割を理解することができる。	1.医療法を概説できる。 2.医療計画を概説できる。 3.医療機関の種類を列挙できる。 4.歯科医師法による歯科医師の義務を列挙できる。 5.歯科衛生士法、歯科技工士法を概説できる 6.医薬品、医療機器等法が定める項目を列挙できる。 **[必修2-イ-a, b, d、カ-a,g、総論Ｉ-エ-a, e, h、オ-a, b, g, h, j]** 事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

講義	6/2 (火)	2	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**保健関係法規** 保健、衛生関係法規を学ぶことで地域保健の仕組みを理解する。	1. 健康増進法が規定する事項を列挙できる。 2. 地域保健法が規定する事項を列挙できる。 3. 歯科口腔保健の推進に関する法律を概説できる。 4. 感染症法、予防接種法、検疫法を概説できる。 **[必修2-イ-a, b, e、必修3-ア-f、必修3-イ-a、総論Ⅰ-1-エ-b, d、総論Ⅰ-1-オ-a, b, f]** 事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	※	※	大石泰子助教 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **前期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **[出題された問題による]** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座　分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **[国家試験出題基準]** 事前事後学修
講義	9/1 (火)	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座　予防歯科学分野）	**地域保健総論** 地域保健の基本概念と根幹となる法規を学ぶことで地域保健の意義を理解することができる。	1. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違いを説明できる。 2. 保健所の業務を列挙できる。 3. 健康増進法を概説できる。 4. 地域保健法を概説できる。 **[必修3-ア-a～d、イ-a, g, h、総論1-エ-b, d, j、オ-a～j]** 事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

講義	11/10（火）	3	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**地域保健各論** 異なる対象集団に対する保健介入方法を学ぶことで、地域保健に関する応用性を身につけることができる。	1.母子保健・母子歯科保健を概説できる。 2.学校保健・学校歯科保健を概説できる。 3.産業保健・産業歯科保健を概説できる。 4.成人保健・成人歯科保健を概説できる。 5.地域包括ケアシステムと地域支援事業の関係を説明できる。 **[必修3-イ-b～e、総論Ⅰ-2-ア～カの小項目すべて]** 事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。
講義	12/1（火）	2	岸　光男客員教授 佐藤俊郎准教授 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**社会保障** 社会保障制度と国民医療費を理解することで適切な保険診療を提供することができるようになる。	1.社会保障の分類を列挙できる。 2.医療保険制度を概説できる。 3.公費医療制度を列挙できる。 4.介護保険制度を概説できる。 5.国民医療費を概説できる。 **[必修-2-イ-e, g、総論Ⅰ-1-ウ-a～d、エ-c, g, j、総論Ⅰ-4-ア-a, b]** 事前学修：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

講義	1/12 (火)	2	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**う蝕と歯周病の予防** う蝕と歯周病の発症機序を理解することで、根拠に基づいた疾病予防計画を策定することができるようになる。	1. う蝕のリスク因子を列挙できる。 2. 歯周病のリスク因子を列挙できる。 3. う蝕のリスク因子に対応する予防法を選択できる。 4. う蝕のリスク評価法を列挙できる。 5. 歯周病のリスク評価法を列挙できる。 6. フッ化物によるう蝕予防機序を説明できる。 7. 歯磨剤の薬用成分を列挙できる。 **［必修3-ウ-a～c、必修4-イ-b, c、各論Ⅱ-1 - イ-a～e、各論Ⅱ-3 - イ-a～e］** 事前学修：3年次DTPの教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 （講座 分野）	**ユニット名** 内容	到達目標 **［国家試験出題基準］** 事前事後学修
講義	※	※	大石泰子助教 （口腔医学講座 予防歯科学分野）	**総合講義（Ⅰ）** **後期試験解説講義** 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 **［出題された問題による］** 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第５学年授業時間割の項に記載

教科書・参考書・推薦図書…予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

成績評価方法・基準・配点割合等

・定期試験は各科目を統合した総合試験とする。
・総合試験（前期、後期）を90%、実力確認試験、週間復習試験および月間復習試験を10%として評価する。

【前期総合試験と後期総合試験の点数配分】
前期：後期＝40%：50%

【判定基準】
総合試験、実力確認試験、週間復習試験および月間復習試験の合計が65%以上を合格とする。

到達目標	DP	実力確認試験、週間復習試験、月間復習試験	前期試験	後期試験	合計
1)～18)	1,2,5,7,8,9	10	40	50	100
合計		**10**	**40**	**50**	**100**

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。事前および事後に当該科目のDESS演習を活用する。週間復習試験では前週に受講した講義内容についての習熟度の確認を、月間復習試験では該当月間に受講した講義内容を中心とした習熟度の確認を行う。

【総合試験の受験資格１（出席）】
以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる前期試験の受験資格を認める。
・前期の当該科目の出席（講義）が5分の4以上であること
・前期に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
・前期に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる後期試験の受験資格を認める。
・後期の当該科目の出席（講義）が5分の4以上であること
・後期に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
・後期に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること

【総合試験の受験資格２（その他）】
以下の条件をすべて満たした場合に前期試験の受験資格を認める。
・実力確認試験を受験すること
・指定された演習（DESS等）を全て受講すること

以下の条件をすべて満たした場合に後期試験の受験資格を認める。
・大学主催の模擬試験を受験すること
・指定された演習（DESS等）を全て受講すること

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）

責任者・コーディネーター	科目責任者： 口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）山田 浩之 教授 総ライター長： 歯科保存学講座（歯周療法学分野）佐々木 大輔 教授				
担当講座（分野）	歯学部臨床科目担当教員				
対象学年	5	区分・時間数 （半日を4時間に換算）		講義/演習	実習
期間	通期		前期	—	504.0時間
			後期	—	708.0時間

学修方針（講義概要等）

将来、歯科医師として適切な歯科医療を提供するために、岩手医科大学附属病院および内丸メディカルセンター歯科医療センターで診療参加型臨床実習を行う。本実習を通して、歯科臨床に必要な知識・技能・態度を身につける。

教育成果（アウトカム）

患者を全人的・全身的に捉えるMultidisciplinary Comprehensive Careを基本とした態度を養うとともに、歯科医師として必要な基本的臨床能力を習得するため、患者の同意を得て、指導医のもとで実際の歯科医療に携わる。指導医の行う歯科治療の介助や見学に加えて、地域医療への参加や介護体験を通して幅広い臨床経験を積む。

（関連するディプロマポリシー：1、2、3、4、5、6、8、9）

到達目標（SBOs）

１)診療の基本
信頼される安全・安心な歯科医療を提供するために、救急処置法を身に付けるとともに、患者への安全対策に配慮した歯科医療を実践する。
２)基本的診察・診断技能
患者から詳しく症状を聴取したうえで診察を行い、適切な検査を選択して診断できる技能を身に付ける。
３)症候・病態からの臨床推論
口腔・顎顔面領域の主な症候・病態から原因疾患を鑑別診断できる基本的能力を身に付ける。
４)診療記録の整理と治療計画立案
患者から得られた医療情報の取り扱いを理解し、個々の患者の抱える背景を踏まえた治療計画の立案法を身に付ける。
５)基本的治療手技
安全・安心な歯科医療を提供するために、基本的治療技能を身に付ける。
６)多職種連携、チーム医療、地域医療
医療チームの一員として介護体験、地域医療に参画する。

事前事後学修の具体的内容及び時間

【事前学修】
　シラバスに記載されている臨床実習内容を確認し、自験症例もしくは各臨床科目の実習で行う項目に沿った知識を教科書等を用いて習得する。必要であれば口腔模型を用いて技能を習得する事前学修を行うこと。各臨床実習内容に対する事前学修の時間は1日あたり平均60分を要する。
【事後学修】
　臨床実習後に指導医から得たフィードバックをもとに、不十分だった項目に対して教科書等を用いて事後学修を行うこと。各実習項目に対する事後学修の時間は1日あたり平均60分を要する。

（事前学修：１日あたり平均60分を要する　事後学修：1日あたり平均60分を要する）

教科書・参考書・推薦図書…予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

成績評価方法・基準・配点割合等

１．実習科目とリクワイアメント
実習科目は17科目とする。リクワイアメントは、総合歯科学200点、その他の科目を各100点とし、17科目合計1800点とする。
[G-1～5]

２．修了要件
下記の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）の要件を満たしていることを臨床実習修了の要件とする。
（１）全科目のリクアイアメントを100%以上達成していること。
・前期リクワイアメント：原則として７月末の時点で全科目合計650点を達成すること。
・中期リクワイアメント：原則として12月末の時点で全科目合計1500点を達成すること。
（上記が達成できない場合は長期休業期間等に補習等を課す場合がある）
（２）臨床実習開始日から臨床実習終了日までの臨床実習の全日程において、４/５以上出席していること。
（３）臨床実習後臨床能力試験「一斉技能試験」および「臨床実地試験」に合格していること。
（４）介護体験実習および地域医療体験実習を修了していること。
（５）岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

３．評価方法
１）基礎点
（１）修了要件の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）を満たしている場合、基礎点を65点とする。
（２）修了要件の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）のいずれか一つを満たしていない場合、基礎点を0点とする。
２）総合評価点
（１）各科目において、臨床実習の到達度評価を行い35点満点で評価する。
※35点の評価方法は各科目の項に記載する。
（２）17科目の総合評価の点数の平均を臨床実習の総合評価点とする。

４．臨床実習の評価点
（１）基礎点に総合評価点を加えた点数を臨床実習の評価点とする。
（２）評価点が65点以上を臨床実習修了とする。

特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用 等）

必要に応じてWebClassを使用して資料配布、レポートの提出等を行う（各科目による）。
学生の出欠確認およびリクワイアメント進行状況の管理は、e-ログブックシステムを利用する。
学生が作成したレポートおよび臨床実習後のフィードバック等は、シラバスに記載されている各指導教員のオフィスアワーを利用して行う。

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

授業に使用する機械・器具と使用目的…別に示す。

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的

臨床実習Ⅰ：予防歯科学・歯周病学

ライター長：口腔医学講座（予防歯科学分野）　　大石　泰子　助教
　　歯科保存学講座（歯周療法学分野）　鈴木　啓太　助教

１．教育成果（アウトカム）

予防歯科学・歯周病学臨床の基本的な知識、技能、態度を修得することで、実際の予防歯科学・歯周病学臨床を行う準備ができる。

DP 項目番号：６

２．到達目標（SBOs）

① 適切な身だしなみ、言葉づかい、礼儀正しい態度で患者対応できる。
② 医療面接における基本的なコミュニケーションができる。
③ 患者の病歴を聴取できる。
④ 適切な個人用防護具(PPE)を選択して着用できる。
⑤ 検査、治療に必要な器具を準備できる。
⑥ 清潔に配慮した操作ができる。
⑦ 歯周組織検査を実施できる。
⑧ 歯周基本治療としてスケーリングができる。
⑨ PMTC を実施できる。
⑩ 検査、治療の際に指導教員への報告・確認ができる。
⑪ 医療廃棄物を適切に分別し廃棄できる。

コア・カリキュラム番号

D-5-2-3-2、E-1-1-3, 4, 5、E-2-1-1-1, 2, 4、E-5-2-3、E-5-3-3-2

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
3/30～4/7	2 階歯周病外来	・問診、歯式確認、歯周組織検査、スケーリング、PMTC について相互実習

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

歯周科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	村井　治 鈴木 啓太	佐々木 大輔 鈴木 啓太 相原 恵子
午後	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	村井　治 鈴木 啓太	佐々木 大輔 鈴木 啓太 相原 恵子

予防歯科

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	佐藤 華子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 大石 泰子 衣斐 美歩	杉山 由紀子 佐藤 華子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 杉山 由紀子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 大石 泰子 衣斐 美歩
午後	佐藤 華子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 大石 泰子 衣斐 美歩	杉山 由紀子 佐藤 華子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 杉山 由紀子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 大石 泰子 衣斐 美歩

臨床実習Ⅰ：保存修復学・歯内治療学

ライター長：歯科保存学講座（う蝕治療学分野）　大塚　泰寛　助教

１．教育成果（アウトカム）

臨床実習Ⅱにおいて、保存修復学および歯内治療学の臨床実習を効果的に行うために必要な、基本的な知識・技術・態度を修得する。

あわせて、歯内疾患を含む歯の硬組織疾患に対する適切な診査・診断および治療方針（計画）の立案について理解を深め、治療に必要な基本的臨床技能を身につける。

２．到達目標（SBOs）

１）診療環境・基本操作

①清潔・不潔操作を適切に区別し、遵守できる。

②歯科ユニットの基本的な操作を理解し、適切に使用できる。

③各処置に応じた診療準備を行い、多種にわたる歯科器具の器具出しができる。

２）診査・診断および治療計画

①適切な診査を行い、その結果に基づいて診断できる。

②診断に基づき、妥当な治療方針を立案できる。

３）診療記録

①治療内容を順序立てて正確に記録できる。

②適切な診療録を作製できる。

４）器具・材料の取り扱い

①保存修復および歯内治療に用いる各種器具・材料の基本的な使用法を理解する。

②各種仮封用セメントおよび根管充填用シーラーを適切に練和できる。

③カラーコードにより、リーマー・ファイルの号数を識別できる。

コア・カリキュラム番号

E-1-1），E-1-2），E-1-4)-(3)，E-2-4)-(3)，E-3-1），E-3-2），E-3-3），G-3

３．実習方法

１）実習内容

・臨床実習概要説明、外来見学

・保存修復・歯内治療での材料取り扱い実習

・処置内容等書き方説明

・局所麻酔、ラバーダム防湿の実習

・歯髄診断の検査法説明

2）日程

実 習 日 程	実 習 場 所	実 習 内 容
1 日目	歯学部 4F 第 2 講義室	周術期の基本の流れと当科受診患者が有する全身管理が必要な疾患、歯髄診断の検査の説明を行う。
	3F 総合歯科 B	器材取り扱い実習、相互で浸潤麻酔とラバーダム防湿実習を行う。

4．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平
午後	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平	浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 鈴木 太平

集合時間は 8：50 に総合歯科Ｂ外来へ集合する

臨床実習Ⅰ：有床義歯補綴学・冠橋義歯補綴学・口腔インプラント学

ライター長：歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）　米澤　悠
歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）　齊藤　裕美子　助教
歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）　八戸 勇樹　助教

１．教育成果（アウトカム）

有床義歯補綴学、冠橋義歯補綴学および口腔インプラント学の基礎的な知識・技術・態度を習得することで、臨床実習Ⅱにおける臨床実習を効果的に進められる基盤が形成される。

（関連するディプロマポリシー：1，2，3，4）

２．到達目標（SBOs）

１）外来・実習室実習

① 有床義歯、冠橋義歯および口腔インプラントによる補綴歯科治療の目的と流れを説明できる。
② 有床義歯、冠橋義歯および口腔インプラントによる補綴歯科治療に必要な器具、機器を説明できる。
③ 有床義歯、冠橋義歯および口腔インプラントによる補綴歯科治療時の介助ができる。
④ Oral Health Impact Profile（OHIP）を用いて口腔関連 QOL 評価ができる。
⑤ 咀嚼機能検査ができる。
⑥ 咬合検査ができる。
⑦ 支台歯形成に必要な形態が説明できる。
⑧ 支台歯形成ができる。

コア・カリキュラム番号

D-5-3-1、D-5-3-2、D-5-3-3、E-5-3

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
午前 午後	義歯外来 A、義歯外来 B、 口腔インプラント科、 インプラントオペ室、 技工室、臨床第 1・2 実習室	外来設備・備品の説明、外来診療 （DP/SBOs：1～3/①～③） OHIP、咀嚼能力検査、咬合検査、支台歯形成実習 （DP/SBOs：1,4/④～⑧）

※集合場所：臨床第 1・2 実習室　　集合時間：8:50

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前 午後	佐藤 宏明 米澤　悠 米澤 沙織 原 総一朗 島田 崇史 伊藤　凌 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 佐々木 渓人 八戸 勇樹	佐藤 宏明 米澤　悠 米澤 沙織 原 総一朗 島田 崇史 伊藤　凌 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 佐々木 渓人 八戸 勇樹	佐藤 宏明 米澤　悠 米澤 沙織 原 総一朗 島田 崇史 伊藤　凌 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 佐々木 渓人 八戸 勇樹	佐藤 宏明 米澤　悠 米澤 沙織 原 総一朗 島田 崇史 伊藤　凌 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 佐々木 渓人 八戸 勇樹	佐藤 宏明 米澤　悠 米澤 沙織 原 総一朗 島田 崇史 伊藤　凌 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 佐々木 渓人 八戸 勇樹

臨床実習Ⅰ：口腔外科学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）　野宮　孝之　助教、川又　慎介　助教

１．教育成果（アウトカム）

・口腔・顎・顔面領域に疾患を有する患者に対し、適切な情報聴取を行うために必要な知識、技能および態度を修得し、得られた情報を基に診断の考え方を理解し、治療計画立案の過程を説明できるようになる。
・口唇・口腔・顎顔面領域における基本的な診察技能について、理論的背景を理解した上で、視診・触診を中心とした診察を安全かつ適切に実践できる態度を身につける。
・口腔外科診療において必要となる基本的手技および診療補助について、手技の目的・手順・注意点を理解し、指導医の監督下で診療参加型実習として関与できる能力を身につける。
・臨床実習Ⅰでは、臨床実習Ⅱにおいて求められるより実践的な診療参加に必要な基礎的知識・技能・態度を体系的に修得することを目標とする。

２．到達目標（SBOs）

１）医療面接

①　患者から、主訴・現病歴・既往歴・家族歴を適切に聴取し、得られた情報を整理して指導医に説明できる。

２）診察の基本

2-1)　バイタルサイン

①　血圧・脈拍・体温の測定方法と意義を理解し、指導医または医療スタッフの指示のもとで測定に関与できる。

2-2)　頭頸部の診察

①　顔面の色調変化や左右対称性を観察し、正常・異常の判断の視点を説明できる。
②　下顎の開閉口運動を観察し、評価のポイントを説明できる。
③　顎関節部の診察方法を理解し、診察に立ち会い所見を説明できる。
④　頭頸部筋群の診察の目的を理解し、診察の流れを説明できる。
⑤　顎下リンパ節の触診方法を理解し、所見の評価について説明できる。

2-3)　口唇・口腔内状態の診察

①　口唇および口腔内の基本的な診察方法を理解し、異常所見の有無を観察し説明できる。

３）診療録の記載と診断結果・治療方針の説明

①　医療面接および診察で得られた情報を整理し、診療録に記載される内容を理解し、記載の補助ができる。
②　診断結果および治療方針について、指導医による患者説明に同席し、その内容を理解し説明できる。

４）口腔外科の基本的手技

①　清潔操作の基本原則を理解し、診療において適切な態度で行動できる。
②　抜歯（小手術を含む）に必要な器材について、名称・用途を理解し、準備および片付けに関与できる。

③　手術における手洗いおよび滅菌グローブ装着の手順を理解し、指導医の監督下で実施に関与できる。

④　普通抜歯の手技の流れおよび注意点を理解し、見学や診療補助を通して治療の全体像を説明できる。

コア・カリキュラム番号

CS-09、CM-01,02,03、D-1-2-1、D-2-1-1-2,3、D-2-2、D-2-3、D-4-1-1,2、D-4-3-1,2,3、D-5-4、E-1-1-2,4、E-1-2-1、E-1-3-1、E-2-1-1-1,2,4,5,6,7、E-2-2-2、E-2-3-2,4、E-2-5-1、E-3-1-3、E-4-2、E-4-3-1,2,4、E-5-3-5

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
全　　日	矢　巾 （外　来）	オリエンテーション（外来見学中心） ・実習全体の流れおよび注意事項の説明 ・外来診療の流れ、診療体制の説明 ・医療面接の進め方に関する解説 ・診察（視診・触診）の観察およびポイントの理解 ・診療録記載の基本構成の説明 ・抜歯に使用する器材および処置の流れの解説 ・抜歯後の注意事項および処方内容についての説明
	矢　巾 （病　棟）	病棟・手術室の見学を中心とした実習 ・病棟および手術室の構造、動線の確認 ・病棟における患者対応の見学 ・手術室での役割分担および安全管理の説明 ・滅菌区域の概念と基本的な感染対策の理解 ・手術器具および滅菌操作の見学 ・術前・術後管理の流れの理解
	課　題	DESS（国家試験問題演習アプリ）を用いた問題演習 （臨床実習Ⅰ期間中～4 月 30 日まで） ※本問題演習は、歯科医師国家試験レベルの思考過程を確認するとともに、臨床実習Ⅱで経験する症例と関連付けて理解を深めることを目的とする。また、臨床実習における症例観察の視点を明確化するための補助的学習として位置づける。

※　集合時間：午前 8 時 30 分

　集合場所：矢巾附属病院 5 階医局

４．実習にあたっての注意事項

① 清潔域および不潔域の区別を十分に理解し、清潔操作を遵守すること。
② 患者に対して不適切な発言や態度をとらないよう十分に配慮すること。
③ 集合時間および集合場所を厳守し、医療従事者としてふさわしい態度で行動すること。
④ 実習に関する相談等のアポイントは、原則として希望日の１週間前までに取得すること。連絡は口腔外科ライター長へ学内メール（大学個人メール）を用いて行うこと。

５．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	山田 浩之 川井　忠 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 古城 慎太郎 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 川又 慎介 矢菅 絵里加	野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里	川井　忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 川井　忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 川又 慎介
午後	山田 浩之 川井 忠 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 古城 慎太郎 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 川又 慎介 矢菅 絵里加	野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里	川井　忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 川井　忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 川又 慎介

臨床実習Ⅰ：歯科麻酔学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）　坂野上　和奏　助教

１．教育成果（アウトカム）

歯科麻酔学に関する基本的な知識を習得することで、臨床実習Ⅱにおいて効果的に歯科麻酔学臨床実習を行う。

２．到達目標（SBOs）

① バイタルサインについて説明できる。
② 全身麻酔と静脈内鎮静の方法について理解する。

コア・カリキュラム番号

D-1-1, D-1-2, D-2-3, E-1-2, E-1-3, E-2-3

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
午前	歯学部５階大会議室 （533 号室）	バイタルサイン・モニタ講義 全身麻酔、静脈内鎮静の周術期管理の講義

※集合時間：8 時 50 分（歯学部５階大会議室）
※教科書、筆記用具、タブレット等持参すること

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月	坂野上 和奏 柳町 晴香 前澤 五月	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州	佐藤 健一 筑田 真未 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月

臨床実習Ⅰ：歯科放射線学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）　佐藤　仁　助教

１．教育成果（アウトカム）

画像診断の基本である X 線検査と画像解剖を理解することで、歯科臨床に必要な読影能力の基礎を修得する事が可能となる。

２．到達目標（SBOs）

① 放射線検査の種類と特徴を説明できる（パノラマ X 線検査、頭部側方向 X 線検査、後頭前頭方向 X 線検査、Waters’法、顎関節 X 線検査）。

② 放射線検査の撮影法と、正常画像における解剖学的な構造を説明できる。

③ 放射線検査の適応症、非適応症を説明できる。

コア・カリキュラム番号

E-2-5-2,4

３．実習方法

１）実習内容

① パノラマエックス線写真、単純エックス線写真の種類、撮影法を理解し正常解剖像をトレースする。

② パノラマエックス線写真、単純エックス線写真の解剖学的構造を教員に説明する。

２）日程

実習日程	実習場所	実習内容
午後	歯科放射線学分野 第 2 臨床実習室 120 号室	パノラマエックス線写真、単純エックス線写真のトレースと観察できる構造の解剖学的な名称を記載する。

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁
午後	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁

臨床実習Ⅰ：歯科矯正学

ライター長：口腔保健育成学講座（歯科矯正学分野）　菊池　恵美子　助教

１．教育成果（アウトカム）

基本的な知識、態度を習得することで、臨床実習Ⅱにおいて、効果的に歯科矯正学の臨床実習を行うことができる。

２．到達目標（SBOs）

１）診察に必要な基本的知識

①矯正歯科治療の診断に必要な医療面接を実施できる。

②口腔内および口腔外の診察ができる。

２）臨床実習Ⅱに必要となる基本的な知識・技能・態度

①器具・器材の準備ができる。

②器具の受け渡しが安全にできる。

③矯正装置について理解し、説明できる。

④頭部エックス線規格写真の計測点について理解し、説明できる。

⑤頭部エックス線規格写真の計測平面について理解し、説明できる。

⑥頭部エックス線規格写真の計測項目について理解し、説明できる。

⑦資料分析を行い、その結果を正しく解読できる。

⑧資料から特異的な問題を抽出して指摘できる。

⑨Tweed の分析について理解し、説明できる。

コア・カリキュラム番号

D-2-1, E-2-1-1, E-2-2-4, E-5-4-1, E-5-1

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
午前	3 階矯正歯科外来 第 4 セミナー室	オリエンテーション、臨床実習Ⅱに必要な知識の習得・演習
午後		外来見学・演習

※集合時間：8:30

集合場所：矯正歯科診療室横の出入り口の前

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	深澤 慶子 吉田 弘法	飯塚 康之 浅沼 莞奈	菊池 恵美子 上田　茜	桑島 幸紀 吉田 弘法	浅沼 莞奈 上田　茜
午後	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田　茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田　茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田　茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田　茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田　茜 吉田 弘法

臨床実習Ⅰ：小児歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）齊藤　桂子　講師

１．教育成果（アウトカム）

小児歯科診療に必要な診査、診断、治療計画の立案、歯科的対応についての基本的な知識、技術、態度を修得する事で、臨床実習Ⅱにおいて効果的に小児歯科学臨床実習を行うことが可能となる。

２．到達目標（SBOs）

１）診査・診断に必要な基本的な知識

① 小児の診査方法を説明できる。

② 採得すべき資料を列挙できる。

③ 診断と治療法を説明できる。

④ １口腔１単位の小児歯科診療の流れが分かる（治療計画の立案）。

２）外来実習に必要な基本的な知識、技能、態度

① 器具・材料の準備ができる。

② 器具の受け渡しが安全にできる。

③ 小児への歯科的対応法を説明し、実行できる。

④ 小児歯科三角を説明できる。

⑤ ブラッシング指導の概要を説明できる。

⑥ フッ化物塗布法の概要を説明できる。

⑦ 予防填塞法の概要を説明できる。

⑧ 学生用診療録（SOAP の記載）を作成できる。

コア・カリキュラム番号

C-2-1,2,3,4,5,6、D-2-1,2、D-5-6、E-1-1、E-2-1-2、E-5-5

３．実習方法

<table>
<tr><th>実習日程</th><th>実習場所</th><th>実習内容</th></tr>
<tr><td>午前</td><td rowspan="2">矢巾歯科外来
・
医局
（小児・障害）</td><td rowspan="2">臨床実習Ⅱについてのオリエンテーション
外来見学
小児歯科学臨床実習に必要な知識に関する演習</td></tr>
<tr><td>午後</td></tr>
</table>

※集合時間：8 時 30 分（矢巾歯科外来：附属病院４階）

班員を２グループに分けて、午前・午後の時間それぞれで小児歯科学と障害者歯科学について臨床実習Ⅰを行う。グループ編成については、集合時に指示を出すので、その指示に従い実習をすること。

＊急遽変更になる場合、ライター指示があるので従うこと

持ち物　：筆記用具、小児歯科学の教科書・実習書、臨床実習の手引き

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子
午後	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子

臨床実習Ⅰ：障害者歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）　磯部　可奈子　助教

１．教育成果（アウトカム）

障害や障害者歯科についての必要な基礎的知識について理解する。
実習の手順を理解し、効果的な臨床実習を実現する。

２．到達目標（SBOs）

① 主な障害（自閉スペクトラム症、知的能力障害、身体障害など）の医科学的および歯科学的特徴を説明できる。
② 治療中の行動調整法について説明できる。

コア・カリキュラム番号

D-5-8-1～5

３．実習方法

実習日程	実習場所	実習内容
午前・午後	小児・障がい者歯科外来	・臨床実習概要説明 ・障害者の医科学的および歯科的特徴、行動調整法の講義

※集合時間：8 時 30 分（矢巾歯科外来：附属病院４階）
班員を 2 グループに分けて、午前・午後の時間それぞれで小児歯科学と障害者歯科学について臨床実習Ⅰを行います。
＊急遽変更になる場合、ライターから指示があります。

４．実習担当者

臨床実習（Ⅰ）・・・3 月 30 日～4 月 7 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午後	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	磯部 可奈子

５．実習にあたっての注意事項

１）入室の際は、許可を得て下さい。
２）教科書、筆記用具を持参してください。

臨床実習Ⅱ：総合歯科学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）　福徳　暁宏　講師

１．教育成果（アウトカム）

基礎歯科医学、臨床歯科医学で学んだ知識を整理、統合し、臨床実習を通して歯科医療の実践に必要な知識・技能・態度および思考力を身につける。

２．到達目標（SBOs）

① 外来新患患者の医療面接を行うことができる。
② 顔面および口腔粘膜、歯の診査を行い診断することができる。
③ 診療記録の作成ができる。
④ 自験患者の診察および診療を行うことができる。
⑤ 患者診察時に適切な器具を準備し、感染対策に配慮した片付けをできる。
⑥ 患者診察時に安全に配慮した診療を行うことができる。
⑦ Case presentation を通してプレゼンテーション力を身につける。
⑧ Case presentation を通して症例の概要を説明できる。

コア・カリキュラム番号

D-2-1、D-4-1、D-4-2、D-4-3、E-4-1、E-4-2、E-4-3

３．実習内容

１）診療参加型臨床実習

① 医療面接実習

(1) 新患患者を対象として医療面接を行い診療録の作成を行う。
(2) 新患患者を対象として主訴部を中心に歯、歯周組織、口腔粘膜、顔面について診査し、必要なエックス線検査等を行い診断する。
(3) 診療録を記載する際には法律や学内規則を遵守する。
(4) 朝 8 時 45 分に初診外来に集合し、当日の担当医から出席の承認をもらうこと。

② 臨床実地予備試験

(1) 10 月頃から行われる臨床実地試験（CPX）の前段階として、7 月以降に実施する。
(2) 各診療科から配当された自験患者を対象として、試験を実施する。受験する分野は臨床実地試験（CPX）と同じものとする。
(3) 担当ライターの指導、監督下のもと治療計画に基づいた治療を的確、安全に行う。
(4) 介助者および器具準備者として担当ライターあるいは他学生自験患者の診察、治療の介助を行う。

２）Case presentation 実習

担当教員から提示された症例について検討し Presentation を行う。

① 発表日時

令和 8 年 10 月以降に開催する。

（詳細な開催日程等は別紙にて通知する。）

4～8 名程度の学生でグループを作り、それぞれ 1 演題の症例を発表する。

② 発表方法

(1) 発表方法は口演発表とし、1 日にすべての演題を発表する。

(2) 口演発表は、1 症例につき発表 15 分，質疑応答 10 分とする。

(3) 口演発表は、すべて PC（単写）で行う。

(4) 質疑は座長の指示に従い評価者および会場の参加者から受けつける。

③ 発表概要

(1) 発表症例は岩手医科大学附属歯科医療センターに通院中もしくは治療を終了した患者の中から、担当教員が指示した症例とする。

(2) 発表内容は診査、診断、理想的治療計画（期間，治療費等の制約がないもの）と現実的治療計画（実際に患者と決定し治療を行ったもの）の立案，行った治療内容，臨床的ポイント、考察等とする。

(3) 発表内容は学生自身が自ら考え、調べた内容で行う。

(4) 発表に際しては、症例の概要を記した配布資料を製作し、参加者に対して配布する(A3 サイズ 1 枚)。

４．実習にあたっての注意事項

- 初診外来では、患者は事前にアポイントを取得しない。そのため、初診担当学生は患者が来院した場合に備えて、午前中の対応時間（8：45～11：30）の間は初診外来で待機すること。
- 初診担当日の午後は白枠扱いとし、他の科の臨床実習を積極的に進めること。
- 臨床実地予備試験を行う際には、各担当ライターの予定を事前に確認すること。
- 臨床実地予備試験を行う前に、当該分野の介助および自験を十分に行うこと。

５．評　価

総合歯科学講座のミニマムリクワイアメント(65 点)は 200 点に換算し評価する。

１）診療参加型実習のミニマムリクワイアメントは 120 点(200 点中)とする。

① 医療面接実習のミニマムリクワイアメントは 80 点とする。

(1) 医療面接実習のミニマムリクワイアメントは 8 症例(各 10 点)とし、1 症例毎に担当ライターより技能、態度について指導および評価を受け電子ログブックの承認をもらう。

(2) ミニマムリクワイアメントのケースが終了した際は、オーバーケースとして取り扱われる。

(3) ケース承認権のないドクターが初診外来を担当した際は、担当した患者のレポートを製作し、同じ診療科の教員から承認をもらう。

② 臨床実地予備試験のミニマムリクワイアメントは 40 点とする。

(1) 臨床実地試験では、診察日 7 日前までに診療当日担当ライター確認が必要となる。
(2) 臨床実地予備試験は、1 回につき 20 点とする。
(3) 診療当日の担当ライターより知識、技能、態度について評価を受ける。その後、担当ライターが確認した後、電子ログブックの承認をもらう。

２）Case presentation（CP）のミニマムリクワイアメント 80 点とする。

- ミニマムリクワイアメント達成には、以下の 3 項目が必要条件となる。
  (1)Case presentation を実施する。
  (2)Case Presentation に出席する。
  (3)Case presentation 前に各 Society で予演会を行う。
- ミニマムリクワイアメント評価の内訳は発表（60 点：Case Presentation を発表）、予演会（20 点/2 回以上）とする。
- Case presentation 発表の評価は歯学部教員のうち 3 名で行う。
- Case presentation 発表の教員評価点数は、評価者ひとりの評価点数 100 点×3＝300 点満点とし、また、評価は優秀発表 Society 選考時の選考材料となる。
- Case presentation の最終的な評価は、評価者の評価点数を合計したものとする。
- 出席については Case presentation 開始前に入室し、終了時まで在室すること。
- CP 評価の詳細は、評価基準に従い行う(別紙)。

６．その他

ミニマムリクワイアメントケース 200 点を臨床実習評価点 65 点（/100 点）として換算する。

評価点数の合計時に小数点以下の点数が生じた場合には切り上げとする。

７．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

８．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

※初診外来担当表を参照

臨床実習Ⅱ：予防歯科学

ライター長：口腔医学講座（予防歯科学分野）　大石　泰子　助教

１．教育成果（アウトカム）

保健指導、予防処置並びに周術期の口腔管理に必要な知識、態度と技能を習得することで、患者のニーズにあった歯科保健医療を提供することができる。

DP 項目番号：2、3、4、5、6

２．到達目標（SBOs）

① 硬組織検査ができる。
② PCR を測定できる。
③ セルフ（ホーム）ケア指導ができる。
④ 口腔ケアができる。
⑤ 機械的歯面清掃ができる。
⑥ 周術期における口腔管理の必要性を説明できる。
⑦ 社会保障制度について説明できる。
⑧ 歯科診療時に必要な感染対策について説明できる。

コア・カリキュラム番号：
C-4-2-5、C-4-2-6、C-4-3-2、C-6-1-3、D-2-4-3、D-5-1-2、D-5-1-3、D-5-1-4
E-1-1-1、E-1-1-5、E-5-2-1、E-5-2-2、E-5-2-3、E-6-1-1

３．実習内容

予防歯科学分野のケース表に基づき、ミニマムリクワイメントを達成するよう、学生自身が実習を行う。

内丸・矢巾で行う実習の詳細は、下記のとおりである。

①内丸での実習について（予防歯科単独実施）

集合場所/時間：内丸 5 階 予防歯科の医局前 / 8 時 40 分
実 習 場 所　：内丸 歯科医療センター2F 予防歯科外来＊を予定。
課 題レポート：ライターの指示で 3 つのレポートを提出すること。
　a)前期：社会保障制度について
　b)後期：感染予防対策について
　c)前期～後期：定期口腔管理について
試　　験　　：実施時期は、前期および後期の配属期間中に、課題レポート a)、b)をそれぞれ提出後に実施する。内容は課題レポートに関連したものとする。
講　　義　　：課題レポート内容および試験に関する講義を行う。
配　　属　　表：成長発育・全身管理系 予防歯科　に記載。

②矢巾での実習について（総合歯科と合同実施）

集合場所/時間：矢巾附属病院 4F 歯科外来＊ / 8 時 30 分

実 習 場 所　：矢巾附属病院 4F 歯科外来＊、または 8F 処置室＊、病棟。

課 題レポート：配属 1 日目に矢巾にて周術期口腔管理レポートを配布。ライターから指示を受け、配属期間中に提出～口頭試問～ケース承認まで受けること。

配　属　表　：矢巾系 周術期　に記載。

（＊）年度内に変更の可能性があるため、変更時はライターより学生へ事前連絡を行う予定。

４．実習にあたっての注意事項

（ア）　実習はすべてライターの指導のもと行うこと。

（イ）　事前に臨床実習書をよく読み、基礎的知識を身につけて臨むこと。

（ウ）　介助に際しては患者、術者に気を配り、診療が円滑に進むように行うこと。

（エ）　診療にあたっては、患者の年齢を考慮して対応し、コミュニケーションをはかり、患者との信頼関係が得られるように努力すること。

（オ）　無断で欠席、遅刻はしないこと。

（カ）　レポート提出・口頭試問等は、事前に各ライターから日時の指定を受けること。

（キ）　配属中に提示された課題について自己学習を行い、課題を提出してもらう。
課題提出後に、課題内容に関連した試験および解説講義を実施する。
予防歯科の教科書・講義資料、ノート等を準備すること。

（ク）　ライターへのアポイント取得を希望する場合は、アポイントを取得したいライターの大学個人メールアドレス宛にメール送付すること。各ライターのメールアドレスについてはシラバスの記載を参照すること。

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内丸※	杉山 由紀子 佐藤 華子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 衣斐 美歩 大石 泰子	佐藤 俊郎 杉山 由紀子 佐藤 華子 衣斐 美歩	大石 泰子 佐藤 俊郎 杉山 由紀子 衣斐 美歩	佐藤 華子 佐藤 俊郎 大石 泰子 衣斐 美歩	佐藤 俊郎 衣斐 美歩 大石 泰子 佐藤 華子 杉山 由紀子
矢巾※	佐藤 俊郎 大石 泰子	杉山 由紀子 佐藤 華子	大石 泰子	佐藤 華子	杉山 由紀子	

臨床実習Ⅱ：保存修復学・歯内治療学

ライター長：歯科保存学講座（う蝕治療学分野）　大塚　泰寛　助教

１．教育成果（アウトカム）

座学、シミュレーターで取得した修復治療するための知識、技術、態度を応用して、自験症例に対して正確な診査、診断のもと治療計画を立案できるようになる。また、立案した治療計画に従って修復・歯内治療を実施できるようになる。

２．到達目標（SBOs）

１）診察の基本技能

① 問診を実施できる。
② 視診を実施できる。
③ 触診を実施できる。
④ 硬組織疾患及び歯内疾患の病態を説明できる。
⑤ デンタルエックス線写真を読影し、説明できる。
⑥ 患者に治療方針を説明できる。
⑦ 患者およびコ・デンタルスタッフとコミュニケーションできる。

２）治療・術式（一般事項）

① 診療録を作成できる。(SOAP の記載ができる)
② 処方箋を作成できる。
③ 患者への病状の説明を実施あるいは説明することができる。
④ 歯科技工指示書の作成を実施あるいは説明することができる。
⑤ インフォームドコンセントを説明することができる。
⑥ 各種手用器具を適切に使用できる。
⑦ 歯髄診査を適切に実施できる。
⑧ 表面麻酔・浸潤麻酔を実施できる。
⑨ ラバーダム防湿を説明し、実施できる。

３）治療・術式（修復処置）

① 直接修復の複雑、単純窩洞形成が実施できる。
② レジン充填を実施できる。
③ グラスアイオノマーセメント充填を実施できる。
④ 間接修復（インレー修復）を実施または説明できる。
⑤ 仮封および仮着を実施できる。
⑥ 象牙質知覚過敏処置を実施できる。
⑦ 覆髄法を説明できる。

4）治療・術式（歯内処置）

① 根管孔の明示ができる。

② 作業長が測定できる。

③ 適切な救急処置ができる。

④ 簡単な抜髄・感染根管治療ができる。

⑤ 適切な仮封ができる。

5）臨床推論

① 講義、臨床実習で得た知識を用いて、問題を解くことができる。

6）周術期管理

① 周術期管理における歯科医師の役割を理解できる。

コア・カリキュラム番号

E-1-1-)、E-1-2)、E-1-4)-(3)、E-2-4)-(3)、E-3-1)、E-3-2)、E-3-3)、G-3

3．実習内容

1）総合歯科自験患者治療ケース：自験担当患者で修復・歯内処置が必要になった場合

① 原則担当学生と、介助を含め計 2 人で取り組むこと。

② アポイント 1 週間前までにセッション計画を作成し、当日の担当ライターの確認をもらう。（治療当日までに最低 2 回以上の確認を行うこと。）

③ 診療

・アポイントメントの 20 分前に外来に集合し、ユニットの操作方法の確認、使用する機材の準備を行う。担当ライターの指示で患者誘導を行い、診療あるいは介助を行う。

④ 患者および担当ライターと相談し、次回アポイントを取得する。

⑤ 後片付け

・総合歯科 B のルール従い使用した器具の片づけ、ユニットの清掃を行う。

⑥ レポートの作成

・治療後 1 週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を行い、フィードバックを受ける。レポートの確認は原則、外来診療時間の終了後からとする。なお、会議、出張などで不在の場合も予想されるため事前に担当ライターと予定を決めておくこと。

※形成など事前に練習をしておくように指示することもあるため、模型、形成に用いる機材などを各自用意しておくこと。練習場所はライターの指示に従うこと。

2）総合歯科配属：

① 配属当日 8：30 に総合歯科 B 外来に集合し、当日の担当ライターを決める。

② 担当ライターの指示のもと、患者の誘導、診療介助を行う。

③ 配属日の予約状況によって、外来での学生対応が難しい場合が予想されるため、形成課題を出す場合もある。実習室にて課題に取り組んだのち、臨床での術式、実際の使用器具、本課題で留意した点をレポートに記載したうえで、模型を提出す

ること。作成されたものは、各種ケースとして承認を行う。

④　レポートの作成

・介助、見学ケースの場合は 2 週間以内に担当ライターに治療内容のレポートを作成して確認を受ける。

・形成課題の場合は課題を受け取った日から 3 日以内にレポートと形成物を提出すること。

3）診療実習ケース

①　ラバーダム防湿

②　浸潤麻酔

③　直接修復

④　間接修復

⑤　象牙質知覚過敏症

4）周術期ケース

①　配属日当日の朝 8：30 に矢巾大学病院歯科外来に集合する。

②　当科担当医から 1 ケース配当を受け、見学、介助を行う。

③　水曜日配属の際は 16：30 から内丸総合歯科 B にてカンファランスに参加する。

④　配属後 2 週間以内にライターにレポートを提出し、口頭試問を受けること。

4．実習にあたっての注意事項

・原則当科学生対応は診療終了後の時間とする。その他の時間でのアポイントはライターと要相談すること。

・必ずアポイントは翌日以降で取得すること。

（朝や、診療時間にライターを訪問しその日の診療時間終了後に尋ねるのは特別な事由がない限り認めない。）

・ライターに会えない場合はシラバス記載のメールアドレスや Webclass でのメールでアポイントを取得すること。

・臨床推論での講義、周術期の配属の際の中座は原則禁止です。諸事情により中座が必要の場合は 1 週前までにライターへ要相談です。

5．身だしなみ等

・常に清潔な白衣、服装を心がけること。また、頭髪の長さ、色にも注意し、病院スタッフの自覚を持つこと。

・患者への説明など丁寧でわかりやすい言葉を使用すること。

・においへの配慮も行うこと（タバコ、香水など）

・上記に対して指導受けたものは速やかに改善を行うこと。改善されない場合は実習中止とする。また、無断での欠席や配属当日、患者予約日に無断で現れない場合も実習の中止とする。

６．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

７．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平
午後	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	野田　守 浅野 明子 千田 弥栄子 東 兼司 相上 雄亮 大塚 泰寛 清水 彩恵子 高満 正宜 鈴木 太平	

臨床実習Ⅱ：歯周病学

ライター長：歯科保存学講座（歯周療法学分野）　鈴木　啓太　助教

１．教育成果（アウトカム）

歯周疾患は歯周組織を損壊する因子と、その因子に対する宿主の生体応答のバランスの上に成り立つ病変である。歯周組織とその周辺関連組織の形態的および機能的特性を理解するとともに、それらに基づいて歯周組織に生じる病変（lesion）及び疾患（disease）の病態、検査、診断、治療計画立案、治療法を歯科医学の見地から修得することで、歯周疾患の病態を正しく理解、把握し、歯周治療を実施することができる。

DP 項目番号：４、６

２．到達目標（SBOs）

１）歯周病の診査・診断を行うことができる。
　① 歯・歯周組織・歯列・咬合の診察を実施できる。
　② エックス線写真を適確に読影し、説明できる。
　③ 歯周組織検査を実施できる。

２）歯周基本治療が実施できる。
　① プラークコントロール指導ができる。
　② スケーリングができる。
　③ スケーリング・ルートプレーニングができる。
　④ PMTC ができる。
　⑤ 咬合治療（咬合調整・暫間固定）ができる。

３）歯周外科治療の種類や術式を理解し、介助を行うことができる。
　① 歯周外科治療の各分類や該当する術式の種類・処置の流れ・使用する器具を説明できる。
　② 歯周外科治療の準備を行うことができる。
　③ 歯周外科治療の介助を行うことができる。

４）サポーティブペリオドンタルセラピー（SPT）及びメインテナンスが実施できる。

コア・カリキュラム番号

D-5-2-3-1～5、E-2-2-4～5、E-2-5-4、E-5-2-3、E-5-3-3-1～6

３．実習内容

１）歯周病外来
　① ライター指導のもとに臨床実習を行い、診療術式を習得する。
　② 重度歯周炎症例や特殊な歯周疾患について、見学・介助実習を通して診療術式を修得する。

２）歯周外科治療
　① 歯周外科治療（分類、各術式・手順）について基礎実習動画視聴を行う。

② ①を実施後、歯周外科治療について口頭試問・フィードバックを行う。

③ 歯周外科治療の準備・介助を行う。

３）PBL（Webclass）

配属中に歯周病学の知識と技能が連動することを目的とした問題解決型学習を行う。

４）臨床習熟度評価（WebClass）

臨床実習で得られた知識の定着度の評価を行う。

５）自験技能試験

臨床実習で得られた技能を評価する。

６）実習にあたっての注意事項

① 配属学生は AM8:30 までに 2 階歯周病外来にきて新急患担当先生から電子ログブックで登校承認をもらう。

② 臨床実習後は処置内容を記載の上、必ず担当ライターから確認を受け、電子ログブックにて承認を受ける。

③ ネームプレートは必ず着用する。また、臨床実習は患者さんのご好意によって行われるため、実習にふさわしくない言動や身だしなみ（髪型、髪の長さ、髪の色、ヒゲ)、服装（汚れた白衣等）の院内生は実習を中止し、外来からの退出を指示する場合もあるので十分に注意する。

④ 長期間通院されている患者さんの中には、自身の基礎疾患や歯科治療の内容について十分な知識を有している方が多いので、担当する際は予め十分に勉強をした上で実習に臨むように心がける。

⑤ 学生相互実習については、事前に担当ライターに相談する。

⑥ 学生への対応時間について

・ 基本的に診療終了後（17：00 以降）

・ 担当ライターは会議等で不在の場合があるため、事前にメール等でアポイントを取ることを推奨（メールによるアポイント取得は教員の大学個人メール宛てに送ること）

４．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

５．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	村井　治 鈴木 啓太	佐々木 大輔 鈴木 啓太 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子
午後	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 相原 恵子	佐々木 大輔 村井　治 鈴木 啓太 相原 恵子	村井　治 鈴木 啓太	佐々木 大輔 鈴木 啓太 相原 恵子	

臨床実習Ⅱ：有床義歯補綴学

ライター長：歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）　米澤　悠　助教

１．教育成果（アウトカム）

① 講義および基礎実習で修得した知識・学理を理解し、臨床の現場で実践することで、補綴歯科治療の導入基盤が形成される。

② 有床義歯治療の初診から予後までを見学および自験を行うことで、症例の問題点を抽出し、その解決法を見出すことができるようになる。

③ 各学生が自主性と責任をもって補綴治療および患者教育を研修し、歯科補綴治療を行うことができるようになる。

２．到達目標（SBOs）

① 全部床義歯および部分床義歯治療の目的と意義および具備条件を説明できる。

② 歯の喪失と加齢変化に伴う無歯顎口腔の病態像を説明できる。

③ 歯の欠損を有する高齢患者の特徴を説明できる。

④ 義歯に起因する口腔粘膜病変の種類と、その特徴を説明できる。

⑤ 治療計画を左右する因子を理解し、治療計画の提示と医療面接が実施できる。

⑥ 可撤性義歯の設計原理を理解し、口腔内の診察・検査・診断用模型およびエックス線画像等により適切に設計ができる。

⑦ 設計に応じて、支台歯の前処置（歯冠形態の修正、レストシートおよびガイドプレーンの形成）を適切に実施できる。

⑧ 印象採得に必要な口腔解剖を理解し、印象採得を実施できる。

⑨ 下顎位と下顎運動に関する基本的事項を説明できる。

⑩ 顎間関係の決定法と、その問題点を理論的背景から説明し、適切に顎間関係の記録を実施できる。

⑪ 人工歯の種類と、その特徴を理解し適切に選択できる。

⑫ 咬合器の種類と、その特徴を理解し適切に選択できる。

⑬ 可撤性義歯に付与する咬合様式と、その意義を説明できる。

⑭ ろう義歯試適の臨床的意義と検査項目を説明し、実施できる。

⑮ 可撤性義歯の製作に必要な材料の特性を説明し、各技工操作を適切に実施できる。

⑯ 咬合調整の臨床的意義と基本的な方法を説明し、実施できる。

⑰ 完成義歯を患者に装着し、患者指導内容を説明できる。

⑱ 義歯装着後の定期検診の意義と重要性を理解し、診察事項を説明し実施できる。

⑲ 義歯の調整、リライン、および修理を適切に実施できる。

コア・カリキュラム番号

B-1,2,3、D-4、D-5-3-2、E5-3-4-2

３．実習内容

１）義歯外来自験実習、技工操作

・学生は、患者 1 名を数名で担当し、検査～完成義歯装着および予後までのいずれかの治療を行う（義歯外来自験実習 6 点×2 項目＝12 点）。

・自験実習を行う際は、事前に担当ライターと相談し許可を得る。自験治療後は，原則一週以内に処置内容を担当ライターに提出し確認を受ける。

・義歯外来 A で行う治療のみをケースとして認める。

・患者未来院や患者数の不足により自験実習が行えない場合は、ライター長の判断で、義歯外来の見学ケースを、自験治療ケースの代替とする（オーバーケース 2 回分を自験 1 回分とする。ただし、原則として義歯外来自験実習を進行させ、ミニマムリクワイアメントを修了することを前提とする）。

・技工操作として義歯外来自験実習および介助・見学実習の患者の技工操作を行う。後期の総合試験が終了しても技工ケースがない場合は、ライターの技工操作の見学やレポートで代替する。（5 点×1 項目＝5 点）。

２）有床義歯介助・見学実習

・義歯外来 A にて、ライターの検査・概形印象採得から義歯調整および義歯修理・その他の有床義歯治療の症例の介助または見学を行う（4 点×7 項目、顎間関係の記録および義歯調整は 3 ケース）。

・介助、見学は 1 ケースにつき原則 3 名までとする。

・処置内容の記載は原則不要。ライターの指示があった際は、レポートを提出すること。

・同一患者の見学を継続して行うのが望ましいが、場合によってはその限りではない。

・義歯外来 A 受付の棚にライターのアポイント帳がある。事前に患者予約を確認し、担当ライターに介助見学の許可を得る。ライターの裁量で当日見学を認める場合もある。

・FR 実習等によってライターの多くが不在になる日もあるため、事前に電子カルテやライターのアポイント帳で予約を確認し、前日までにライターの指示を受けること。

３）新患急患（予診）対応実習

・義歯の破損や義歯による疼痛など、有床義歯の主要徴候への対応方法を学ぶ。（2 点×2 回=4 点）

・新患急患（予診）対応実習は、原則前日までに希望日に予約を取る。実習は半日を合計 2 回行う。義歯外来 A の新患急患見学実習予約表に番号と名前を記載する。

４）有床義歯学習

・有床義歯に関連する治療の治療計画や手順、臨床操作に基づいた口頭試問や課題提出を行うことで歯科医師として必要な知識を深める。（2 点）

５）オーバーケースについて

・外来実習におけるミニマムリクワイアメント以外の実習は、オーバーケースとして扱う。

・義歯外来おける自験治療のオーバーケースは 6 点とする。介助見学実習は 4 点とする。

技工操作のオーバーケースは5点とする。新患急患対応実習のオーバーケースは、3点とする。

6）各ケースの評価方法

・自験、見学終了後、ライターによるフィードバックを行いケースの検印及びログブックの承認を受ける。レポートや処置内容の提出が必要と指示があった場合は、課せられた内容についてレポートを提出する。提出後、内容が良好であればケース承認となる。

7）形成的評価（有床義歯治療評価）

・口頭試問、有床義歯学習を行い評価し、有床義歯治療の理解を深める。(2点)

・義歯治療に関する課題、レポートを行い評価し、有床義歯治療の理解を深める。(3点)

8）習熟度試験

・基礎学力向上、臨床実習中の知識の確認を目的に習熟度試験を年1回開催する。70点以上を合格とし、基準点に満たないものは不合格とする。不合格者が出た場合は再試験を実施する。(10点)

4．実習にあたっての注意事項

配属実習について

・配属実習の際は、8時50分までに義歯外来Aに集合し，当日の来院患者治療内容を把握しておくこと。出席の承認は9時にライターが行う。

・配属実習中は義歯外来Aにて終日実習を行う。

・実習時間は原則9時～12時、13時～16時とする（混雑により変更になる場合がある)。

・レポート提出、検印、ケース承認は、原則月曜日、金曜日の16時～17時とする。

・レポートの提出はケース実施より1週以内とし、それ以降提出した場合は無効とする。やむを得ず、期限内での提出が難しいと判断される場合は、事前にライターと相談すること。

・配属中のライターの不在や配属人数に対して患者数が少ない場合は、担当ライターの指示に従い義歯外来Bやインプラント外来での実習を認める。また、相互実習や実習室で模型実習を行う場合がある。

・配属期間中は、ライターに所在を明らかにすること。外出はライターの許可得る。

・欠席する場合は8時30分までに臨床実習欠席時の連絡フローに従って連絡すること。連絡なしの欠席は認められない。無断欠席の場合、実習を停止する場合がある。

・配属期間中にミニマムリクワイアメントを終了すること。原則追加配属実習は行わない。

５．身だしなみ等

常に清潔な白衣、服装を心がけ、頭髪の長さや色にも注意し、病院スタッフや患者にも清潔と容易に理解されるように十分に配慮すること。また、タバコやアルコールの臭いなどの悪臭を放つことのないよう、十分に注意すること。

６．臨床実習停止時の対応

有床義歯介助・見学実習の小項目から、班ごとにケースとして承認を得たいケースを選択し、その項目について学習する。班ごとに協力して、PowerPoint に発表時間 10～20 分程度でまとめる。その後、ライターの評価を受け、合格することで介助・見学 1 ケースとして認めることとする。発表は外来診療終了後に行う。

※上記に関しては、当日いるライターに指示を受けることとする。

７．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

８．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	原 総一朗 米澤 紗織 米澤　悠 佐藤 宏明 伊藤　凌	米澤　悠	小林 琢也 原 総一朗 米澤 紗織 佐藤 宏明	原 総一朗 米澤　悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤　凌	小林 琢也 原 総一朗 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤　凌	佐藤 宏明
午後	原 総一朗 米澤 紗織 米澤　悠 佐藤 宏明 伊藤　凌	米澤　悠	小林 琢也 原 総一朗 米澤 紗織 佐藤 宏明	原 総一朗 米澤　悠 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤　凌	小林 琢也 原 総一朗 佐藤 宏明 島田 崇史 伊藤　凌	

臨床実習Ⅱ：冠橋義歯補綴学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）　齊藤　裕美子　助教

１．学修方針（講義概要等）

歯の実質欠損を生じた口腔内は、原因、期間、欠損部位などによりその程度は様々であるが、健全な歯列にみられる生体に調和、適合した要件が失われる。したがって、歯科材料を用いて、冠橋義歯補綴装置を製作し、形態的、機能的、審美的に顎口腔系の回復や改善、回復を図るための理論を理解し、患者の口腔内検査から口腔内装着までの基本的な流れ、知識、技術を習得する。

２．教育成果（アウトカム）

臨床の場で診断、治療計画、治療経過および術後の経過観察までの各段階を通じて歯科技工を含めた冠橋義歯補綴学を理解、修得することで患者の顎口腔系の形態、機能を回復し、健康を維持増進することができる。

ディプロマ・ポリシー項目番号

1～9

３．到達目標（SBO）

１）冠橋義歯外来実習

① 学生が診察法を理解することで、適切な診断ができるようになる。D-4-2-1、D-4-2-2、D-4-2-3

② 学生が患者とのコミュニケーションをはかることができるようになる。D-4-3-1、D-4-3-1、D-4-3-3、D-4-3-4

③ 学生が冠橋義歯補綴学の臨床の流れを理解することで、説明できるようになる。D-5-3-1-1

④ 学生が歯の欠損に対する補綴治療を学び、理解できるようになる。D-5-3-1-2

⑤ 学生が指導者のもと、冠橋義歯補綴による補綴治療からメインテナンスまでを学び、理解できるようになる。D-5-3-1-1、D-5-3-1-13

⑥ 学生が冠橋義歯補綴学の技工操作を学び、理解できるようになる。D-5-3-1-10、D-5-3-1-11

⑦ 学生が高度な欠損補綴治療に対して適切な介補ができ、診療を円滑に進めることができるようになる。D-5-3-1-9

コア・カリキュラム番号

D-4-2 D-5-3

４．実習内容

１）冠橋義歯外来実習

① 学生が冠橋義歯外来において指導医のもとで介助・見学することで診療術式を理解できるようになる。

② 介助・見学ケースは４月 13 日（月）より開始し、各指導医のアポイントで各自確認する。

※指導医は今、深澤、横田、福徳、齊藤、佐々木、星、八戸の８名とする。指導医が認める場合は、指導医以外の先生の見学も可とする。

③ 見学は３名までとして認める。

④ 学生本人が指導医へ介助・見学の許可をもらう。

⑤ 指導医の所在についてはアポイントまたはシラバスで確認すること。

⑥ 見学終了後、処置内容ならびに見学処置に該当する項目について直ちに承認をもらう。進行表を必ず持参すること。

⑦ 指導医が必要と判断した場合、レポートを作成し、口頭試問を行う。その上で十分な知識の獲得を確認できた場合、本ケースを終了として承認する。その際、進行表を必ず持参すること。

⑧ 処置内容ならびにレポート、進行表には『処置日』『指導医印』を必ず記入すること。

※各ケース実施日より２週間を過ぎて提出、また見学日から１ヵ月以内に承認が得られていないケースは無効とする。

⑨ 進行表、処置内容ならびに関連資料は必ず自身で保管しておく。紛失した場合はそれまでの承認を無効とする。

２）形成的評価

学生が、実習中に顎歯模型で右下４の CAD/CAM 冠の支台歯形成の練習を５本以上行うことで、支台歯形成ができるようになる。形成評価は必ず顎歯模型へ装着した状態で行う。人工歯は指導医より配布予定である。６本目以降はオーバーケースとして認める。

３）総括的評価

実習終了後、指導医１名（前期もしくは後期講義担当者）のもと総合的レポートの作成をおこない、冠橋義歯補綴学の理論を理解できるようになる。指導医が必要と判断した場合は、さらに口頭試問を追加しそれらの結果をもとに評価を行う。十分な知識、技術を修得していない場合は再試験を施行する。

４）教科書、参考書等

クラウンブリッジ補綴学第６版、クラウンブリッジテクニック第２版、冠橋義歯補綴学テキスト第５版

５．実習にあたっての注意事項

１）臨床にふさわしい服装を心がけること。

２）外来介助・見学は、各自が指導医にアポイントをとること。

３）アポイント取得や学生対応時間は、事前にオフィスアワー時間に指導医へ尋ねるか、直接会えない場合は、メールなどを利用して確認する。

６．授業日程

臨床講義は１クールに１回設ける。配属期間の前期は１クール最後の木曜日、後期は１クール最後の水曜日にそれぞれ行う。場所については事前に学生の代表が講義担当者へ確認を行うこと。

７．臨床実習停止時の対応

（基礎実習室・技工室・CADCAM センターへの立ち入りが許される場合）

１）冠橋義歯外来介助ケース

① 支台築造：支台築造用の上顎前歯人工歯 5 本に対し、直接法支台歯築造を行い、概形成まで終了させる。指導医の評価に合格することで介助１ケースと認める。

② 支台歯形成、精密印象・咬合：右下第一大臼歯全部金属冠の支台歯形成を 5 本行い、指導医の評価に合格することで介助１ケースと認める。

③ 暫間冠作製・調整：右上中切歯の暫間冠作製を、既製冠を用いる方法、レジン泥を用いる方法のそれぞれで 2 本製作し、指導医の評価に合格することで介助 1 ケースと認める。

④ 試適・装着：右下第一大臼歯全部金属冠のワックスアップを行い、指導医の評価に合格することで介助１ケースと認める。

２）冠橋義歯外来見学ケース

上記以外の補綴：上記以外の補綴治療に関するレポートを A4 用紙 2 枚程度にまとめ、指導医の評価に合格することで見学１ケースと認める。

※臨床実習停止時は上記のいずれを行うか選択できるが班員全員が共通の課題を行うこと。

８．臨床実習停止時の対応（実習室・技工室への立ち入りが許されない場合）

・口腔内写真、研究用模型、エックス線写真等の資料からケースプレゼンテーションに準じた症例検討を行う。パワーポイントで発表時間 10 分程度にまとめ、指導医の評価に合格することで介助１ケースと認める。

※班ごとに協力して１症例のケースプレゼンテーションを製作すること。

※外来診療終了後に指導医に対し発表を行う。

※上記、臨床実習停止時には当日いる指導医に指示を受けること。

９．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

１０．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 八戸 勇樹	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴	今　一裕 深澤 翔太 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴 八戸 勇樹	今　一裕 深澤 翔太 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 深澤 翔太 横田　潤 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴 八戸 勇樹	今　一裕 深澤 翔太 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴 八戸 勇樹
午後	横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 星　美貴 八戸 勇樹	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴	今　一裕 深澤 翔太 横田　潤 福徳 暁宏 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴 八戸 勇樹	今　一裕 深澤 翔太 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 深澤 翔太 横田　潤 齊藤 裕美子 佐々木 渓斗 星　美貴 八戸 勇樹	

臨床実習Ⅱ：口腔インプラント学

ライター長：歯科補綴学講座（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）　八戸　勇樹　助教

１．教育成果（アウトカム）

一連の口腔インプラント治療の見学および参加を行うことで、臼歯部の咬合支持が確立している口腔インプラント治療の知識を習得し、説明できる状態に到達する。

（関連するディプロマポリシー：1，2，3，4，6）

２．到達目標（SBOs）

１）診察・検査の基本的知識・技能

① 口腔インプラント治療に必要な検査について説明できる。

② 患者およびコ・デンタルスタッフとコミュニケーションがとれる。

③ 口腔インプラント治療の方法・期間・予後・リスクについて説明できる。

２）治療の基本的知識・技能

① 適切な診断用模型を製作できる。

② エックス線画像（デンタル、パノラマ、CBCT）を適格に読影し、説明できる。

③ インプラント埋入手術について説明できる。

④ 適切な印象採得を行うことができる。

⑤ 暫間補綴装置及び最終上部構造の装着ができる。

⑥ メインテナンスについて説明できる。

コア・カリキュラム番号

B-2-6、D-2-5-9、D-5-3-3、E-5-3

３．実習内容

１）外来実習について

- 外来実習では、口腔インプラント治療を行う患者を通して、診断、治療計画、手術術式、補綴術式を修得し理解を深めることを目的とする。
- 実習期間は 4 月 13 日（月）から 2 月 25 日（木）までとする。
- 配属中は 8：50 に口腔インプラント外来に集合とする。
- アポイントの確認、登校・下校承認は患者や病院関係者の通行の妨げにならないように注意する。
- 設定されたリクワイアメントのうち、外来ケース(インプラント 1 次手術、インプラント 2 次手術、印象採得、上部構造装着、インプラントメインテナンス)の見学介助を行う。
- 外来ケースの見学介助に先立ち、処置する部位やインプラントシステム、エックス線画像などを確認し、当日行う手技や器具についての事前学習を行う。
- 見学・介助終了後、担当医より口頭試問の実施あるいは事後レポートを課す。担当医からの合格をもらった場合にケース進行表の検印とログブックの承認を行い、そのケースを終了とする。

※指導医は今、横田、福徳、佐々木、八戸の５名とする。指導医が認める場合に指導医以外の先生の見学･介助も可とする。指導医以外の先生の見学･介助に入った際は、担当医から検印をもらい、指導医による承認を行う。

- 既定の配属期間中にリクワイアメントに足るインプラントケースが無い場合においては、手術の録画映像の視聴や印象採得・上部構造装着のレクチャーを受け、担当医の課すレポートを提出することで、ケースの代替とする。
- リクワイアメントを達成している項目についての見学介助は、すべてオーバーケースとして取り扱う。評価点での加点はリクワイアメントで設定したものと同様とする。

２）臨床習熟度評価（形成的評価）について

- 印象採得および上部構造装着のそれぞれに対し模型を用いた実技演習と口頭試問を実施することで、手順および使用器具、基礎知識を確認する。不足する知識については、その場で教科書や参考書を交えながら口頭にてフィードバックを行う。

３）治療計画立案（総括的評価）について

- ２人または３人１組のグループを形成し、インプラント埋入シミュレーション演習データを用いて、インプラントの治療計画を発表し、質疑応答を行う。
- 指導医は発表と質疑応答の内容について 35 点満点で評価する。26 点以上の得点獲得者は点数に応じて評価点にて加点を行う。

４）PBL:知識・技能問題解決(臨床実習中の学習時間)について

- 実際の症例データを用いたインプラント埋入シミュレーション演習と、口腔インプラント学領域の設問に対するレポートの作成をワークショップ形式で行う。

５）臨床実習停止時の対応

- 外来実習については、１）の“既定の配属期間中にリクワイアメントに足るインプラントケースが無い場合”に準じて対応する。臨床習熟度評価については、対面実習ができる場合は通常通り実施し、対面実習ができない場合は口頭試問のみ実施する。その他、詳細は担当ライターより指示を仰ぐ。

４．実習にあたっての注意事項

１）外来実習において

- 診療業務の妨げにならないように周囲に配慮して行動する。
- リクワイアメント対象となるケースは、インプラント外来にあるアポイント帳や電子カルテで予約を参照して各自確認する。
- 手術ケースは必ず担当医に許可を申し出て、見学予定の手術について術前確認が行われるカンファレンスに参加した上で行う。

  ※カンファレンスは原則として毎週水曜 16:30 より 4F 第一講義室で行われる。

  ※術前確認は原則として手術予定日より 7 日以上前のカンファレンスで実施される。なお、静脈内鎮静を併用する症例や担当医の出張がある場合は術前確認が早まる可能性があるため、担当医に許可を申し出る際に各自確認する。

・ 補綴処置・メインテナンスケースは原則として前日までに本人が担当医に見学介助の許可を申し出る。
・ 外来ケースの見学介助の許可が得られたら、担当医のアポイント帳（補綴処置ケースの場合）あるいは手術・メインテナンスのアポイント帳（手術・メインテナンスケースの場合）に自分の番号と名前をフリクションのボールペンで記入する。
・ 見学介助人数は、手術ケースは４名まで、補綴処置・メンテケースは３名までとする。
・ 口頭試問の実施あるいはレポートの提出期限は見学介助を行った日から 1 週間程度あるいは担当医が指定した日時とする。再提出の場合も担当医が指定した日時に提出する。原則として提出が遅れた場合、ケースは無効とする。また、承認は見学介助を行った日から１ヶ月以内とし、承認が得られていない場合のケースは無効とする。
・ 口腔インプラント学配属中に口腔インプラント学のケースがない場合には、冠橋義歯補綴学のケースを進行しても差し支えない。

２）指導医のオフィスアワーについて
・ 学生の対応時間はカンファレンスの終了後を基本とする。
・ その他、各指導医と学生間で相談により対応時間を決定する。その際の連絡先は、シラバス内オフィスアワーに記載のあるメールアドレスとする。

３）教科書、参考書について
・ よくわかる口腔インプラント学 第４版 医歯薬出版
・ 口腔インプラント治療指針 2024 日本口腔インプラント学会

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	横田　潤 福徳 暁宏 八戸 勇樹	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 佐々木 渓斗	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	横田　潤 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹
午後	横田　潤 福徳 暁宏 八戸 勇樹	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 佐々木 渓斗	今　一裕 横田　潤 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 福徳 暁宏 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	今　一裕 佐々木 渓斗 八戸 勇樹	

臨床実習Ⅱ：摂食嚥下・口腔リハビリテーション学

ライター長：歯科補綴学講座（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）　島田　崇史　助教

１．教育成果（アウトカム）

① 講義で修得した知識・技術を理解し、臨床の現場で実践することで、摂食嚥下リハビリテーションを行うことができるようになる。

② 他職種とのコミュニケーションを取りながら病棟または訪問診療での治療に参加することができるようになる。

③ 患者とその家族・介護者への対応ができるようになる。

２．到達目標（SBOs）

１）摂食嚥下障害患者に対する全身評価と問診ができる。

① 摂食嚥下障害患者に対する全身評価と問診ができる。

② 摂食嚥下障害に対する必要な検査を列挙できる。

③ 摂食嚥下障害の病態を説明できる。

④ 摂食嚥下障害の診断ができる。

⑤ 摂食嚥下障害に対する治療法を説明できる。

⑥ 高齢者の栄養状態の評価ができる。

⑦ 摂食嚥下障害の病態に合わせた食形態の調整を説明できる。

⑧ 要介護高齢者の口腔内能状態を判断できる。

⑨ 要介護者およびその介護者に対して基本的な対応ができる。

⑩ 口腔機能低下症の検査と予防法を説明できる。

コア・カリキュラム番号

GE-05、IP-01～03、C-1-3-1～3、D-3-1-11-2・5、D-5-7-1～9、D-6-2-1～4、E-5-6-2～5

３．実習内容

１）摂食嚥下機能障害患者に対する診療（10 点×4 項目＝40 点）

・病棟や外部施設における訪問歯科治療にチームの一員として参加するために摂食嚥下障害患者の診療について理解を深める。

２）嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査実習（5 点×2 項目=10 点）

・外来、病棟において、嚥下内視鏡検査および嚥下造影検査それぞれの介助または見学を行う。

３）摂食嚥下リハビリテーション計画立案（PBL）（10 点×1 項目=10 点）

・摂食嚥下障害を有する患者の治療に必要な基本事項を理解し、検査結果より診断を行い、治療計画の立案を行う。治療計画は各自で立案したものをプレゼンテーションし、意見交換および口頭試問を行い、問題解決型学習を行う。

４）直接訓練・間接訓練・口腔衛生管理見学実習（10 点×2 項目=20 点）

・摂食嚥下障害を有する患者の治療の治療計画に基づいた処置、訓練方法、問題点とその解決法について理解を深める。

・病棟における摂食嚥下リハビリテーションの直接訓練・間接訓練・口腔衛生管理を見学する。

５）形成的評価（口頭試問）（10 点×1 項目=10 点）。

・摂食嚥下障害を有する患者の治療の治療計画に基づいた口頭試問を行い評価し、理解を深める。

６）総括的評価（習熟度評価試験）（10 点×1 項目=10 点）。

・１）～４）の実習が全て終了後に、コア・カリキュラムに基づいて臨床実習の中で習得すべき技能と態度の項目について学習進度を評価するために、試験を行う。

・判定基準は 65 点以上を合格とする。

７）オーバーケースについて

・口腔機能低下症の検査，嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査実習、間接訓練・直接訓練・口腔衛生管理見学実習について、同様の点数を与える。

８）評価方法

・ミニマムリクワイアメントを 100％達成した場合、基礎点を 65 点とする。

・習熟度試験、オーバーケース、実習態度を評価し、総合評価を 35 点満点で評価して、総合評価点とする。

４．実習にあたっての注意事項

配属日当日は朝 8：45 に矢巾大学病院歯科外来(技工室側)に集合すること。

学生対応時間は火曜日または木曜日の 16 時から 17 時で内丸での対応とする。他の時間を希望する際は担当教員に各自でアポイントをとりにくること。担当教員が不在の際は、大学個人メールにてアポイント取得すること。

５．身だしなみ等

常に清潔な白衣、服装を心がけ、頭髪の長さや色にも注意し、高齢者にも清潔と容易に理解されるように十分に配慮すること。また，タバコの臭いなどの悪臭を放つことのないよう、十分に注意すること。改善がみられない場合は実習を中止させることがある。配属日に学生が無断で現れなかった場合も実習中止とする。

６．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

７．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	小林 琢也 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 金子 千洋	米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 高杉 采伽	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽
午後	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	小林 琢也 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 金子 千洋	米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 高杉 采伽	小林 琢也 米澤 紗織 島田 崇史 伊藤 凌 金子 千洋 高杉 采伽	

臨床実習Ⅱ：口腔外科学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（口腔外科学分野）　野宮　孝之　助教、川又　慎介　助教

１．教育成果（アウトカム）

口腔・顎・顔面領域における代表的疾患について、診断から治療に至る一連の流れを理解し、臨床現場において必要とされる知識・態度・基本的技能を身につけることを目的とする。

具体的には、以下を到達目標とする。

- 口腔・顎・顔面領域の疾患を有する患者から適切に情報を収集し、診断および治療方針決定の過程を理解できる。
- 口腔外科診療における基本的な診察・処置の流れを理解し、診療に参加できる。
- 医療安全およびチーム医療の重要性を理解し、医療者として適切な態度で行動できる。

２．到達目標（SBOs）

１）医療面接

① 主訴、現病歴、既往歴、家族歴などを適切に聴取し、得られた情報を整理・把握することができる。

② 患者の心理的・社会的背景に配慮し、医療者として適切な態度で対応することができる。

２）診察の基本

2-1)　バイタルサイン

① 血圧、脈拍、体温の測定方法を理解し、適切に測定および評価することができる。

2-2)　頭頸部の診察

① 顔面の左右対称性や色調変化を観察し、異常所見を把握できる。

② 下顎運動および顎関節の状態を評価する視点を理解できる。

③ 頭頸部リンパ節の触診方法を理解し、所見を説明できる。

2-3)　口唇・口腔内状態の診察

① 口腔内の正常構造および異常所見を識別し、その特徴を説明できる。

３）診療録の記載と診断結果・治療方針の説明

① 医療面接および診察から得られた情報を整理し、適切に診療録へ記載することができる。

② 診断および治療方針について、指導医の説明を理解し、患者への説明内容を把握できる。

４）口腔外科の基本的手技

① 清潔操作の基本原則を理解し、診療環境の維持に配慮できる。

② 抜歯および小手術に必要な器材の名称・用途を理解し、準備に関与できる。

③ 手術における手洗いおよび滅菌操作の手順を理解し、指導のもとで実践できる。

④ 抜歯および小手術の流れを理解し、診療補助を通じて治療の全体像を把握できる。

5）粘膜疾患・顎関節疾患を有する患者の診察

① 粘膜疾患および顎関節疾患を有する患者の診察に立ち会い、疾患の特徴を理解する。

② 各疾患の鑑別の視点および治療方針の概要を説明できる。

6）歯科医師国家試験問題を解くために必要な知識の習得

① 主要な症候について、その原因および病態生理を理解する。

② 症候・病態から鑑別すべき疾患を推定し、説明することができる。

③ 診断に必要な検査の種類と意義を理解する。

④ 検査結果と疾患との関連性を説明できる。

⑤ 患者の全身状態を踏まえた歯科治療上の留意点を理解する。

⑥ 服用薬剤が歯科治療（局所麻酔・投薬等）に及ぼす影響を理解する。

⑦ 全身疾患を有する患者に対する歯科治療上の注意点を理解する。

コア・カリキュラム番号

CS-07,09、CM-01,02,03、D-1-2-1、D-2-1-1、D-2-2、D-2-3、D-3-1-1,2,3,4,5,6,7,8,10、D-4-1-1,2、D-4-3-1,2,3、D-5-4、D-6-1、E-1-1、E-1-2-1、E-1-3-1、E-2-1-1、E-2-2-2、E-2-3-1,2,3,4,6,7、E-2-5-1、E-3-1-1、E-3-2-1,2、E-4-2、E-4-3-1,2,4、E-5-3-5

３．実習内容

１）実習概要

本実習は、矢巾附属病院における口腔外科診療を通じて、歯科医師として必要な基礎的知識・技能・態度を修得することを目的とする。

外来および病棟における診療に参加し、実際の臨床現場を通じて診断から治療に至る一連の流れを理解する。

２）外来実習（矢巾附属病院 4 階）

集合時間：午前 8 時 30 分（矢巾附属病院 5 階医局）

- 実習開始時にオリエンテーションを行い、実習内容および注意事項を確認する。
- 朝のカンファレンスに参加し、当日の診療内容や患者情報を共有する。
- 初診および再診患者の診療を見学し、以下の事項を学ぶ。
  - 医療面接の進め方
  - 視診、触診、口腔内診査の実際
  - 診療録の記載方法
- 抜歯および小手術における器材の準備、処置の流れ、術後管理について理解を深める。

3）病棟実習（西 8A 病棟）

集合時間：午前 8 時 30 分（矢巾附属病院 5 階医局）

- 病棟回診に参加し、入院患者の病状、治療方針および経過を把握する。
- 周術期管理（術前・術後）の流れを理解する。
- 手術症例については以下のスケジュールに基づき見学を行う。
  - 月・木・金：終日
  - 第 2・第 4・第 5 火曜日：午前

4）症例検討および関連実習

- 毎週月曜日午後 4 時 30 分より、矢巾附属病院 5 階医局にて行われる症例検討会に参加する。
- 外来および病棟で担当した症例について、診断過程・治療方針・経過を整理し、理解を深める。
- 頭頸部外科実習では、午前 8 時 30 分に矢巾附属病院 5 階耳鼻咽喉科頭頸部外科医局に集合し、大橋准教授の指示のもと診療および手術見学を行う。なお、頭頸部領域の疾患の事前予習と解剖書の持参をする。

5）学修上の留意事項

- 実習中は医療者としての自覚を持ち、時間厳守、身だしなみ、守秘義務を徹底すること。
- 指導医および医療スタッフの指示に従い、安全かつ円滑な診療に協力すること。
- 実習修了に必要な症例数の達成のみにとどまらず、可能な限り多くの症例を主体的に見学し、自らの目で病態および治療過程を確認すること。
- これにより、将来の歯科医師国家試験および臨床実践に必要な知識・判断力・態度の修得を目指す。

4．実習にあたっての注意事項

① 清潔域および不潔域の区別を十分に理解し、清潔操作を遵守すること。

② 患者に対して不適切な発言や態度をとらないよう十分に配慮すること。

③ 病棟および手術室においては私語を慎み、診療および医療行為の妨げとならないよう留意すること。

④ 実習中に体調不良等を感じた場合は、速やかに指導医または担当者へ申し出ること。

⑤ 集合時間および集合場所を厳守し、医療従事者としてふさわしい態度で行動すること。

⑥ 処置または見学に入る際には、必ず当日の担当医の許可を得ること。

⑦ 症例の承認は、診療終了後に当該症例を担当した指導医から受けること。

⑧ 実習に関する相談等のアポイントは、原則として希望日の 1 週間前までに取得すること。連絡は口腔外科ライター長へ学内メール（大学個人メール）を用いて行うこと。

５．診療録の記載法

① 患者担当が決定した後、速やかに医療面接記録用紙を準備すること。

② 指導医の指導のもと、患者を診療ユニットへ誘導し、医療面接および診察を行うこと。

③ 診療録には、全身状態および局所所見を正確かつ簡潔に記載し、第三者が読んでも理解できる内容とすること。

６．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

７．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	山田 浩之 川井 忠 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 古城 慎太郎 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 川又 慎介 矢菅 絵里加	野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里	川井 忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 川井 忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 川又 慎介	山田 浩之 川井 忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加
午後	山田 浩之 川井 忠 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 古城 慎太郎 野宮 孝之 高橋 美香子 秋本 祐基 川又 慎介 矢菅 絵里加	野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里	川井 忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 野宮 孝之 高橋 美香子 太田 藍里 川又 慎介 矢菅 絵里加	山田 浩之 川井 忠 大橋 祐生 古城 慎太郎 平野 大輔 川又 慎介	

臨床実習Ⅱ：歯科麻酔学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科麻酔学分野）　坂野上　和奏　助教

１．教育成果（アウトカム）

歯科麻酔臨床全般における実践的な知識、態度、技能を習得することで、口腔外科手術の全身麻酔、歯科治療時の静脈内鎮静法の周術期管理を理解する。

２．到達目標（SBOs）

① バイタルサインについて説明できる。
② バイタルサインの測定・評価ができる。
③ 生体情報モニタの操作ができる。
④ 全身麻酔の術前管理について説明できる。
⑤ 患者の全身状態について評価できる。
⑥ 麻酔計画について説明できる。
⑦ 全身麻酔の導入について説明できる。
⑧ 全身麻酔の維持について説明できる。
⑨ 全身麻酔の覚醒について説明できる。
⑩ 全身麻酔の術中管理について説明できる。
⑪ 全身麻酔の介助ができる。
⑫ 全身麻酔の術後管理について説明できる。
⑬ 静脈内鎮静法について説明できる。
⑭ 静脈内鎮静法の介助ができる。

コア・カリキュラム番号

D-1-1、D-1-2、D-2-3、E-1-2、E-1-3、E-2-3

３．実習内容

１）日程：附属病院（矢巾）にて前期・後期それぞれ２日間（月または金）の配属実習

２）内容：全身麻酔・静脈内鎮静法

全身麻酔症例と静脈内鎮静法の見学・介助実習を行う。

３）レポート

配属期間中に、見学に入った症例についての課題を提出。配属実習後、指定された期日までに紙媒体で提出。

４）口頭試問

臨床実習の総括的評価として、口頭試問を後期配属実習期間内に行う。内容は臨床実習内で学習した内容全般とする。

不合格となった場合、別途課題を課すので指示に従うこと。

５）その他

配属期間内の症例が極端に少ない場合、再配属や白枠を利用した症例の充当がありうる。

４．実習にあたっての注意事項

１）初回は 8 時 40 分までに矢巾附属病院 4 階歯科外来 L11 歯科診察室に集合すること。以降は静脈内鎮静班・全身麻酔班ごとに指示を出すため、その指示に従うこと。

２）学生への対応時間について

対応時間：　8 時 30 分～17 時

対応時間内に矢巾歯科外来へ訪問

時間内の訪問が難しい場合はシラバスのオフィスアワー記載の担当教員メールアドレスに連絡し、アポイントを取得する。

（※歯科麻酔科医局は医科麻酔科医局と同室のため、訪室時はアポイントを取得してから訪室すること）

３）教科書・参考書について

臨床歯科麻酔学　第 6 版　永末書店

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前 午後	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月	坂野上 和奏 柳町 晴香 前澤 五月	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州	佐藤 健一 筑田 真未 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月	佐藤 健一 筑田 真未 坂野上 和奏 佐藤 州 柳町 晴香 前澤 五月

臨床実習Ⅱ：歯科放射線学

ライター長：口腔顎顔面再建学講座（歯科放射線学分野）佐藤　仁　助教

１．教育成果（アウトカム）

放射線関連の検査種、方法、手技を理解、修得し基本となる正常像の読影ならびに疾患の弁別に必要な技量、読影能力を学修し鑑別診断ができる。

（関連するディプロマポリシー：1，2，3，4，6）

２．到達目標（SBOs）

① 口内法撮影の手技（二等分法と平行法、正放線投影と偏心投影、咬翼法、咬合法）を実施できる。また、X 線の性質を理解し口内法撮影で起こりうる失敗とその原因について説明できる。

② 写真処理（現像、定着、水洗、乾燥）について理解し、自動現像機による写真処理が実施できる。また、CCD、IP によるデジタルエックス線撮影の手技を理解、実施し、画像表示やデンタルマッピング（14 枚法）の方法を理解、実施できる。

③ CBCT, MDCT, MRI の撮影方法、表示条件、断層像を理解し、正常解剖像を説明できる。また、CBCT 画像において Dental MPR 画像の再構成を実施できる。

④ CBCT、MDCT、MRI、核医学検査(RI)、超音波検査(US)における画像形成原理と検査の適応について説明できる。

⑤ パノラマＸ線撮影を教員の指導のもと実施できる。また、パノラマＸ線撮影で起こりうる失敗とその原因について説明できる。

⑥ 様々な放射線検査の画像所見をもとに鑑別診断を列挙できる。

⑦ 疾患別に特徴的な画像所見を列挙できる。

⑧ 鑑別診断を行う上で必要となる画像診断法を選択できる。

コア・カリキュラム番号

E-2-5-1，2，3，4

３．実習内容

臨床実習Ⅱ配属

事前学習内容を webclass 上に提示するので学習内容をレポートし、Web で提出、実習時に持参する。提出は**実習の前週**までに行うこととする。

内容の提示は臨床実習Ⅰ開始後に行う。

臨床実習Ⅱ講義

講義は後期配属時に予定する。**口腔外科、歯科麻酔科、歯科放射線科の各ライターが交代で講義**を担当するが、他配属状況やミニマムケースの進行状況を考慮し参加学生数が変動する。場所は**歯科放射線実習室あるいは暗室**を予定する。

1）**口内法撮影実習**（歯科放射線学分野第 1 臨床実習室 117 号室および外来）

実習室

① シミュレーターにおいて口内法デンタル X 線撮影の流れ、方法を確認する（ミニマムケースの設定は無いが、その後の相互撮影実習での成果にかかわるためすべての部位で確認すること）。

② 院内生相互で 14 枚法によるデンタル撮影(**片側 8 枚の撮影がミニマムケース**)および**咬翼法撮影および咬合法撮影（それぞれ 1 枚がミニマムケース**）を実施する。実習は 2 名一組を基本とする。配属奇数名の場合は 3 名とする。

外来自験

③ 外来にて教員の指導のもと**自験患者のデンタル撮影**を行う（ミニマムは 1 枚)。

④ 相互、自験撮影のオーバーケースはデンタル写真 1 枚につき 2 点を加算する。

⑤ **口内法撮影評価試験**を実習後期（白枠）に行う(2 人あるいは 3 人でそれぞれ 2 枚撮影を行い評価)。80 点以上(100 点満点)を合格とする。③にて**自験患者撮影を 2 枚以上行った場合は口内法撮影試験免除**とする。

2）施設見学実習　（臨床実習Ⅱ配属）

① CBCT、MDCT、MRI、核医学検査(RI)、超音波検査(US)のうち矢巾内の施設ついては動画学習にて振り替える。

② 実習後に **webclass 上で課題提示された内容について「見学実習レポート」を作成し、指示された日時までに webclass を使い提出**する。

3）読影実習（歯科放射線学分野第 2 臨床実習室 120 号室）（**臨床実習Ⅰ、Ⅱ配属**）

① パノラマエックス線写真をはじめとする口外法単純エックス線撮影の画像を観察し所見を読影し理解する。（**臨床実習Ⅰから引き続き**）

② CBCT、CT 撮影、MRI 撮像の原理および撮影された画像の表示条件、断層像を理解する。（**臨床実習Ⅰから引き続き**）

③ CT の水平断、冠状断写真(各 2 枚)と Dental MPR 画像を観察、トレースし解剖学的構造を説明する。（**臨床実習Ⅰから引き続き**）

④ 読影実習では顎顔面口腔領域疾患の各種画像を読影し、所見を適切に理解した上で診断名と鑑別診断名を列挙する。また、症例の概要と診断に至った理由を教員に説明する。

⑤ 読影実習は 15 症例（典型例穴埋め式 5 例、自由記載 10 例）をミニマムリクワイアメントとする。（**臨床実習Ⅱ配属**）

⑥ 16 症例目以降はオーバーケースとして 1 症例につき 2 点を加算する。（**臨床実習Ⅱ**）

⑦ 読影実習のミニマムリクワイアメント終了後、総括的評価として読影評価試験を行う。読影評価試験は臨床実習 I の正常エックス線解剖と臨床実習 II の疾患読影の内容で実施する。読影評価試験（配点 20 点）では 80%を合格点とする。

⑧ 「胸部エックス線写真の基本」は配属時の金曜午前の枠で教授よりレクチャーを受ける。（**臨床実習Ⅱ配属**）

※読影実習のオーバーケースについては、多く実施することによって**臨床実地問題**の読影能力を修得することが可能となるため、多くのオーバーケースを実施できるように努力すること。

①）胸部エックス線レクチャー（歯科放射線学分野第 2 臨床実習室 120 号室）

① 配属金曜日の午前中の実習とする。

② 実習開始時間は 9:00 とする（8:55 に出席の確認を行う）。

③ 実習中の中座は原則認めない。

４．実習にあたっての注意事項

・口内法撮影実習、疾患読影実習を受ける学生は**ケーシー着用のうえ午前は 8:50、午後は 13:30** に歯科放射線科実習室（120 号室）に集合する。実習室においては長白衣の持参、着用は可とする。

・疾患読影実習には筆記用具、教科書、アトラス等の参考書を持参すること。

・**胸部エックス線写真の基本については原則として中座を認めない**ものとする。

・ライターの対応時間は基本的に臨床実習時間内（8 時 30 分～17 時）としますが、17 時以降に対応が必要な場合は事前にライターにアポイントをし、日時を協議する。アポイントは直接ライターに面会して行うことを原則とするが、外勤等で不在の場合にはライター長に相談する。アポイントは医局、外来、実習室いずれにおいても実習時間内であれば可とし、即時に対応できるように配慮しますが、暫時待ち時間が生じる可能性もあります。

５．学習方略：第 5 学年臨床実習学生を対象

SBOs	種　類	人的資源	物的資源	時　間	備　考
①、③、④、⑤、⑦	相互実習、自験	担当教員 学　生	放射線実習室 外来診療室 教科書、実習書	診療時間内	
②、⑥	見　学	担当教員 学　生	外来診療、検査室 実習書	診療時間内	

６．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

７．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁
午後	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	佐藤　仁	

臨床実習Ⅱ：歯科矯正学

ライター長： 口腔保健育成学講座 （歯科矯正学分野） 菊池 恵美子 助教

１．教育成果（アウトカム）

不正咬合の診察、検査、分析や矯正装置の知識を習得することで矯正歯科治療における治療計画の立案ならびに患者への説明ができる。

２．到達目標（SBOs）

１）担当患者の見学、介補、実技実習

① 患者の矯正歯科治療の流れを理解し、説明できる。
② 患者に適確な診療を実施できる。
③ 患者の資料の分析結果を説明できる。
④ 診療に必要な器材を準備できる。
⑤ 矯正用器械・器具の使用方法について説明できる。
⑥ 矯正装置の使用方法について説明できる。
⑦ 矯正歯科治療の概略について説明できる。
⑧ 矯正歯科治療中の患者のブラッシング指導が実施できる。

２）症例検討会の参加

① 症例の概略を説明できる。
② 症例の資料の分析結果を説明できる。
③ 症例の診断と予後判定を説明できる。
④ 診断に基づいた治療計画を説明できる。
⑤ 上記の項目について質疑応答ができる。

３）小テスト・到達度試験・装置および器具の試験・講義

① 歯科矯正学に必要な基本的な知識について理解し、説明できる。
② 小テスト、到達度試験、装置及び器具の試験について理解し、合格できる。

コア・カリキュラム番号

D-2-1-1, D-2-2, D-5-5, E-1-1-2～5, E-2-1-1, E-2-2-1,4,6, E-5-2-3, E-5-4

３．実習内容

※集合時間：(午前)8:30、(午後)13:30

※集合場所 ： 矯正歯科診療室出入口脇のキャビネット前

１）担当患者の診療見学、介補、実技実習

・下記の 16 ケースの処置内容の提出を必須とする。

(1) 混合歯列期症例（機能的矯正装置、機械的矯正装置、顎外固定装置）

保定および経過観察症例を除く 5 ケース （バンドを用いた装置の症例を最低 1 ケース含むこと。）

(2) 成人矯正症例

保定および経過観察症例を除く 4 ケース （バンドを用いた加強固定装置、歯科矯正用アンカースクリューを用いた症例をそれぞれ最低 1 ケース含むこと。）

(3) 顎変形症症例

保定および経過観察症例を除く 3 ケース （術前矯正治療時の症例を最低 1 ケース含むこと。）

(4) 口唇口蓋裂症例

保定を除く 2 ケース（乳幼児期､学童期から成人期の症例をそれぞれ 1 ケースずつ。）

(5) 睡眠時無呼吸症候群症例

2 ケース（装置装着を最低 1 ケース含む）

・診療後、処置内容記録を 1 週間以内に提出し、指導教員とショート・ディスカッションを行う。必要に応じてレポートを課す。

・実技実習として学生の習熟度に応じて、診療前の器械・器具の準備及び後片付け、診療内容、治療経過の説明、装置使用時の注意事項の説明、ブラッシング指導、ブラケット周囲のクリーニング、診療の介補を実施し、適切な実技の実施がなされたと指導教員が判断した際にケースとして認める(最低 10 ケース)。

2）症例検討会の参加

・最低 1 回

・日　時：木曜日 17：10 開始

・場　所：歯学部　4F 第 1 講義室

（変更もあり得るため各自確認すること）

症例検討会参加予約表(外来)に参加日を記入し予約すること。

3）小テスト

・日　時：配属期間中に行う。

① 頭部エックス線規格写真の計測点

② 頭部エックス線規格写真の計測平面・計測項目

③ 歯科医師国家試験の一般問題対策を行う。

・90%以上の正解率で合格とし、合格点に満たないものは再試験とする。

4）到達度試験

・日　時：配属時に行う。

歯科医師国家試験の臨床実地問題対策を行う。

90%以上の正解率で合格とする。小テストが合格点に満たないものには再試験とする。

5）器具および装置の試験

・日　時：前期後期の配属期間中に行う。

矯正装置及び器具の基本的な知識を問う。

6）講　義

歯科医師国家試験の一般問題および臨床実地問題対策を行う。

4．実習にあたっての注意事項

・**教員の対応可能時間についてはオフィスアワーを確認し、**必要に応じてアポイントを取ること。

・**常に清潔な身だしなみと服装を心がける。臨床実習にふさわしくないと判断した場合、実習を中止する場合もあるので十分に注意する。**

・矯正歯科診療室（診療室）への入退室時は受付からではなく、**常に診療室横の出入り口を使用すること。**

・**診療室で患者を待つ場合、出入り口脇のファイルキャビネット前に整列して待機すること。**

・持参した実習帳等は、出入り口正面キャビネットに設けた専用棚を使用し、見学時には両手を自由な状態にしておくこと。

・ユニットの診療準備、患者の誘導、見学、介補、後片づけ等は、必ず指導教員あるいは担当医の指示に従うこと。

・実習時間内に無許可で診療室を離れた場合は、欠席扱いにすることがある。

・指導教員あるいは担当医の指示なしに患者のファイルやエックス線写真、その他の資料を勝手に閲覧したり診療室から持ち出してはならない。

・**守秘義務を遵守すること。**

・**実習日から１週間以内**に処置内容を記載し、指導教員の評価を受けること。**正当な理由無く遅れた場合には、ケースとして認めない。**

・レポート提出の遅延理由がある場合は、必ず担当教員宛に、大学の個人メールか口頭で連絡すること。

・教員へのアポイントをとる場合は、大学の個人メールか口頭で連絡を行うこと。対応時間についてはオフィスアワーを確認すること。

5．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法
午後	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	佐藤 和朗 桑島 幸紀 飯塚 康之 菊池 恵美子 浅沼 莞奈 深澤 慶子 上田 茜 吉田 弘法	

臨床実習Ⅱ：小児歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）齊藤　桂子　講師

１．教育成果（アウトカム）

小児歯科診療に必要な診査、診断、治療計画立案、歯科的対応、処置法、口腔管理の手順について基本的な知識、技術および態度を修得することで小児歯科診療をスムーズに行えるようになる。

２．到達目標（SBOs）

１）小児の診察の基本的技能

① 小児患者の確認・診療室への誘導ができる。

② 小児の口腔内診査の項目について説明できる。

③ 歯列、咬合および歯の発育と異常について理解し、説明できる。

④ 小児歯科三角について理解し、小児とのラポール形成について説明できる。

⑤ 小児患者の特性を理解し、その患児に合わせた行動調整を行うことができる。

２）小児の歯科治療

① 小児及び保護者に対し口腔衛生指導を実施できる。

② 小児及び保護者へのブラッシング指導を実施できる。

③ 小児に対して PMTC を実施することができる。

④ 年齢別の食事指導・間食指導の内容について説明できる。

⑤ 齲蝕予防処置について理解し、実施できる。

⑥ 小児の歯科治療に必要な器具・器材を準備することができる。

⑦ 小児の歯科治療について理解し、その手順について説明することができる。

⑧ 小児または保護者に対しての治療後の説明や予後について説明できる。

⑨ 見学内容を迅速に学生用診療録に記載することができる。

３）治療計画の立案

① 乳歯齲蝕に関するデンタルエックス線画像の読影ができる。

② 乳歯齲蝕について診断し、その治療方法を挙げることができる。

③ 治療後の口腔衛生管理や定期健診の必要性について説明できる。

④ 小児の齲蝕治療に関する１口腔単位での治療計画立案について理解できる。

４）到達度試験・習熟度試験

①臨床実習・実習中の講義等で得た知識を用いて、問題を解くことができる。

②それぞれの試験に合格することができる。

５）問題解決型学修

①臨床実習・実習中の講義等で得た知識を用いて、課題を解決することができる。

コア・カリキュラム番号

A-2-2、A-3-4-1、C-2-1,3～7、D-2-1～3、D-5-6、E-2-1-2-1,2、E-3-1-1,2、E-3-2-1～3、E-5-1、E-5-5、E-5-7-1

３．実習内容

１）外来実習

実習形態：配属実習（日程については各自で配属表を参照すること）

小児・障害者での配属となるため実習日当日ライターから指示があるのでそれに従い、臨床実習を進めること

集合場所：**矢巾歯科外来（附属病院４階）**

集合時間：（午前）8 時 30 分　（午後）13 時 00 分

9 時に診療が開始するので、それまでに必ず来ること

持ち物：小児歯科の教科書・実習書

（必ず配属されるグループで１冊は持参すること）

筆記用具

２）　実習内容

①　外来実習

（１）配属実習の流れ

配当された小児患者の事前情報把握のために、電子カルテにて診療内容などの情報を確認すること。診療見学が終了したのち、必要事項を専用の用紙（レポート用紙）に記載し、配属期間内にライターのチェックを受けること。

自験する際には、配当された小児に適した行動調整法等を使用し、実習を行うこと。

（２）実習内容

1.　定期健診

自験 2 症例、見学 3 症例

乳歯列期～混合歯列期にかけての小児の定期柄管理について実習を行う。

自験症例では、配当患児に対し口腔内診査、ブラッシング指導、PMTC、フッ化物歯面塗布を一連の流れで行っていく。

レポートの記載：自験 2 症例（口腔衛生指導、齲蝕予防処置の内容も含む）

2.　口腔衛生指導

自験 3 症例、見学 2 症例

乳歯列期～混合歯列期にかけての小児に対しての口腔衛生指導（ブラッシング指導など）について実習を行う。自験症例では、課題で提出したリーフレットを用いてブラッシング指導を行うケースを１つ必須とする。

3.　齲蝕予防処置

自験 2 症例、見学 3 症例

乳歯列期～混合歯列期にかけての小児に対しての齲蝕予防処置（フッ化物歯面塗布、予防塡塞など）について実習を行う。

＊ただし、1～3 の実習内容は同一患者に対し、実施したものでも承認を行う。

4.　治療

見学 5 症例、介助 1 症例

小児の治療（齲蝕治療、外傷に対する対応、外科処置、保隙など）について実習を行う。**少なくとも 1 ケースは齲蝕治療の症例**になるよう注意する。齲蝕治療のケースを配当されていない場合には、ライターに口頭で伝えること。介助

のケースがない場合には、見学した症例で代用する。

レポートの記載：見学 5 症例、介助 1 症例

5. 器材準備

自験 5 症例（少なくとも **1 症例は齲蝕治療の準備**とする）

小児患者の診療に必要な器具・器材の準備、片づけ・ユニット清掃について実習する。器材の準備では、その用途についても聞く場合があるので、事前に指示を受けた症例に対しては、必要な器材等の確認をしておくこと。

6. その他

見学 6 症例

小児患者の診察・診療について実習を行う。すべての小児患者（15 歳未満）の症例を対象とするが、可能であれば初診患者の見学を 1 症例以上見学することが望ましい。

② 課題

（1）レポート（5 ケース）

レポートは、**1 課題につき A4 用紙 3 枚以上**にまとめ、**後期配属実習開始時まで**に作成し持参すること。なお、レポートは諸事情がない限り、手書きで記載すること。

≪課題≫

1. 小児の成長発達について
2. 歯の発育・萌出の異常について
3. 保隙（静的咬合誘導）について
4. 小児の外傷について
5. 小児歯科領域でみられる全身疾患について

（2）リーフレット作成（1 ケース）

4 歳から 10 歳程度の小児を想定して、その小児に対する**歯磨き指導用のパンフレット（はがきサイズ）**を作成すること。リーフレットは、**後期配属実習開始 1 週前までに Web class に提出**あるいは**手書きの場合は当日持参する**こと。

③ PBL（問題解決型学修）

（1）臨床推論（２ケース）

配属期間内に小児歯科学の知識向上施策として演習を行う。

実施場所：小児歯科学・障害者歯科学分野医局（附属病院 5 階）

持ち物：筆記用具、**小児歯科学の教科書**

④ 試験

（1） 到達度試験（1 ケース）

前期配属実習期間内に実施する。なお、合格点は 65%以上とし、合格点に満たない場合には課題を課すので指示に従うこと。

実施場所：小児歯科学・障害者歯科学分野医局（附属病院 5 階）

持ち物：筆記用具、小児歯科学の教科書

試験範囲：成長・発育、歯列・咬合の発育、歯科的対応法、齲蝕、保隙

形式：5 肢択一式問題

（２）習熟度試験（1 ケース）

後期配属実習期間内に実施する。なお、合格点は 65%以上とし、合格点に満たない場合には課題を課すので指示に従うこと。

実施場所：小児歯科学・障害者歯科学分野医局（附属病院 5 階）

持ち物：筆記用具、小児歯科学の教科書

試験範囲：歯の発育とその異常、歯周疾患、外傷、軟組織疾患

形式：5 肢択一式問題

⑤ まとめ

（１） 口頭試問

臨床実習の総括的評価として、口頭試問を**後期配属実習期間内**に行う。

内容は、臨床実習内で学修した内容全般とする。試問の評価が不合格となった場合には、別途課題を課すので指示に従い行うこと。

４．実習にあたっての注意事項

・処置内容等のチェック・学生対応時間：診療時間終了後～19：00

（ただし、会議や出張等で不在の場合もあるので、緊急時はメールを送付すること）

アポイントについてはメールにて連絡すること。

連絡先は、ライター長宛（ksaitho@iwate-med.ac.jp）に送ること。

・配属期間中に他科の実習で抜ける場合には、ライターに事前に伝えること。

・遅刻・欠席等する場合には、連絡をすること。

・患児とその保護者に好印象を与えるような服装、髪形、態度で実習に臨むこと。

・実習に臨む際には、事前学修を必ず行い、知識の確認をしておくこと

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子
午後	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	齊藤 桂子	

臨床実習Ⅱ：障害者歯科学

ライター長：口腔保健育成学講座（小児歯科学・障害者歯科学分野）　磯部　可奈子　助教

１．教育成果（アウトカム）

障害者歯科の臨床を体験することにより、障害者における口腔内の疾病の予防および治療について具体的に述べることができる。

２．到達目標（SBOs）

定期診査、口腔衛生指導

① 障害者の医科学的特徴・歯科学的特徴を理解し安全面に配慮しながら、ユニットへの誘導や移乗の介助ができる。
② 診査・指導中の行動調整法の理論を理解し、円滑に進めることができる。
③ 手順を理解し、必要な準備ができる。
④ 口唇・口腔内状態の診察ができる。
⑤ 口腔衛生指導ができる。
⑥ 分かりやすい言葉使いと聞き取りやすい話し方ができる。
⑦ 患者の不快感に配慮した操作や声かけができる。

コア・カリキュラム番号

D-5-8-1～5

E-5-7-1，2

３．実習内容

１）前期　定期診査　３～４日間で３症例、レポート１症例
２）後期　定期診査　３～４日間で３症例、レポート１症例（課題を実習中に説明する）
　　後期配属期間中に習熟度試験・口頭試問を行う
３）配属日程中に講義（学習時間を含む）を行う。前期　１回、後期　１回
４）レポート提出について
　配属実習中の提出が望ましい。用紙はＡ４手書き。
　遅くても前期と後期の配属実習後、それぞれ２週間以内に提出。
５）実習形態：配属実習（日程については各自で配属表を参照すること）
　小児・障害者での配属となるため実習日当日ライターから指示があるので
　それに従い、臨床実習を進めること
　集合場所：矢巾歯科外来（附属病院４階）
　集合時間：(午前) 8 時 30 分　(午後) 13 時 25 分

４．実習にあたっての注意事項

１）患者の誤解や恐怖を招かぬよう、言動や行動に注意をはらう。

２）患者やその家族と接するときは、障害を有する者とその家族の気持ちを十分に思いやる。

３）対応可能な時間　月・水曜日　16:00～18:00

４）連絡事項はある場合（体調不良で欠席など）は、下記まで連絡をしてください。
（磯部：kisobe@iwate-med.ac.jp）

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子
午後	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	熊谷 美保 磯部 可奈子	磯部 可奈子	

臨床実習Ⅱ：内科学

ライター長：口腔医学講座（関連医学分野）　千葉　俊美　教授

１．教育成果（アウトカム）

内科における診断アプローチと治療戦略の立て方を理解する。また、歯科医師として必要な診察技術と内科救急の基礎的手技を修得する。

２．到達目標（SBOs）

ユニット名 一般目標	到達目標
外来診察室において内科的診察法と診断戦略について理解する。 また、歯科医師として必要な診察技術と内科救急の身体所見の習得と基礎的手技を修得する。	① 外来診察室において問診法および内科的診察法について説明できる。 ② 歯科医師として必要な診察技術の取得。 ・ バイタルサインについて説明できる。 ・ 脈拍、血圧測定、聴診（I 音、II 音）ができる。 ・ 頭頸部、胸腹部の身体的所見を説明できる。 ③ 心電図所見を説明できる。 ④ 血液検査、生化学、HBs 抗原、HBs 抗体所見について説明できる。 ⑤ 内科救急の身体所見の習得と BSL の手技(AED など)を説明できる。

コア・カリキュラム番号

E-2

３．実習内容

■実習概要

外来で脈拍、血圧測定、聴診（I 音、II 音）、頭頸部、胸腹部の身体的所見についての相互実習を行う。

■集合場所・時間 ：歯学部 1 階内科診療室・実習予定日の午前 9 時集合

☆問診法および歯科医師として必要な診察の実践（必須―*実習加算点）

■レポート（必須―*実習加算点）

・実習当日の午後に記載し，WebClass に同日午後 5 時までに提出すること。

４．実習にあたっての注意事項

・対応時間は、オフィスアワーと同様とする。

・アポイントの取得を希望する場合は、ライター長（千葉俊美：toschiba@iwate-med.ac.jp）にメールすること。

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4 月 13 日～2027 年 2 月 25 日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	千葉 俊美					
午後	千葉 俊美					

臨床実習Ⅱ：臨床薬学

ライター長： 薬剤部　和久井　珠里　薬剤長

１．教育成果（アウトカム）

医薬品の取り扱いに関する知識を整理し、医薬品の適正使用に必要な情報の収集方法を習得する。また処方箋を正しく作成することができ、有効かつ安全な薬物療法を行うための注意事項を認識できる。

２．到達目標（SBOs）

１）医薬品の取り扱い

① 医薬品の分類、保管方法などを説明できる。

② 法的規制のある医薬品（毒薬、劇薬、麻薬、向精神薬、特定生物由来製品など）の取扱いに係る規定について説明できる。

２）医薬品情報

① 医薬品添付文書の法的位置づけや記載事項について説明できる。

② 医薬品に関する情報の入手方法を説明できる。

③ 健康被害救済制度について説明できる。

３）歯科繁用医薬品

① 解熱鎮痛薬、抗生物質、口腔用剤など歯科領域で使用する主な医薬品について、種類や特徴などを説明できる。

② 妊婦・授乳婦、小児、高齢者など特別な配慮が必要な患者において、薬剤の選択や投与方法に適切な対応ができる。

４）処方箋の書き方

① 処方箋の記載事項を説明できる。

② 処方箋を正しく書くことができる。

③ 電子カルテで処方オーダができる。

５）チーム医療における薬剤師との関わり

① 薬剤師の業務や役割について説明できる。

② 歯科用院内製剤の種類と特徴を説明できる。

６）歯科医師による服薬指導

① 歯科専用医薬品の使用方法を説明できる。

② 持参薬、お薬手帳の確認の要点を説明できる。

③ 処方薬の効能・効果、用法・用量、使用上の注意を説明できる。

コア・カリキュラム番号

A-6、C-1-3、D-1-2-1、D-2-1

３．実習内容

＊岩手医科大学附属病院薬剤部で１日間の実習を行う。

＊医薬品の取り扱い、医薬品情報、歯科繁用医薬品、処方箋の書き方・オーダの仕方、処方の薬剤選択について、スライドを用いた講義とシミュレーション実習を行う。

SBOs	種　類	人的資源	物的資源		時　期	備　考
			場所	媒体		
1）①～② 2）①～③ 3）①～②	講　義	ライター 学　生	薬剤部	実習書 スライド	臨床実習Ⅱ	1グループにつきライター1名。
4）①～③	講　義 シミュレーション実習	ライター 学　生	薬剤部	実習書 スライド 電子カルテ	臨床実習Ⅱ	
5）①～②	講　義 見　学	ライター 学　生	薬剤部	実習書 スライド	臨床実習Ⅱ	
6）①～③	講　義 シミュレーション実習	ライター 学　生	薬剤部	実習書 患者用指導箋	臨床実習Ⅱ	

４．実習にあたっての注意事項

＊対応時間　　月～金曜日　8：30～17：00（レポート提出、電話対応など）

＊ライターとの連絡方法　内線番号　＃4220（矢巾）

＊レポート提出先　　2階　薬剤部（矢巾）

５．成績評価方法・基準・配点割合等

※別紙リクワイアメント表に記載

６．実習担当者

臨床実習（Ⅱ）・・・4月13日～2027年2月25日

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前			和久井 珠里			
午後			和久井 珠里			

１．総合歯科学

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）		
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	臨床実地予備試験	ケースプレゼンテーション
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数				
①②③	6	【診療参加型臨床実習】 医療面接	80	10	8	0	0	0	0	医療面接の態度や技能、診療録の記載項目を担当ライターが評価する。	20		
④⑤⑥	6	【診療参加型臨床実習】 臨床実地予備試験	40	20	2	0	0	0	0	態度、技能を担当ライターが評価する。		5	
⑦⑧	3	【ケースプレゼンテーション】 発表	60	60	1	0	0	0	0	プレゼンテーションの内容、質疑応答の状況を考慮して担当教員が評価する。			10
⑦⑧	3	【ケースプレゼンテーション】 予演会	20	10	2	0	0	0	0	プレゼンテーションの準備状況を考慮して担当教員が評価する。			
リクワイアメント合計			200		13		0		0				

形成的評価：

１）医療面接後に患者から聴取した内容について確認し、各ライターからフィードバックする。
２）ケースプレゼンテーション予演会において、発表内容の理解度を確認し、各教員からフィードバックする。

その他（補足事項）：

１）オーバーケースの加点はミニマムと同じとする。オーバーケースは加算状況を全体的に評価するが、基本的には最高加算者を20点/35点として比例加算を行うこととする。比例計算で生じた小数点以下は切り上げとする。
２）臨床実地予備試験の評価に関しては以下のとおりとする。
　5点・・・CPX本試験前に2課題ともに終了する。
　0点・・・CPX本試験前に2課題終了できない。
３）ケースプレゼンテーションの評価については以下のとおりとする。
　10点・・・得点率95%～100%
　8点…得点率90%～95%未満
　6点…得点率80%～90%未満
　4点…得点率70%～80%未満
　2点…得点率70%未満

２．予防歯科学（予防歯科学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	定期試験
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
①	6	【定期口腔管理】 硬組織検査の記録	6	2	3	0	0	0	0	自験実施により1ケースとして承認する。	30	
①	6	【定期口腔管理】 硬組織検査の実施	4	4	1	0	0	0	0	自験実施により1ケースとして承認する。 介助実施により1ケースとして承認する。		
②	6	【定期口腔管理】 PCR測定の実施	12	4	1	2	4	0	0	自験実施により1ケースとして承認する。 介助実施により1ケースとして承認する。		
③	2,6	【定期口腔管理】 ブラッシング指導の実施	10	5	1	2	1	1	3	自験終了後、口頭試問実施により1ケースとして承認する。 介助実施により1ケースとして承認する。 見学実施により1ケースとして承認する。		
④	6	【定期口腔管理】 口腔ケアの実施	11	5	1	2	2	1	2	自験実施により1ケースとして承認する。 介助実施により1ケースとして承認する。 見学実施により1ケースとして承認する。		
⑤	6	【定期口腔管理】 機械的歯面清掃の実施	15	5	2	2	2	1	1	自験実施により1ケースとして承認する。 介助実施により1ケースとして承認する。 見学実施により1ケースとして承認する。		
⑦	5	【講義】 前期）講義	1	0	0	0	0	1	1	前期配属終了時点で講義を実施し、講義を受講することにより1ケースとして承認する。		
⑧	4	【講義】 後期）講義	1	0	0	0	0	1	1	後期配属終了時点で講義を実施し、講義を受講することにより1ケースとして承認する。		
①③	4	【課題】 定期口腔管理レポート提出	5	5	1	0	0	0	0	配属中のレポート提出後、口頭試問を受けることにより1ケースとして承認する。		
⑥	3,4	【課題】 周術期口腔管理レポート提出	15	15	1	0	0	0	0	矢巾周術期配属中のレポート提出後、口頭試問を受けることにより1ケースとして承認する。		
⑦	5	【試験】 前期）課題提出・習熟度試験	10	10	1	0	0	0	0	前期配属最終日のレポート提出後に行う筆記試験の受験により1ケースとして承認する。		5
⑧	4	【試験】 後期）課題提出・習熟度試験	10	10	1	0	0	0	0	後期配属最終日のレポート提出後に行う筆記試験の受験により1ケースとして承認する。		
リクワイアメント合計			100		13		9		8			

オーバーケース点数　1回につき

形成的評価：

・習熟度試験（前期）
・習熟度試験（後期）
上記は、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

◆習熟度試験（前期）、習熟度試験（後期）の評価点は、以下のとおり5点満点で評価する。
5点…前期および後期を合わせた得点率 100%
4点…前期および後期を合わせた得点率　76%～ 99%
3点…前期および後期を合わせた得点率　51%～ 75%未満
2点…前期および後期を合わせた得点率　26%～ 50%未満＝口頭試問対象者
1点…前期および後期を合わせた得点率　 0%～ 25%未満＝口頭試問対象者

◆オーバーケースの評価点はミニマムと同じとする。加算状況を総合的に評価するが、基本的には最高得点者を30/35点として比例加算を行うこととする。比例加算で生じた小数点以下は切り上げとする。

３．保存修復学　４．歯内治療学（う蝕治療学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）		
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	臨床推論（前期 ）	臨床推論（後期）
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数				
１）①～⑦ ２）⑨	4	【修復/歯内】 ラバーダム	25	10	2	0	0	5	1	見学・自験終了後、レポート提出により1ケースとして承認する。	15		
１）①～⑦ ２）⑧	4	【修復/歯内】 浸潤麻酔	10	5	1	0	0	5	1	見学・自験終了後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ３）⑥	4	【修復/歯内】 象牙質知覚過敏症	10	5	1	0	0	5	1	見学・自験終了後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ２）①～⑨ ３）①～⑦	4	【修復/歯内】 直接修復処置・間接修復処置	20	5	2	5	1	5	1	自験・介助・見学終了後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ２）⑦	6	【修復/歯内】 歯髄疾患の診査	15	10	1	0	0	5	1	見学・自験終了後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ２）①～⑨ ４）①～⑤	4	【修復/歯内】 抜髄法・感染根管処置　（初回）	20	0	0	10	2	0	0	介助後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ２）①～⑨ ４）①～⑤	4	【修復/歯内】 根管充填	10	0	0	10	1	0	0	介助後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
１）①～⑦ ２）①～⑨ ４）①～⑤	4	【修復/歯内】 根管拡大・根管形成	10	10	1	0	0	0	0	自験後、レポート提出により1ケースとして承認する。			
５）①	4	【口頭試問】 その他の歯内ケース（口頭試問）	10	0	0	2	5	0	0	介助後、レポート提出と口頭試問を行う。			
５）①	4	【口頭試問】 その他の修復ケース（口頭試問）	10	0	0	2	5	0	0	介助後、レポート提出と口頭試問を行う。			
５）①	8	【臨床推論】 臨床推論（修復・歯内）	20	10	2	0	0	0	0	配属中の中間試験、解説講義に出席によって１ケースとして承認する。		10	10
６）①	8	【周術期管理　矢巾病院】 ①周術期の見学、レポート	30	30	1	0	0	0	0	矢巾配属,指導医の見学、症例レポートを提出により１ケースとして承認する。			
６）①	8	【周術期管理　矢巾病院】 ②カンファランス出席	10	10	1	0	0	0	0	総合歯科配属中にカンファレンスに参加により１ケースとして承認する。			
リクワイアメント合計			200		12		14		5				

形成的評価：

・自験、介助、見学の際、患者への挨拶、誘導の際の対応など臨床実習生(歯学)として適切な態度であるかを評価する。
・各リクアワメント項目のレポート確認の際に口頭試問、臨床推論で筆記試験を行い、理解度を確認し、フィードバックする。
・臨床推論（前期）
・臨床推論（後期）
上記は、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

・その他の修復ケース、その他の歯内ケースは臨床推論、周術期管理以外でミニマムを超えた際に１ケースとして承認する。
・オーバーケースはその他の修復ケース・その他の歯内ケースのミニマム数を超えた場合に、１ケース５点として追加での加点とし、加算状況を全体的に評価するが、基本的には最高得点者を15/35点として比例加算を行うこととする。比例加算で生じた小数点以下は切り上げとする。
・臨床推論の際の筆記試験を行い評価点に加算する。臨床推論（前期）、臨床推論（後期）の評価点は試験とその後の解説講義での口頭試問により各10点を加算する。

５．歯周病学（歯周療法学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）												
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	
1）	①	6	【診査】 口腔内写真、研究模型採得、咬合診査	5	5	1	5	0	0	0	自験終了後、ケースレポート提出及び口頭試問実施により1ケースとして承認する。
	②	6	【診査】 エックス線写真読影	5	5	1	5	0	0	0	
	③	6	【診査】 歯周組織検査	5	5	1	5	0	0	0	
2） 4）	①	6	【歯周基本治療】 TBI	10	5	2	3	0	0	0	
	②	6	【歯周基本治療】 スケーリング(超音波)	10	5	2	3	0	0	0	
	③	6	【歯周基本治療】 SRP	10	5	2	5	0	0	0	
	④	6	【歯周基本治療】 PMTC	10	5	2	4	0	0	0	
	⑤	6	【歯周基本治療】 咬合（調整・固定）	5	5	1	5	0	0	0	
3）	①②③	6	【歯周外科治療】 準備・介助	10	10	1	13	0	0	0	
1）2）3）4）		4	【PBL】 歯周知識・技能問題解決	10	5	2	0	0	0	0	Webclassでの問題演習および解説実施により1ケースとして承認する。
1）2）3）4）		4	【試験】 習熟度試験①	7	7	1	0	0	0	0	Webclassでの問題演習および解説実施により1ケースとして承認する。
1）2）3）4）		4	【試験】 習熟度試験②	7	7	1	0	0	0	0	Webclassでの問題演習および解説実施により1ケースとして承認する。
2）	③	4	【試験】 自験技能試験	6	6	1	0	0	0	0	SRPに関する実技試験および解説実施により1ケースとして承認する。
リクワイアメント合計				100		18		0		0	

オーバーケース点数　1回につき

評価点（35点）			
オーバーケース	習熟度試験①	習熟度試験②	自験技能試験
5			
	7.5		
		7.5	
			15

形成的評価：

・習熟度試験①
・習熟度試験②
上記は、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

習熟度試験①、習熟度試験②の評価点については以下のとおりとする。
・正答率100%＝7.5点換算として行う。
・換算で生じた小数点以下は切り上げとする。

自験技能試験の評価点については以下のとおりとする。
・各項目を評価し、15点満点で評価する。

オーバーケースの評価点はミニマムと同じとする
・基本的には最高得点者を5/35点として比例加算を行うこととする。
・比例加算で生じた小数点以下は切り上げとする。

６．有床義歯補綴学（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	習熟度試験
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
⑧～⑮	6	【義歯外来自験実習】 概形印象・精密印象・顎間関係記録・試適	6	6	1	0	0	0	0	自験実施により1ケースとして承認する。	25	
⑥⑦⑯～⑱	6	【義歯外来自験実習】 義歯調整、支台歯の前処置	6	6	1	0	0	0	0	自験実施により1ケースとして承認する。		
⑥⑮	6	【技工操作】 技工操作	5	5	1	0	0	0	0	補綴に関連する技工操作実施により1ケースとして承認する。		
①～⑧	6	【義歯外来介助・見学実習】 検査・診断、概形印象採得	8	0	0	0	0	4	2	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑧	6	【義歯外来介助・見学実習】 精密印象採得	8	0	0	0	0	4	2	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑨～⑫	6	【義歯外来介助・見学実習】 顎間関係の記録	12	0	0	0	0	4	3	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑬⑭	6	【義歯外来介助・見学実習】 ろう義歯試適	8	0	0	0	0	4	2	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑯⑰	6	【義歯外来介助・見学実習】 完成義歯の装着	8	0	0	0	0	4	2	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑯	6	【義歯外来介助・見学実習】 義歯調整	12	0	0	0	0	4	3	症例を見学してライター許可を得れば1ケースとして承認する。		
⑦⑩⑮	6	【義歯外来介助・見学実習】 義歯修理、顔弓記録、GoA、その他の補綴治療	8	0	0	0	0	4	2	修理、特殊な治療、その他の補綴治療を見学して1ケースとして承認する。		
⑤⑲	6	【新患急患対応実習（義歯外来A）】 新患急患対応	4	0	0	0	0	2	2	新急患を半日見学して1ケースとして承認する。		
①～④⑨⑪～⑬⑰	4	【有床義歯学習】 口頭試問、有床義歯学習	2	2	1	0	0	0	0	口頭試問によりライターの許可を得れば1ケースとして承認する。		
①～④⑨⑪～⑬⑰	4	【有床義歯治療評価】 有床義歯治療評価、課題提出	3	3	1	0	0	0	0	レポート提出により1ケースとして承認する。		
①～④⑨⑪～⑬⑰	4	【試験】 習熟度試験	10	10	1	0	0	0	0	12月に試験（70点）で合格、承認 不合格者には再試験を行う		10
リクワイアメント合計			100		6		0		18			

形成的評価：

形成的評価（有床義歯治療評価）
義歯治療に関する口頭試問やレポートを行い評価し、有床義歯治療の理解を深める。

総括評価を兼ねている場合（上記リクワイアメントに含めているが形成的評価を兼ねているもの）
・習熟度試験
上記は、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。
12月に試験を行い70点以上で合格、承認となる。不合格者には再試験を行う。

その他（補足事項）：

オーバーケースは、最高得点者を25点として比例加算を行うこととする。比例加算で生じた小数点以下は切り上げとする。

習熟度試験の評価点については以下のとおりとする。
10点…得点率90%～100%
8点…得点率80%～90%未満
4点…得点率70%～80%未満
0点…再試験該当者（70%未満）

７．冠橋義歯補綴学（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）												評価点（35点）	
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	見学（自験・介助に含まれていないケース）
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
1）	①②③④⑤⑦	1	【クラウン・ブリッジ治療】 支台築造	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。	30	5
	①②③④⑤⑦	1	【クラウン・ブリッジ治療】 支台歯形成	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。		
	①②③④⑤⑦	1	【クラウン・ブリッジ治療】 精密印象・咬合	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。		
	①②③④⑤⑥⑦	1	【クラウン・ブリッジ治療】 暫間冠作製・調整	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。		
	①②③④⑤⑥⑦	1	【クラウン・ブリッジ治療】 試適・装着	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。		
	①②⑤⑦	2, 3, 4	【クラウン・ブリッジ治療】 経過観察	10	5	0	5	2	0	0	介助終了後、1ケースとして承認する。 自験したケースは、オーバーケースとして承認する。		
	⑦	9	【PBL】 知識・技能問題解決	20	10	2	0	0	0	0	1クールに1回臨床講義を設ける。 （前期・後期）		
	③④	3, 6	【試験】 支台歯形成（顎歯模型5本以上）	10	10	1	0	0	0	0	1歯形成毎に指導医に評価を受け、 5本終了で1ケース承認する。		
	⑦	8	【試験】 レポート・口頭試問	10	10	1	0	0	0	0	介助終了後、臨床講義担当者へレポート 提出、口頭試問実施により1ケースとして承認する。		
リクワイアメント合計				100		4		12		0			

形成的評価：

１）形成的評価のみの場合
・顎歯模型で支台歯形成練習を5本以上行うことで、支台歯形成ができるようになる。

２）総括評価を兼ねている場合
・指導医1名のもと総合的レポートの作成を行い、冠橋義歯補綴学の理論を理解できるようになる。指導医が必要とした場合は、さらに口頭試問を追加しそれらの結果をもとに評価を行う。十分な知識を習得していない場合は再試験を施行する。

その他（補足事項）：

１）オーバーケースの評価点はミニマムと同じとする。

８．口腔インプラント学（冠橋義歯・口腔インプラント学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	オーバーケース	治療計画立案
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
１）②③ ２）③	3,6	【手術】 インプラント一次手術 （１ケースは骨移植、CTG、FGGでも可）	20	0	0	0	0	10	2	見学・介助終了後、口頭試問かレポート提出で合格することで承認。	20	
１）②③ ２）③	3,6	【手術】 インプラント二次手術	10	0	0	0	0	10	1	見学・介助終了後、口頭試問かレポート提出で合格することで承認。		
１）② ２）④	6	【補綴処置】 印象採得	10	0	0	10	1	0	0	見学・介助終了後、口頭試問かレポート提出で合格することで承認。		
１）② ２）⑤	6	【補綴処置】 上部構造装着	10	0	0	10	1	0	0	見学・介助終了後、口頭試問かレポート提出で合格することで承認。		
１）①②③ ２）②⑥	4	【メインテナンス】 インプラントメインテナンス	10	0	0	0	0	10	1	見学・介助終了後、口頭試問かレポート提出で合格することで承認。		
２）④	6	【試験】 臨床習熟度評価:印象採得	10	10	1	0	0	0	0	口頭試問および模型実習提出を実施し、フィードバックを受けることで承認。		
２）⑤	6	【試験】 臨床習熟度評価:上部構造装着	10	10	1	0	0	0	0	口頭試問および模型実習提出を実施し、フィードバックを受けることで承認。		
１）①③ ２）①②③	1,4	【試験】 治療計画立案	10	10	1	0	0	0	0	治療計画について発表と質疑応答を行い、 35点満点中26点以上の得点で加点を行う。		15
１）①③ ２）①②③	2	【臨床実習中の学習時間】 PBL:知識・技能問題解決 （ワークショップ）	10	5	2	0	0	0	0	埋入シミュレーション、レポートを完成させチェックを受けることで承認。		
リクワイアメント合計			100		5		2		4			

形成的評価：

臨床習熟度評価（印象採得・上部構造装着）を実施することで理解度を確認し、不足する知識・技能についてフィードバックを行う。

その他（補足事項）：

治療計画立案の評価点の加点については以下のとおりとする。
１5点…実得点34、35点
12点…実得点32、33点
9点…実得点30、31点
6点…実得点28、29点
3点…実得点26、27点

９．摂食嚥下・口腔リハビリテーション学（有床義歯・口腔リハビリテーション学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）													評価点（35点）		
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法		習熟度試験	オーバーケース	実習態度
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数					
1）	⑨	2, 3, 4	【摂食嚥下機能障害患者に対する診療】 姿勢調整	10	0	0	0	0	5	2	外来、病棟において、姿勢調整の見学により１ケースとして承認する。			10	5
	①④	4	【摂食嚥下機能障害患者に対する診療】 口腔内診査	10	0	0	0	0	5	2	外来、病棟において、口腔内診査の見学により１ケースとして承認する。				
	①④	2, 3, 4	【摂食嚥下機能障害患者に対する診療】 スクリーニング検査	10	0	0	0	0	5	2	外来、病棟において、スクリーニング検査の見学により１ケースとして承認する。				
	⑩	4	【摂食嚥下機能障害患者に対する診療】 口腔機能低下症の検査	10	10	0	0	0	10	1	外来、病棟において、 口腔機能低下症の検査の実施または見学により１ケースとして承認する。				
	②～④	2, 3, 4	【嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査】 嚥下内視鏡の準備、操作	0	0	0	5	0	0	0	外来、病棟において、嚥下内視鏡検査の介助により１ケースとして承認する。				
	②～④	2, 3, 4	【嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査】 嚥下内視鏡検査（介助）	10	0	0	5	0	5	2	外来、病棟において、嚥下内視鏡検査の見学により１ケースとして承認する。				
	②～④	2, 3, 4	【嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査】 嚥下造影検査（介助）	0	0	0	0	0	10	0	病棟において、嚥下造影検査の見学により１ケースとして承認する。				
	①～⑩	3, 4	【嚥下内視鏡検査・嚥下造影検査】 摂食嚥下リハビリテーション計画立案（PBL）	10	10	1	0	0	0	0	治療計画を各自で立案し、意見交換および口頭試問実施により1ケースとして承認する。				
	⑧⑨	4	【直接訓練・間接訓練・専門的口腔ケア】 間接訓練・口腔衛生管理のいずれか	20	0	0	10	0	10	2	病棟において、間接訓練・口腔衛生管理の見学により１ケースとして承認する。				
	⑦	4	【直接訓練・間接訓練・専門的口腔ケア】 直接訓練	0	0	0	0	0	10	0	病棟において、直接訓練の見学により１ケースとして承認する。				
	①～⑩	2, 3, 4	【口頭試問】 口頭試問	10	10	1	0	0	0	0	口頭試問実施により1ケースとして承認する。				
	①～⑩	2, 3, 4	【試験】 習熟度試験	10	10	1	0	0	0	0	実習が全て終了後に、65点以上を獲得することにより1ケースとして承認する。		20		
リクワイアメント合計				100		3		0		11					

オーバーケース

形成的評価：

治療計画は各自に1症例配当した患者に対し立案し、各々プレゼンテーションを行う。その際、意見交換および口頭試問実施し、形成的評価を行う。

その他（補足事項）：

１０．口腔外科学（口腔外科学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）										
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	
1）・2）	1,2	【医療面接・診察・説明】 医療面接・診察（自験）	8	4	2	0	0	0	0	自験終了後、担当教員による直接観察および診療内容の確認を行い、医療面接・診察・説明が適切に実施できていることを確認した上で、1ケースとして承認する。
3）	2,6	【医療面接・診察・説明】 診療録の記載（自験）	8	4	2	0	0	0	0	
3）	1,2	【医療面接・診察・説明】 抜歯についての説明（自験）	2	2	1	0	0	0	0	
4）	3,6	【普通抜歯】 抜歯機材の準備（自験）	2	2	1	0	0	0	0	自験または介助終了後、担当教員が実施内容を確認し、手技の理解および診療参加態度が適切であると判断された場合に1ケースとして承認する。
4）	3,6	【普通抜歯】 浸潤麻酔・抜歯操作（介助）	6	0	0	2	3	0	0	
4）	1,6	【普通抜歯】 浸潤麻酔・抜歯操作（自験）	2	2	1	0	0	0	0	
3）	1,2	【普通抜歯】 抜歯後の注意事項（自験）	6	2	3	0	0	0	0	
3）	2,6	【普通抜歯】 抜歯後の処方（自験）	6	2	3	0	0	0	0	
4）	1,6	【普通抜歯】 抜歯後の経過観察、処置（自験）	2	2	1	0	0	0	0	
4）	3,6	【外来小手術】 器械器具の準備（自験）	3	2	1	0	0	1	1	自験または介助終了後、担当教員が実施内容を確認し、手技の理解および診療参加態度が適切であると判断された場合に1ケースとして承認する。
4）	3,6	【外来小手術】 器具の片づけ（自験）	6	2	3	0	0	0	0	
4）	1,6	【外来小手術】 器械器具のダブルチェック（自験）	7	2	3	0	0	1	1	
4）	3,6	【外来小手術】 手術の介助（介助）	10	0	0	2	4	2	1	
2）・5）	4,6	【一般診療】 粘膜疾患の診療（見学）	4	0	0	0	0	2	2	担当教員の指示のもと見学を行い、病態などの理解をしていることを確認した上で1ケースとして承認する。
2）・5）	4,6	【一般診療】 顎関節疾患の診療（見学）	4	0	0	0	0	2	2	
6）	3,4	【病棟実習】 術後回診（見学）	2	0	0	0	0	2	1	担当教員の指示のもと見学を行い、術式・病態・周術期管理について理解していることを確認した上でライターが1ケースとして承認する。 ※症例検討会は臨床実習中の学習時間として実施
6）	4,9	【病棟実習】 症例検討会（見学・参加）	2	0	0	0	0	2	1	
6）	4,9	【病棟実習】 全身麻酔手術（見学）	8	0	0	0	0	2	4	
6）	4,9	【病棟実習】 頭頸部腫瘍センターの手術（見学）	4	0	0	0	0	4	1	
6）	4,9	【課題】 レポート課題（全麻手術）（自験）	2	2	1	0	0	0	0	提出されたレポート内容についてライターが評価し、病態理解および考察が適切であると判断された場合に1ケースとして承認する。
6）	6,9	【課題】 レポート課題（外来）（自験）	2	2	1	0	0	0	0	
6）	1,9	【口頭試問】 口頭試問	4	4	1	0	0	0	0	教授またはライターの実施する口頭試問により、口腔外科領域における理解および治療方針の説明が適切に行えることを確認し、1ケースとして承認する。
リクワイアメント合計			100		24		7		14	

評価点（35点）			
オーバーケース	レポート（外来）	レポート（病棟）	口頭試問
20			
	5		
		5	
			5

形成的評価：

・実習期間中、担当教員が随時フィードバックを行い、医療面接、診察態度、診療補助、手技理解、患者対応について理解度および到達度を確認する。
・レポート課題および口頭試問は、形成的評価を兼ねた総括評価として位置付ける。

その他（補足事項）：

・各実習項目の達成状況については、症例の内容、学生の理解度および実習への取り組み態度を踏まえ、総合的観点から評価を行う。
・診療状況等により、一部の実習項目については、見学、代替症例、手術動画等を活用し、教育的効果を担保した実習を実施する場合がある。
・オーバーケースについては、ミニマムケースと同様に取り扱い、達成状況を総合的に評価したうえで、所定の方法に基づき比例加算を行う。
・本実習は診療参加型臨床実習の理念に基づき、講義形式による知識付与に偏ることなく、実際の症例観察および診療参加を通じた視覚的・体験的学修を重視する。学習時間については、症例検討会および振り返りを通じて確保し、知識と臨床経験の統合を図る。
・臨床実習Ⅰにおいては、形成的評価の一環として、口腔外科領域に関する基礎的知識および臨床的思考力の定着を目的に、問題演習（DESS〔国家試験問題演習アプリ〕を活用）を実施する。本演習は、臨床実習Ⅱにおける症例経験、診察・処置への参加、症例検討および口頭試問の基盤となる事前学修および理解度確認として位置づける。

１１．歯科麻酔学（歯科麻酔学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	レポート	口頭試問
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
①②	6	【鎮静法】 麻酔チャート記録	10	0	0	0	0	5	2	口頭試問		
⑬	6	【鎮静法】 診療録記載	10	0	0	0	0	5	2	口頭試問		
③	6	【鎮静法】 モニタ装着	10	0	0	0	0	5	2	口頭試問		
⑭	6	【鎮静法】 点滴回路準備	10	0	0	0	0	5	2	口頭試問		
⑭	6	【鎮静法】 術後指示	10	0	0	0	0	5	2	口頭試問		
⑤	6	【全身麻酔】 医療面接（病歴聴取）	5	0	0	0	0	5	1	口頭試問		
⑦⑧⑨⑩⑫	6	【全身麻酔】 診療録記載	5	0	0	0	0	5	1	口頭試問		
④⑥	6	【全身麻酔】 術前指示	5	0	0	0	0	5	1	口頭試問		
⑦⑪	6	【全身麻酔】 人工呼吸	5	0	0	0	0	5	1	口頭試問		
⑦⑪	6	【全身麻酔】 喉頭展開	5	0	0	0	0	5	1	口頭試問		
①～⑭	4	【PBL】 麻酔知識・技能問題解決	5	5	1	0	0	0	0	口頭試問		
①～⑭	4	【課題】 レポート	10	10	1	0	0	0	0	レポート提出	15	
①～⑭	4	【口頭試問】 口頭試問	10	10	1	0	0	0	0	口頭試問		20
リクワイアメント合計			100		3		0		15			

形成的評価：

・レポート
・口頭試問
上記は成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

１２．歯科放射線学（歯科放射線学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）		
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	口内法撮影評価試験	口頭試問	講義
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数				
①②	6	【エックス線検査口内法撮影】 二等分法	16	2	8	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
①②	6	【エックス線検査口内法撮影】 咬翼法	2	2	1	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
①②	6	【エックス線検査口内法撮影】 咬合法	2	2	1	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
①②	6	【エックス線検査口内法撮影】 事前学習レポート	2	2	1	0	0	0	0	レポート提出によりケースとして承認する。			
①②	6	【エックス線検査口内法撮影】 口内法撮影評価試験	10	10	1	0	0	0	0	試験を実施し80点以上でケースとして承認する（100点満点）。	10		
⑤	6	【エックス線検査口外法撮影】 パノラマX線撮影	4	2	1	2	1	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
⑥	6	【エックス線検査口外法撮影】 頭部エックス線規格撮影	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
⑥	6	【エックス線検査口外法撮影】 顎関節撮影（シュラー）	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
⑥	6	【エックス線検査口外法撮影】 顎関節撮影（オルビトラムス）	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
⑥	6	【エックス線検査口外法撮影】 他単純エックス線撮影	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
⑥	4	【エックス線検査口外法撮影】 胸部エックス線撮影	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
⑥	4	【胸部エックス線写真の基本】 放射線画像診断基礎、 胸部エックス線写真の基本	3	3	1	0	0	0	0	講義を受講することでケースとして承認する。			
③④	6	【エックスCT検査】 CBCT	2	0	0	0	0	2	1	自験症例実施によりケースとして承認する。			
③④	6	【エックスCT検査】 CBCT再構成	2	2	1	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
③④	4	【エックスCT検査】 MDCT	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
③④	4	【MRI検査】 造影、非造影	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
③④	4	【核医学検査】 骨、腫瘍シンチグラフィ	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
③④	4	【超音波検査】 頭頸部超音波検査	2	0	0	0	0	2	1	見学実習終了後にケースとして承認する。			
③④⑧	4	【施設見学レポート】 事後レポート	4	4	1	0	0	0	0	見学実習終了後にレポート提出によりケースとして承認する。			
⑥⑦⑧	6	【疾患読影】 疾患読影（典型例共通穴埋め式）	5	1	5	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
⑥⑦⑧	6	【疾患読影】 疾患読影	10	1	10	0	0	0	0	自験症例実施によりケースとして承認する。			
⑥⑦⑧	4	【臨床習熟評価】 口頭試問	10	10	1	0	0	0	0	試験を実施し80点以上でケースとして承認する（100点満点）。		15	
⑥⑦⑧	4	【画像診断】 講義	10	5	2	—	—	—	—	講義を受講することでケースとして承認する。			10
リクワイアメント合計			100		34		1		10				

形成的評価：

口内法撮影試験、正常解剖読影試験、疾患読影試験を行い、理解度を確認する。
なお、口内法撮影試験は成績に含める試験だが、理解度を確認する機会を兼ねている。

その他（補足事項）：

１３．歯科矯正学（歯科矯正学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）												
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	
1）	①～⑧	1,6	【患者の見学・介助】 患者の見学・介助	48	3	16	0	0	0	0	レポート提出
1）	①～⑧	1,6	【実技実習】 実技実施ケース	20	2	10	0	0	0	0	器具の準備・片付け、口頭試問
2）	①～⑤	4,9	【症例検討会の参加】 症例検討会	4	4	1	0	0	0	0	口頭試問
3）	①～②	4	【試験】 到達度試験	5	5	1	0	0	0	0	筆記試験、口頭試問
3）	①～②	4	【試験】 小テスト	5	5	1	0	0	0	0	筆記試験
3）	①～②	4	【口頭試問】 器具および装置	8	4	2	0	0	0	0	口頭試問
3）	①～②	4	【講義】 講義	10	5	2	0	0	0	0	筆記試験、口頭試問
リクワイアメント合計				100		33		0		0	

評価点（35点）		
オーバーケース数	到達度試験	小テスト
15		
	10	
		10

形成的評価：

到達度試験、小テストは、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

オーバーケースの評価点はミニマムと同じとする。加算状況を全体的に評価するが、基本的には最高得点者を20/35点として比例加算を行うこととする。小数点以下は切り上げとする。

１４．小児歯科学（小児歯科学・障害者歯科学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）													評価点（35点）					
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法		レポート	課題	リーフレット	口頭試問	筆記試験	オーバーケース
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数								
2）	②③⑤⑨	1,3	【外来実習】 定期健診	9	3	2	2	0	1	3	【見学症例】 外来実習後、口頭試問を行い1ケース承認する。 【介助・自験症例】 外来実習後、レポートを提出し1ケース承認とする。							10
	①②④	2,5	【外来実習】 口腔衛生指導	11	3	3	2	0	1	2								
	⑤	4,6	【外来実習】 齲蝕予防処置	9	3	2	2	0	1	3								
	⑦⑧⑨	4,6	【外来実習】 治療	7	3	0	2	1	1	5	外来実習後、レポートを提出し1ケース承認する。							
	⑥	3	【外来実習】 器材準備	15	3	5	2	0	1	0	外来実習後、口頭試問を行い1ケース承認する。							
1）	①～⑤	6	【外来実習】 その他	12	3	0	2	0	2	6	外来実習後、口頭試問を行い1ケース承認する。							
1）2）		8	【課題】 レポート	10	2	5	0	0	0	0	レポートを提出し、1ケース承認をする。		5					
1）	①	2	【課題】 リーフレット	2	2	1	0	0	0	0	リーフレットを提出し、1ケース承認をする。				1			
3）5）		9	【PBL】 臨床推論	10	5	2	0	0	0	0	課題の提出をし、1ケース承認をする。			4				
4）		8	【試験】 到達度試験	2	2	1	0	0	0	0	前期配属期間内に行う試験にて65%以上獲得したら1ケース承認とする。						5	
			【試験】 習熟度試験	3	3	1	0	0	0	0	後期配属期間内に行う試験にて65%以上獲得したら1ケース承認とする。						5	
1）2）3）		8	【まとめ】 口頭試問	10	10	1	0	0	0	0	後期配属期間内に行う口頭試問を受講したら1ケース承認とする。					5		
リクワイアメント合計				100		23		1		19								

オーバーケース点数　１回につき

形成的評価：

・到達度試験（前期）
・習熟度試験（後期）
上記は、臨床実習の成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねて行う。

その他（補足事項）：

到達度度試験（前期）、習熟度試験（後期）、口頭試問、レポート、課題の評価点については以下のとおりとする。　課題に関しては、（前期得点＋後期得点）/2にて評価点をつける。
5点…試験の得点率95%～100%、レポート評価A
4点…試験の得点率90%～95%未満、レポート評価B、課題評価A
3点…試験の得点率80%～90%未満、レポート評価C、課題評価B
2点…試験の得点率70%～80%未満、レポート評価D、課題評価C
1点…試験の得点率65%～70%未満、レポート評価E、課題評価D
0点…試験の再試験該当者

リーフレットの評価点については以下のとおりとする。
提出期日内での提出：１点、　提出期日越えての提出：0点

オーバーケースの評価点はミニマムと同じとする。加算状況を全体的に評価するが、基本的には最高得点者を10/35点として比例加算を行うこととする。比例加算で生じた小数点以下は切り上げとする。

１５．障害者歯科学（小児歯科学・障害者歯科学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	習熟度試験	口頭試問
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
④⑦	6	【定期診査】 口唇・口腔内の診察	30	5	6	0	0	0	0	自験後、１ケースとして承認する。		
⑤	6	【定期診査】 口腔衛生指導	30	5	6	0	0	0	0	自験後、１ケースとして承認する。		
③	6	【定期診査】 口腔疾患予防処置	6	0	0	3	2	0	0	介助後、１ケースとして承認する。		
①	3	【定期診査】 移乗	6	0	0	3	2	0	0	介助後、１ケースとして承認する。		
①～⑦	4	【講義】 講義（学習時間）	8	4	2	0	0	0	0	前期１ケース、後期１ケースで行い 終了後に承認する。		
①～⑦	4	【課題】 レポート提出（前期・後期）	10	5	2	0	0	0	0	自験終了後、レポート提出により1ケース として承認する。		
①～⑦	4	【試験】 習熟度試験	5	5	1	0	0	0	0	後期実習期間中に実施する。 実施後に１ケースとして承認する。	20	
①～⑦	4	【口頭試問】 口頭試問	5	5	1	0	0	0	0	後期実習期間中に実施する。 実施後に１ケースとして承認する。		15
リクワイアメント合計			100		18		4		0			

形成的評価：

・習熟度試験
・口頭試問
上記は、成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

習熟度試験：１問２点　１０問出題（満点　２０点）　国家試験の過去問題から出題する。
口頭試問：1問３点　５問出題（満点　１５点）　実習中に配布するプリントから出題する。

１６．内科学（関連医学分野）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）											評価点（35点）	
到達目標	DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	レポート	口頭試問
				点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
①⑤	6	【内科的診察】 血圧測定の原理と臨床的意義の説明	10	10	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
②	6	【内科的診察】 聴診のI音、II音の聴診と触診	10	10	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
③	6	【心電図記録および判読】 12誘導心電図の所見	10	10	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
③	6	【心電図記録および判読】 代表的不整脈 （心室細動、心静止、心房細動）	10	10	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
④	6	【採血と検査の意義】 血液検査より貧血と血液疾患の説明ができる。	5	5	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
④	6	【採血と検査の意義】 生化学検査より腎臓疾患、肝臓疾患、糖尿病、ﾒﾀﾎﾞﾘｯｸ症候群の説明ができる。	10	10	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
④	6	【採血と検査の意義】 感染症ーウイルス肝炎の診断を対応	5	5	1	0	0	0	0	実習中適宜施行		
①～⑤	4	【口頭試問】 実習事項に関する口答試問	20	20	1	0	0	0	0	口頭試問		15
①～⑤	4	【課題】 実習事項に関するレポート	20	20	1	0	0	0	0	レポート提出	20	
リクワイアメント合計			100		9		0		0			

形成的評価：

・レポート
・口頭試問
上記は成績に含める試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

１７．臨床薬学（薬剤部）

総括評価：

リクワイアメント（全ての修了要件を満たした場合、基礎点65点）												評価点（35点）	
到達目標		DP	実習項目	ミニマム合計	自験		介助		見学		評価方法	レポート	到達度試験
					点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数	点数	ミニマムケース数			
1）	①	4	【医薬品の取り扱い】 医薬品に関する基礎知識	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【医薬品の取り扱い】 法的規制のある医薬品	5	0	0	0	0	5	1			
2）	①	4	【医薬品情報】 添付文書	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【医薬品情報】 医薬品情報の入手	5	0	0	0	0	5	1			
	③	4	【医薬品情報】 健康被害救済制度	5	0	0	0	0	5	1			
3）	①	4	【歯科繁用医薬品】 歯科領域で使用する薬剤	10	0	0	0	0	10	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【歯科繁用医薬品】 高齢者、妊産婦・授乳婦、小児への投与	5	0	0	0	0	5	1			
4）	①	4	【処方箋の書き方】 処方箋の記載事項	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【処方箋の書き方】 処方箋の作成	10	10	1	0	0	0	0	処方せんへの書き方を学び、理解できた場合承認とする。		
	③	4	【処方箋の書き方】 電子カルテでの処方オーダ	10	10	1	0	0	0	0	電子カルテを用いて処方オーダをする仕組みを理解できた場合承認とする。		
5）	①	3	【チーム医療における薬剤師との関わり】 薬剤師の役割	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【チーム医療における薬剤師との関わり】 歯科用院内製剤	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受け、到達度試験を受験した場合に承認とする。		
6）	①	4	【歯科医師による服薬指導】 歯科専用医薬品	5	0	0	0	0	5	1	講義を全て受講し、到達度試験実施により1ケースとして承認とする。		
	②	4	【歯科医師による服薬指導】 持参薬・お薬手帳の確認	10	10	1	0	0	0	0	服薬指導の実習実施により1ケースとして承認する。		
	③	4	【歯科医師による服薬指導】 処方薬の説明	10	10	1	0	0	0	0			
2）3）		4	【課題】 レポート								期日までにレポートを提出し、内容精査の上評価点を決定する。	5	
1）～ 6）		4	【試験】 到達度試験								臨床薬学の実習終了時に到達度試験を実施し,評価点を決定する		30
リクワイアメント合計				100		4		0		11			

形成的評価：

＊総括評価を兼ねている場合（上記リクワイアメントに含めているが形成的評価を兼ねているもの）
・レポート
・到達度試験
上記は、成績に含める課題・試験だが、理解度を確認する機会（形成的評価）を兼ねている。

その他（補足事項）：

＊実習を欠席した場合は、原則、振替とする。振替が不可能な場合は、ライターと相談の上、レポート提出で出席を認める。到達度試験は受けられないため、評価点は与えない。
＊レポートの評価については以下の通りとする
・必要事項や内容が足りないと判断した場合：　（-1点）～（-2点）
・提出期限を過ぎた場合：（-1点）
・未提出の場合：0点

５８期生　臨床実習　実施要領

１．実習期間

臨床実習Ⅰオリエンテーション……３月２７日

実習期間……３月３０日～４月７日（７日間）

臨床実習Ⅱオリエンテーション……４月１０日

実習期間……４月１３日～２月２５日（１４８日間）

総実習日数……（１５５日）

２．実習科目と担当診療科

・実習科目は 17 科目とする。

・担当診療科は別紙の通りとする。（第 58 期生臨床実習　実習科目・担当分野）

３．実習形式

１）実習Ⅰ

・摂食嚥下・口腔リハビリテーション学、内科学、臨床薬学を除く 14 科目で行う。

・実習Ⅰは班別ローテート方式とする。

スケジュールは別紙の通り。（58 期生臨床実習Ⅰ日程表による）

２）実習Ⅱ

・17 科目で行う。

・実習Ⅱは完全配属方式とする。

実習の科目、班分け、日程は別紙の通り。（58 期生スケジュール一覧表による）

※調整中

・火曜日は、総合講義Ⅰがある場合は、臨床実習は行わない。

・第１土曜日に病院案内実習がある場合は、臨床実習日とする。

４．リクアイアメント

総合歯科学 200 点、その他の科目を各 100 点とし、17 科目合計 1800 点とする。

５．修了要件および評価方法

１）修了要件

下記の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）の要件を満たしていることを臨床実習修了の要件とする。

（１）全科目のリクアイアメントを 100%以上達成していること。

・前期リクアイアメント：原則として７月末の時点で全科目合計 650 点を達成すること。

・中期リクアイアメント：原則として 12 月末の時点で全科目合計 1500 点を

達成すること。
上記が達成できない場合は夏期、冬期休暇中の補習等を課す場合がある）

（２）臨床実習開始日（2026 年 4 月 10 日）から臨床実習終了日（2027 年 2 月 25 日）までの臨床実習の全日程において、４/５以上出席していること。

（３）臨床実習後臨床能力試験「一斉技能試験」および「臨床実地試験」に合格していること。

（４）介護体験実習および地域医療体験実習を修了していること。

（５）岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

２）評価法

（１）基礎点

① 修了要件の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）を満たしている場合、基礎点を 65 点とする。

② 修了要件の（１）、（２）、（３）、（４）、（５）のいずれか一つを満たしていない場合、基礎点を 0 点とする。

（２）総合評価点

① 各科目において、臨床実習の到達度評価を行い 35 点満点で評価する。

② 17 科目の総合評価の点数の平均を臨床実習の総合評価点とする。

（３）臨床実習の評価点

① 基礎点に総合評価点を加えた点数を臨床実習の評価点とする。

② 評価点が 65 点以上を臨床実習修了とする。

第５８期生臨床実習　実習科目・担当分野

	科　　目	担当分野
1	総合歯科学	
2	予防歯科学	予防歯科学分野
3	歯内治療学	う蝕治療学分野
4	保存修復学	
5	歯周病学	歯周療法学分野
6	有床義歯補綴学	有床義歯・ 口腔リハビリテーション学分野
7	摂食嚥下・ 口腔リハビリテーション学	
8	冠橋義歯補綴学	冠橋義歯・ 口腔インプラント学分野
9	口腔インプラント学	
10	口腔外科学	口腔外科学分野
11	歯科麻酔学	歯科麻酔学分野
12	歯科放射線学	歯科放射線学分野
13	歯科矯正学	歯科矯正学分野
14	小児歯科学	小児歯科学・ 障害者歯科学分野
15	障害者歯科学	
16	内科学	関連医学分野
17	臨床薬学	薬剤部

2026 年度 歯学部　看護・介護体験実習 実施要領

実施責任者：石河　太知　教授（分子微生物学分野）

教育成果（アウトカム）

学外連携教育プログラムの一環として実施する看護・介護体験実習の学内・外施設での実習を第 1 学年において実際に体験することにより全人的医療とその意義を理解できる。また、介護体験実習を第 5 学年で再体験することにより全人的医療ならびにチーム医療とその意義をより深く理解できる。

実習期間

2026 年 10 月 6 日（火）～ 10 月 16 日（金）のうち、医学部、看護学部と連携し

1 年生：看護体験 4 日間・介護体験 4 日間

5 年生：介護体験実習 2 日間

実習施設

【看護体験】　本学附属病院

【介護体験】　盛岡市近郊の介護保険施設等

※実習先は医学部、看護学部と調整したうえで最終決定する。

実習方法

【看護体験】・1 年生を班毎に各病棟に配属し、4 日間の実習とする。

【介護体験】・1 年生を班毎に各施設に配属し、4 日間の実習とする。

・5 年生（臨床実習生）を班毎に各施設に配属し、2 日間の実習とする。

※一班あたりの人数は、受入側と調整したうえで決定する。

評価方法

＜1 年生＞

【看護体験】・看護部からの評価

【介護体験】・介護施設からの評価

・補填課題による評価

※それぞれの実習取り組み状況及び発表会の内容・態度を上記評価に加味して最終評価とする。

＜5 年生＞

【介護体験】・評価は実習取り組み状況及びレポート等により行う。

・本実習を臨床実習の修了要件の一つとする。

事前ガイダンス

＜1 年生＞

2026 年 9 月 4 日（金）　14 時 40 分～

2026 年 9 月 30 日（水）14 時 40 分～（歯科医学概論）

＜5 年生＞

2026 年 9 月 29 日（火）14 時 40 分～

発表会（1 年生のみ）

2026 年 11 月 20 日（金）10 時 30 分～16 時 10 分

2026 年度 第 5 学年地域医療体験実習 実施要領

実施責任者：浅野　明子 准教授（う蝕治療学分野）

1. 教育成果（アウトカム）

　学外連携教育プログラムの一環として実施する第 5 学年地域医療体験実習を通じて地域における歯科医療の実情を認識できるようになり、その意義についても理解できるようになる。

2. 到達目標

（１）歯科医療と地域社会との連携を説明できる。
（２）地域社会における歯科医療の多彩な役割を具体的に説明できる。
（３）種々の歯科の診療形態とチーム医療について説明できる。

コア・カリキュラム番号　C-7-2、E-6-1、E-6-2

3. 実習概要

（１）実習期間　　2026 年 9 月 1 日（火）～11 月 30 日（月）
　　※上記期間の内 1 日ないし２日
（２）実習施設　　岩手県内の国保歯科診療所他　9 施設
　　秋田県内病院　1 施設
　　青森県内病院　1 施設

4. 実習にあたっての一般的注意事項

- 実習生としての言葉づかい、態度、服装に注意をはらうこと。
- 自己の所在を常に明確にし、遅刻、欠席の際には必ず連絡をとること。
- 実習に際しては、指導者の指示に従うこととし、勝手な行動はとらないこと。
　万一、不測の事態等が生じた場合は、直ちに指導者に報告し、指示を仰ぐこと。

5. 評価方法

　施設指導者による実習評価及びレポートにより評価し、臨床実習修了要件の一つとする。

6. 事前オリエンテーション

2026 年 8 月 24 日（月）　16 時 00 分～

2026 年度 第 5 学年高次臨床実習 実施要領

実施責任者：山田　浩之　教授（口腔外科学分野）

第 5 学年 高次臨床実習は、「学外の施設・機関との連携のもと、地域歯科医療、全人的医療および先進的医療についての理解を深める」ことを目的とする学外連携教育プログラムの一環として実施する。高次臨床実習は、学外の歯科医療機関あるいは他大学における実習を原則とするが、学内での実習も可とする。但し、学内講座・分野での実習も高次臨床実習というプログラムの中で行うものであることから､受講した学生のリクワイアメント等には反映させない。

【教育成果】（アウトカム）

学外の歯科医療機関あるいは他大学における実習を通じて、先進的歯科医療について説明できる。

【実施方法】

1．対象者

第 5 学年 臨床実習において、2026 年 10 月末日で 1150 点以上のリクワイアメントを達成のうえ、出席良好（2026 年 10 月末日で欠席率 5%未満）で成績優秀（総合講義Ⅰの前期試験成績が 75 点以上であること。）かつ高次臨床実習に強い熱意を有する学生で、受入れ機関の承認が得られた学生とする。歯学部臨床実習運営委員会からの推薦者の決定は、口腔医療センター長、歯科医療センター長、総ライター長による面接（2 名以上による面接）を経て行う。

資格判定は臨床実習運営委員会からの推薦のもとに教務委員会で行い、教授会の承認を得る。

2．実習期間

2027 年 2 月から 3 月までの期間のうちの 2 週間以内とする。

3．受入れ機関

高次臨床実習の受入れが承認された学外の歯科医療機関あるいは他大学及び学内講座・分野の 2 施設以内とする。

4．実習内容

受入れ機関に一任する。学内で受け入れる場合は、事前に教育プログラムを作成し、それに則り実施する。

5．その他

・一機関へ希望者が集中した場合、教務委員会で調整、選抜を行い、教授会の承認を得た後、学生に通知する。
・高次臨床実習にともなう準備費、交通費・滞在費等は個人負担とする。
・予防接種抗体価検査等の証明が義務付けられている場合は、受入機関の指示に従うこと。

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用機器・器具等の名称・規格		台数	使用区分	使用目的
総合歯科学				
LED光照射器　デミウルトラ		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習において学生外来での自験時にレジンやセメントの重合に使用するため
可撤式歯科用ユニット ユーティリオⅡ	ユーティリオⅡ	2	基礎実習・研究用機器 臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験・見学・介助、また相互実習等の実習全般に使用する
歯科用ユニット　シグノG20	シグノG20	1	基礎実習・研究用機器 臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験・見学・介助、また相互実習等の実習全般に使用する
オサダエナック	OE-11W	2	臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験に使用する
キャビトロンセレクトSPS		3	臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験に使用する
ルートZX mini		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験に使用する
予防歯科学				
卓上ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ（簡易ｶｽﾄ附属）	PS220	1	基礎実習・研究用機器	実習機材の滅菌
複写機	MEDIOir3300F	1	基礎実習・研究用機器	資料の作成・印刷
超音波ｽｹｰﾗｰｿﾙﾌｨZX	Ser.SG707	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ｲﾝｽﾂﾙﾒﾝﾄ専用ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ	DA-5L452280	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
歯科ﾕﾆｯﾄ(ｽﾏｲﾘｰ)	Z-L251LL	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	LetsnoteB3ﾉｰﾄCF-E5KW8AAXS	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習のプレゼンテーション用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	ThinkPadT43P2668-Q2J	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習のプレゼンテーション用
歯面清掃器（エアフロー）一式	SI	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
デジタルカメラ一式（F2.8レンズ＋フラッシュ＋アダプタ）	D5000他	1	臨床実習用機器	口腔内写真撮影実習及び症例収集
ＬＥＤ光重合器ペンキュアー	107-360 Ser.XI0111	1	臨床実習用機器	臨床実習用
一眼レフ・デジタルカメラ・EOS	K-x	1	臨床実習用機器	臨床実習用資料（口腔内写真）撮影用
マイクロモータートルクタイプ	LM-Ⅲ	1	臨床実習・診療用機器	口腔の外傷予防に関する臨床実習でデモに使用
デジタル一眼レフカメラ　一式	EOS 8000D	1	臨床実習・診療用機器	演習用問題作成、臨床実習用および診療用機器
デスクトップパソコン	Endeavor MR4800E	1	視聴覚用・基礎実習用機器	講義資料の作成
デスクトップパソコン	Endeavor AT994E	1	視聴覚用・基礎実習用機器	講義資料の作成
デスクトップパソコン一式	MR4800E	1	視聴覚用・基礎実習用機器	講義資料の作成
ノートパソコン Dell latitude-9410	NBLA096-401N3	1	視聴覚用・基礎実習用機器	講義資料の作成、学生への講義・プレゼンテーション
バイオ冷凍庫	ALS-657HC	1	研究用・基礎実習・臨床実習用機器	実験、実習試料及び試薬の保存
歯内治療学				
ﾘﾝｸﾞﾌｧｰﾈｽ	TMF-500	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用
根管長測定機能付根管拡大装置一式	Ser.SE5092	1	臨床実習・診療用機器	歯内療法学の臨床実習及び診療用
生態情報ﾓﾆﾀｰ一式	BX-10ne	1	臨床実習・診療用機器	患者のモニタリング用
無針注射器	ｼﾘｼﾞｪｯﾄ	1	臨床実習・診療用機器	局所麻酔用
ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ用口腔内ｶﾒﾗ	ｸﾘｽﾀﾙｶﾑⅡ	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ﾊｲﾌﾞﾗｽﾀｰｵｰﾊﾞﾙｼﾞｪｯﾄLｸﾘｰﾅｰ一式	SHB-OJI	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用

ﾓﾉｸﾛ複写機	IR2230F	1	視聴覚用機器	講義・実習資料作成用
ｵｰﾄﾙｰﾌﾞ一式	V260509	1	臨床実習・診療用機器	切削用ハンドピースのメンテナンス用
ﾈｵｽｰﾊﾟｰｷｬｽｺﾑ一式	ﾋｰﾀｰ加熱真空加圧鋳造機	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用
超音波スケラー（バリオス）	VA560　標準	1	臨床実習・診療用機器	スケーリングに使用
パソコン	2133	1	視聴覚用機器	講義・実習用の資料提示用
歯科用実体顕微鏡	DMS25ZC30	1	臨床実習・診療用機器	学生への症例術野の提示 外科的歯内療法の治療
ノートブックパソコン　MacBookPro	MC026J/A	1	視聴覚用機器	講義・実習用のプレゼンテーション
歯面漂白用加熱装置・コスモブルー一式	プレミアムホワイト	1	臨用実習用機器	臨床実習に於いて光重合型充填材の重合に使用
エンドマスター	#1060 ISO-E	1	臨床実習用機器	臨床実習における歯内療法で使用
ケア３プラスC1タイプ大学仕様		1	臨床実習用機器	臨床実習におけるタービン・エンジンのメンテナンスに使用
スリムプロジェクター	XJS68	1	視聴覚用機器	講義・実習のプレゼンテーションに使用
ノートパソコン	LL750VGW	1	視聴覚用機器	講義・実習のプレゼンテーションに使用
デジタルカメラ・オーラショットⅢ	261-003	1	臨床実習用機器	症例の記録に使用
歯科用重合用光照射器ブルーショット		7	臨床実習用機器	光重合型及び光硬化型の材料を用いた成形修復で使用
ノートパソコン	FMVLME10W2	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション及び実習のデモに使用
カラーレーザープリンター	LBP7200CN	1	視聴覚用（学部授業他）機器	講義の資料作成
スキャナー	GT-X970	1	視聴覚用（学部授業他）機器	講義の資料作成
デスクトップパソコン一式	S713A5B/21W2	1	視聴覚用（学部授業他）機器	講義の資料作成
カラーレーザープリンター一式	LBP7200CN	1	視聴覚用（学部授業他）機器	講義の資料作成
iPad 一式	128GB	1	視聴覚用機器	講義・実習時の資料提示
トロリー	OTE-01	1	臨床実習用機器	Dream EGG保管台として使用 学生に見易く提示する
クリスタルアイ エコノミーセット	CE100-DC/JP	1	臨床実習用機器	学生外来での側色
咬合器 H20型	602-002	2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
超音波スケーラー キャビトロンセレクトSPS	667-127	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
咬合器 ディナーマークⅡ		2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
咬合器フェイスボウ		2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
歯科用ユニット　スマイリー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
Ｘスマートプラス		1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
電熱式根管プラガ・ダイアペン	630-200	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
歯科根管材料電気加熱注入器・ダイヤガン	630-100	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
ベッドサイドモニタ	DSL-8001R	1	臨床実習用機器	生体モニターの取扱いを体得（臨床実習）
ｉｐａｄＡｉｒ　Ｗｉ-Ｆｉ 32ＧＢ	MD789JA	2	臨床実習用機器	患者への説明、レントゲン等に使用
歯科用口腔内カメラ・デンタルアイ・S	EJ-CA01NP	1	臨床実習用機器	臨床実習の口腔内撮影時に使用
歯科用ユニット・スマイリーGP2－MS1211		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習自験用ユニット
オープン保管庫	L5-G210EW4	3	基礎実習・研究用機器	講義実習の資料保存
根管充填システム（ゼネシスフィル一式）		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における治療手技の説明

デンタポート根管測定モジュール	DD-RCM2	10	基礎実習・研究用機器 臨床実習・診療用機器	臨床実習における治療手技の説明　見学　自験に使用
オサダエナック10W	OE-10W	4	臨床実習・診療用機器	臨床実習における治療手技の説明　見学　自験に使用
高精度根管長測定器 ルートZxmini	201070390	5	基礎実習・研究用機器 臨床実習・診療用機器	歯内療法学基礎実習における治療手技の説明 臨床実習における　見学 自験に使用
ノートパソコン　Lavie一式	NEC	1	基礎実習・研究用機器 視聴覚用（学部授業他）機器	講義　実習の資料提示用
アイスペシャル　デジタル口腔撮影装置	C-3	2	臨床実習用機器	臨床実習における症例記録のため
ゼネシスフィル一式		1	臨床実習用機器	臨床実習における垂直加圧充填法の見学、体得に使用する
ゼネシスパック一式		1	臨床実習用機器	臨床実習における垂直加圧充填法の見学、体得に使用する
一眼レフカメラ　EOS kiss X10	EOS KissX10 ブラック	1	臨床実習用機器	臨床実習で患者口腔内を撮影し資料採取するため

保存修復学

ﾘﾝｸﾞﾌｧｰﾈｽ	TMF-500	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用
生態情報ﾓﾆﾀ一式	BX-10ne	1	臨床実習・診療用機器	患者のモニタリング用
無針注射器	ｼﾘｼﾞｪｯﾄ	1	臨床実習・診療用機器	局所麻酔用
ｲﾝﾌｫｰﾑﾄﾞｺﾝｾﾝﾄ用口腔内ｶﾒﾗ	ｸﾘｽﾀﾙｶﾑⅡ	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ﾊｲﾌﾞﾗｽﾀｰｵｰﾊﾞﾙｼﾞｪｯﾄLｸﾘｰﾅｰ一式	SHB-OJI	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用
ﾓﾉｸﾛ複写機	IR2230F	1	視聴覚用機器	講義・実習資料作成用
ｵｰﾄﾙｰﾌﾞ一式	V260509	1	臨床実習・診療用機器	切削用ハンドピースのメンテナンス用
ﾈｵｽｰﾊﾟｰｷｬｽｺﾑ一式	ﾋｰﾀｰ加熱真空加圧鋳造機	1	臨床実習・診療用機器	鋳造修復物作製用
超音波スケーラー （バリオス）	VA560　標準	1	臨床実習・診療用機器	スケーリングに使用
パソコン	2133	1	視聴覚用機器	講義・実習用の資料提示用
歯科用実体顕微鏡	DMS25ZC30	1	臨床実習・診療用機器	学生への症例術野の提示
ノートブックパソコン　MacBookPro	MC026J/A	1	視聴覚用機器	講義・実習用のプレゼンテーション
歯面漂白用加熱装置・コスモブルー一式	プレミアムホワイト	1	臨用実習用機器	臨床実習に於いて光重合型充填材の重合に使用
エンドマスター	#1060 ISO-E	1	臨床実習用機器	臨床実習における歯内療法で使用
ケア３プラスClタイプ大学仕様		1	臨床実習用機器	臨床実習におけるタービン・エンジンメンテナンスに使用
スリムプロジェクター	XJS68	1	視聴覚用機器	講義・実習のプレゼンテーションに使用
デジタルカメラ・オーラショットⅢ	261-003	1	臨床実習用機器	症例の記録に使用
歯科用重合用光照射器ブルーショット		7	臨床実習用機器	光重合型及び光硬化型の材料を用いた成形修復で使用
ノートパソコン	FMVLME10W2	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション及び実習のデモに使用
歯面漂白用加熱装置・コスモブルー一式	プレミアムホワイト	1	臨床実習用機器	漂白治療及びその教育
自動精密切断機一式	ｱｲｿﾒｯﾄ1000	1	基礎実習・研究用機器	研究用試料、教育試料作成
ケア３プラスClタイプ大学仕様		1	臨床実習用機器	回転器具整備とその教育
ノートパソコン	VS586PC-AAAA	1	視聴覚用機器	講義のデモ・資料作成
ハードディスクレコーダー	NYXｽｰﾊﾟｰ･120GBﾛｸﾗｸ	1	視聴覚用機器	講義のデモ・資料作成 （ビデオ作成）
デスクトップパソコン一式	PCs5550jp	1	視聴覚用機器	講義のデモ・資料作成

パソコン	FMV BIBLO NF70Y	1	視聴覚用機器	講義および配布資料作成用
自動精密切断機一式	プレミアムホワイト	1	基礎実習・研究用機器	研究用試料、教育用試料作成
エンドマスター	#1060 ISO-E	1	臨床実習用機器	歯内治療及びその教育
ケア３プラスClタイプ大学仕様		1	臨床実習用機器	回転器具整備とその教育
ノートパソコン	VS586PC-AAAA	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のデモ、資料作成
ハードディスクレコーダー	NYXｽｰﾊﾟｰ･120GBﾛｸﾗｸ	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のデモ・資料作成（ビデオ作成）
デスクトップパソコン一式	PCs5550jp	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のデモ・資料作成
ノートパソコン	FMVP775A	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のデモ・資料作成
生体情報モニター・一式	HBP-2070-NEXT	1	臨床実習用機器	臨床実習時の治療・見学用
双眼ルーペ	EyeMagﾌﾟﾛSﾀｲﾌﾟ	1	基礎実習・臨床実習用機器	臨床実習時の治療・見学用
自動注油装置・オートルーブ	OAL-1	1	臨床実習用機器	臨床実習使用機器のメンテナンス用
歯科用顕微鏡・デンタ300　フロアスタンド式	ﾌﾛｱｽﾀﾝﾄﾞ式	1	臨床実習用機器	臨床実習時の治療・見学用
デスクトップパソコン	VPCJ136FJW1	1	視聴覚用機器	授業配布資料作成用
デスクトップパソコン	iMac 27ｲﾝﾁ	1	視聴覚用機器	授業配布資料作成用
ノートパソコン・レッツノートプレミアムエディション	J10 CF-J10DELP	1	視聴覚用機器	授業配布資料作成用
拡大鏡・マイクロアジャスタブルＴＴＬルーペⅡ2.5倍	Kat00001	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
ロクラクⅡLimitedスーパー・シルバー	ROKU2-LU-300G-SS	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
双眼ルーペ・フリップアップタイプ		1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
カラープリンター	LP-S7100R	1	視聴覚用機器	授業配布資料作成
汎用歯科用照明器・MiCDルーペライト一式	LL-LED	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
技工用エンジン・アルチメイトXL　トルクセット	UMXL	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
光重合レジン照射器	ﾌﾞﾙｰｼｮｯﾄ	2	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
超音波洗浄器・エナック10W	超音波洗浄器・エナック10W	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
アルコン型半調節性咬合器・顔弓	ﾏｰｸⅡ･ﾌｪｲｽﾎﾞｳ	3	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
生体情報ライフモニター	OPV-1510	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
加熱根管充填システム・システムBスターターキット	P0034050	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
超音波洗浄器スピードソニック	2510-MT	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
歯科用電動注射器・みずいらずF&FDC-1801ｶｰﾄﾘｯｼﾞﾀｲﾌﾟ	729-756	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
高周波電気メス　プログ-F横型	103-250	1	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
根管長測定器デンタポートモジュールDR-RCM2	107-380	2	基礎実習・臨床実習用機器	基礎実習の指導及び臨床実習の治療・見学用
超音波スケーラー・キャビトロンセレクト		1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション
技工用電気レーズ・ラボラトリーレーズ	LL2	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互体験実習
サージテルオークリーレダー	AsianMode	1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション
手術用マイクロスコープ　アレグラ330顕微鏡一式	アレグラ330	1	臨床実習用機器	症例提示用
プロジェクター　一式	LV-8225	1	臨床実習用機器	症例プレゼン用
ビデオカメラ	HDR-CX590V	1	臨床実習用機器	症例資料作成
歯科用電動注射器・カートリーエースプロ	729-290	1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション

口腔外サクション・フリー亜ムーフォルテS		2	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション
コンダイラー型半調節性咬合器・ハノー咬合器	H20	3	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション
生体モニター架台	KC-012P	1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション 相互体験実習
オートクレーブ滅菌器・プチクレーブ	DA-8	1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション 相互体験実習
ハンドピースメンテナンス装置	107475	1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション 相互体験実習
超音波スケーラー・キャビトロンセレクト		2	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション 相互体験実習
歯髄診断器・パルプテスター		1	臨床実習用機器	臨床実習でのデモンストレーション 相互体験実習
iPad 一式	128GB	1	視聴覚用機器	講義・実習時の資料提示
トロリー	OTE-01	1	臨床実習用機器	Dream EGG保管台として使用 学生に見易く提示する
クリスタルアイ エコノミーセット	CE100-DC/JP	1	臨床実習用機器	学生外来での側色
咬合器 H20型	602-002	2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
超音波スケーラー キャビトロンセレクトSPS	667-127	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
咬合器 ディナーマークⅡ		2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
咬合器フェイスボウ		2	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の診断・治療に使用
歯科用ユニット　スマイリー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
Ｘスマートプラス		1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
電熱式根管プラガ・ダイアペン	630-200	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
歯科根管材料電気加熱注入器・ダイヤガン	630-100	1	臨床実習用機器	臨床実習の自験患者の治療に使用
ベッドサイドモニタ	DSL-8001R	1	臨床実習用機器	生体モニターの取扱いを体得（臨床実習）
ｉｐａｄＡｉｒ　Ｗｉ-Ｆｉ 32ＧＢ	MD789JA	2	臨床実習用機器	患者への説明、レントゲン等に使用
歯科用口腔内カメラ・デンタルアイ・S	EJ-CA01NP	1	臨床実習用機器	臨床実習の口腔内撮影時に使用
歯科用ユニット・スマイリーGP2－MS1211		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習自験用ユニット
オープン保管庫	L5-G210EW4	3	基礎実習・研究用機器	講義実習の資料保存
咬合器（プロターEV07）	EV07	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における、咬合の診査や補綴・修復物作成
フリーアーム．アルテオS（口腔外用サクション）	フリーアーム．アルテオS	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習見学、自験時に口腔外で発生する切削片を吸引する。
オサダエナック10W	OE-10W	4	臨床実習・診療用機器	臨床実習における治療手技の説明　見学　自験に使用
ノートパソコン　Lavie一式	1Y1708231004NR	1	基礎実習・研究用機器 視聴覚用（学部授業他）機器	講義　実習の資料提示用
アイスペシャル　デジタル口腔撮影装置	C-3	2	臨床実習用機器	臨床実習における症例記録のため
レーザープリンター	LBP651C	1	基礎実習・研究用機器 視聴覚用（学部授業他）機器	実習、講義の配布資料作成
一眼レフカメラ　EOS kiss X10	EOS KissX10 ブラック	1	臨床実習用機器	臨床実習で患者口腔内を撮影し資料採取するため

歯周病学

ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ制御麻酔注射器ﾜﾝﾄﾞ		1	臨床実習・診療用機器	無痛的麻酔
診療用ﾕﾆｯﾄ一式	SPｼｪﾗﾕﾆｯﾄ	1	臨床実習・診療用機器	歯周治療用

液晶ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	LV-7355	1	視聴覚用機器	症例のプレゼンテーション用
歯科用ﾕﾆｯﾄ(ｴｽﾃｵﾆｰﾌﾚｯｸｽ)	KF-F	1	臨床実習・診療用機器	外来診療に使用する
超音波スケーラー	キャビトロンSPS	2	臨床実習・診療用機器	歯石の除去処置
キセノン式無影灯	ＸＬ－１Ｐ	1	臨床実習・診療用機器	歯周外科処置時の照明
全自動血圧計	BP-203RVⅢC	1	臨床実習・診療用機器	歯周外科における術中管理
生体情報モニタ	OPV-1512	1	臨床実習機器	高血圧患者の歯周治療時及びオペ時のモニタリング
ミニタワーＰＣ	OptiPlex360カスタマイズ	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
デスクトップパソコン	PC-MJ18XC278	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
スキャナー	GT-X970	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
デスクトップパソコン・Inspiron	One19･ﾌﾟﾚﾐｱﾑﾊﾟｯｹｰｼﾞ	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
ノートパソコン・一式	Inspiron1564	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
ノートパソコン一式	VPCS11AGJ	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
デスクトップパソコン・一式	3.02GHz9400M	1	視聴覚用機器	症例及び講義の編集・プレゼンテーション用
外科録画システム・オペ録		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例の録画、学生へのプレゼンテーション用
デジタルハイビジョン液晶モニター一式	ｱｸｵｽ26ｲﾝﾁ	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例の解説用
ノートパソコン・一式	CF-S9LWEJDS	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用
液晶ディスプレイ	S2243W-HXBK	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション用 症例提示用
Ｅｒ・ＹＡＧレーザー装置　アーウィンアドベール	MEY-1	1	臨床実習用機器	適応症例への使用と学生教育用
液晶プロジェクター	LV-8320	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	学生への講義及びケースプレゼンテーション用
ソニックテクノ 歯科用デジタルカメラ	DC17-PRO	1	基礎実習・研究用機器 臨床実習用機器	講義・実習時の資料作成用
ノートパソコン	PV83228HNMS	1	基礎実習・研究用機器 臨床実習用機器	講義・実習時の資料作成用
サージテルライト Microオデッセイ		1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける術野の説明
ノートパソコン 一式	SVP1121A2J	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料提示用
マイクロスコープ ブライトビジョン	LED5011	1	臨床実習用機器	臨床実習における手術野の明示
コピー機 imageRUNNER ADVANCE	C5235F	1	基礎実習・研究用機器	講義の配布資料作成
ノートパソコン	CF-LX3HEQBP	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料提示用
歯科用デジタルカメラ・CanonEOS７ＯＤ仕様一式	DC-PRO/GP3	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける患者データ（口腔内写真）取得用
デスクトップパソコンiMac21.5　カスタマイズZOPE一式	ZOPE/MD5642M/A	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける臨床症例データ解析用
歯科用ユニット	G20	1	臨床実習・診療用機器	外来診療に使用
ソニックフレックスLIX	2003L	5	臨床実習・診療用機器	臨床実習における、歯石除去、口腔清掃などに使用 自験・見学に使用
フリーアーム．アルテオS（口腔外用サクション）	フリーアーム．アルテオS	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習見学、自験に口腔外で発生する切削片を吸引する。
iPad mini Wf-fi256G	MUU32J/A	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	ケースプレゼンテーション用
ノートパソコン	CF-LV8SDKVS	1	視聴覚用機器	講義の資料提示用（プレゼンテーション）
歯科用ユニット	EOM-REGARO-CSS	1	臨床実習用機器	臨床実習（歯周治療）

有床義歯補綴学

ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀｰ	LP-9400	1	視聴覚用機器	講義および実習の配布資料作成用

ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀ	SATERA LBP3800	1	視聴覚用機器	講義および実習の配布資料作成用
ﾃﾞﾅｰﾏｰｸⅡ（５０台）		1	基礎実習専用機器	補綴学の基礎実習で使用
ﾊﾟｿｺﾝ	ﾃﾞｨﾒﾝｼｮﾝ9150	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習の配布資料作成用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	DellPrecision	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習の配布資料作成用
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	XPSM1210	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習の配布資料作成用
デジタルハイビジョンＤＶＤビデオカメラ	ＨＤＣ－ＳＸ５－Ｓ	1	視聴覚用機器	講義および実習の配布資料作成用
ノートパソコン一式	ＶＧＮ－ＡＲ94ＵＳ	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習の配布資料作成用
ノートパソコン　Ｌｅｔｓ　ｎｏｔｅ ＬＩＧＨＴ	CF-W5MW8AAJR	1	視聴覚用機器	講義および実習の配布資料作成用
パソコン	Vostro Desktop 400TM	1	視聴覚用機器	講義および実習の配布資料作成用
実験用ミニふるい振とう機	MVS-1	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における咀嚼能率試験の判定に使用
マイクロモーターパル	103-240	1	基礎実習・研究用機器	基礎実習・臨床実習時のデモを行う際に使用
定温乾燥機	1-7477-01	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における咀嚼能率試験の判定に使用
咀嚼嚥下舌圧計測システム		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における嚥下動態のデモを行う際に使用
パソコン	Vostro Desktop	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
吸引器	ミニックDC	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における摂食嚥下リハビリテーションのデモに使用
センサーインターフェイス	PCD-350B	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における義歯床下粘膜の動態をモニターし供覧
フィットレジンインジェクター	1	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における義歯製作のデモに使用
スプラソンP-MAX	プラス	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における予後管理のデモに使用
歯科用ユニット	R582812	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における診療全般のデモに使用
生体情報モニター	OPV-1512	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における患者全身管理のデモ用
カメラヘッド	OYV-S7H-1N	1	視聴覚用機器 臨床実習機器	摂食嚥下障害の臨床診査の説明
デジタルビデオカメラ	TG1	1	視聴覚用機器 臨床実習機器	実習デモ製作や臨床実習における症例提示
パソコン　一式	90NS	1	視聴覚用機器	症例提示
パソコン　一式	VGN-TZ93US(Ultimate)	1	視聴覚用機器	症例提示
ビデオシステムセンター	OTV-S1	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用
インプランターNeo	Neo	1	臨床実習用機器	症例術式の説明
ノートパソコン	Macbook 13ｲﾝﾁ ｱﾙﾐﾆｳﾑZOFU	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
ノートパソコン一式	Macbook 13ｲﾝﾁ ｱﾙﾐﾆｳﾑZOFU	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
デナーマークⅡ　咬合器パック	760206	1	臨床実習用機器	症例術式の説明
HDビデオカメラ	IVIS HF20	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用
HDD (NAS)	TS-X4.0TL/R5	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用試料保存
大容量ハードディスク (RAID対応)	HD-QS4.0TSU2/R5	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用試料保存
ｉMac 24ｲﾝﾁＰＣ	iMac 24ｲﾝﾁ	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用製作
パソコンMacBook 2.13GHｚ Core2Duo/13.3	MC240J/A	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義のプレゼンテーション用製作
フィットレジンマルチキュア		1	臨床実習用機器	技工操作の術式説明
大判プリンターImagePROGRAF	iPF8100	1	臨床実習用機器	配布資料の作製用

オクルーザ709		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	臨床実習における診査・診断説明
PCカード型高速データ収集システム一式	NR-350	1	臨床実習用機器	講義プレゼンテーション資料収集と保存
パーソナルコンピュータ　VAIO	VGN-FW73JGB	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例プレゼンテーション用資料の作製
アルチメイトXT標準セット	UMXL-GT	1	臨床実習用機器	臨床実習の術式説明
HDビデオウォークマン	GV-HD700	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション資料収集と保存
PENTAXファイバースコープビデオシステム一式		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	摂食嚥下障害の臨床診査の説明
パーソナルコンピュータVAIO	VGN-TT93HS	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例プレゼンテーション用資料の作製
CAPT-PLUS・チェアサイド義歯調整用サクションLEDライト付		1	臨床実習用機器	技工操作の説明
デナー・マークⅡ咬合器		3	臨床実習用機器	症例術式の説明
筋電アンプ一式		1	臨床実習用機器	顎機能検査を用いた診査・診断説明
ボルバー	３５RV	1	臨床実習用機器	義歯製作のデモに使用
冷蔵庫	R-S31XMV	1	臨床実習用機器	臨床実習使用材料の保管
頭蓋骨模型	P-10-SB.12	1	臨床実習用機器	義歯製作のデモに使用
デジタルビデオカメラ	HDCTM300	1	臨床実習用機器	臨床実習時のデモに使用
デジタル液晶モニター13V	LC-13SX7A	1	臨床実習用機器	臨床実習での摂食嚥下リハビリテーションのデモに使用
RAIDハードディスク	HD-QS2.0TSU2/R2	1	臨床実習用機器	資料の保管
HDビデオカメラ	ivis HFR10(RD)	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
デスクトップパソコン一式	FRM90621A	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
液晶ディスプレイ	SX2262WPXBK	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
デナー・マークⅡ	760327	2	臨床実習用機器	臨床実習における補綴治療の際に使用
ノートパソコン	PATX66LRTWH	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
デスクトップパソコン	HPE-290jp/CT	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
電子辞書	XD-A5900MED	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
MICDルーペ	ﾚｷﾞｭﾗｰR60	1	臨床実習用機器	臨床実習での治療の際に使用
ROHS8.4液晶モニター	CM-840Ⅱ	1	臨床実習用機器	臨床実習での治療の際に使用
デスクトップパソコン	VPCJ11AFJ	1	基礎実習・研究用機器	講義および実習配布資料の作成
カラーレーザープリンター	SateraLBP7200C	1	基礎実習・研究用機器	授業配布資料の作成
内視鏡用光源装置（ハロゲン光源装置）	LH-150PC	1	臨床実習用機器	臨床実習での治療の際に使用
アルチメイトXL	UMXL-GT	1	臨床実習用機器	臨床実習での治療の際に使用
デジタルビデオカメラ	ivis HFS21	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
集塵機	CAPT-PULUS	1	臨床実習用機器	臨床実習における技工操作時での使用
アルコン型半調節性咬合器	ﾃﾞｨﾅｰﾏｰｸⅡ	5	臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用
患者説明用模型・ティースモデル	保険･自費対比型	1	臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用
歯科用ユニットGコンパクトｉ　オーバーアームタイプ		1	臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用
拡大鏡・EyeMagPRO	Sﾀｲﾌﾟ　3.6×350		臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用
筋電アンプ一式	EMG-02100	1	臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用

デスクトップコンピュータ	MDV-AGG9210X	1	基礎実習用機器	授業および実習配布資料の作成
ノートパソコン	VAIO･typeS･VPCS13AGJ_Pro	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
LEDヘッドライト	H60	1	臨床実習用機器	臨床実習での補綴治療の際に使用
デスクトップパソコン	Inspiron580S	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料作成用
デスクトップパソコン	StudioXPS8100	1	基礎実習用機器	授業及び実習配布資料作成用
ノートパソコン	MC516J/A Education	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX5 LKIT	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーション用
味噌用測色計カラーリーダー	CR-13	2	基礎実習用機器	授業および実習配布資料作成用
ノートパソコン・VAIO　一式	VPCZ21AJ	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
内視鏡用ビデオシステム	PSV-4000	1	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究データの解析用
デナー・マークⅡ咬合器		3	基礎実習用機器	授業のデモ及び研究症例治療用
光照射器　GライトプリマⅡ		1	臨床実習用機器	臨床実習における補綴治療の際に使用
パルプテスター	20T26-40818	1	臨床実習用機器	臨床実習における補綴治療の際に使用
HDビデオウォークマン	GV-HD700	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
プロジェクター	EB-X12	1	視聴覚用機器	講義・症例プレゼンテーションに使用
みきさん２　アルギン酸練和器		1	臨床実習用機器	臨床実習時のアルギン酸印象材の練和に使用
スプラソン P-MAX+		1	臨床実習用機器	臨床実習時の患者メンテナンス等に使用
口腔外バキューム フリーアームアルティオ	S	2	臨床実習用機器	臨床実習時の義歯等の切削片を吸引する。
義歯作成・イボベースシステム一式		1	臨床実習用機器	有床義歯製作及び学生への示説、見学に使用
歯科用ユニット・特別仕様一式	EOM-REGARO-Oss	1	臨床実習・診療用機器	診療参加型臨床実習における患者診察および見学に使用する。
デジタルビデオカメラ Ｈａｎｄｙｃａｍ　一式	ＨＤＲ－ＣＸ680	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
フリーアーム.アルテオＳ（口腔外用サクション）	フリーアーム.アルテオＳ	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
キュート　カートリッジタイプ	DC2C	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
低温冷凍冷蔵庫	DF25	1	臨床実習機器	臨床研究の説明の為の試料保存

冠橋義歯補綴学

ﾘﾝｸﾞﾌｧｰﾈｽ	TMF-500	1	臨床実習・診療用機器	技工物の作成
歯科診療用ﾕﾆｯﾄ一式	ｽﾏｲﾘｰﾉｰﾍﾞﾙ21L-231LL	1	臨床実習・診療用機器	補綴診療に使用
ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ	SDM-M81	1	臨床実習・研究用機器	実習・講義の資料作成用
ﾅｿﾍｷｻｸﾞﾗﾌ一式	JM-1000G	1	臨床実習・診療用機器	下顎運動（顎関節症）の観察・評価に使用する
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ一式	CoolPix995	1	臨床実習・診療用機器	外来診療における症例の記録に使用する
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式(MOﾄﾞﾗｲﾌﾞ付)	PCG-FX55V/BP	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
ｼｭﾐﾚｰｼｮﾝﾕﾆｯﾄ		1	基礎実習および臨床実習用機器	臨床実習・基礎実習におけるシミュレーション実習に使用
支台歯形成技能評価ｼｽﾃﾑ		1	基礎実習および臨床実習用機器	支台歯形成の評価用
切削ｼｭﾐﾚｰｼｮﾝ装置	ESC-2	1	基礎実習および臨床実習用機器	支台歯形成のシミュレーション実習に使用
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ一式	Canon　EOS　KISS　Digital	1	臨床実習・診療用機器	症例説明およびプレゼンテーション用
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	VAIOPCG-ZIX/P	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用

歯科用視野拡大装置	EVW200N	2	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ﾊｲﾌﾞﾗｽﾀｰｵｰﾊﾞﾙｼﾞｪｯﾄLｸﾘｰﾅｰ一式	SHB-OJI	1	臨床実習・診療用機器	外来診療の技工操作に使用
歯科用ﾕﾆｯﾄ一式	EOM-ΣOS	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ｵﾍﾟﾚｰｻﾞｰPRO	200225	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	CF-W5KWAXR	1	臨床実習・診療用機器	歯冠色データの解析に使用する
歯科用CAD/CAMｼｽﾃﾑ	DECSYSCAN	1	臨床実習・診療用機器	外来診療における技工物製作に使用
ﾊﾝﾃﾞｨﾏﾙﾁｽﾍﾟｸﾄﾙｶﾒﾗ一式	CE-N9019099	1	臨床実習・診療用機器	歯冠色構築システムとして使用する
プロターevo7咬合器一式	PROTAR　evo７	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
デジタルカメラ一式	D80	1	基礎実習および臨床実習用機器	講義・実習のための資料収集と作成
クリスタルアイエコノミーセット	CE100-PC/JP	1	基礎実習および臨床実習用機器	色彩の歯科に関する講義・実習のための資料収集と作成
ノートパソコン一式	PATX64H2LP	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション
HPワークステーション	RV725AV-AUYS	1	臨床実習用機器	講義・実習の資料ならびに症例のデータベース
携帯型筋電計バイオフィードバック装置	DL-3	1	臨床実習用機器	顎関節症患者の検査データの分析方法の理解のため
クイックビュー卓上タイプ	091-0010	1	臨床実習用機器	症例提示用
ビデオカメラ	HDCTM350	1	臨床実習用機器	臨床実習
ノートＰＣ	PARX2T8KLJ	1	視聴覚用機器	症例プレゼン用
ビデオカメラ	HDR-CX520V	1	臨床実習用機器	支台歯形成中の画像記録
スライドスキャナ・パワースライド		1	視聴覚用機器	スライド整理・症例プレゼン用
アイマグプロ（双眼ルーペ）	Fﾀｲﾌﾟ	1	臨床実習用機器	臨床実習における術式見学
プロジェクター	NP610J	1	視聴覚用機器	症例プレゼン用
一眼レフカメラ	D700 L24120KIT	1	臨床実習用機器	症例プレゼン用
液晶テレビ（モニター）	32H9000	1	視聴覚用機器	術式等説明用
カラーレーザープリンター　IPSIO・一式	SPC720	1	基礎実習・研究用機器	資料作成
液晶ディスプレイ	MDT221WTF	1	臨床実習用機器	グループ学習時のプレゼン用
KaVo_CAD／CAMエベレストシステム一式		1	臨床実習用機器	CAD.CAMによるクラウンブリッジ作製法を理解する
バリオス750標準セット	VA750LUX	1	臨床実習用機器	支台歯形成・スケーリングのために使用
電気エンジン・サクセス４０	OS-40	2	臨床実習用機器	技工練習
歯科重合用光照射器・ブルーショット	BS-01	1	臨床実習用機器	レジン築造法の習得
歯科用電気回転駆動装置・メルサージュプロセット		1	臨床実習用機器	技工練習
半調節性咬合器	ﾌﾟﾛｱｰﾁⅣ	1	基礎実習・研究用機器	咬合器使用法の習得
集塵機	CAPT-PULUS	1	臨床実習用機器	外来での技工物調整用
プロジェクター・長焦点レンズ付	LP-WM5500･LNS-T20	1	視聴覚用機器	症例提示用
口腔撮影用カメラ・Ｓｔｅｒｉ-1・一式	GX200	1	臨床実習用機器	臨床実習症例記録用
咬合器・KAVO　PROTER　EVO５　一式	EVO5	1	臨床実習用機器	臨床実習時の補綴装置作成のため
咬合器・KAVO　PROTER　EVO7	EVO7	1	臨床実習用機器	臨床実習時の補綴装置作成のため
歯科用拡大鏡・サージテル・スルーザレンズ・ルーペ一式	EVXiM250NｵｰｸﾘHJﾌﾞﾗｯｸ	1	臨床実習用機器	

ノートパソコン・ＶＥ680ＡＶ	4520S/CT	1	基礎実習・臨床実習用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
ノートパソコン	VPCYA19FJB	2	基礎実習・臨床実習用機器	実習（講義）の資料作成
ノートパソコン	PCLS550CSW	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習（講義）の資料作成
ジルコニア焼結用ファーネス一式（ＫａｖｏＥｖｅｒｅｓｔＴｈｅｒｍ）	4180	1	基礎実習・臨床実習用機器	ジルコニアフレーム（実習用）製作用
標準カラーカメラユニット・一式	VW-300C	1	基礎実習・臨床実習用機器	相互実習時の口腔内写真撮影用
ｉＰａｄ・一式	64GB Wifi	1	視聴覚用機器	実習（講義）資料作成用
サージテル・スルーザレンズ・ルーペ	EVCiM300NｵｰｸﾘHJﾌﾞﾗｯｸ	1	基礎実習・臨床実習用機器	
サージテルライトシステムコンパクトLEDライト	ｵﾃﾞｯｾｲﾜｲﾄﾞ	1	基礎実習・臨床実習用機器	
BSAソラリスミニ		1	基礎実習・臨床実習用機器	
デスクトップパソコン・FMVXDBTH2Z ESPRIMO	D581/CX	1	基礎実習用機器 視聴覚用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
歯科用拡大鏡・サージテルルーペ・オークリレーダー	EVK450	1	基礎実習・臨床実習用機器	
デスクトップパソコン・MateJ・一式	PC-MJ31LLZTJESC	1	基礎実習用機器	実習（講義）用資料作成
ノートパソコン	PT45159DBFB(SSS)		視聴覚用機器	実習（講義）用資料作成
A3カラーレーザー複合機・一式	C810DNT	1	基礎実習・臨床実習用機器	授業配布資料作成
歯科用デジタルカメラ　一式	DCN11-LV/GP2	2	基礎実習・臨床実習用機器	実習（講義）用資料作成
カラーレーザー複合機	C810DNT	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習資料作成用
ノートパソコン	13インチカスタマイズ	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習資料作成用
ノートパソコン	PC-VJ25MLNTLTLC	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習資料作成用
MiCDルーペ　TTLタイプ	SL-S-R	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習資料作成用
サージテルライトシステムMicroオデッセイLEDライト		1	基礎実習・臨床実習用機器	実習指導用
サージテルルーペ レーダーフレーム	EVK550	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習指導用
サージカルルーペ オークリーレーダー	EVK650	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習指導用
サージテルライトシステムMicroオデッセイ		1	基礎実習・臨床実習用機器	実習指導用
ノートパソコン LaVieZ	PC-LZ550MSS	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義資料提示用
バイトアイ　咬合接触面測定器	BE-Ⅰ	1	臨床実習用機器	咬合接触状態の可視化および観察、分析のため
内視鏡用ＣＣＤカメラ	PSV-4000	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	嚥下に関わる機器、内視鏡検査の説明用
オサダサクセス40	OS-40	1	臨床実習用機器	臨床実習に於いてレジン等の切削を行うため
ハンディーラボⅡ	168-1070	6	臨床実習用機器	臨床実習に於いて補綴装置の切削に使用
ARCTICAオートスキャン / アルクスディグマ2　一式		1	臨床実習用機器	顎運動の解析、学生への示説に使用
デジタル一眼レフカメラ 一式	EOS 80D	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
デンタポートOTR 根管拡大キット	DP-ZX	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
プロターEV07一式（咬合器）	EV07	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
3Shape TRIOS 3 Color Pod		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。

口腔インプラント学

歯科用ユニット	Plus-OSLS	1	臨床実習・診療用機器	インプラント補綴治療用
無影灯	34Cam	1	臨床実習・診療用機器	インプラント埋入手術時の照明
全自動血圧計	DS-7100	1	臨床実習・診療用機器	インプラント埋入手術時の全身管理

シャーカステン	AICH-D32	1	臨床実習・診療用機器	初診時説明用、またインプラント埋入手術時のCT説明用
OPELASER	LA12	1	臨床実習・診療用機器	インプラント埋入手術後の創傷治癒促進、また二次手術時の切開
処置無影灯スカイルックスプラネット	34CAM４灯式	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に於ける手術デモンストレーション及び見学用
ノートパソコン	Pavilion dv7	1	臨床実習・診療用機器	症例のデータ管理及びプレゼンテーション用
ビデオレコーダー（ブルーレイ）	DMR-BW770	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に於ける手術見学用
咬合器・PROTARシステム一式	EV07	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習時のデモンストレーション用
一眼レフカメラ・EOS	KissX4Body	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習時のデモンストレーション用
歯科用ユニット・レフィーノ		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に使用
一眼レフカメラ・EOS	KISSX4	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に使用
3Dデジタルスキャナー・3M　Lava COS	68901INS	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に使用
歯科用ユニット・EOM-REGAROCS		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習時の説明用
手術用顕微鏡・デンタ300フロアスタンド式		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に於ける術野説明用
歯科用ユニット　トリートメントセンター	C8+	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に於けるインプラント手術見学時に使用
半調節性咬合器プロターEV07・一式		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習での模型診査に使用
インプラント埋入ﾅﾋﾞｹﾞｰｼｮﾝｼｽﾃﾑ Navident		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習インプラントの埋入実習のため
細菌カウンタ	DU-AA01NP-H	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
TRIOS用　ノートパソコン　一式	CDM10222	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
ノートパソコン Macbook Pro 一式	Apple	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
タブレットパソコン iPad Air2Wi-Fi 128GB　一式	MGTY2J/A	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
3Dデジタルモデリングシステム Geomagic FreeForm Touch	データ.デザイン	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
ノートパソコン　Lavie Hybrid ZERO 一式	ＰＣ－ＨＺ750GAS	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
細菌カウンタ	DU-AA01NP-H	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
TRIOS用　ノートパソコン　一式	CDM10222	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習の診療見学・実施の際に用いる。
LEDライト　ファイヤーフライ一式		1	臨床実習・診療用機器	インプラント補綴見学時に使用
歯科用ユニット エステチカ	E80T Vision	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に使用
マイクロエッチャー2ブローキット		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に使用

摂食嚥下・口腔リハビリテーション学

舌圧測定器	TPM-1	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における測定の練習用
タブレットパソコン iPadPro　Wi-Fi 64GB 一式	MTXP2J/A	1	視聴覚用機器	症例提示用
ノートパソコンVAIO SX12	VJS1211/S1211	1	視聴覚用機器	臨床実習における配布資料等の作成用
ポータブル歯科用X線装置　ポートエックスⅢ	PORT-XⅢ	1	臨床実習・診療用機器	訪問診療実習に使用
訪問診療用ポータブルユニット　ポータキューブ+SV一式	HLU-P	1	臨床実習・診療用機器	訪問診療実習に使用
ビジネスプロジェクター一式	EB-W06	1	臨床実習用機器	臨床実習における講義用画像提示用
JMS舌圧測定器	TPM-02	1	臨床実習用機器	臨床実習における検査方法習得のため
バイタルスティムプラス　一式	Mar-23	1	臨床実習用機器	臨床実習における訓練方法習得のため

口腔外科学

液晶ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	LV-7355J	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
DVDﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ	DZ-MV380	1	視聴覚用機器	症例撮影用
ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｽﾀﾝﾄﾞ	RE-450X	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
ディスクトップパソコン	V7280jp/CT	1	視聴覚用機器	講義資料の提示用
デジタル一眼レフカメラ	D40X	1	視聴覚用機器	症例写真撮影用
パソコン	CF-W7DJAJS	1	視聴覚用機器	講義資料の提示用
パソコン　Mac mini　一式	MC238J/A	1	視聴覚用機器	実習の資料提示用
ノートパソコン	CF-S9KYFEDR	1	視聴覚用機器	実習の資料提示用
カラー複合機 ADVANCE　一式	C5045F	1	視聴覚用機器	講義・実習の資料作成
パワープロジェクター	LV-7385	1	視聴覚用機器	実習・講義の資料作成
歯科用ユニット・シグノタイプ	G40	1	臨床実習用機器	臨床実習における治療
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	I Book 466/12	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
ﾊﾟｿｺﾝ一式	PowerMac G4/867DVDR	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ	EOS D-30	1	視聴覚用機器	症例データベース作成
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	PowerBooKG4	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
ｼｬｰｶｽﾃﾝ一式	MS-J3	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
内視鏡用記録装置一式	DCR-PC300K	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	iBOOKG4/COMBO	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
内視鏡手術器械用DVDﾚｺｰﾀﾞｰ	PRV-R55	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
咬合診断装置	Ser.435362	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
歯科用吸引装置	ﾌﾘｰｱｰﾑﾌｫﾙﾃS単体移動型	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
ﾚｰﾙﾀﾞﾙｻｸｼｮﾝﾕﾆｯﾄ	LSU4000 78001005	2	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
高周波ﾗｼﾞｵ波ﾒｽ	ﾃﾞﾝﾄｻｰｼﾞIEC	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ﾊﾟｿｺﾝ	MacminiM9686J/B	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
歯科用ﾕﾆｯﾄ(ｴｸｼｰﾄﾞ)	Ⅱ型ｵｰﾊﾞｰｱｰﾑ	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
技工用ﾏｲｸﾛﾓｰﾀｰ搭載集塵機	Ser.9797	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
歯科用ﾕﾆｯﾄ一式	ｼｸﾞﾉﾄﾚﾌｧｰﾄｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞｽﾃｯﾌﾟﾀｲﾌﾟ	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
咬合診断装置	Ser.435362	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科診療時（咬合診断）に使用
歯科用ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ診療ﾕﾆｯﾄ	ﾎﾟｰﾀｹｱｰ21ﾀｲﾌﾟM	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	ApplePowermacG5一式	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
耳鼻咽喉ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ一式	FNL-10RBS	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ｲﾝﾊﾞｰﾀｰ式ｼｬｳｶｽﾃﾝNE080	409-030-07	1	臨床実習・診療用機器	症例の提示用
ﾊﾟｿｺﾝ	Imac2GHｚIntelCore２Duo/17	1	視聴覚用機器	症例の提示用・症例データベース作成
ＴＰＳ電動マイクロドリルシステム一式	ＴＰＳ基本セット	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時（手術）に使用
２チャンネル低周波治療器	ＥＳ－420	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
内視鏡ＣＣＤカメラ装置一式	ＰＳＶ－4000	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用

クアトロケアー	2104A	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
マイクロプレートリーダー	680XR	1	臨床実習・診療用機器	口腔外科の診療時に使用
オーラルショトⅡ	261-002	1	視聴覚用機器 臨床実習・診療用機器	講義・実習のための病態像撮影・保存用
ホギールーペ	1	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における術野の説明用
プチクレーブ	DA-5	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における器具滅菌消毒の説明
パソコン	MB403J/A	1	視聴覚用機器 臨床実習・診療用機器	講義のプレゼン用
パソコン　一式	dx7400SF/CT	2	視聴覚用機器	パソコン　一式
Ｃａｎｏｎ　モノクロ複合機　Ｓａｔｅｒａペディスタル Ｔｙｐｅ Ｂ　1段カセットユニット	Ｓｔｅｒａ ＭＦ7330	1	臨床実習用機器	臨床実習、患者データ資料作成用
パソコン　一式	MacBook Z0FV1J/A	1	視聴覚用機器	講義のデモ及び研究データ解析用 講義・実習の資料提示用
双眼ルーペ･専用ＬＥＤ　ＢＬＩセット一式	BLS-3 ｽﾎﾟｰﾂﾌﾚｰﾑ	1	臨床実習用機器	臨床実習（口腔外科手術）用
マイオモニターＪ５	615-104ser662483	1	臨床実習用機器	臨床実習用（顎関節症患者）
ナーステーブル	1500H	1	臨床実習用機器	口頭試問実施用
光ファイバー照明装置　(高輝度ハロゲンランプ)	PICL-500V KN3320295	1	臨床実習用機器	臨床実習（口腔外科手術）用
電子辞書	SR-A10001M	1	臨床実習用機器	講義の資料作成用
パソコン　Mac mini　一式	MC238J/A	1	臨床実習用機器	講義の資料作成用及び資料提示用
ノートパソコン	MC207J/A	1	臨床実習用機器	講義の資料作成用及び資料提示用
デスクトップパソコンMacMini	MC238J/A2.26GHz	1	臨床実習用機器	講義の資料作成用及び資料提示用
ノートブックパソコン・MacBookPro	ｶｽﾀﾏｲｽﾞ Z0J5	1	視聴覚用機器	講義の資料作成用及び資料提示用
医学系電子辞書	SR-A10002	1	臨床実習用機器	講義の資料作成用
レーザービームプリンタ	Satera LBP9500C	1	臨床実習用機器	講義配布資料作成用
清拭車	B-15NS05240	1	臨床実習用機器	臨床実習指導用
生体情報モニター	DS-7110	1	臨床実習用機器	臨床実習指導用
歯科用ユニット・シグノタイプ	G40	1	臨床実習用機器	臨床実習指導用
デスクトップパソコン・一式	S5750jp/CT	1	臨床実習用機器	臨床実習時の資料（症例写真等）の提示用
LEDヘッドライト・バッテリーバック充電用アダプター付		1	臨床実習用機器	臨床実習時の症例提示用
LEDヘッドライト		1	視聴覚用機器	臨床実習時の症例提示用
カラー複合機・DocuCentre Ⅳ	C3370P	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコン・ＭａｃＢｏｏｋ　Ａｉｒ　一式	11ｲﾝﾁ MC505J/A	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
シャーカステン・ユニット取付型		3	臨床実習用機器	臨床実習時の患者資料提示用
ノートブックパソコン・MacBookAir・一式	CTO Education Z0JK	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
ノートパソコン・VAIO	VPCS149FJ/B	1	基礎実習用機器	講義資料作成・提示用
顕微鏡用デジタルカメラ・パソコン　一式	DS-Fi1-U3	1	臨床実習用機器	臨床実習症例資料提示用
電気味覚計	TR-06	1	臨床実習用機器	臨床実習症例資料提示用
デスクトップパソコン・MacPro	2.4GHz 8Core Xeon Z0LG	1	基礎実習用機器	実習・講義資料作成用
頭蓋・神経表示モデル	W19018	1	臨床実習用機器	臨床実習用資料
液晶テレビ	LC52Z5	1	臨床実習用機器	臨床実習用資料提示用

頭蓋・神経表示モデル	W19018	1	臨床実習用機器	臨床実習での解剖の説明
中軽量棚	6H64LTZ269	1	臨床実習用機器	臨床実習における手術見学の際に使用する。
歯科用ユニット シグノG40	シグノG40	1	臨床実習用機器	臨床実習時の診療
ｉPad Wi-Fi 32G一式	MD514JA	5	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示用
ｉPad Wi-Fi 64G一式	MD515JA	5	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示用
オーラルショットV	261-005	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示用
歯科用ユニット一式 大学型特別仕様	EOM-REGALO	1	臨床実習用機器	
EOM-REGALO		1	臨床実習用機器	
デジタルカメラ	D5300	1	臨床実習用機器	
プレゼンテーションマウス	ELAMGU91	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション
メディカルビデオレコーダー	UR-4MD	1	視聴覚用機器	実際の手術術式の供覧
ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟﾊﾟｿｺﾝ・27ｲﾝﾁ iMac Retina 5K ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ 一式	ZOSC　Academic	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション作製
ノートパソコン 一式	PC-NS150CA	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション
ノートパソコン	CFSZ5HDKRP	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション
CEチェア　RXタイプ	CE68RXP794	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション作製
Macmini CoreI5	MGEQ2JA(SSS)	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション作製
一眼レフカメラ	EOS80D(SSS)	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
マクロリングライト	MR14EX2	1	視聴覚用機器	実際の症例の供覧
窓用エアコン	CWA1816	1	視聴覚用機器	講義、実習のプレゼンテーション作製
ポータブル内視鏡システム	11101CMM	1	臨床実習・診療用機器	咽頭部の膨張の評価
炭酸ガスレーザー	GL-Ⅲ　Fine	1	臨床実習・診療用機器	口腔粘膜疾患の治療
歯科用ユニット	G20	1	臨床実習・診療用機器	患者の治療（臨床実習）
ガリレアンルーペ.メデェビューフレームセット	G-2542,KMV-F-S	1	臨床実習・診療用機器	患者の治療（臨床実習）
ワイナーⅠ-7.4　LEDライトセット	キーラー．アンド．ワイナー	1	臨床実習・診療用機器	患者の治療（臨床実習）
マイオモニター	J5	2	臨床実習・診療用機器	患者の治療（臨床実習）
液晶テレビ一式	65HL210X、CR-PL51	1	視聴覚用機器	症例供覧のため
デスクトップパソコン	595-p0105jp	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例の資料掲示用
デスクトップパソコン	24-xa0174jp	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例の資料掲示用

歯科矯正学

ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟﾊﾟｿｺﾝ一式	PCV-RX72K	3	臨床実習・診療用機器	患者の症例分析用
ﾉｰﾄ型ﾊﾟｿｺﾝ一式	PC-VY21GWZ75	1	臨床実習・診療用機器	患者の症例分析用
矯正用電子カルテ	ディープラスICDR	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習・診療用機器
A4ｽｷｬﾅｰ一式	ES-2200	1	臨床実習・診療用機器	患者の症例分析用および資料の取り込み用
ﾉｰﾄ型ﾊﾟｿｺﾝ一式	PowerBooK G4/500	1	臨床実習・診療用機器	患者の症例プレゼンテーション用
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ一式	FinePix S2PRO他	1	臨床実習・診療用機器	患者の写真撮影用
患者説明用ｽﾗｲﾄﾞｺﾝﾊﾞｰﾀｰ一式	TRS-35XG	1	臨床実習・診療用機器	患者の病態写真の説明用
ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀｰ	LBP-1910	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成

咬合器(ｵｰｿﾅﾃｨｯｸｵｸﾙｰｻﾞﾙﾘﾚｰﾀｰ)	SAM2C用･300002C	1	臨床実習・診療用機器	外科的矯正治療の診断用
ﾚｰｻﾞｰﾌﾟﾘﾝﾀｰ	LBP-1820	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	PCG-FR55E/B	2	視聴覚用機器	講義・実習の資料提示用
歯科用診療用ﾕﾆｯﾄ	ｽﾍﾟｰｽﾗｲﾝｽﾋﾟﾘｯﾄⅢ	1	臨床実習・診療用機器	外来での患者実習時に使用する
臨床画像ﾌｧｲﾘﾝｸﾞｼｽﾃﾑ一式	DS2003ServerDental他	1	臨床実習・診療用機器	臨床で得た画像をファイリングし、臨床実習・講義・研究用に加工する
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	iBooK M9848J/A	1	臨床実習・診療用機器	診療における画像データの処理およびプレゼンテーション用
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	VPL-CX21	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における症例提示ほか
ｸﾗｲｱﾝﾄ用ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	MA254J/A	2	臨床実習・診療用機器	臨床で得た画像をファイリングし、臨床実習・講義・研究用に加工する
ﾃﾞｼﾞﾀﾙｶﾒﾗ	D80B	1	臨床実習・診療用機器	患者の写真撮影用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	VGC-RM51PL9	2	基礎実習・研究用機器 視聴覚用機器	講義・実習の資料作成用
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ一式	CF-W5AWDBJR	1	視聴覚用機器	講義・実習の資料提示用
レーザープリンター	LBP5300	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の配布資料作成用
パソコン一式	MA970J/A	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料作成用
ノートパソコン	PC-VY21GWZ75	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における症例分析実習用
矯正歯科用電子カルテD+	ディープラス ICDR	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における症例分析実習
パソコン一式	FMV-FB70T	1	基礎実習・研究用機器	演習および試験問題の作成
ダミーヘッド装着用口腔模型	D50FE-EP.A.7	3	臨床実習用機器	臨床実習におけるマルチブラケット装着実習
ノートパソコン	PST422 FCWZR1U/M	3	臨床実習用機器	臨床実習における症例分析実習
歯科用重合用光照射器	ブルーショット	2	臨床実習用機器	臨床実習におけるボンディング実習
デスクトップパソコン・iMac	MC413J/A	2	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
レーザープリンター	LBP8620	1	基礎実習・研究用機器	実習、授業の配布資料作成
レーザープリンター	LBP5910F	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
歯科用重合用光照射器・ブルーショット		2	臨床実習用機器	臨床実習におけるボンディング実習
デスクトップパソコン・一式	VPCL138FJ/S	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料作成
カラーレーザープリンタ	LBP5400	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料印刷
ノートパソコン・一式	CF-J10EWHDS	1	視聴覚用機器	実習（講義）の資料提示
歯科重合用光照射器　ブルーショット		4	臨床実習用機器	臨床実習における重合手技と使用法習得のため
歯科用ユニット　スペースライン スピリットV		1	臨床実習用機器	
レーザープリンター・一式	LBP9950CI	1	基礎実習・研究用機器	講義プリント
i Pad Air2 16GB	MGLW2JA	1	臨床実習・診療用機器	電子カルテのX-P閲覧
i Pad Air2 16GB	MHOW2JA	1	臨床実習・診療用機器	電子カルテのX-P閲覧
i Pad Air2 16GB	MGLI2JA	1	臨床実習・診療用機器	電子カルテのX-P閲覧
ノートパソコン	PT75VGP-BJA	3	臨床実習・診療用機器	症例検討会
舌圧測定器	TPM-01	1	臨床実習・診療用機器	患者機能検査
A3プリンター	PIXUSPR100S	1	基礎実習・研究用機器	講義プリント

ノートパソコン	PCNS850FAB	1	基礎実習・研究用機器	講義
ノートパソコン MacBook Air	MQD32J/A	1	臨床実習用機器 視聴覚用機器	矯正装置の説明・示説
Dolphin Imaging / Aquarium		1	臨床実習・診療用機器	症例分析、治療シミュレーション用
デスクトップパソコン	RS7J-D180/T3	1	臨床実習用機器	セファロデータ分析用
音響鼻腔測定器・鼻腔通気度計セット	A1 EXECUTIVE 他	1	臨床実習用機器	臨床実習時患者の検査に使用

小児歯科学

NIKON COOLSCAN Ⅳ　EDｽｷｬﾅｰ一式	LS-40ED	1	視聴覚用機器	臨床症例写真の取り込み
ﾘﾝｸﾞﾌｧｰﾈｽ	TMF-500	1	臨床実習・診療用機器	鋳造時の加熱
ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ一式	DCR TRYV30	1	視聴覚用機器	臨床症例を撮影し、基礎実習のデモ用、講義資料用に使用
歯科診療用ﾕﾆｯﾄ一式	ｽﾏｲﾘｰNR231LL	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ｽｷｬﾅｰ	ES-2200	1	視聴覚用機器	症例、図表の取り込み
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	PC-MTI-H3	1	視聴覚用機器	講義・実習のプレゼンテーション用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	FMV-DESKPOWER M8	1	視聴覚用機器	資料分析用、講義・実習のプレゼンテーション用
ﾊﾟｿｺﾝ一式	MatePC-MY30YGZEG	1	視聴覚用機器	資料分析用、講義・実習のプレゼンテーション用
ｴﾚｸﾄﾛｻｰｼﾞｪﾘｰ	G750200	1	臨床実習・診療用機器	外来診療時に使用する
ｵｰﾄﾙｰﾌﾞ一式	V260513	1	臨床実習・診療用機器	インスツルメントのメンテナンス
ＥｄｕClick50ﾕｰｻﾞｰ用一式	4-807-3002	2	視聴覚用機器	双方向授業で使用
アイスペシャル	C-1	1	視聴覚用機器	
パソコン	CF-W7DWJNUR	1	視聴覚用機器	講義・実習での症例のプレゼンテーション用
プロジェクター	EMP1715	1	視聴覚用機器	講義・実習での症例のプレゼンテーション用
パソコン	MY-28A/A-5	1	視聴覚用機器	講義資料作成用
パソコン	MY-31A/E-5	1	視聴覚用機器	講義資料作成用
パソコン	MX2832SDXP	1	視聴覚用機器	講義資料作成用
デジタル一眼レフカメラ	D60	1	視聴覚用機器	講義用臨床写真撮影
インクジェットプリンタ	PIXUS Pro9500	1	視聴覚用機器	講義用資料作成
ドクターチェア11型	DS-11	4	臨床実習用機器	
ノートパソコンＶＡＩＯ	VPCX11ALJ	1	視聴覚用機器	講義デモ、研究データ解析
ビデオカメラ一式	HDRCX370VT	1	視聴覚用機器	症例プレゼン用
ドクターチェア・DS-11	I605932	1	臨床実習用機器	
電動麻酔器・アネジェクト　ホワイト	513-600 Ser.10710303	1	臨床実習用機器	
電動麻酔器・アネジェクト　ブルー	513-603 Ser.10210024	1	臨床実習用機器	
電動麻酔器・アネジェクト　ピンク	513-604 Ser.10810412	1	臨床実習用機器	
口腔内撮影用デジタルカメラ・一式	EOS5DMarkⅡ	1	臨床実習用機器	
歯科用根管測定器 ルートZX	107-390	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける根管長測定用
歯科重合用照射器 ペンキュア2000	VL-10	3	臨床実習用機器	臨床実習に於けるレジン重合用
デジタルカメラ EOS 一式	5D　MARKⅢ　EF24-105LIS	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける口腔内写真撮影用

レストレイナー　SR-7	特別仕様	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける不協力小児の歯科治療用
コードレスハンドピース　メルサージュプロセット	1/4減速スクリュー	2	臨床実習用機器	臨床実習に於ける小児患者の歯面清掃
デスクトップパソコン・Mate J	MJ35M/E-J	1	視聴覚用機器	講義資料作成用
ノートパソコン・レッツノート	CFSX3VEYWR	1	視聴覚用機器	講義資料作成およびプレゼン用
シリンジポンプ	TE-371	1	臨床実習・診療用機器	外来に実際に施行しているところを見学させたり介助させたりして機器の使用法、有用性を体得させる。
内視鏡用光源装置	TO-237LED	1	臨床実習・診療用機器	外来に実際に施行しているところを見学させたり介助させたりして機器の使用法、有用性を体得させる。
ソルフィーFボトルライト付	201070905	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における自験・見学・介助に使用する
鼻腔抵抗計測装置ライノグラフ	RG-301	1	臨床実習用機器	検査用機械

歯科放射線学

ﾃﾞｼﾞﾀﾙﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ	DCR-TRV30	1	視聴覚用機器	実際のX線撮影、CT、MRI撮影の様子を提示
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	iBooK M7692J/A	1	視聴覚用機器	講義のプレゼンテーション用
ﾈｯﾄﾜｰｸﾌﾟﾘﾝﾀｰ	DocuCentre230型	1	視聴覚用機器	授業の配布資料作成
ﾃﾞﾝﾀﾙﾚﾝﾄｹﾞﾝ	GX-60NMⅡ	4	臨床実習・診療用機器	X線撮影実習
ﾊﾟｿｺﾝ一式	Endeavor	4	基礎実習・研究用機器	読影実習
ﾓﾆﾀｰ	RadiForce	4	基礎実習・研究用機器	読影実習
ﾌﾟﾘﾝﾀｰ	PX-6000	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
ﾊﾟｿｺﾝ一式	PowerMac　G5	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙ超音波診断装置用ﾘﾆｱﾌﾟﾛｰﾌﾞ一式	10Lb-RS	1	臨床実習・診療用機器	画像診断
超音波診断装置一式	LOGIQBooK	2	臨床実習・診療用機器	画像診断
液晶ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲ	FlexScanS2100	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
X線撮影装置	KXO-32S	1	臨床実習・診療用機器	X線撮影実習に使用
ディスクトップパソコン	200ST	1	視聴覚用機器	講義資料作成
歯科用コンビームCT装置一式	3D Accuitomo	1	臨床実習・診療用機器	画像診断
パソコン	1525	1	視聴覚用機器 臨床実習・診療用機器	講義資料作成およびプレゼン用
パソコン	MB325J/A	1	視聴覚用機器 臨床実習・診療用機器	講義資料作成用
前方投影型プロジェクタースクリーン４０型	ＪＢＭＡ＃０４０Ｓ	1	視聴覚用機器	臨床実習における画像のプレゼンテーション用
ハードディスク	RHDUXE2.0	1	臨床実習用機器	臨床実習用画像データの保存
ノートブックパソコン MacBook Pro	MB985J/A	1	視聴覚用機器	症例提示用
ノートパソコンMacBook	2.26GHzCore2Dup	1	基礎実習・研究用機器	講義のデモ及び研究データ解析
外付型ハードディスク	RHD4-UXE2.0	1	臨床実習用機器	症例提示用
フルカラーデジタル複合機	DocuCentre ⅣC2270PFS	1	視聴覚用機器	講義配布資料作成
ノートパソコン一式・MacBook Air 11ｲﾝﾁ	MacBook Air 11ｲﾝﾁ	1	基礎実習・研究用機器	講義の資料提示用
635型GSベッド	TB-635	1	臨床実習用機器	臨床実習における超音波検査見学用
コンビームＣＴ用サーバーシステム・一式	KAVO OP　３DDental	1	臨床実習用機器	臨床実習時の読影実習に使用
歯科用X線撮影装置 ベラビューエポックス	CR　A-5	1	基礎実習・研究用機器 臨床実習用機器	パノラマX線撮影

放射線情報システム 端末	PSP、ZIO station	1	臨床実習用機器	臨床実習時の画像閲覧用
CBCT画像サーバーPC	DELLDELL, OnDemand３DDental	1	基礎実習・研究用機器	実習の資料提示用
デジタルカメラ	D3300　18-55VR　Ⅱ	1	基礎実習・研究用機器	実習の資料提示用
A4ドキュメントスキャナ	CANON	1	基礎実習・研究用機器	授業の配布資料作成
ディジタル口内法撮影システム	arcana mira	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における撮影練習
複合機　ApeosPort	C3570 (Model-PFS)	1	視聴覚用機器・臨床実習用機器	授業，実習の配布資料作成

歯科麻酔学

Ciscoﾙｰﾀｰ一式	CISCO1605-R	1	視聴覚用機器	実習および講義の資料作成
ﾊﾟﾙｽｵｷｼﾒｰﾀｰ付経皮血中ｶﾞｽ分圧ﾓﾆﾀｰ一式	9900MK-Ⅱ本体	1	臨床実習・診療用機器	麻酔時のモニター管理用
生体現象用BNCｺﾈｸﾀ中継ﾎﾞｯｸｽ	11	1	臨床実習・診療用機器	モニター管理の提示
呼吸管理ﾓﾆﾀｰ	12	1	臨床実習・診療用機器	麻酔時のモニター管理用
液晶ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ	TH-LC80	1	視聴覚用機器	症例の提示用
ﾊﾟｿｺﾝ	iMac1.25GSD17FPT	1	視聴覚用機器	症例プレゼンテーション用
ﾍﾞｯﾄﾞｻｲﾄﾞﾓﾆﾀLifeScope	BSM-9510	1	臨床実習・診療用機器	麻酔時のモニター管理用
A-Vｲﾝﾊﾟﾙｽｼｽﾃﾑ	AV6000	1	臨床実習・診療用機器	麻酔時のモニター管理用
喉頭ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ一式	FI-9RBS他	1	臨床実習・診療用機器	気管の解剖及び挿管法
EMG麻酔ｶﾞｽﾕﾆｯﾄ一式	M1013A	1	臨床実習・診療用機器	患者の麻酔
ﾉｰﾄﾊﾟｿｺﾝ	CF-W5MWAJR	1	視聴覚用機器	講義・実習のプレゼンテーション用
生体情報モニター一式	MP-50	1	臨床実習・診療用機器	術中時のモニター管理用
生体情報モニター一式	ＤＳ－7640	1	臨床実習・診療用機器	周術期におけるモニター管理用
パソコン	FMVLXA50D	1	基礎実習・研究用機器	講義・実習の資料提示用
シリンジポンプ	TE-371	2	臨床実習・診療用機器	外来および病室にて鎮静全身麻酔を見学させ機器の有用性、使用法を体得させる。
パソコン　一式	MINI9	1	視聴覚用機器	講義・実習用資料の提示
パソコン　一式	EeePCS101	1	視聴覚用機器	講義・実習用資料の提示
一眼レフ交換レンズ　IS-USM	EF-70-300F4-5.6	1	視聴覚用機器	症例撮影、提示用
AEDトレーナー２	94005005	2	臨床実習用機器	蘇生実習時に使用
デジタルカメラEOS	KissX	1	視聴覚用機器	症例撮影、提示用
パソコン・OptiPlexモニタなしパッケージ一式	OptiPlex960	1	基礎実習・研究用 臨床実習用機器	資料作成
ノートパソコン・VAIO	XVPCX-11AVJ	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義配布資料の作成
ノートパソコン・VAIO・Wシリーズ	261-003	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示用 研究データ解析用
口腔内撮影用デジタルカメラ・オーラルショット	261-003	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例の記録 講義用症例収集のため
レサシベビースキルガイドモデル	14001105	3	基礎実習機器 臨床実習用機器	救急蘇生法実習
チョーキングチャーリー	102-00001	1	基礎実習機器 臨床実習用機器	救急蘇生法実習
レサシジュニアスキルガイドモデル	18001105	2	基礎実習機器 臨床実習用機器	救急蘇生法実習
デスクトップパソコン（モニター無モデル）	Vostro430ﾐﾆﾀﾜｰ	2	基礎実習・研究用 臨床実習用機器	資料作成
ノートパソコン・高速ブルーレイパッケージ	Studio15	1	臨床実習用機器	講義資料作成

ファミリーコピア	DPC990	1	臨床実習用機器	臨床実習資料作成
ノートパソコン　dynabook	TX/77MBL	1	臨床実習用機器	資料作成、症例整理・分析
ノートパソコン	VPCP11ALJ	1	視聴覚用機器	講義資料提示
PMTC用コードレスハンドピース	ﾒﾙｻｰｼﾞｭﾌﾟﾛ1/4減速ﾗｯﾁﾀｲﾌﾟ	2	臨床実習用機器	外来での歯科治療及び実習
iPad　一式　（オフィスソフトインストール他）	with　WiFi　１６G	1	臨床実習用機器	症例提示・説明用
デスクトップPC一式（27インチLEDディスプレイ）	MacPro	1	視聴覚用機器	講義資料作成
ノートパソコン	PC-LL750CS6W	1	臨床実習用機器	講義資料作成 研究資料収集・分析・作製
マルチ電気治療器	ｲﾝﾃﾚｸﾄｱﾄﾞﾊﾞﾝｽｺﾝﾎﾞ 2762ccｲｵﾝ導入仕様	1	臨床実習用機器	ペインクリニック治療及び実習
カラー複合機・一式	imagio MPC3301	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義資料作成用
ノートパソコンＬｅｔｓ note B10	CF-B10 CWHDR	1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義プレゼンテーション用
ノートパソコン・MacBookAir		1	基礎実習・臨床実習用機器	実習・講義プレゼンテーション用
携帯型喉頭ファイバースコープ・一式	LF-TP	1	臨床実習用機器	臨床実習における気管挿管の説明・練習用
デスクトップパソコン	MD007J/A	1	臨床実習用機器	臨床実習の症例提示用
ノートパソコン	LB-D711B	1	臨床実習用機器	実習資料作成およびプレゼンテーション用
心電計 Cardiofaxm	ECG-1350	1	臨床実習用機器	臨床実習時の相互実習および患者実習用
ノートパソコン MacBook Pro	ZON4 Education	1	臨床実習用機器	実習資料作成およびプレゼンテーション用
デスクトップパソコン	MD007J/A	1	視聴覚用機器	講義・実習用資料作成用
心電計　Cardiofaxm	ECG-1350	1	臨床実習用機器	臨床実習でのECG記録法の修得
iPad Air	Wi-Fi 16GB	1	臨床実習用機器	臨床実習に於ける病棟での電子カルテ接続用
デジタルカメラ一式	OM-D　E-M10	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	症例提示資料の作成
薬用保冷庫	MPR-414FR-PJ	1	臨床実習用機器	相互実習用の薬品保管
ノートパソコン・MacBook Air　11インチ		1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	講義プレゼンテーション
歯科用ユニット　スマイリー 一式	GMP2-MS1211	1	臨床実習用機器	全身管理、精神鎮静法の実習
SimPad 患者用モニタ　一式	200-09205	1	視聴覚用機器 臨床実習用機器	全身管理、全身麻酔の実習
全身麻酔装置Fabius Plus一式		1	臨床実習・診療用機器	外来で実際に施行しているところを見学させ、機器の有用性や実際の使用法を体得させる。
ノートパソコン・MacBookAir	13ｲﾝﾁZORJ Academic	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料提示用
デスクトップ型パソコン	XPS89000	1	基礎実習・研究用機器	授業の資料作成及び研究データ解析用
冷蔵庫	SJS17B	1	基礎実習・研究用機器	実験、実習試料及び試薬の保存
LED喉頭鏡	136-054-71	1	臨床実習・診療用機器	全身麻酔時に使用しているところを見学または実際に使用させることで機器の使用法を習得させる。
カーディアレックスキューRQ－5000トレーナーセット	RQ-5000	2	臨床実習・診療用機器	臨床実習時にAEDの使用方法を習得させる。
アンブ気道管理トレーニングモデル一式	10208160	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習時に気道確保法、気管内挿管法を習得させる。
継続定電流治療器 ノーマライザ			臨床実習・診療用機器	口腔領域の神経痛に対する治療法を習得させる。
デスクトップパソコン Inspiron　一式	3650	1	視聴覚用（学部授業他）機器	症例プレゼンテーション用
タブレットパソコン YOGA BOOK一式	ZA160037JP	1	視聴覚用（学部授業他）機器	症例プレゼンテーション用

レーザー血流計	ALF21D	1	臨床実習・診療用機器 基礎実習・研究用機器	
ノートパソコン	OneMix 2s	1	視聴覚用（学部授業他）機器	授業のデモ及び研究データ解析用
液晶テレビ　50型	FL50U3010	1	視聴覚用（学部授業他）機器	視聴覚用機器
ノートパソコン MacBookPro	MPXQ2JA	1	視聴覚用（学部授業他）機器	授業のデモ及び研究データ解析用

障害者歯科学

全身麻酔器	PRO-45S型	1	臨床実習・診療用機器	酸素・麻酔薬の投与
生体情報ﾓﾆﾀｰ一式	BP-608EVⅡ	1	臨床実習・診療用機器	術中患者のモニタリングに使用
HDハンディカム	HDR-SR11	1	視聴覚用機器 臨床実習・診療用機器	症例の提示、プレゼン、記録用
歯科ユニット一式	モリタ障害者用歯科診療セット	1	臨床実習・診療用機器	歯科治療に使用
経皮的酸素飽和度測定装置	Radical 7	1	臨床実習・診療用機器	術中患者のモニタリングに使用
ＳＭＡＲＴバイフェージジッグ除細動器ペーシング付	M4735A	1	臨床実習・診療用機器	救急の不整脈治療及び見学実習用
インスツルメントメンテナンス装置	ｸｱﾄﾛｹｱ2104A	1	臨床実習・診療用機器	器具の後始末・洗浄について説明
余剰ガス吸引ポンプ	104-10-10	1	臨床実習・診療用機器	実習時の説明用（麻酔ガスの排気）
デスクトップパソコン	PD732V9GBHW	1	臨床実習・診療用機器	症例プレゼンテーション用
生体情報モニター一式		1	臨床実習・診療用機器	臨床実習に於ける症例の説明
シリンジポンプ	TE-352Q	1	臨床実習・診療用機器	
内視鏡用光源装置 LED 一式	TU-237LED	1	臨床実習・診療用機器	
レストレイナー	CR-1P特寸	1	臨床実習・診療用機器	
Masimo Raainbow SET	Radical7	1	臨床実習・診療用機器	
Masimo Raainbow SET パルスCOオキシメーター	Radical7	1	臨床実習・診療用機器	

内科学

ﾃﾞｼﾞﾀﾙHDビデオカメラ	CX520V	1	視聴覚用機器	内科診療及び救急蘇生などの実習撮影
ノートパソコン一式	7465-CTO	1	視聴覚用機器	高分解能心電図解析用講義用
高分解能心電アンプ （プロトタイプ）	IB-81（心電インプットボックス）	1	臨床実習用機器	高分解能心電図記録のための入力ボックス
デスクトップパソコン・Pavilion	PCHPE-190JP	1	視聴覚用機器	高分解能心電図プログラム開発と解析
高分解能心電アンプ一式	IB-81	1	臨床実習用機器	高分解能心電図記録（ヘッドアップ）
サーバー（Windows）	ML110G6	1	視聴覚用機器	高分解能心電図プログラム開発と解析サーバー
レーザープリンター	LBP7200C	1	臨床実習用機器	実習用資料印刷
キャプチャー・パソコンセット	HOBIA	1	臨床実習・診療用機器	授業のデモ及び研究データ解析用
液晶プロジェクタ	LV-WX310ST	1	視聴覚用機器	症例提示用
２ｃｈ節電２ｃｈ音声収録システム	ADPod	1	基礎実習・研究用機器	実習において嚥下機能を解析する。
携帯型マルチヘルスモニター	チェックミー.プロS	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習における測定値の実際を把握するために用いる。
マルチ周波数体組織計 プリンタ　一式	MC-780A	1	臨床実習・診療用機器	臨床実習において体組織を把握するために用いる。
携帯型マルチヘルスモニター	チェックミー.プロS	4	臨床実習・診療用機器	臨床実習における測定値の実際を把握するために用いる。

自　由　科　目

(海外外国語研修)

(地域医療課題解決演習)

海外英語演習

責任者・コーディネーター	外国語学科英語分野　柳谷　千枝子 准教授		
担当講座・学科(分野)	外国語学科英語分野		
担　当　教　員	柳谷　千枝子 准教授、Jonathan Levine-Ogura 助教、 松田 竜宙 助教、Robert Ken Asano 助教		
対象学年	1, 2, 3, 4, 5, 6	区分・時間数	約 2 週間
期　間	後期		

・学修方針（講義概要等）

英語圏の国に短期間滞在し、大学または語学学校の講師による語学コースを受講する。授業では、主として、日常会話に役立つ表現や文法事項などのテーマを扱う。さらに、リスニング練習を通してスピーキング能力を伸ばし、将来医師・歯科医師・薬剤師・看護師として活躍する際に必要な英語の総合力を培う。また、英語圏の国の文化や歴史に対する理解を深めるため、名所旧跡を見学する。その他、様々な国の人々と共にアクティビティーに参加したり、医療関連施設を訪問したりすることもある。

本演習では、外国で様々な経験を重ねることで医療者に求められる豊かな人間性を養い、また異文化コミュニケーションを図ることで国籍にかかわらず相手の立場を理解し、さらに、臆することなく自己を表現することで、友好的かつ国際的な人間関係を築くことができるようになる。

・教育成果（アウトカム）

本演習は教養教育に求められる豊かな人間性を涵養する一環として実施される。

1. 海外での生活体験を通して異文化に触れることで多様な価値観を理解でき、幅広い視点から人および物事を見ることができる。
2. 英語演習を通じて日本語を再認識することで、その能力向上を図るとともに、将来必要とされる患者との相互理解、信頼関係構築のためのコミュニケーション能力を育成できる。

（ディプロマポリシー：1, 2, 3, 7, 9）

・到達目標（SBO）

(1) 異文化を理解し、現地の人と英語で意思疎通を図ることができる。
(2) 教室では間違いをおそれず積極的に発言することができる。
(3) 日本人同士で集まることなく各国の人たちと積極的に交流することができる。
(4) 英語圏の文化・歴史・価値観・医療に触れることで、医療者に求められる豊かな人間性と柔軟な思考力を身につけることができる。

・成績評価方法

【総括的評価】　研修レポート: 30%、演習態度*: 70%

【形成的評価】 研修内容に関する質疑応答により、異文化に対する理解度評価を行う。

*本科目の演習態度とは、主に、授業、イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での積極的な発言、自主的行動、外国での問題解決能力等を指す。
*演習態度の具体的な評価方法については「参加者募集説明会」および「参加者対象説明会」で説明する。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、4	1、7、9		30					30
1、2、3、4	1、2、3、7						70	70
合計			30				70	100

備考：
「その他」（70%）は、授業・イベントへの参加、各国の人たちとの積極的な交流、英語での発言、自主的行動、外国での問題解決能力等による演習態度評価を含む。

・特記事項・その他

研 修 先 ：英語圏の国（例：イギリス、オーストラリア等）
期　　間：3 月（約 2 週間）の予定
宿泊施設：ホームステイ等

研修内容を把握し渡航に向けて準備するため、参加希望者は「参加者対象説明会」および「最終説明会」（各 1 時間程度）に出席する必要がある。なお、提出レポート（感想文）は、後日、個別にフィードバックする。

当該科目に関連する実務経験の有無　無

（令和８年度）地域医療課題解決演習

科目担当責任者	医学部総合診療医学講座　下沖 収 教授		
担当講座・学科（分野）	（医学部）総合診療医学講座、内科学講座脳神経内科・老年科分野 （歯学部）歯科補綴学講座有床義歯・口腔リハビリテーション学分野、 口腔医学講座予防歯科学分野、法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 （薬学部）臨床薬学講座地域医療薬学分野、臨床薬学講座薬学教育学分野 （看護学部）地域包括ケア講座		
担当教員	（医学部）下沖 収 教授、大間々 真一 准教授、髙橋 智弘 講師、前田　哲也 教授、 赤坂　博 助教 （歯学部）小林 琢也 教授、熊谷 章子 特任教授 （薬学部）松浦 誠 特任教授、白石　博久 特任教授 （看護学部）岩渕 光子 教授、赤井 純子 助教 ＜協力＞矢巾町健康長寿課関係者の皆様、演習訪問先等関係者の皆様		
対象学年	全学年（全学部）	期　間	通期
区分・時間数	演習　　16.0 時間（全８回） （1 コマ 2 時間換算）	単位数	１単位

■　学習方針（演習概要等）

患者（対象者）を中心とする地域医療の実現のため、地域社会における医療課題についてグループワークを行う、多職種連携 PBL 科目である。自治体関連施設等の訪問、関係専門職や、対象者（住民）へのインタビュー等をグループで行い、学部・学年を超えたディスカッションの上で提言をまとめる。

■　教育成果（アウトカム）

患者（対象者）や専門職チーム、地域社会との関係における各専門職プロフェッショナリズムを理解し実践する力を身につける。施設等の訪問やインタビュー等を行い、グループ内でのディスカッションを経て提言をまとめる過程を通じ、他者尊重に基づきチームで協働する力を身につける。併せて、多職種（専門職）連携の重要性を理解し、自職種の責務の理解に基づく自己主導型学習力を身につける。
（ディプロマ・ポリシー）
医学部：1，2，4，6，8　歯学部：1，2，3，5，9　薬学部：1，2，3　看護学部：1，2，3，7，8

■　到達目標（SBOs）

1. 対象とする地域医療課題に関する現状と問題点を捉え、説明できる。
2. グループワークやフィールドワークで立場の異なる多様な人と良好なコミュニケーションがとれる。
3. 多分野にわたる幅広い情報収集ができる。
4. 課題解決策を検討する中で、地域医療・健康づくりにおける各職の役割が説明できる。
5. 自己学習を身につけるためにポートフォリオを記録し、省察できる。

■　成績評価方法

最終発表会を含め演習への参加態度評価（50%）、ルーブリックによるグループワーク等評価（30%）、成果物評価（20%）により評価する。

到達目標	DP				ルーブリック	発表参加態度	成果物	合計
	医	歯	薬	看				
1,2,3,4	1，2，4，6，8	1，2，3，5，9	1，2，3	1，2，3，7，8	30	50	20	100
5	2	9	1	1				
合計					30	50	20	100

■　事前学修時間・内容

各回到達目標の内容を事前に学習するとともに、実施前にメールで事前もしくは事後課題の指示あり。各回、事前事後 4 時間以上の学習を要する。学習結果は、演習当日に持参もしくは指示によりデータ提出すること。フィードバックは授業時、または個別にメール等で行う。

■　特記事項・その他

開催日：別途調整のうえ指定　　対　象：全学年（全学部）　　会　場：矢巾キャンパス・矢巾町役場等 ＊受講希望者は掲示を確認の上、所定の期日までに履修届を提出のこと。＊30 分以上の遅刻は欠席とする。 当該科目に関する実務経験の有無　有 行政（矢巾町）と連携したフィールドワーク等を通じて、地域課題や解決方法について学ぶ。

実施日程

月日	時限	内容／到達目標	担当教員	会場
第 1 回 6 月 予定	5 限 予定	オリエンテーションと概要講義 2. 日本における当該課題の概要を理解し説明できる。 3. 地域における当該課題の概要を理解し説明できる。	大間々 真一 准教授 髙橋 智弘 講師 前田　哲也 教授 赤坂　博 助教 小林 琢也 教授 熊谷 章子 特任教授 松浦 誠 特任教授 白石　博久 特任教授 岩渕 光子 教授 赤井 純子 助教	矢巾町
第 2 回 6 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（課題理解の共有） 1. 地域における当該科目の概要理解について、グループ内検討により、関わり方の相違点・共通点を確認し自分の言葉で説明できる。 2. メンバーが理解を共有できるよう、必要なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 3 回 7 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 4 回 8 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 5 回 9-10 月 予定	未定	施設等訪問、インタビュー 1. 施設等でのフィールドワークにより、実際の仕組みや課題背景等を説明できる。 2. 関係各職への敬意をもち、インタビューすることができる。		矢巾町
第 6 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク　（振り返り） 1. 訪問・インタビューについて、自らの言葉で振り返りを説明できる。 2. メンバーが課題等認識を共有できるよう、コミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス
第 7 回 11 月 予定	5 限 予定	グループワーク（プレゼンテーション作成） 1. グループ内で各専門領域を学ぶそれぞれの知見をあわせ、協働作業によりプロダクトを作成する過程で、多職種連携の重要性を理解し多職種を尊敬する謙虚さ、自己主導型学習を身につける。		矢巾キャンパス

第8回 12月 予定	5限 予定	検討発表会・まとめ 1. 当該課題への解決策を提案でき、医療人である自らの役目をも説明できるようになる。 2. 自他尊重に基づき、質疑応答その他において適切なコミュニケーションを図ることができる。		矢巾キャンパス

学則・試験規程・その他

岩手医科大学学則

第１章　目的及び使命

第１条　本学の目的は、医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成するにある。すなわち、まず人としての教養を高め、充分な知識と技術とを修得させ、更に進んでは専門の学理を究め、実地の修練を積み、出でては力を厚生済民に尽くし、入っては真摯な学者として、斯道の進歩発展に貢献させること、これが本学の使命とする所である。

２　各学部における教育研究上の目的は別に定める。

３　本学は教育研究水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行うものとする。

４　前項の点検及び評価の方法並びに体制等については、別に定める。

第２章　組織及び修業年限

第２条　本学に次の学部学科を置く。

医学部　医学科

歯学部　歯学科

薬学部　薬学科

看護学部　看護学科

２　医学部、歯学部及び薬学部の修業年限は６年とし、看護学部は４年とする。

３　各学部の学生及び再入学者の在学年限は、別に定める。ただし、通算して修業年限の２倍を超えることができない。

第３章　学年・学期及び休業日

第３条　学年は、４月１日に始まり、翌年３月 31 日に終わる。ただし、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第４条　学年は、前期、後期の２期に分ける。

前期　４月１日から９月 30 日まで

後期　10 月１日から３月 31 日まで

ただし、前期及び後期の期間は、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。

第５条　定期休業日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

（３）　春期休業　３月 16 日から４月 15 日まで

（４）　夏期休業　７月 16 日から８月 31 日まで

（５）　冬期休業　12 月 23 日から１月 15 日まで

ただし、春期、夏期及び冬期休業の期間については、学長が教育上必要と認めるときは、変更することがある。
２　臨時休業日は、その都度学長が定める。

第４章　授業科目、授業時間数及び単位

第６条　各学部の授業科目等は別表１のとおりとする。

第５章　授業科目の履修及び課程修了の認定

第１節　医学部、歯学部

第７条　医学部、歯学部においては、第６条に定める所定の授業科目を履修しなければならない。
２　履修方法及び履修すべき授業時間数については別に定める。
３　履修した科目に単位を付与する場合は、45 時間の学修を必要とする内容を１単位とすることを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとする。
第８条　所定の講義及び実習を履修した者に対し試験を行う。
２　試験に関する実施規程は別に定める。
第９条　試験の成績は、合格または不合格とし、評価等は別に定める。

第２節　薬学部、看護学部

第 10 条　薬学部、看護学部においては、第６条に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得しなければならない。
２　履修方法及び取得すべき単位数については別に定める。
３　単位の計算は、第７条第３項を準用する。
第 11 条　履修した授業科目については、別に定める方法で試験を行う。
第 12 条　試験の成績は、第９条を準用する。

第３節　全学部共通

第 13 条　特定の授業科目を履修した者に履修証明書を与えることがある。
第 14 条　１年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを標準とする。
第 14 条の２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が所属する学部以外の学部の授業科目を履修することができる。
第 15 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、60 単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

第 16 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

２　前項により与えることができる単位数は、前条第１項及び第２項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第 17 条　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により修得した単位を含む。）を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

２　本学が、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、本学の定めるところにより単位を与えることができる。

３　前２項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、30 単位を超えないものとし、かつ、第 15 条第１項（同条第２項において準用する場合を含む。）及び前条第１項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を超えないものとする。

第６章　卒業及び学位

第 18 条　医学部、歯学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目及び単位を履修修得し、試験に合格した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、医学部を卒業した者には学士（医学）、歯学部を卒業した者には学士（歯学）の学位を授与する。

２　薬学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、薬学実務実習 20 単位以上を含む 186 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（薬学）の学位を授与する。

３　看護学部においては第２条に定める期間を在学し、かつ、第６条に定める所定の授業科目を履修のうえ、試験に合格し、124 単位以上を修得した者は、当該学部教授会の議を経て学長が卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

第７章　入学、休学、再入学、転入学、編入学、転部入学及び退学

第 19 条　入学の時期は、学年の始めとする。

第 20 条　本学に入学資格のある者は、次の各号の一に該当しなければならない。

（1） 高等学校又は中等教育学校を卒業した者。
（2） 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む)。
（3） 外国において、学校教育 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
（4） 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者。
（5） 文部科学大臣の指定した者。
（6） 高等学校卒業程度認定試験規則（平成 17 年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定資格試験に合格した者（同規則附則第２条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和 26 年文部省令第 13 号）による大学入学資格検定に合格した者を含む)。
（7） その他、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者。

第 21 条　入学志願者は、所定の入学願書に、履歴書、資格証明書、写真及び入学検定料を添えて学長に願い出なければならない。

第 22 条　本学に入学を志願した者については、教授会の議を経て学長が入学の許可、不許可を決定する。

２　本学を退学した者で、本学に再入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、別に定めるところにより選考し、教授会の議を経て学長が相当年次に入学を許可することができる。

第 23 条　入学を許可された者は、本学所定の方式によって宣誓し、保証人２名を定めて在学保証書その他所定の書類を提出し、かつ所定の期日までに入学金を納入しなければならない。

第 24 条　保証人は、学生本人の父兄及び独立の生計を営む成年者とする。ただし、保証人のうち１名は学費負担者でなければならない。

２　保証人は学生の在学中の一切のことについて責任を負わなければならない。

３　保証人が死亡し、あるいはその資格を失ったときは、直ちに第１項の規定によって新たに設けなければならない。

第 25 条　学生、保証人が氏名、本籍、住所を変更した場合は直ちに届け出なければならない。

第 26 条　病気、その他やむを得ない事由により３ヶ月以上修学できないときは、その事由を証明する書類を添え保証人連署の休学願を提出し、教授会の議を経て学長の許可を得なければならない。

２　休学の期間は、１年を超えることはできない。ただし特別の事情がある場合は、教授会の議を経て学長が更に１年以内の休学を許可することができる。

３　休学期間は、通算して４年を超えることができない。

４　休学期間は、在学期間に算入しない。

第 27 条　休学期間であっても事故止みとなり復学を願い出た場合は、教授会の議を経て許可することがある。

第 28 条　他の大学から本学に、本学から他の大学に転入学、編入学を願い出た者がある場合は、教授会の議を経て学長が許可することがある。

２　本学の第１学年の学生で他学部への転部入学を希望する者があるときは、選考の上、第２学年の始めに限り転部入学を許可することがある。ただし、看護学部は除くものとする。
３　転入学、編入学、転部入学に関する規程は、別に定める。
第 29 条　本学を退学しようとする場合は、その事由を明記し、保証人連署の退学願を提出し教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。ただし、退学の事由が病気の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

第８章　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費

第 30 条　入学検定料、入学金、授業料、その他の学費（以下授業料等という）の額は別表２に定める。
第 31 条　授業料等の納入は、次の各号のとおりとする。
（１）　入学金は、入学手続き時に納入しなければならない。
（２）　入学初年度の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、入学初年度は入学手続き時に納入しなければならない。ただし、半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合には所定の期日までに納入しなければならない。
（３）　入学次年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年４月 25 日までに納入しなければならない。ただし、授業料は半額ずつ分納することができるものとし、分納する場合の２回目の納入期限日は９月 25 日までとする。
（４）　薬学部第５学年の長期実務実習にかかる費用の額及び納入方法は、別に定める。
第 32 条　授業料等を所定期日までに納入しない場合は、納入するまでその者の出席を停止し、30 日を経過して、なお納入しない場合は、学長がこれを除籍することがある。
第 33 条　納入した授業料等は、返還しない。ただし、入学手続きを完了したもので、所定期日までに入学辞退の届出を行い、かつ授業料等の返還を申し出た者については、入学検定料及び入学金を除く外の納入金を返還する。
２　前項の規定にかかわらず、休学期間中の授業料および実験実習費は、休学を許可された月の翌月から復学を許可された月の前月までの月割計算による額の半額を免除する。

第９章　職員組織

第 34 条　本学に次の職員を置く。
学長・副学長・教授・准教授・講師・助教・助手・技術員・事務員・その他必要な職員。
２　職員の定員に関しては、別にこれを定める。

第 10 章　教授会

第 35 条　本学に教授会を置く。
２　教授会は、医学部、歯学部、薬学部及び看護学部のそれぞれの専任教授をもって当該学部毎に組織する。

３　教授会は、学長が次の事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、別に定めるもの
４　教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
５　教授会の運営に関する規程は、別に定める。

第 11 章　学生収容定員

第 36 条　各学部の学生定員は次のとおりとする。
医学部医学科　入学定員　95 名　収容定員　570 名
歯学部歯学科　入学定員　73 名　収容定員　438 名
薬学部薬学科　入学定員　50 名　収容定員　300 名
看護学部看護学科　入学定員　90 名　3 年次編入学定員　5 名　収容定員　370 名

第 12 章　研究生・研修生・研究員・聴講生・科目等履修生及び外国人学生

第 37 条　本学において特殊事項に関する研究及び研修を志願する者については、選考のうえ研究生、研修生、研究員として許可することができる。
２　研究生、研修生、研究員に関する規程は、別に定める。
第 38 条　本学に聴講を希望する者がある場合は、選考のうえ聴講生として入学を許可することができる。
２　聴講生の規程は、別に定める。
第 38 条の２　本学の学生以外の者で、本学が開講する一又は複数の授業科目の履修を志願する者があるときは、授業に支障のない限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。
２　科目等履修生の規程は、別にこれを定める。
第 38 条の３　研究生、研修生、研究員、聴講生には、第８条、第９条、第 11 条、第 12 条、第 18 条、第 19 条、第 20 条、第 30 条及び第 40 条は、これを適用しない。
第 39 条　外国人留学生を入学させることがある。外国人学生は、特に規定あるものの外は本学則の一般規定を準用する。

第 13 章　賞罰

第 40 条　人物及び学業の優秀な者は、教授会の議を経て学長がこれを表彰することがある。
第 41 条　学生がその本分にもとる行為をした場合は、教授会の議を経て学長が懲戒する。
２　懲戒は、戒告、停学、退学、退学のうえ除籍の４種とする。

第 42 条　次の各号の一に該当する学生は、教授会の議を経て学長が退学又は退学のうえ除籍することができる。

（1）　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（2）　学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（3）　正当の理由がなく欠席が多い者

（4）　本学の秩序を乱す者

第 14 章　附属施設

第 43 条　本学に次の附属施設を置く。

（1）　附属図書館

（2）　附属病院

（3）　附属薬用植物園

２　附属図書館規程、附属病院規程及び附属薬用植物園規程は、別に定める。

第 15 章　学生の厚生補導等

第 44 条　学生の厚生補導の充実を図るため、学生部を置く。

２　学生部規程および学生の厚生及び補導については別に定める。

第 45 条　本学に学生寮を置くことができる。

第 16 章　学生心得

第 46 条　学生心得は、別に定める。

第 17 章　改廃

第 47 条　この学則の改廃は、関係学部教授会及び教学運営会議の議を経て理事会が決定するものとする。

附　則

この学則は、昭和 22 年６月 18 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 27 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 29 年９月 15 日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 40 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 41 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、昭和 43 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 44 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 46 年１月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 46 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 48 年４月１日から施行する。

2　改正後の第 24 条の授業料等については、昭和 48 年以前から在学している者に対してはなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 50 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料等は、第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 50 年 10 月 24 日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 52 年１月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 53 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

この学則は、昭和 54 年２月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、昭和 55 年２月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 57 年１月５日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料及び実験実習費は第 24 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 59 年１月２日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらずなお従前の例による。

附　則

1　この学則は、昭和 61 年１月６日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条及び第 25 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、昭和 62 年 10 月 20 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料、実験実習費及び施設整備費は第 24 条第 1 項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成元年４月１日から施行する。
2　第 24 条第 1 項に定める歯学部学納金のうち、実験実習費並びに施設整備費の（）書は昭和 63 年度以降歯学部に入学した者に適用する。
3　この改正学則施行の際、昭和 60 年度以前に入学し、在学している学生については、第 24 条第３項の規定は適用しない。

附　則

1　この学則は、平成２年１月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学している学生については、第 20 条第２項、第３項および第 27 条第２項の規定は、平成２年４月１日より適用する。
ただし、この改正学則施行の際、現に休学している学生については、第 20 条２項、第３項および第 27 条第２項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成２年 10 月 19 日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成３年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。
ただし、消費税法の一部を改正する法律（平成３年５月 15 日法律第 73 号）の改正にともない、第 24 条の入学金及び施設整備費は非課税とする。

附　則

1　この学則は、平成５年 11 月１日から施行する。
2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成７年９月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 10 年９月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 11 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 13 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 14 年 10 月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の授業料その他の学費は、第 24 条第１項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

この学則は、平成 17 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 18 年 11 月 30 日付、文部科学大臣からの薬学部設置認可に伴い改正し、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成20年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成20年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度～29年度
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
収容定員	490人	500人	510人	520人	530人	540人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

この学則は、平成 20 年８月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成21年４月１日から施行する。

2　第36条の規定にかかわらず、平成21年度から平成29年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	505人	520人	535人	550人	565人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠特別推薦入学による入学生（岩手県医師養成事業奨学金制度利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

附　則

1　この学則は、平成 21 年４月１日から施行する。

2　学生定員の取扱については、平成 20 年８月５日付、文部科学省からの「地域や診療科の医師確保の観点からの医師養成の推進について（通知）」に基づき改定するものとし、平成 20 年４月１日の「新医師確保総合対策」に基づく附則、ならびに平成 21 年４月１日施行の「緊急医師確保対策」に基づく附則に関わらず次のとおりとする。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度～29年度
入学定員	110人	110人	110人	110人	110人	110人
収容定員	520人	550人	580人	610人	640人	660人

附　則

1　この学則は、平成 22 年４月１日から施行する。

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 22 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～29年度	平成30年度
入学定員	125人	125 人	125 人	125 人	125 人	125 人	110 人
収容定員	565人	610人	655人	700人	735人	750人	735人

	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	110人	95人	95人	95人	95人	95人	95人
収容定員	720人	690人	660人	630人	600人	585人	570人

3　第31条の規程にかかわらず、本附則第２項のうち医学部地域枠等に係る入学生（地方自治体による医学生奨学金制度等を利用の者）の授業料、実験実習費、施設整備費、及び教育充実費の納入法については、別に定める。

4　第36条の規定にかかわらず、平成22年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度～31年度
入学定員	75人	75人	75人	75人	75人	75人
収容定員	475人	470人	465人	460人	455人	450人

附　則

1　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 22 年６月 28 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

3　この学則は、平成 23 年４月１日から施行する。（平成 23 年２月 28 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 23 年６月１日から施行する。（平成 23 年５月 30 日一部改正）

附　則

1　この学則は、平成 24 年７月１日から施行する。（平成 24 年６月 25 日一部改正）

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の学納金は第 30 条の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 25 年４月１日から施行する。（平成 24 年 10 月 29 日一部改正）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 25 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
入学定員	123人	123 人	123 人	123 人	123 人	108 人	108 人
編入学定員	7人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人	7 人
収容定員	705人	745人	765人	770人	768人	751人	736人

	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度
入学定員	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	701人	666人	631人	596人	583人	570人

3　第36条の規定にかかわらず、平成25年度から平成31年度までの間における歯学部歯学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度～31年度
入学定員	73人	73人	73人	73人	73人	73人
収容定員	458人	451人	444人	442人	440人	438人

附　則

この学則は、平成 27 年４月１日から施行する。（平成 27 年３月 23 日一部改正）

附　則

この学則は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この学則は、平成 28 年８月 31 日付、文部科学大臣からの看護学部設置認可に伴い改正し、平成 29 年４月１日から施行する。

附　則

1　この学則は、平成 29 年４月１日から施行する。

2　この改正学則施行の際、現に在学中の学生の同一学年在学年限は、第２条第３項の規定にかかわらず従前どおりとする。

附　則

1　この学則は、平成 30 年４月１日から施行する。（平成 29 年７月 31 日一部改正、平成 30 年３月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 37 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
入学定員	123 人	123 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	7 人	7 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	661人	626人	598人

	平成37年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、平成 30 年度から平成 35 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
入学定員	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人	120 人
収容定員	920人	880人	840人	800人	760人	720人

附　則

この学則は、平成 31 年４月１日から施行する。(平成 30 年４月 23 日一部改正（別表１第６条関係の変更)、平成 31 年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

附　則

1　この学則は、令和２年４月１日から施行する。（令和元年７月 29 日一部改正、令和２年３月 30 日一部改正（別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和２年度から令和９年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	126 人	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	766人	731人	696人	664人	632人	601人

	令和９年度
入学定員	95 人
編入学定員	0 人
収容定員	570人

附　則

1　この学則は、令和３年４月１日から施行する。（令和２年６月 29 日一部改正、令和３年３月 29 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人	80 人
収容定員	760人	680人	600人	560人	520人	480人

附　則

1　この学則は、令和４年４月１日から施行する。（令和３年４月 26 日一部改正(別表１第６条関係の変更)、令和３年７月 26 日一部改正、令和４年３月 28 日一部改正(別表１第６条関係の変更)）

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和４年度から令和 10 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
入学定員	126 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
編入学定員	4 人	0人	0 人	0 人	0 人	0 人	0 人
収容定員	766人	731人	699人	667人	632人	601人	570人

附　則

1　この学則は、令和５年４月１日から施行する。（令和４年９月６日一部改正、令和５年３月 27 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和５年度から令和 11 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	766人	734人	702人	667人	636人	605人	570人

附　則

1　この学則は、令和６年４月１日から施行する。（令和５年 10 月 26 日一部改正、令和５年 12 月 18 日一部改正、令和６年３月 25 日一部改正（別表１第６条関係の変更、第７条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 12 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
入学定員	130 人	95人	95 人	95 人	95 人	95 人	95 人
収容定員	769人	737人	702人	671人	640人	605人	570人

3　第 36 条の規定にかかわらず、令和６年度から令和 11 年度までの間における薬学部薬学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度
入学定員	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名	50 名
収容定員	530 名	460 名	390 名	360 名	330 名	300 名

附　則

1　この学則は、令和７年４月１日から施行する。（令和６年 12 月 16 日一部改正、令和７年３月 24 日一部改正（別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和７年度から令和 13 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	737名	706名	675名	640名	605名	570名

附　則

1　この学則は、令和７年８月１日から施行する。（令和７年６月 30 日一部改正（別表２第 30 条関係の変更））

附　則

1　この学則は、令和８年４月１日から施行する。（令和７年 12 月 15 日一部改正、令和８年３月 30 日一部改正（第２条第３項関係の変更、別表１第６条関係の変更））

2　第 36 条の規定にかかわらず、令和８年度から令和 14 年度までの間における医学部医学科の学生定員は、次のとおりとする。

	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度	令和14年度
入学定員	130 名	95名	95 名	95 名	95 名	95 名	95 名
収容定員	772名	741名	710名	675名	640名	605名	570名

別表1（第6条関係：歯学部）

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
教養教育科目	多職種連携のためのアカデミックリテラシー	1	16.0 16.0	2	講義 演習	必修
	医療倫理学	1	28.0	1	講義	必修
	法学	1	28.0	1	講義	必修
	心理学	1	16.0	1	講義	必修
	医療における社会・行動科学	1	16.0	1	講義	必修
	医療面接の基礎	1	20.0	1	講義	必修
	データサイエンス	1	28.0	1	講義	必修
	情報リテラシー	1	14.0 14.0	1	講義 演習	必修
	物理学	1	28.0	1	講義	必修
	物理学実習	1	42.0	1	実験	必修
	専門課程への化学	1	28.0	1	講義	必修
	化学実習	1	42.0	1	実験	必修
	エッセンシャル生物	1	16.0	1	講義	必修
	専門課程への生物学	1	28.0	1	講義	必修
	生物学実習	1	42.0	1	実験	必修
	English Reading & WritingⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Reading & WritingⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅠ	1	28.0	1	講義	必修
	English Speaking & ListeningⅡ	1	28.0	1	講義	必修
	健康運動科学	1	16.0 16.0	1	講義 実技	必修
	ベーシック生物	1	28.0	1	講義	選択
	スタンダード生物	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト生物	1	28.0	1	講義	選択
	自然・文化人類学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック化学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック物理	1	28.0	1	講義	選択
	解析学入門	1	28.0	1	講義	選択
	医療とスポーツ	1	18.0 10.0	1	講義 実技	選択
	医療とコミュニケーション	1	28.0	1	講義	選択
	道徳のしくみ	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト数学	1	28.0	1	講義	選択
	ベーシック数学	1	28.0	1	講義	選択
	アドバンスト化学	1	28.0	1	講義	選択
	文学の世界	1	28.0	1	講義	選択
	実践英語	1	28.0	1	講義	選択
	医療と福祉	1	28.0	1	講義	選択
	科学英語	1	20.0	1	講義	選択
	医療と物語	1	20.0	1	講義	選択
	人間関係論	1	20.0	1	講義	選択
	パーソナリティ心理学	1	20.0	1	講義	選択
	哲学の世界	1	20.0	1	講義	選択
	医療と法律	1	20.0	1	講義	選択
	医学統計学	2	26.0	1	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	歯科医学概論	1	48.0	講義	必修
	（看護・介護体験実習、病院案内実習）	1	58.0	実習	必修
	解剖学Ⅰ	1	42.0	講義	必修
	組織学基礎	1	28.0	講義	必修
	生理学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	生化学Ⅰ	1	28.0	講義	必修
	臨床歯科学入門	1	44.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ	2	84.0	講義	必修
	解剖学Ⅱ実習	2	140.0	実習	必修
	組織学・発生学	2	56.0	講義	必修
	組織学・発生学実習	2	56.0	実習	必修
	生理学Ⅱ	2	76.0	講義	必修
	生理学Ⅱ実習	2	8.0	実習	必修
	生化学Ⅱ	2	56.0	講義	必修
	生化学Ⅱ実習	2	28.0	実習	必修
	微生物学・免疫学Ⅰ	2	56.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ	2	40.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅰ実習	2	30.0	実習	必修
	薬理学Ⅰ	2	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅰ実習	2	6.0	実習	必修
	病理学総論	2	24.0	講義	必修
	病理学総論実習	2	32.0	実習	必修
	衛生学・公衆衛生学	2	34.0	講義	必修
	衛生学・公衆衛生学実習	2	8.0	実習	必修
	歯科専門体験実習（講義）	2	4.0	講義	必修
	歯科専門体験実習	2	28.0	実習	必修
	専門英語（2年）	2	36.0	講義	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	区分	備考
歯学専門科目	微生物学・免疫学Ⅱ	3	36.0	講義	必修
	微生物学・免疫学Ⅱ実習	3	20.0	実習	必修
	歯科理工学Ⅱ	3	38.0	講義	必修
	歯科理工学Ⅱ実習	3	32.0	実習	必修
	薬理学Ⅱ	3	22.0	講義	必修
	薬理学Ⅱ実習	3	6.0	実習	必修
	口腔病理学	3	32.0	講義	必修
	口腔病理学実習	3	52.0	実習	必修
	予防歯科学	3	20.0	講義	必修
	予防歯科学実習	3	8.0	実習	必修
	保存修復学	3	42.0	講義	必修
	保存修復学実習	3	42.0	実習	必修
	補綴学総論	3	14.0	講義	必修
	補綴学総論実習	3	14.0	実習	必修
	歯科放射線学	3	46.0	講義	必修
	歯科放射線学実習	3	10.0	実習	必修
	医科学（3年）	3	56.0	講義	必修
	歯周病学	3	52.0	講義	必修
	歯周病学実習	3	32.0	実習	必修
	臨床薬理学	3	12.0	講義	必修
	臨床薬理学実習	3	16.0	実習	必修
	社会と歯学	3	28.0	講義	必修
	歯内療法学	3	56.0	講義	必修
	歯内療法学実習	3	42.0	実習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）	3	10.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	3	18.0	実習	必修
	冠橋義歯学	3	44.0	講義	必修
	冠橋義歯学実習	3	68.0	実習	必修
	基礎科学演習	3	6.0	演習	必修
	基礎科学演習実習	3	28.0	実習	必修
	医療リベラルアーツ	3	24.0	演習	必修
	歯科総合演習（3年）	3	68.0	演習	必修
	チーム医療リテラシー	3	24.0	演習	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅱ）	4	16.0	講義	必修
	全部床義歯補綴学（Ⅰ）実習	4	54.0	実習	必修
	部分床義歯補綴学	4	32.0	講義	必修
	部分床義歯補綴学実習	4	52.0	実習	必修
	歯科麻酔学	4	56.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学	4	14.0	講義	必修
	法歯科医学・災害歯科医学実習	4	14.0	実習	必修
	医科学（4年）	4	98.0	講義	必修
	口腔外科学	4	138.0	講義	必修
	口腔外科学実習	4	16.0	実習	必修
	口腔インプラント学	4	20.0	講義	必修
	口腔インプラント学実習	4	8.0	実習	必修
	歯科矯正学	4	70.0	講義	必修
	歯科矯正学実習	4	42.0	実習	必修
	小児歯科学	4	40.0	講義	必修
	小児歯科学実習	4	30.0	実習	必修
	障害者歯科学	4	28.0	講義	必修
	専門英語（4年）	4	14.0	講義	必修
	高齢者歯科医学	4	46.0	講義	必修
	歯科総合演習（4年）	4	126.0	演習	必修
	コミュニケーション学	4	12.0	講義	必修
	コミュニケーション学実習	4	38.0	実習	必修
	総合講義（Ⅰ）	5	276.7	講義	必修
	臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）	5	1212.0	実習	必修
	総合講義（Ⅱ）	6	851.5	講義	必修
	4学部合同セミナー	6	4.0	演習	必修

科目区分	科目名	履修年次	時間数	単位	区分	備考
自由科目	海外英語演習	1～6	約2週間	2	演習	自由
	地域医療課題解決演習	1～6	16.0	1	演習	自由

別表２（第30条関係）

１．入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。（転部入学含む）

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	初年度（年額）	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	入学時	3,000,000 円	2,000,000 円	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※教育充実費のうち、平成 21 年度医学部在学中の学生の第 2 学年からの年額は 800,000 円とする。

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

２．再入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		500,000 円	300,000 円	175,000 円	125,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費	第 1 学年(年額)	500,000 円	－	125,000 円	150,000 円
	第2学年以降（年額）	500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,000,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	第 1 学年(年額)	－	－	－	－
	第2学年以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

３．転入学（歯学部に限る。）に係る入学検定料、入学金、授業料、その他学費は、前項と同額とする。

４．編入学に係る入学検定料、入学金、授業料、その他の学費は、次のとおりとする。

		医学部	歯学部	薬学部	看護学部
入学検定料		60,000 円	40,000 円	35,000 円	30,000 円
入学金		2,000,000 円	600,000 円	350,000 円	250,000 円
授業料（年額）		2,500,000 円	2,500,000 円	1,300,000 円	1,000,000 円
実験実習費（年額）		500,000 円	－	195,000 円	150,000 円
施設整備費（年額）		1,500,000 円	1,000,000 円	400,000 円	250,000 円
教育充実費	編入学時	3,000,000 円	800,000 円	－	－
	次年度以降（年額）	1,000,000 円	800,000 円	－	－

※看護学部の保健師養成科目履修者については、別途実習費等として 150,000 円を加える。

※看護学部の助産師養成科目履修者については、別途実習費等として 200,000 円を加える。

５．留年した者についての授業料、その他学費は、次のとおりとする。

(1)　第１学年において留年した者

留年年度における第１学年の授業料、実験実習費及び施設整備費とする。

(2)　第２学年以降において留年した者

留年年度における留年学年の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費とする。ただし、最終学年で留年した者で、前期末に卒業する者については、授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費のいずれも半額とする。

備考　第１項から第５項における入学検定料、入学金、授業料、その他学費については、次年度以降変更することがある。

岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程

第１条　本規程は、岩手医科大学学則第２条第３項に定める在学年限について、歯学部における取扱いを定めるものである。

第２条　歯学部の学生の在学年限は、同一学年につき２年とする。ただし、次の学生は、所定の期限までに在学年限延長願（別紙様式１）を歯学部長に提出した上で、歯学部教授会の議を経て学長が決定した場合に限り、１年間当該学年の在学年限の延長が認められることがある。なお、通算して修業年限の２倍を超える場合は在学年限の延長は認めない。

（１）　第４学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。または、医療系大学間共用試験実施評価機構が実施する臨床実習前全国統一試験（CBT、OSCE）を受験し不合格となった者。

（２）　第６学年において在学年数が２年目の者で、当該年度における所定の試験で不合格となった者。

（３）　前各号における在学年数には、休学した期間は含めない。

第３条　この規程の改廃は、歯学部教授会及び教学運営会議の議を経て学長が決定する。

第４条　この規程に関する事務は、歯学部教務課が行う。

附　則

この規程は、令和８年４月１日から施行する。

別紙様式１（第２条関連）

在学年限延長願

岩手医科大学学長　殿
岩手医科大学歯学部長　殿

年　　月　　日

歯学部＿＿＿＿年＿＿＿＿番

学生氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

保証人氏名（自署）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

このたび、当該学年における在学年数が２年目であること、並びに所定の試験に不合格となったことから、「岩手医科大学歯学部における在学年限に関する規程」第２条に定める在学年限の延長をお願いいたしたく、保証人連署の上、願書を提出いたします。

※大学使用欄

年　　月　　日受付

学　長	歯学部長	歯学部 教務委員長	歯学部 学生部長	事務局長	学務部長	歯学部教務課 総括課長	歯学部教務課 係長	担当者

岩手医科大学における各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命に関する規程

（趣旨）

第１条　大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）第２条に則り、学則第１条第２項に基づき、本学の教育研究方針を明確にし、学部等における教育の質を保証するとともにその基準を内外に示すため、以下に各学部等の人材養成および教育研究上の目的と使命（以下「各学部等の目的と使命」という）を定めるものとする。

（各学部等の目的と使命）

第２条　医学・歯学・薬学・看護学の四学部をもつ医療総合大学としての特色を活かし、各学部間の緊密な連携のもとに人類の健康・福祉の向上に貢献することを目指す。各学部等の目的と使命を以下のとおり定める。

（１）　医学部

教育・診療・研究において、主導的役割を担う豊かな人間性を備えた人材を養成する。このために、社会、患者、保健や医療に関わる機関の期待に応え、地域や世界的な医療、社会の保健、健康増進、医学教育並びに医学研究の専門的能力を高める人材を育成する。また、人としての教養を高め、医師としての十分な知識と技能を修得させ、発展を続ける医学に対応する生涯学習のための自己啓発能力を涵養する。

（２）　歯学部

豊かな教養と人間性を涵養し、全人的医療を実践し、歯科医学、歯科医療ならびに口腔保健の進歩発展に寄与することのできる人材を養成する。

（３）　薬学部

基礎薬学から医療・臨床薬学の教育研究を通し、豊かな人間性と広い視野から問題を発見し解決する能力を備え、薬学の進歩と地域医療の発展に貢献する人材を養成する。

（４）　看護学部

人々の尊厳と権利を尊重し、最新の高度医療に対応する実践能力を持ち、自律的に責務を遂行できる看護専門職として、看護学の発展に寄与し、地域社会に貢献する人材を養成する。

（５）　全学教育推進機構教養教育センター

地域医療と国際社会に貢献する基盤として、学則に謳う人としての教養を高め、豊かな人間性を涵養する。そのため、人文科学も含めた広い意味での科学を修得し、医学、歯学、薬学、看護学、またそれらの複合領域等において、自己研鑽を継続できる人材を養成する。

（改廃）

第３条　この規程の改廃は、教学運営会議の議を経て学長が行う。

附　則

この規程は、平成 20 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 24 年９月 26 日　から施行し、改正後の規定は、平成 22 年６月 15 日から適用する。

附　則

この規程は、平成 27 年 12 月１日から施行する。（薬学部における目的の変更）

附　則

この規程は、平成 29 年　４月１日から施行する。（看護学部の目的の追加、規程改廃の決定機関変更）

附　則

この規程は、令和２年２月 12 日から施行する。（教養教育センターの目的の追加）

附　則

この規程は、令和８年２月１日から施行する。（医学部および教養教育センターの目的と使命の追記）

学生心得

本学の目的は、「医学教育、歯学教育、薬学教育及び看護学教育を通じて誠の人間を育成する」にあります（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、良識ある公民として自らの責任で行動してください。

1．本学学生としての心構え

（1）医師、歯科医師、薬剤師、看護職を志す者としての自覚を常に持って行動してください。

（2）学生としてふさわしい言動、礼儀作法及び服装等について十分注意を払ってください。

（3）学生同士、教員、医療従事者、患者、およびその家族を尊重し適切な行動をとるよう努めてください。

（4）講義、実習等に出席し、学修に対して意欲を持ち知識・技能・態度の修得に努めてください。

○アンプロフェッショナルな行動の例示

本学は医学教育、歯学教育、薬学教育および看護学教育を通じて、誠の人間を育成することを建学の精神としています（学則第 1 章第 1 条)。この建学の精神を認識し、大学の内外を問わず、医療人を志す学生としての自覚を持った行動を求めます。

それに反する行為、行動の例を以下に示します。

（1）不適切な態度･行動の繰り返し

- 活動に参加しない、臨床現場での学習に参加しない
- 事務手続き、教員からの連絡を無視する
- 時間管理ができない
- 講義、実習等を特段の理由がないにもかかわらず欠席する
- 患者や同僚などへの無礼
- 他者からの建設的なフィードバックから学ぶことができない
- 学修環境や臨床現場を混乱させる
- 教員へ挑戦的行動をとる
- 教員からの指摘を受け入れない

（2）不正行為

- 定期試験等での携帯電話・スマートフォン等の不正利用やカンニング行為
- 講義、実習での出席届の不正
- 他者が行った活動を自分が行ったと偽ること
- 自分が受けた試験の内容を他の学生に伝える
- 評価表での指導者のサインの捏造や、試験、ポートフォリオへの不正行為
- レポート等における剽窃、盗用、および生成AI等の不適切な利用

（３）職務上の役割以外の不正行為または詐欺

- 研究でのデータ捏造
- 金銭的詐欺
- 経歴詐欺、書類偽造
- 資格詐称
- ポートフォリオなどの書類の偽造、改ざん
- 不正行為や健康問題の大学への未申告
- 健康問題（例えば、インフルエンザやコロナの罹患）の故意隠蔽

（４）医療人を目指す者としての不適切な行動

- ソーシャルメディア等の悪用（教育病院での臨床現場を批判するなど）
- 守秘義務の不履行
- ケアや治療について、指導者に相談せずに患者に間違ったことを伝える
- 患者からの同意を得ずに医療行為を行う
- 性的、人種的およびその他のハラスメント
- 不適切な診察や一線を越えた行動
- 不当な差別

（５）攻撃的な暴力や脅し

- 暴行、身体的暴力
- いじめ（ソーシャルメディア等によるものを含む）
- ハラスメント
- ストーカー行為

（６）薬物またはアルコールの誤用や濫用

- 飲酒運転
- 処方薬の乱用
- 飲酒により臨床業務、職場環境や教育環境を乱す
- 薬物の不適切使用
- 不適切な過度の飲酒

（７）その他の不適切行動または犯罪行為

- 違法薬物の所持、取り扱い、提供
- 窃盗
- 無賃乗車
- 金融詐欺
- 児童ポルノ
- 児童虐待またはその他の虐待
- 犯罪の仲介・斡旋

また、学生生活を送る上で、以下のことを厳守してください。

２．伝達方法

大学からの通知や連絡は掲示板への掲示や学修支援システム（WebClass、moodle 等）を通じて行いますので、未確認による不利益を被ることがないよう必ず確認してください。利用する学修支援システムは、所属学部の指示に従ってください。また、メールアドレスを変更した場合は学修支援システムに登録されているアドレスも必ず変更してください。

父母等から大学へ電話による学生の呼出しを依頼される場合がありますが、緊急かつ必要と認められる場合を除き、原則として掲示板、学修支援システムによって通知する以外はできませんので、ご了承ください。

３．学生証について

学生証は本学学生であることを証明するものですので、常時携帯してください。また、学内で諸手続をする場合は、学生証の呈示が必要ですので、破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

学生証は卒業・退学・除籍等の場合は直ちに所属学部の教務課に返納してください。

４．ネームプレートの着用について

ネームプレートは学内では必ず着用してください。破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課にて再交付の手続きをしてください。

５．ロッカーについて

全学生に対してロッカーを貸与します。貴重品を置く場合は必ず施錠して下さい。ロッカーの室内は共用の場所ですので私物を放置しないでください。また、ロッカーの鍵を破損・紛失した場合は直ちに所属学部の教務課で再購入（実費負担）の手続きをしてください。

６．授業料等の納付について

入学年度以降の授業料、実験実習費、施設整備費及び教育充実費は、毎年 4 月 25 日までに納入してください。なお、授業料は 2 回に分割することができ、分納する場合の 2 回目の納入期限日は 9 月 25 日です。授業料等を所定の期日までに納入しない場合は、学則により出席停止の上、除籍となる場合があります。

７．自動車通学について

矢巾キャンパスへの自動車通学は、「自動車通学許可申請書」を学事課（矢巾）に提出し、大学で定める自動車安全講習会を受講した後、許可証が発行された場合にのみ許可されます。なお、許可まで 1 ヶ月程度時間がかかります。

また、内丸キャンパスへの自動車通学は原則として認めていません。やむを得ず通学を希望する場合は、学事課（矢巾）に相談してください。学生駐車場以外に駐車した場合、自動車通学の許可を取り消します。

登録料	2,000 円（年間）
有効期限	申請年度内に限り有効　　※年度毎に更新申請が必要
通学許可基準	大学と居住地との距離が半径 1.3 km以上離れていること
申請に必要なもの	①　自動車通学許可申請書　②登録料　③免許証
登録証の発行	申請後、自動車安全講習会(初年度のみ)を受講し、 許可された場合のみ発行

８．自転車・バイクの登録について

自転車・バイクで通学する場合は必ず登録してください。1 回の登録で在学期間中は有効です。

登録料	バイク　1,000 円　自転車　500 円
有効期限	在籍中有効
申請に必要なもの	②　登録申請書　②登録料　③免許証（バイクのみ）
登録証の発行	申請後、即日ステッカーを発行

ステッカーは後輪カバーの下部に貼付し、指定駐輪区域内に整然と駐輪し、歩道・道路にはみ出した場合は別の場所に移動すること。

※車両買い替え時、再申請が必要です。

９．自動車・バイク・自転車の使用について

自動車・バイク・自転車を使用する場合は、交通法規等に違反しないことはもちろん、生命を尊ぶべき医学生、歯学生、薬学生及び看護学生として常に安全運転に徹してください。交通事故または道路交通法違反を起こした場合、大学として処分するのみならず、医師法・歯科医師法・薬剤師法・保健師助産師看護師法により各免許の交付を受けられない場合があります。万一、交通事故及び交通違反を起こしてしまった場合には、その軽重にかかわらず、直ちに報告してください。

【学生の交通事故又は道路交通法違反に対する処分の内容の一例】

交通事故・道路交通法違反の内容		酒酔い・酒気帯び運転	無免許運転	酒酔い・酒気帯び・無免許運転でない場合
死亡事故又は重大な傷害事故	運転者	無期停学	無期停学	6 ヶ月以内の停学
	同乗者	6 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
傷害事故	運転者	無期停学	6 ヶ月以内の停学	戒告又は注意
	同乗者	3 ヶ月以内の停学	状況に応じた処分	状況に応じた処分
上記以外の交通事故・道路交通法違反	運転者	無期停学	1 ヶ月以内の停学	注意
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分
死亡事故又は重大な傷害事故を起した場合で、極めて悪質な行為があった場合	運転者	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学	退学あるいは退学の上、除籍又は無期停学
	同乗者	状況に応じた処分	状況に応じた処分	状況に応じた処分

１０．トラブル防止

若者が狙われる悪徳商法等のトラブルが急増しています。手口も年々巧妙になっています。

トラブルに巻き込まれないよう日頃から十分注意してください。トラブルに巻き込まれた場合は 1 人で悩まずクラス担任・チューター・大学窓口や公共の相談機関にまず相談してください。

内容	対応	日頃の注意点
【ワンクリック詐欺】 パソコンのＷＥＢサイトや、携帯電話のメールを利用した架空請求	払わない 連絡しない	①知らないアドレスからのメールは見ない ②怪しいページは見に行かない ③利用規約は必ずチェックする
【悪質商法】 マルチ商法、デート商法など「うまい話」で引き込み、巧妙な手口や脅迫めいた行為で商品を売り込む	クーリング・オフ制度を利用する	①街頭で声をかけられても相手にしない ②契約（署名や押印）は慎重に ③入会等は即断せず家族や知人に相談する

１１．注意事項

（１）飲酒

20 歳未満の飲酒は法律により禁止されています。また、新入生歓迎コンパ等でいっき飲みという行為から急性アルコール中毒になる事故が発生しています。悪質な場合は大学として処分するだけでなく、同席している成人（先輩）と保護者が監督責任を問われ社会的制裁を受けることもあります。さらに、飲み会における過度な飲食代の負担も発生していますので、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として節度ある飲酒を心掛けてください。

（２）拾得物

大学構内で本学学生の所有物とみられる物があった場合は、総務課・所属学部の教務課・学事課・内丸キャンパス事務室のいずれかへ届けられます。また、遺失物を拾得した場合は、速やかに前述のいずれかに届けてください。

（３）盗難防止及び郵便物

貴重品や現金及び自転車等の盗難防止のため、次のことに注意してください。

１）多額の現金は持ち歩かず、貴重品は自分の身から離さないようにしてください。更衣室等での盗難には十分注意してください。

２）ロッカー周辺の私物の盗難が多発しています。ロッカーに貴重品を置く時は必ず施錠してください。また、各自整理整頓を心掛けてください。

３）自転車、自動車、バイクから離れる時は必ず施錠してください。

４）学内（駐車場・駐輪場等を含む）で盗難にあった時、または不審者を見かけた時は直ちに所属学部の教務課に連絡してください。学外の場合は、最寄りの交番等に届出てください。

５）学生個人宛の郵便物は、自宅等に直接郵送してもらってください。やむを得ず大学を経由し、郵便物を送付してもらう場合は、必ず所属学部の教務課に申し出て指示を受けてください。

（4）校舎内､講義室等の美化

校舎内・講義室等へ雑誌類やゴミ等を散乱・放置したままにしないでください。特に講義室は、講義時間外に研究発表等で学内外者へ貸出することがあるので、個人所有物は各自ロッカー内において管理してください。放置している個人所有物は撤去の上、廃棄処分します。

（5）喫煙

20 歳未満の喫煙は法律により禁止されています。周囲から勧められても決して吸ってはいけません。なお、大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。医療系大学の学生である自覚を強く持ちマナーを守ってください。

なお、禁煙をお考えの方は健康管理センターまでご相談ください。

（6）薬物

近年、芸能人・スポーツ選手などの麻薬や大麻・覚せい剤などの薬物乱用が増え、若い人たち、特に大学生の間での薬物汚染が拡大しています。薬物使用は、言うまでもなく重大な犯罪です。脳機能障害を来すなど身体や生命に悪影響を及ぼすだけでなく、殺人などの犯罪を引き起こすこともあります。勧められても絶対に断る強い意志と勇気を持ち、すぐに専門家に相談してください。

１２．受講マナー

他大学のみならず本学においても講義を受ける学生のマナー、いわゆる受講マナーの低下がみられます。受講マナーを欠くということは、講義を担当する先生方への礼を失することです。

「誠の人間を育成する」という建学の精神を十分認識し、医師・歯科医師・薬剤師・看護職を志す者として良識ある行動を取ってください。なお、マナー違反となる行為はアンプロフェッショナルな行為として、処分の対象となる場合があります。

【マナー違反】

（1）私語　（2）居眠り　（3）途中入退室　（4）携帯電話・スマートフォンの私的利用　（5）食事や飲酒　（6）受講中の化粧

（7）服装の乱れ

１３．日常のマナー

窓口やキャンパス内であまりに幼稚な言葉を平気で使う学生がいます。また、医療系大学の学生とは思えないような配慮のない行動をしている学生がいます。医療人を目指す以前に、大学生はすでに大人であるという自覚をしてください。

言葉遣いや日頃の態度で学生の知性が疑われることのないよう切に願います。

【マナー違反】

（1）ごみの放置

学内外に寄らず自分が飲み食いしたものを平気でその場に放置する学生がいます。掃除する方のことを考えましょう。

（2）タバコのポイ捨て

大学及び病院の敷地内は全面禁煙です。また、学内外を問わず、タバコの吸殻のポイ捨て、歩きタバコはしないでください。

（３）言葉遣い

言葉遣いはその人の品性そのものです。岩手医大の学生である自覚を持ち、礼節ある言動を心掛けてください。

（４）駐輪

指定の駐輪場スペースからはみ出したり、次の人のことを考えない停め方はやめましょう。

岩手医科大学学生の欠席の取扱いに関する規程

第１条　この規程は、岩手医科大学において、学生が授業又は試験を欠席した場合の取扱いに関して定める。

第２条　欠席の取扱いは、授業又は試験を担当する責任者等が判断する。

第３条　学生は、授業又は試験を欠席しようとするとき、又は欠席したときは、速やかに欠席届を提出しなければならない。

第４条　次に掲げるいずれかの欠席に該当する場合は、当該欠席について取扱いを考慮することがある。

（１）　近親者の死亡の場合であって、１親等にあっては連続１週間、２親等にあっては連続３日、３親等にあっては１日の欠席（いずれの期間にも休日・祝日を含む。）

（２）　学校保健安全法施行規則（昭和 33 年文部省令第 18 号）第 18 条に定める感染症による入院又は加療の場合における同規則第 19 条に定める期間の欠席

（３）　授業中の事故による入院又は加療のための欠席

（４）　交通機関の不通又は遅延による通学困難の場合における発生から復旧までの期間の欠席

（５）　大学の行事又は学部長が認める公的行事への参加の場合における移動を含む必要期間の欠席

（６）　学部長が認める就職試験の受験の場合における当該日数の欠席

（７）　その他学部長が特に認める欠席

第５条　前条に定める欠席を願い出ようとする学生は、欠席届に次の表の左欄の区分に応じ、それぞれ当該欄に定める書類を添付のうえ、期限内に提出しなければならない。

欠席事由に対応する前条の号	添付書類	提出期限
（１）	会葬礼状等の説明書類	当該期間最終日から２週間以内
（２）	医師の診断書	登校後１週間以内
（３）		
（４）	交通機関が発行する遅延証明書	欠席日から１週間以内
（５）	事由を証明する書類	原則として事前に提出。やむを得ない場合は欠席日から１週間以内
（６）		
（７）	学部長が指定する書類	学部長が指定する期間内

第６条　この規程に定めるもののほか、この規程の実施に関し必要な事項は、学部ごとに別に定める。

第７条　この規程の改廃は、教学運営会議の議決による。

第８条　この規程に関する事務は、各教務課が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

平成 20 年８月 18 日一部改正

附　則

この規程は、平成 24 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 26 年 11 月 11 日から施行する（組織名の変更等）。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する（関係法令の名称変更）。

附　則

この規程は、平成 31 年４月１日から施行する（事務局組織の再編に伴う名称変更）。

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験の取扱要領

岩手医科大学における風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱に関し、必要な事項を下記の通り定める。

1 風水害等による事故の発生を防止するため、次の各号のいずれかに 該当する場合は、休講または定期試験の実施を延期とする。

（1）午前6時から授業または定期試験開始時刻までの間において、岩手県内陸部に暴風または大雪及び暴風雪の警報（ 以下「暴風警報等」という。）が発令されている場合または発令された場合。ただし、午前10時までに暴風警報等が解除され、公共交通機関が運行した場合、午後からの授業及び定期試験は実施する。

（2）登校後、岩手県内陸部に暴風警報等が発令され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（3）岩手県内陸部に暴風警報等が発令されると予め想定され、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

（4）暴風警報等解除後においても被害が甚大な場合または、各学部長、研究科長、教養教育センター長が協議の結果、危険と判断した場合。

2 前項により休講となる場合の学生・教職員等への周知については、次の各号により行う。

（1）前項第1号の場合の学生への周知は、緊急連絡用メールにより行う。

（2）前項第2号及び第3号の場合の学生への周知は、学内掲示、館内放送、緊急連絡用メールにより行う。

（3）前項各号による場合の教職員等への周知は、各教務課が緊急連絡網により行う。

（4）学内外からの照会には各教務課があたる。

3 地震等の不測事態による休講等の取扱については、各部局長の判断による。

4 教職員の緊急連絡招集等については別に定める。

5 本取扱要領の改廃については、各教授会等の審議を得るものとし、事務は全学教育企画課が担当する。

【注】（ⅰ）警報は、「盛岡地方気象台が発表する警報」による。

（ⅱ）警報の発令・解除及び公共交通機関の運行の確認は、テレビ・ラジオ等の報道または各公共交通機関への照会による。

（ⅲ）学外の実習棟の場合は、各実習先または実習担当教員の判断による。

附 則

この要領は令和２年１月30日より施行する。

この施行に伴い、「矢巾キャンパスにおける風水害等に伴う授業及び定期試験等の取扱」を廃止する。

昭和 42 年 10 月 1 日　制定
昭和 45 年 12 月 28 日　改正
昭和 48 年 5 月 16 日　改正
昭和 54 年 6 月 6 日　改正
昭和 55 年 6 月 10 日　改正
平成 4 年 2 月 20 日　改正
平成 8 年 5 月 15 日　改正
平成 9 年 3 月 17 日　改正
平成 9 年 8 月 6 日　改正
平成 10 年 3 月 4 日　改正
平成 11 年 3 月 24 日　改正
平成 13 年 2 月 21 日　改正
平成 15 年 1 月 24 日　改正
平成 16 年 3 月 3 日　改正
平成 18 年 3 月 15 日　改正
平成 18 年 11 月 15 日　改正
平成 21 年 3 月 18 日　改正
平成 26 年 3 月 13 日　改正
平成 30 年 3 月 7 日　改正
令和 5 年 2 月 16 日　改正
令和 7 年 3 月 5 日　改正
令和 8 年 3 月 4 日　改正

岩手医科大学歯学部試験規程

（趣　　旨）

第１条　この規程は、学則第 8 条第 2 項の規定に基づき、歯学部の試験に関し定めるものである。

（試験科目等）

第２条　試験科目及び試験の実施については、教授会の議を経てこれを定める。

（試験の種類）

第３条　試験は、次のとおりとする。

（１）本試験　履修した授業科目について行う試験をいう。

（２）再試験　本試験において不合格となった科目について改めて行う試験をいう。

（３）追試験　病気又は止むを得ない理由により試験を受けられなかった時、その理由の消滅後に願い出により当該試験科目について行う試験をいう。

（４）科目認定試験　第 2 学年、第 3 学年で不合格となった授業科目について進級後の学年で行う試験をいう。

（試験方法）

第４条　試験は、筆答、口答、レポート提出、製作品提出、実地試問、その他の中から、担当教員が適当と認めた方法により実施する。

（試験日程）

第５条　本試験は、前期及び後期の授業終了時に行うものとする。

２　本試験及び再試験の日程及び時間割等は、その実施の 2 週前までに発表する。

３　追試験は、学業成績判定までに行うものとする。

４　科目認定試験は、当該科目の責任者・コーディネーターが指定した時期に行う。

（受験資格）

第６条　各授業科目の所定履修時間の原則３分の２以上出席しなければ、本試験を受験することができない。ただし、その取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（再・追試験受験手続）

第７条　再試験及び追試験の該当者は、所定の手続きをとらなければならない。

２　追試験該当者は、追試験願及び試験欠席届に理由書（病気の場合は診断書、その他は明確な理由書）を添えて提出し、当該科目責任者及び学部長の承認を得なければならない。

３　再試験料は１科目 3,000 円、追試験料は１科目 1,000 円とし、その都度前納しなければならない。

（評　　点）

第８条　各学年で履修する科目の評点は、次のとおりとする。

（１）第１学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

（２）第２学年～第５学年で履修する科目の評点は、科目毎に 100 点満点とし、65 点以上を合格とする。

（３）第６学年で履修する科目の評点に関し必要な事項は、別に定める。

（４）再試験、追試験及び科目認定試験の取り扱いに関し必要な事項は、別に定める。

（進　　級）

第９条　各学年で履修した全科目の試験に合格した者は、教授会の議を経て進級とする。

２　前項以外の者で、別に定める要件を満たした者は、教授会の議を経て進級とする。

３　進級不可と判定された者は留年とし、当該学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（卒　　業）

第 10 条　所定の試験に合格した者に対し、教授会の議を経て学長が卒業の認定をする。

２　卒業不可と判定された者は留年とし、第 6 学年において行われるすべての授業科目に出席し、改めてそれらの試験を受けなければならない。

（成績評価の開示）

第 11 条　個人の成績評価については、各学年の最終評価を開示するものとする。

（成績評価の異議申し立て）

第 12 条　成績評価に関する疑義が生じ、教員の説明では解決が得られなかった場合は、成績評価に関する異議申し立てをすることができる。異議申し立てを行う場合には、別に定める「成績評価に対する異議申し立てに関する内規」の手続きにより「成績評価に対する異議申立書」（所定の様式による）を、歯学部教務課に提出するものとする。

（罰　　則）

第 13 条　試験に関して不正行為があった場合は、学則第 41 条により懲戒する。

（規程の改廃）

第 14 条　この規程の改廃は、教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第 15 条　この規程の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

1　この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。
2　この規程は、平成 8 年 5 月 15 日から施行する。
3　この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。
4　この規程は、平成 9 年 8 月 6 日から施行する。
5　この規程は、平成 10 年 4 月 1 日から施行する。
6　この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
7　この規程は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。
8　この規程は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
9　この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。
10　この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
11　この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
12　この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
13　この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。
14　この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。（学則第 18 条第 1 項との整合性を図る修正）
15　この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
16　この規程は、令和 7 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）
17　この規程は、令和 8 年 4 月 1 日から施行する。（実際の運用との整合性を図る修正）

2026年度岩手医科大学歯学部 試験規程の取扱内規

１．この内規は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第６条及び第８条の取扱いに関して定めるものである。

２．第６条（受験資格）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）別に受験資格を規定された科目及び試験については、それぞれ規定された要件を満たさなければならない。

（２）半期10回未満の科目で、出席が所定の割合未満の科目がある場合でも、当該学期における全科目の出席状況を勘案し、受験を認めることがある。

（３）第１学年において次のいずれかに該当する者は、再試験を受けることができない。
①履修科目の３分の１を超えて60点未満の評価を得た者
②総平均点が60点未満の者（小数点以下切り捨て）

（４）第２学年から第４学年においては、各授業科目の所定履修時間の５分の４以上出席しなければならない。

（５）第２学年において履修科目の総平均点が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（６）第３学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（３年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（７）歯科総合演習（３年）については、追試験を実施しない。

（８）第４学年において履修科目の総平均点（歯科総合演習（４年）を除く）が65点未満の者（小数点以下切り捨て）は、再試験を受けることができない。

（９）歯科総合演習（４年）については、追試験を実施しない。

(10) 第５学年前期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②前期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(11) 第５学年後期総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（解説講義を含む）に５分の４以上出席していること。
②後期の週間復習試験及び月間復習試験をそれぞれ５分の４以上受験していること。
③期間内に指定された演習及び試験を全て受講していること。

(12) 第５学年総合講義（Ⅰ）については、追試験を実施しない。

(13) 第６学年第１回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①前期の講義（基盤形成講義II、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②前期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義①に選出されている者は、その講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義①の受講対象者は、前年度の成績及び実力確認試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(14) 第６学年第２回総合試験における受験資格の要件は次のとおりとする。
①後期の講義（臨実特化講義、必修特化講義、総合試験解説講義）に５分の４以上出席していること。
②後期の復習試験を５分の４以上受験していること。
③選抜講義②及び知識統合講義に選出されている者は、それぞれの講義に５分の４以上出席していること。
④選抜講義②の受講対象者は、大学主催の模擬試験、到達度評価試験、第１回総合試験の成績を用いて、得点率で下位概ね３分の１の学生とする（追加する場合がある）。
⑤期限内に指定された演習及び試験を全て受講していること。
⑥原則として期間内に実施する大学主催の模擬試験全てに出席していること。

(15) 第６学年卒業判定保留解除試験（再試験）における受験資格の要件は次のとおりとする。
①２．(13)、(14) に定める要件を全て満たしていること。
②判定基準点（必修問題75%以上、一般問題65%以上、臨床実地問題65%以上、総合得点70%以上）がいずれも合格基準に到達していない場合は、受験することができない。
③総合得点が63%未満の者は、受験することができない。

(16) 第６学年総合講義（Ⅱ）については、追試験を実施しない。

３．第８条（評点）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）追試験の点数は、その得点より１割を減じたものとする。

（２）再試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（３）科目認定試験の点数は、その最高得点が本試験の合格点を超えないものとする。

（４）歯科総合演習（３年）は、前期試験を30%、３年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（５）歯科総合演習（４年）は、前期試験を30%、４年次総合試験（後期試験）を70%として評価する。

（６）第５学年総合講義（Ⅰ）は、実力確認試験及び復習試験（週間と月間）を 10%、前期総合試験を 40%、後期総合試験を 50%として評価する。
（７）第６学年総合講義（Ⅱ）は、実力確認試験及び到達度評価試験を５％、第１回総合試験を 40%、第２回総合試験を 55%として評価する。
（８）第６学年総合講義（Ⅱ）の判定基準点、判定基準及び評点は、次のとおりとする。
判 定 基 準 点：必修問題 75%以上、一般問題 65%以上、臨床実地問題 65%以上、総合得点 70%以上（小数点以下切り捨て）。
判　定　基　準：必修問題、一般問題、臨床実地問題、総合得点いずれも基準点を満たしていること。
評　　点：100 点満点とし、総合得点を評点に用いる。
（９）第６学年で履修する４学部合同セミナーの評点は、100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

付　則
この内規は、2026 年３月 27 日から施行する。

2026年度岩手医科大学歯学部 進級・卒業に関する申し合わせ事項

１．この申し合わせ事項は、岩手医科大学歯学部試験規程第15条の規定に基づき、同規程第９条及び第10条の取扱いに関して定めるものである。

２．第９条（進級）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第１学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

（２）第２学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 履修科目の平均点が65点以上
b. 再試験を受験している
c. 55点未満の科目がない
d. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（３）第３学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。ただし、以下の要件を全て満たしている場合に限り、教授会の議を経て進級できる。

a. 歯科総合演習（３年）に合格している
b. 履修科目の平均点が65点以上
c. 再試験を受験している
d. 55点未満の科目がない
e. 55点以上65点未満の科目が１ないし２科目（合計８単位以内）である

（４）第４学年における修了要件は、履修した全科目の試験及び歯学生共用試験（CBT・OSCE）に合格していることとする。

（５）第５学年における修了要件は、履修した全科目の試験に合格していること及び臨床実習（Ⅰ・Ⅱ）を修了していることとする。

（６）臨床実習の修了要件は、次のとおりとする。

①全科目のリクアイアメントを100％以上所定の期日までに達成していること。
②臨床実習の全日程において、５分の４以上出席していること。
③臨床実習後臨床能力試験（一斉技能試験及び臨床実地試験）に合格していること。
④学外連携プログラムに係る実習（介護体験実習、地域医療体験実習）を修了していること。
⑤岩手医科大学附属病院総合安全教育プログラム研修を２回以上受講していること。

（７）第２学年及び第３学年の修了要件を満たさずに進級した者は、進級後の学年で不合格となった授業科目の科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（８）カリキュラムの変更等により留年時に再履修できない授業科目が発生した場合は、不合格となった授業科目に限り、科目認定試験を受け、合格する必要がある。

（９）科目認定試験に不合格となった者は留年とし、改めて不合格となった科目認定試験を受けなければならない。

３．第10条（卒業）に係る取扱いは、次のとおりとする。

（１）第６学年における卒業要件は、履修した全科目の試験に合格していることとする。

付　則

この申し合わせ事項は、2026年３月27日から施行する。

岩手医科大学歯学部 成績評価に対する異議申し立てに関する内規

制定　令和８年３月４日

（趣　　旨）

第１条　この内規は、岩手医科大学歯学部の学生（以下「学生」という。）が、履修した授業科目に係る成績評価に対して疑義が生じ、科目責任者からの説明をもってしても疑義の解消に至らなかった場合に行う異議申し立てに関して、必要な事項を定める。

（成績評価方法等の明示）

第２条　責任者・コーディネーター（以下「科目責任者」という。）は、成績評価に関連する事項を教育要項等に明示し、学生に説明しなければならない。

（成績評価結果の説明）

第３条　科目責任者は、学生に対して成績評価結果の基となる試験結果等の説明に努めるものとする。

（成績評価に関する質問・疑問等の受付）

第４条　科目責任者は、成績開示後に一定期間を設けて学生からの成績評価に関する質問・疑問等を受け付けるとともに、これに真摯に対応するものとする。

（異議申し立て手続き）

第５条　学生は、次に掲げる事項に該当する場合、成績評価に対する異議申し立てをすることができるものとする。

（１）成績の誤記入等、明らかに科目責任者等の誤りであると思われる場合。

（２）教育要項等により学生に明示している成績評価方法・基準・配点割合等から明らかに逸脱していると思われる場合。

２　学生は、異議申し立てを行う場合、成績開示後５日以内に成績評価に対する異議申立書（別記様式１）を、歯学部教務課に提出するものとする。ただし、同一の成績評価に対する異議申し立ては１回限りとする。

（異議申し立ての審査）

第６条　歯学部長は、異議申し立てを受けた場合、歯学部教務委員会へ回答書（別記様式２）の作成を指示するものとする。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てを受理する場合、歯学部教務委員長を長とする成績評価に対する異議申し立て審査委員会（以下「成績異議申立審査委員会」という。）を設置する。

３　成績異議申立審査委員会は、成績評価に対する異議申立書に基づき、審査を行う。

４　成績異議申立審査委員会は、審査に際し、当該学生及び科目責任者等への聴取調査を行うことができる。また、必要に応じて、科目責任者等に対して成績判定に用いた資料の提出を求めることができる。

（審査結果の取り扱い）

第７条　成績異議申立審査委員会は、審査結果を歯学部教務委員会に報告する。

２　歯学部教務委員会は、異議申し立てへの対応を決定し、歯学部長に報告する。

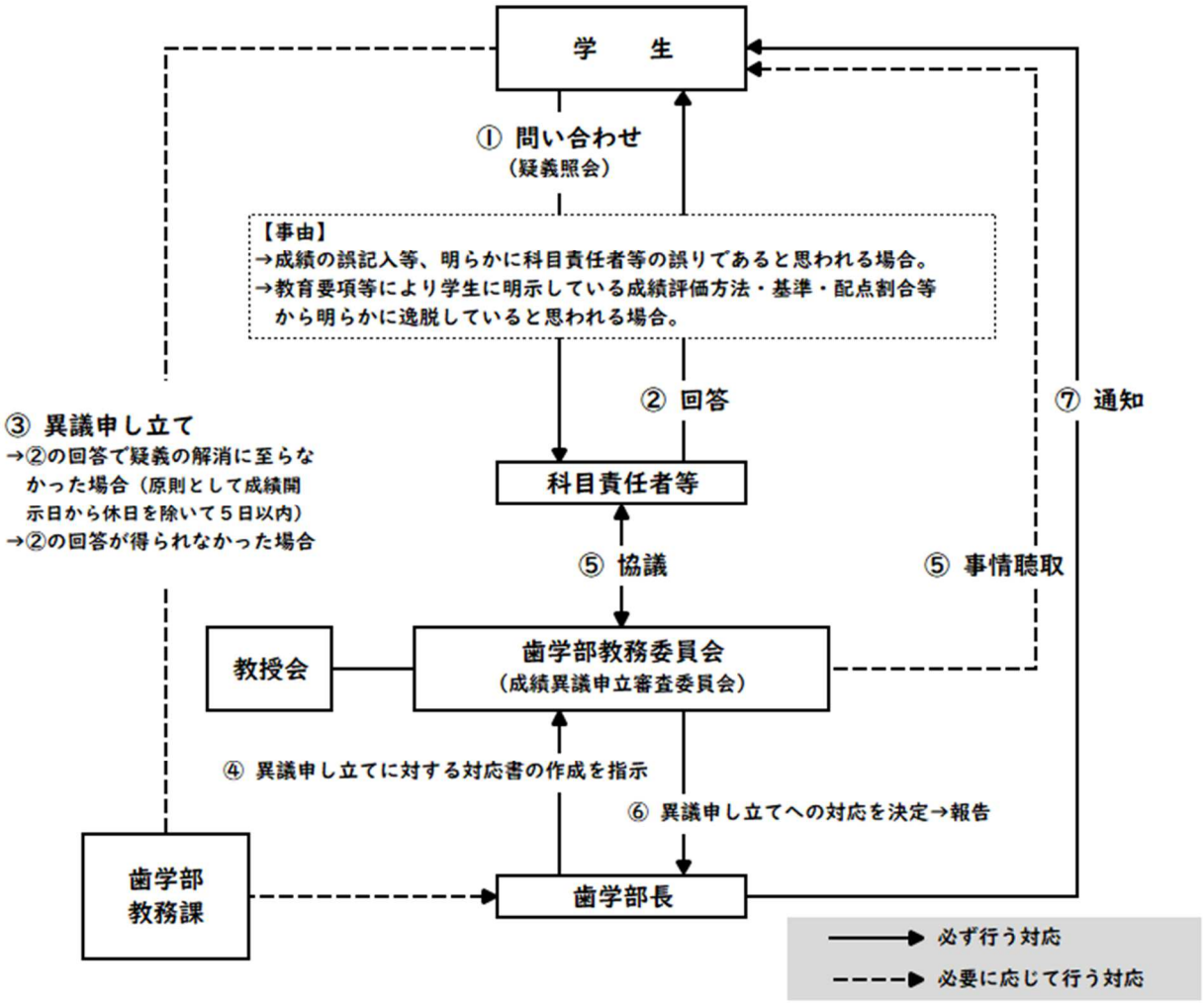
３　歯学部長は、審査結果を当該学生へ回答書（別記様式２）にて通知するものとする。

（内規の改廃）

第８条　この内規の改廃は、歯学部教授会の議を経て歯学部長が行う。

（雑　　則）

第９条　この内規に定めるもののほか、この内規の実施に関し必要な事項は、別に定める。



（様式１）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立書

歯学部長　様

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名　　㊞

以下の理由のとおり、当該授業科目の成績評価に対して異議を申し立てます。

授業科目名		開示された 成績評価	点
科目責任者名			
異議を申し立てる 具体的理由			

提出先：歯学部教務課

（様式２）

令和　　年　　月　　日

成績評価に対する異議申立への回答書

歯 学 部　　年　　番

学籍番号

氏　　名

歯学部長

令和　　年　　月　　日付、提出のありました成績評価に対する異議申し立てについて、歯学部教務委員会の決定に基づき、以下のとおり回答いたします。

授業科目名	
科目責任者名	
異議申立への対応	１．成績評価の変更を行います。　**【変更後の成績評価：　　点】** ２．成績評価の変更を行いません。
具体的理由	

岩手医科大学障害のある学生等への合理的配慮に関する規程

令和６年４月１日制定

（目的）

第１条　この規程は、「障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)」及び「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(平成 25 年法律第 65 号)」、その他関係法令、並びに岩手医科大学学生支援方針に基づき、岩手医科大学(以下「本学」という。)における障害のある学生等への合理的配慮に関し必要な事項等を定めることを目的とする。

（定義）

第２条　本規程において、次の用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　障害のある学生等　障害者基本法(昭和 45 年法律第 84 号)第２条第１号に規定する障害者、即ち、身体障害、知的障害、精神障害(発達障害を含む。)その他の心身の機能の障害(難病に起因する障害を含む。以下「障害」と総称する。)により継続的に修学上相当な制限を受ける状態にある学生等。

（２）　合理的配慮　障害のある学生等が、他の者との平等を基礎として修学上の不利益を被ることがないよう必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において障害のある学生等本人が必要とするものであり、教育の目的・内容・評価の本質を変えないもの、かつ、均衡を失したまたは過重な負担を課さないもの。

（教職員の責務）

第３条　本学教職員は、障害のある学生等が修学上の不利益を被ることがないよう、合理的配慮の提供に努めなければならない。

（支援体制）

第４条　本学における合理的配慮が必要な学生等に関するアセスメントとマネジメントは、学生支援室が担当する。

２　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、学生支援室を通じ、第５条及び第６条の手続きを経ることとする。

３　学生支援室は、次の各号に掲げる教職員及び所属により構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　学事課

（４）　その他学生部長が必要と認めた者

（面談）

第５条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、窓口に相談後、面談を実施することとする。

２　面談は、次の各号に掲げる教職員および所属のうち、学生部長が必要と認めた人員に

より構成するものとする。

（１）　学生部長

（２）　学生副部長

（３）　教務委員長

（４）　クラス担任

（５）　当該学部教務課

（６）　健康管理センター

（７）　学事課

（８）　その他学生部長が必要と認めた者

３　前項構成員は、相互に連携し合理的配慮に関係する業務にあたるものとする。

（申請）

第６条　障害のある学生等が、合理的配慮の申請を希望する場合は、面談の実施後、様式１の申請書及び根拠資料等を学生支援室へ提出することとする。

２　新規申請は、合理的配慮が必要な事案が発生する都度、行うものとする。

３　更新申請は、年度ごとに行うものとする。

（合理的配慮の検討）

第７条　学生支援室は、学生等からの合理的配慮の申請意思について十分尊重するため、合理的配慮の提供について検討を行う。

２　前項の検討を行ったうえで、教育の目的・内容・評価の本質を変える、均衡を失する、または以下の各号を考慮し過重な負担にあたると判断した場合は、申請者にその理由を説明し、理解を得るよう努めるものとする。

（１）　本学および実習施設等の教育協力施設における教育研究その他の活動への影響の程度(その目的、内容、機能等)

（２）　実現可能性の程度(物理的及び技術的制約、または人的および体制上の制約)

（３）　費用及び負担の程度

（４）　本学および実習施設等の教育協力施設の規模、財政および財務状況

（合理的配慮の提供）

第８条　本規程に定める合理的配慮の提供の可否は、当該学部教授会または教養教育センター委員会にて決定する。

２　合理的配慮の提供の期間は、当該学部教授会または教養教育センター委員会が特別の事情があると認める場合を除き当該年度までとし、更新申請があった場合はその提供の可否を前項に基づき決定する。

（情報保護）

第９条　合理的配慮を提供するために必要な場合は、守秘義務を遵守のうえで関係者が個人情報を共有することができるものとする。

（事務）

第 10 条　本規程にて定める合理的配慮に関する事務は、学事課が行う。

（改廃）

第 11 条　この規程の改廃は、学生部長会議の議を経て学長が行う。

附則

この規程は、令和６年４月１日から施行する。

様式第１号(第６条関係)

学生支援室　御中

修学上の合理的配慮申請書

下記のとおり、＿＿＿年度における修学上の合理的配慮の提供を希望いたします。

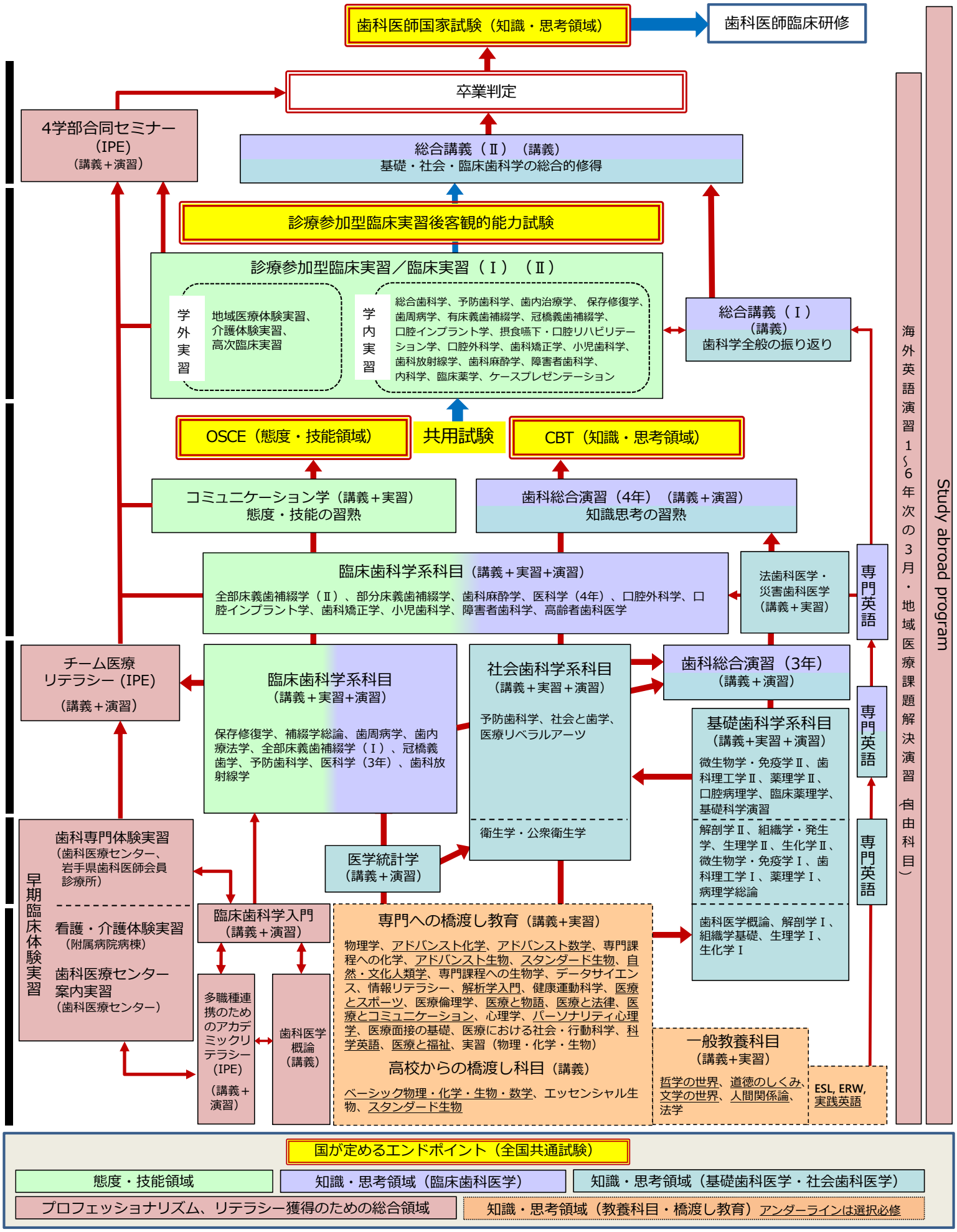
<table>
<tr><td>申請日</td><td colspan="4">＿＿＿＿ 年 ＿＿ 月 ＿＿ 日</td></tr>
<tr><td rowspan="2">(ふりがな)
氏名※自筆</td><td colspan="2" rowspan="2">(　　)
※自筆 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td><td>入学年度</td><td>＿＿＿＿＿年度</td></tr>
<tr><td>学籍番号</td><td>＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>学部学年等</td><td colspan="4">＿＿＿学部 ＿＿＿年 出席番号 ＿＿＿番</td></tr>
<tr><td>連絡先・現住所</td><td colspan="4">携帯電話：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
E-mail ：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
現 住 所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿</td></tr>
<tr><td>緊急連絡先
(保護者等)</td><td colspan="4">氏　　名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
住　　所：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
電話番号：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　本人との関係：＿＿＿</td></tr>
<tr><td rowspan="3">障がい等の名称

障がいの種類

根拠書類</td><td colspan="4">＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
※障害者手帳の写しまたは診断書等の根拠資料を添付のこと</td></tr>
<tr><td colspan="4">障がいの種類(該当箇所にチェックのこと)
□身体障がい □知的障がい □精神障がい □その他心身の機能の障がい</td></tr>
<tr><td>障害者手帳
□有(　　手帳　　種　　級)
□無</td><td>診断書
□有
□無</td><td colspan="2">その他
□有
(内容：　　)</td></tr>
<tr><td>申し出理由
及び
希望する配慮内容</td><td colspan="4">配慮を申し出る理由(支障をきたす具体的な身体等の状況など)

希望する合理的配慮(科目等が限定される場合、科目名も明記のこと)</td></tr>
<tr><td>備　　考</td><td colspan="4">□規程第９条　関係者間における個人情報の共有に同意します。</td></tr>
</table>

歯学部歯学科カリキュラムマップ　2026



GPA（Grade　Point　Average）制度について

●定　義：アメリカの大学で一般的な成績評価方法で、学生の履修科目の成績評価を単位数に応じて重み付けした平均値で表したものである。

●目　的：学生の学習意欲を高めることおよび学生自身が学修の状況及び成果を示す指標として自主的、意欲的に学修することを促すことを目的とする。また、教員は個々の学生の学修成果を全体的に把握し、教育課程の到達度を評価するとともに、各学年において GPA1.0 未満のものは成績不振者として学習指導対象とすること、および GPA0.5 未満のものは進路再考の指導対象にすることを目的とする。併せて、GPA1.0 未満のものは、全学部共通の自由科目の履修単位上限を 2 単位とする（CAP 制度参照）。

●評価および GP

医学部 1～6 学年、歯学部 1 学年 薬学部 1～6 学年、看護学部 1～4 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～60 点
D	0	59 点以下

歯学部 2～6 学年		
評価	GP	各科目成績
A	3	100～80 点
B	2	79～70 点
C	1	69～65 点
D	0	64 点以下

※歯学部における第 6 学年総合講義Ⅱ及び 4 学部合同セミナーの評価については別に定める。

●対　象：各年度による

●単位算出方法：
（例）

$$\frac{\text{1 コマ 2 時間（1 時間 30 分授業+事前学修時間 30 分）×回数}}{\text{講義・演習 15 時間または実習 30 時間}}$$

●GPA 計算方法：

$$\frac{\text{（評価「A」単位数×3 点）+（評価「B」単位数×2 点）+（評価「C」単位数×1 点）}}{\text{総単位数（不合格科目を含める）}}$$

●GPA 判定機関：各学部教務委員会の議を経て教授会にて判定する。

●対象外科目：自由科目他（各学部で設定）

CAP 制度の導入について

●目　的：学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修することができるよう、学生が 1 年間に履修する単位数（時間数）の上限を定めることを目的とする。

●対　象：全学部・全学年

●制度内容について【歯学部】

本学歯学部に於いては、モデル・コア・カリキュラムに基づき、必用な内容を必修科目・選択必修科目として設定している。1 年間に履修できる単位数（時間数）は、学則別表により各学年に配当する必修科目・選択必修科目の単位数（時間数）に以下の単位数を加えたものを上限として定めている。

学年	自由科目単位数
1～6 学年	3.0 単位

大学における単位の考え方と授業外学修について

日本の大学教育は単位制度を基本としており、1 単位あたり 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することが標準であると大学設置基準に定められています。

> 第二十一条　各授業科目の単位数は、大学において定めるものとする。
> 2　前項の単位数を定めるに当たっては、**一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもって構成する**ことを標準とし、第二十五条第一項に規定する授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、おおむね十五時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもって一単位として単位数を計算するものとする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって一単位とすることができる。

つまり、1 単位の科目を履修するためには、講義室等で受講する授業と自宅等で学修する授業外学修を合わせて 45 時間の学修が必要になるため、授業時間外の予習・復習にあたる**事前・事後学修が必要になります。**

例えば以下の例を考えてみます。

例）講義・実習 14 コマで 1 単位の科目の場合
　　講義・実習 14 コマ × 1 コマ 2 時間（90 分を 2 時間として計算） ＝ 28 時間
　　45 時間 － 28 時間 ＝ 17 時間
　　計 17 時間分（1 コマあたり 72 分以上）の授業外学修が必要

この場合、講義室等で受講する 14 コマの授業以外に、1 コマ当たり 72 分以上の学修が必要となります。

シラバスには、科目または授業毎に必要な事前・事後学修の内容と時間が記載されていますので、その内容に従って自己学修を行うことが求められます。なお、事前学修は各授業の前に、事後学修は授業後または定期試験の準備期間や長期休暇を活用することができます。

医学部、歯学部における臨床実習等の一部の科目では、単位時間（90 分＝2 単位時間）ではなく実時間（実際の授業時間）に基づいて単位計算がされますが、1 単位 45 時間の考え方に基づいた事前事後学修は必要です。

岩手医科大学生命倫理規範

本学は、「誠の人間の育成」という建学の精神に基づき、専門の学理に対して誠実な理想を持ち、医療及び生命科学の研究、教育を通じて社会の進歩、福祉に貢献してきた。

関連諸科学が日々急速に進展するなか、本学が今後とも社会の要請に応えるために、すべての職員には、誠の精神に由来する高い倫理観をもって行動することが求められている。

本学は、すべての職員が常に自覚し、遵守すべき指針として、ここに生命倫理規範を制定し、本規範に基づき医療・研究を推進するとともに、生命倫理に関する教育と啓発活動に力を注ぐことを宣言する。

1．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、人間の尊厳を第一の原則とする。個人の有する基本的人権に敬意を払い、個人の自律を尊重するため、インフォームド・コンセントの原則を遵守し、意思決定能力が十分でない人々の権利擁護にも務める。また個人のプライバシーの権利を尊重し、個人情報の保護のために最善を尽くす。

2．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、無危害原則と善行原則を遵守する。医療においては個人に危害を加えることがあってはならず、個人に最善の利益を与えるよう努める。研究においては、個人、社会及び人類にもたらされる将来にわたる利益を最大化し、危害を最小化することを目指す。その際、個人の受ける不利益、未来世代への影響にも十分に配慮する。さらに、人類に多大な利益を与えると予想される研究であっても、個人の持つ人間の尊厳及び個人の福利を何よりも優先する。また実験動物の福祉にも十分に配慮する。

3．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、正義原則を旨とする。医療においては、個人を平等に扱い、医療資源の配分は公平に行う。研究においてもたらされる利益は社会的に公平に配分し、不適切な格差が生じないようにする。また極めて有用な研究であっても、社会的差別の要因となる可能性があるため、社会的に弱い立場にある人々を対象として実施する場合には、その人権・利益について最大限に配慮する。

4．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、多面的な要請に応えるために、学内諸分野及び学外諸機関・施設との共同作業を積極的に推進する。共同作業に伴う倫理的配慮や得られた科学的成果についての情報は適切に公表し、社会に対する説明責任を果たす。

5．医療及び生命科学の研究とその応用を行うに際しては、世界医師会のヘルシンキ宣言、リスボン宣言をはじめとする各種宣言・倫理綱領の基本理念を尊重する。また省庁、関連学会によって作成された最新のガイドラインに準拠し、科学的及び倫理的観点から見て適切に課題を遂行する。これら宣言・倫理綱領・ガイドラインに示された生命倫理の精神に従い、将来の医療をになう人材の育成に努める。

（平成 26 年 3 月 11 日制定）

岩手医科大学における人体標本取扱指針

平成 29 年 4 月 1 日

本学の教育と研究において、人体および人体標本(遺体およびその一部である標本、さらに手術による摘出標本を含みます)を用いることは、人体の構造と機能、疾病の病理・病態を深く理解するために不可欠です。もとよりご遺体には尊厳があり、その使用にあたっては、死体解剖保存法によって、「死因解明」、「医学教育」、「医学研究」という公共の利益となる明確な目的をもつこと、および、遺体の取扱に当たっては礼意を失わないように注意しなければならないことが規定されています(死体解剖保存法第一条および第二十条)。また、標本提供者の個人情報の漏出があってはなりません。教育現場においては、学生は、以下の点を遵守するよう、留意して下さい。

- 人体標本を、教員の許可なく所蔵場所から移動するのを禁じます。
- 講義室・実習室で供覧する人体標本を、教員の許可なく撮影してはいけません。
- 実物だけでなく視聴覚装置で供覧される標本写真等についても、撮影ならびにインターネットに掲載してはいけません。
- 許可を受けて撮影したとしても、その画像を、インターネット（含、Social Network Service）に転載することは一切禁じます。
- ヒト以外の動物や動物標本を用いる場合も、人体標本と混同されることを避けるという観点に加え、生命体への畏敬の念を育む意味でも撮影してはいけません。
- 個人が特定できる情報（姓名、病名、受診年月日、死亡・採取年月日等）を、教室・実習室外へ持出してはいけません。
- 学修者が、学修のために正常組織および病理組織顕微鏡標本(ミクロ標本)のデジタル情報を取得・保存(例、写真撮影、デジタル画像ファイルのダウンロード、バーチャルスライドの画像情報保管)することは認められますが、インターネットへの転載は禁じます。

教育成果物の利用に関して

学生の皆さんの在学中の教育成果物（スケッチ、レポート、ポートフォリオ等）を、後進育成のために授業中に使用する教育資料として使用させていただく場合があります。また、e-learning システムへの掲載、教育成果報告書、学会発表、論文発表で使用し、機関リポジトリに掲載する場合がありますが、掲載する場合には個人の特定ができないように匿名化するなどの配慮をしますので、個々の事例に関して当該教員から要請があった場合はご協力下さい。同意されない場合でも、不利益になることはありません。

学生健康診断規程

（趣旨）

第１条　この規程は、学校法人岩手医科大学が運営する大学院、大学及び専門学校（以下「大学等」という）に在籍する学生(大学院、大学及び専門学校に在籍する者をいう。以下同じ。)に関する健康診断及び事後措置等について定めるものとする。

（健康診断の実施）

第２条　大学等は、学校保健安全法(昭和33年法律第56号)に基づき毎年１回、健康診断を実施しなければならない。

２　健康診断は健康管理センターが実施する。

（健康診断の種類）

第３条　健康診断は定期健康診断及び臨時健康診断とする。

２　定期健康診断は、毎学年定期に行うものとする。

３　臨時健康診断は、健康管理センター長が必要と認めたときに行うものとする。

（受診の義務）

第４条　学生は健康診断を受けなければならない。

２　学生は、健康診断を受けなかったときは、健康管理センター長の定める期間内に、当該健康診断と同等の実施項目を含む健康診断書を健康管理センターに提出しなければならない。

３　前項の規定による健康診断書を提出できないときは、健康管理センター長に申し出て指示を受けなければならない。

（健康診断の総合評価及び通知）

第５条　健康管理センター長は、学校医に依頼し健康診断の結果を別表により判定し、学部長等に報告するとともに、学生に通知するものとする。

（事後措置）

第６条　学部長等は、健康診断の結果、疾病のため生活規制または治療を要する者があるときは、健康管理センター長と協議の上、当該学生の健康回復に必要な指導を行わなければならない。

２　学校医は、必要に応じて相談指導を実施し、学校医の指示のもと保健師が保健指導を実施する。

３　健康診断の結果、疾病のある者は、前項の指導に従わなければならない。

（復学時の健康診断）

第７条　疾病のため休学中の者が復学しようとするときは、学部長等を経て、健康管理センター長に申し出て、健康診断を受けなければならない。

（証明書の発行）

第８条　第３条の健康診断を受けた者が、健康診断証明書を必要とするときは、これを発行することがある。

（改廃）

第９条　この規程の改廃は、健康管理センター運営委員会の議を経て、理事長が行う。

附　則

この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 25 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 28 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成 30 年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から施行する。

令和8年度　学生健康診断等実施要領

１．学生健康診断

＊M：医学部、D：歯学部、P：薬学部、N：看護学部、DH：医療専門学校歯科衛生学科

健　診　日　時		対象学生	個人票配付時間・場所		健診会場	健診項目
4月20日(月)	9：30～11：30	3M	9:20	キャンパスモール 階段下 (Yショップ前) ・詳細は掲示板で確認し、指定の時間に受診してください。	**＜矢巾キャンパス １階＞** ■北側入口(胸部検診車) ・胸部X線撮影 ■キャンパスモール 正面入口付近 ・視力検査 ■キャンパスモール ヤマザキショップ向かい側 ・血圧測定 ■東研究棟 SGL ・身長 ・体重 ・内科診察 ・歯科健診 ■西講義実習棟 キャンパスモール側トイレ ・尿検査 ■西研究棟 ラウンジ ・ 血液検査	■必須項目 ・身長 ・体重 ・血圧 ・内科診察 ・視力検査 ・胸部X線撮影 ■学年別追加項目 【1年】 ・血液検査 ・尿検査 ・歯科健診 【4年】 ・血液検査 ・尿検査 ■B型肝炎接種前検査 (血液検査) ・3M ・4D ・4P ・1N ・1DH ・3N編入生
		4D	10:50			
	13：30～15：30	4P	13:20			
		4N	13:50			
		6M	14:20			
		3DH	14:50			
4月21日(火)	9：30～11：30	1M	9:20			
		1D	10:50			
	13：30～16：00	1P	13:20			
		6P	13:50			
		1N 3N編入生	14:30			
		1DH	15:20			
4月22日(水)	9：30～12：00	4M	9:20			
		2N	10:50			
	13：30～16：00	2M	13:20			
		2D	14:50			
		2P	15:10			
		2DH	15:30			
4月23日(木)	9：30～12：00	5M	9:20			
		3D	10:50			
		3P	11:20			
	13：30～15：30	5D	13:20			
		6D	13:40			
		5P	14:10			
		3N	14:40			

※　変更の場合もありますので、掲示板で確認してください。

２．心理テスト・メンタルヘルスチェックについて

対象学年	日　　時	会　　場	内　　容
1N	4月20日(月)5限　16:20～17:50	各教室	東大式エゴグラム 学生精神的健康調査
1D	4月22日(水)4限　14:40～16:10		
1P	4月22日(水)5限　16:20～17:50		
1M	4月24日(金)1限　8:50～10:20		
2～6年(M・D・P) 2～4年(N)	4月20(月)、21日(火)、22日(水)、23日(木)、 健康診断時に実施	健康診断会場	メンタルヘルスチェック

３．健康講話

対　　象	日　　時	会　　場	内　　容
1M・1D・1P・1N	5月13日(水)5限　16:20～17:50	大堀記念講堂	受動喫煙講習会 (学生部と共催)
	6月5日(金) 2限　10:30～12:00	大堀記念講堂	メンタルヘルス講習会

４．ワクチン接種日程について

（１）Ｂ型肝炎ワクチン　　対象：3M・4D・4P・1N・1DH・3N編入生

区　　分	日　　時		対象学生	会　　場
接種前 採血検査	4月20日(月)	9:30～11:30	3M、4D	矢巾キャンパス 西研究棟1階 ラウンジ
		13:30～15:30	4P	
	4月21日(火)	13:30～16:00	1N･1DH･3N編入生	
ワクチン接種 １回目	5月21日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	5月22日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ２回目	6月18日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	6月19日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
ワクチン接種 ３回目	11月5日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	11月6日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
接種後採血	12月3日(木)	14:40	1N、3N編入生	
		15:30	4D	
		16:10	4P	
	12月4日(金)	15:00	3M	
		16:00	1DH	
追加接種 (該当者のみ)	1月7日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	
追加接種後採血 (該当者のみ)	2月4日(木)	15:30	3M、4D、4P	
		16:10	1DH、1N、3N編入生	

（２）インフルエンザワクチン　　対象：全員（接種料金は自己負担）

キャンパス	日　　時		対象学生	会　　場
内　丸	10月13日(火)	15:30	6D	内丸 創立60周年記念館 8階　研修室
	10月14日(水)	14:30	1DH	
		15:00	2DH	
		15:30	3DH	
矢　巾	10月19日(月)	13:30	1N	矢巾キャンパス 西講義実習棟2階 西2･C実習室
		15:00	4D	
		15:30	4P	
		16:10	3M	
	10月20日(火)	13:30	1P	
		14:00	5D	
		15:00	1M	
		16:10	2N	
	10月21日(水)	13:30	2M	
		14:30	6P	
		15:00	3P･3D	
		16:10	1D	
	10月22日(木)	13:30	4M	
		15:00	6M	
		16:10	4N	
	10月23日(金)	13:30	5P	
		14:00	2D	
		14:30	5M	
		15:00	2P	
		16:10	3N	

※日時・場所の変更もありますので、掲示板で確認してください。

歯学部教員・オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般に関する質問・相談、あるいは指導等を受けるために設定されている時間で、広く学生に対して開かれた時間です。学生諸君は、日々の授業での疑問などを後々まで残さないよう、この制度を積極的に利用してください。

面談を希望する学生は、科目ごとに記載されているオフィスアワー一覧（シラバスに掲載）により各教員の実施方法を確認の上、面談希望教員とそれぞれの方法に従い連絡をとり、面談を受けてください。

内線番号は矢巾キャンパス、及び外線を経由して発信する際の番号です。内丸キャンパスから発信する際は、#のある番号は#を抜き、#のない番号は最初に#を付けて発信してください。

１．時　　間　　あらかじめ特定の時間帯を示す。

２．面談方式　　オープン方式（学生は自由に教員を訪問し、質問等ができる）

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
学　　長	小笠原　邦昭	水	10：00～12：00	学長室 事前に学長室（内線 5001）に連絡しアポイントを取ること
解剖学講座 機能形態学分野	藤原　尚樹	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） naokif@iwate-med.ac.jp
	吉岡　望	月～金	16：30～17：30	解剖学講座機能形態学分野研究室 410 室 （内線 5842） yoshinoz@iwate-med.ac.jp
解剖学講座 発生生物・再生医学分野	原田　英光	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または hideha@iwate-med.ac.jp
	大津　圭史	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または kotsu@iwate-med.ac.jp
	池崎　晶二郎	月～金	16：30～17：30	解剖学講座　　発生生物・再生医学分野研究室（内線 5881）または sikezaki@iwate-med.ac.jp
生理学講座 病態生理学分野	黒瀬　雅之	月・木	16：30～17：30	病態生理学分野 211 室 内線 5692 kurose@iwate-med.ac.jp
	加藤　哲也	火・水	16：30～17：30	病態生理学分野 213 室 内線 5690 tkkatou@iwate-med.ac.jp
生化学講座 細胞情報科学分野	石崎　明	月	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野教授室 内線 5740 aishisa@iwate-med.ac.jp
	帖佐　直幸	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 nchosa@iwate-med.ac.jp
	横田　聖司	水	16：30～17：30	生化学講座細胞情報科学分野 スタッフルーム（253 室）内線 5741 syokota@iwate-med.ac.jp
微生物学講座 分子微生物学分野	石河　太知	月～金	16：00-17：00	微生物学講座分子微生物学分野教授室 内線 5800 tishikaw@iwate-med.ac.jp
	三浦　利貴	月～金	12:00～13:00 16:00～17:00	微生物学講座分子微生物学分野 スタッフルーム 1 303　内線 5801 tosmiura@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
薬理学講座 病態制御学分野	中村　正帆	月	16：00～16：30	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 tadahonk@iwate-med.ac.jp
	田村　晴希	月	12：00～13：00 16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 htamura@iwate-med.ac.jp
	山田　ありさ	月	16：00～17：00	薬理学講座病態制御学分野スタッフルーム 363　内線 5811 yamaari@iwate-med.ac.jp
病理学講座 病態解析学分野	入江　太朗	木	16：00～18：00	病理学講座病態解析学分野　教授室 内線 5900 tarou@iwate-med.ac.jp
	佐藤　泰生	木	16：00～17：30	病理学講座病態解析学分野　461 室 staisei@iwate-med.ac.jp
法科学講座 法歯学・災害口腔医学分野	熊谷　章子	木	18：00～19：00	法科学講座法歯学・災害口腔医学分野 スタッフルーム　内線 5684 kumagaia@iwate-med.ac.jp
医療工学講座	武本　真治	木	16：30～17：30	医療工学講座教授室西 317 （内線 5760） takemoto@iwate-med.ac.jp
	佐々木　かおり	月・木	16：30～17：30	医療工学講座スタッフルーム西 316 （内線 5763） sskkaori@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 う蝕治療学分野	野田　守	木	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 nodam@iwate-med.ac.jp
	浅野　明子	月	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 akiasano@iwate-med.ac.jp
	千田　弥栄子	火	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaekon@iwate-med.ac.jp
	東　兼司	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 kenjih@iwate-med.ac.jp
	相上　雄亮	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 yaigami@iwate-med.ac.jp
	大塚　泰寛	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 oyasuhir@iwate-med.ac.jp
	清水　彩恵子	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 tobishi@iwate-med.ac.jp
	鈴木　大平	水	18：00～19：00	歯科保存学講座う蝕治療学分野医局 273 号室 staihei@iwate-med.ac.jp
歯科保存学講座 歯周療法学分野	佐々木　大輔	月	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） daisukes@iwate-med.ac.jp
	村井　治	火・木	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） osamurai@iwate-med.ac.jp
	鈴木　啓太	水	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） esuzuki@iwate-med.ac.jp
	相原　恵子	火	17：00～18：00	歯周療法学分野医局（372 号室） kaihara@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野	小林　琢也	金	17：00～18：00	教授室（441 号室）　内線 #4531 kobataku@iwate-med.ac.jp
	佐藤　宏明	木	17：30～18：30	義歯外来、医局、研究室　内線 4441 satohiro@iwate-med.ac.jp
	米澤　悠	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 4406 yyone@iwate-med.ac.jp
	米澤　紗織	木	17：00～18：00	医局、研究室　内線 71576 saki@iwate-med.ac.jp
	原　総一朗	火	17：00～18：00	医局、研究室（406 号室）　内線 4406 sohara@iwate-med.ac.jp
	島田　崇史	木	17：00～18：00	医局、研究室（406 号室）　内線 #71575 shimtak@iwate-med.ac.jp
	伊藤　凌	木	17：00～18：00	医局、研究室（404 号室）　内線 71563 itoryo@iwate-med.ac.jp
歯科補綴学講座 冠橋義歯・口腔インプラント学分野	今　一裕	火	17：00～18：00	医局、研究室　453 号室 kazukon@iwate-med.ac.jp
	深澤　翔太	水	17：30～18：30	医局、研究室　447 号室 sfu@iwate-med.ac.jp
	横田　潤	火	17：00～18：00	医局、研究室　445 号室 jyokota@iwate-med.ac.jp
	福徳　暁宏	水	17：00～18：00	医局、研究室　447 号室　内線 #4418 afukuto@iwate-med.ac.jp
	齊藤　裕美子	月	16：00～17：00	医局、研究室　433 号室　内線 4439 ysaito@iwate-med.ac.jp
	佐々木　渓斗	水	17：00～18：00	医局、研究室　407 号室　内線 4418 sasakikeito0329@gmail.com
	八戸　勇樹	水	17：00～18：00	医局、研究室　407 号室　内線 4418 yk.8nohe@gmail.com
	星　美貴	水	17：30～18：30	医局、研究室　445 号室　内線 #4440 hoshmiki@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	山田　浩之	月	18：00～19：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野　教授室　内線 6311 yamadah@iwate-med.ac.jp
	川井　忠	木	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kawait@iwate-med.ac.jp
	大橋　祐生	月・火・ 木・金	18：00～20：00	矢巾附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科医局　内線 6302 yohashi@iwate-med.ac.jp
	古城　慎太郎	金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 6311 kshinta@iwate-med.ac.jp
	平野　大輔	月・木・金	16：00～17：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71535 thirano@iwate-med.ac.jp
	高橋　美香子	水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71590 tmikako@iwate-med.ac.jp
	野宮　孝之	月・水	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71116 tnomiya@iwate-med.ac.jp
	秋本　祐基	火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71527 akimoto@iwate-med.ac.jp
	川又　慎介	月・火・ 木・金	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71529 kawashi@iwate-med.ac.jp
	矢菅　絵里加	月・火	17：00～18：00	矢巾附属病院 口腔外科学分野医局　内線 71530 erikay@iwate-med.ac.jp
口腔顎顔面再建学講座 歯科麻酔学分野	佐藤　健一	火	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoken@iwate-med.ac.jp
	筑田　真未	月	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 mchikuda@iwate-med.ac.jp
	佐藤　州	金	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satoshu@iwate-med.ac.jp
	坂野上　和奏	水	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 sakanoue@iwate-med.ac.jp
	柳町　晴香	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 yanaharu@iwate-med.ac.jp
	前澤　五月	木	17：00～18：00	矢巾附属病院５階 歯科麻酔学分野医局　内線 6342 satsukim@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野	泉澤　充	火・木・土	12：00～13：00	歯科放射線学分野・特任教授室(134 号室) 内線 #4513 mizumisa@iwate-med.ac.jp
	髙橋　徳明	火・木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 71574 tnoriaki@iwate-med.ac.jp
	佐藤　仁	木	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室 (135 号室) 内線 #4513 satohito@iwate-med.ac.jp
	星野　正行	水・金	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 mhoshino@iwate-med.ac.jp
	星　勲	水	17：00～18：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 isaohosh@iwate-med.ac.jp
	金森　尚城	月・火・水	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 kanataka@iwate-med.ac.jp
	菅野　江美	火・木・金	12：00～13：00	歯科放射線学分野・第 1 研究室(135 号室) 内線 #4513 emkanno@iwate-med.ac.jp
口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野	佐藤　和朗	木	17：00～18：00	歯科矯正学分野・教授室 (456 号室) 内線:4533 kazsatoh@iwate-med.ac.jp
	桑島　幸紀	木	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 ykuwaji@iwate-med.ac.jp
	飯塚　康之	月	17：00～19：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 yiizuka@iwate-med.ac.jp
	菊池　恵美子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 eaomatsu@iwate-med.ac.jp
	浅沼　莞奈	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 asanumak@iwate-med.ac.jp
	深澤　慶子	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 keikof@iwate-med.ac.jp
	上田　茜	木	12：00～13：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 uakane@iwate-med.ac.jp
	吉田　弘法	月	17：00～18：00	歯科矯正学分野・医局 (472 号室) 内線:4511 hironori@iwate-med.ac.jp

所属	氏名	曜日	時間帯	備考
口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野	熊谷　美保	月～木	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71557） mkumagai@iwate-med.ac.jp
	齊藤　桂子	月～金	18：00～19：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71587） ksaitho@iwate-med.ac.jp
	磯部　可奈子	月・水・木・金	16：00～17：00	小児歯科学・障害者歯科学分野5階医局 （PHS 71485） kisobe@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 関連医学分野	千葉　俊美	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 教授室440号室　内線 #4435 toschiba@iwate-med.ac.jp
	王　挺	月～金	16：00～17：00	口腔医学講座 関連医学分野 研究室444号室　内線 #4228 tingwang@iwate-med.ac.jp
口腔医学講座 予防歯科学分野	佐藤　俊郎	火・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toshiros@iwate-med.ac.jp
	衣斐　美歩	月～金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） mibi@iwate-med.ac.jp
	大石　泰子	火・木・金	16：00～17：00	予防歯科学分野519号室（内 #4516） toishi@iwate-med.ac.jp
	佐藤　華子	月・金	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） satohana@iwate-med.ac.jp
	杉山　由紀子	月・水・木	17：00～18：00	予防歯科学分野517号室（内 #4518） yukikosu@iwate-med.ac.jp
非常勤教員	授業後に教室で質問を受け付ける。後日、質問がある場合は科目責任者を通じて連絡すること。			

教養教育センター　オフィスアワー一覧

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けたりするために開かれた時間です。有効に利用してください。希望者は以下一覧表を確認のうえ、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

担当教員		担当教員	曜日	時間帯	備　考
人間科学科	哲学分野	林　研	月・金	16:30～17:30	266人間科学科 教授・准教授室
		三浦　康宏	水	16:30～17:30	264-1文学分野　研究室
	法学分野	廣瀬　清英	火～木	12:00～13:00	223法学分野　研究室
	心理学・ 行動科学分野	藤澤　美穂	水・金	12:00～13:00	262人間科学科 教授・准教授室
		香川　由美	月・水・金	16:30～17:30	267心理学・行動科学分野 研究室
	体育学分野	佐々木　亮平	月・水・金	12:00～13:00	103体育学分野　研究室
情報科学科	数学分野	江尻　正一	月～金	16:30～17:30	257情報科学科 教授・准教授室
		長谷川　大	月～金	16:30～17:30	225数学分野　研究室
	医学統計 情報学分野	髙橋　史朗 教養教育センター長 教養教育センター学生部長	月・木	16:30～17:30	258情報科学科 教授・准教授室
		小野　保	月・水	16:30～17:30	222医学統計情報学分野 研究室
物理学科		奥村　健一	月～金	16:30～17:30	253物理学科 教授・准教授室
		小松　真	月～金	17:00～18:00	254物理学科　研究室2 komatsum@iwate-med.ac.jp
		小田　泰行	月～金	16:30～17:30	254物理学科　研究室2
化学科		中島　理 教務専門委員長	月	12:00～13:00	256化学科 教授・准教授室
		東尾　浩典	月～金	16:30～17:30	255化学科　研究室
		吉田　潤	月・水	16:30～17:30	255化学科　研究室
生物学科		三枝　聖	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		菅　孔太朗	月・水・金	16:30～17:30	261生物学科　研究室
		内藤　雪枝	月・水・金	12:00～13:00	261生物学科　研究室
外国語学科	英語分野	柳谷　千枝子	月・木・金	16:30～17:30	265外国語学科 教授・准教授室
		松田　竜宙	火・木	16:30～17:30	224英語分野　研究室2
		Jonathan Levine-Ogura	月～金	16:30～17:30	221英語分野　研究室4
		Robert Ken Asano	月・水・金	16:30～17:30	226英語分野　研究室1
教養教育センター		非常勤教員		授業終了時	各講義室

医学部・オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医学教育学講座 医学教育学分野	髙田　亮	月・火・水・金	16:00～18:00	医学教育学講座	内線：5102 内線：71339
	相澤　純	月	月：12:00～13:00		内線：71392
医学教育学講座 地域医療学分野	伊藤　智範	月・金	12:00～13:00	医学教育学講座 循環器内科医局	内線：5102 内線：6415
医学教育学講座 教育支援システム開発分野	前沢　千早	月・水	10:00～12:00、13:00～16:00	教育支援システム開発分野（358）	内線：5661
	安平　進士	火・木	17:00～18:00	教育支援システム開発分野（462）	
	柴﨑　晶彦	月・火	16:00～17:00		
解剖学講座 人体発生学分野	木村　英二	火	12:00～13:00	人体発生学分野　スタッフルーム	内線：5831
	中野　真人	月～金	17:00～18:00		
	足立　礼孝	月～金	16:00～18:00		
	勝本　恵一	月～金	16:00～18:00		
解剖学講座 細胞生物学分野	齋野　朝幸	火～金	12:00～13:00、16:00～19:00	解剖学講座研究室（405）	内線：5871
	成田　啓之	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	ｱﾌﾞﾀﾞﾘ ｻｲﾄﾞ ｼｬﾘﾌ	月～金	12:00～13:00、16:00～19:00		
	阿久津　仁美	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
	平川　正人	月～金	12:00～13:00、16:00～17:00		
生理学講座 統合生理学分野	中嶋　克己	月～金	16:30～19:00	統合生理学分野 スタッフルーム	内線：5733
	木村　眞吾	月～金	16:30～19:00		
	鈴木　喜郎	月～金	16:30～18:45		
	望月　圭	月～金	18:00～20:30		
	駒切　洋	月・水・金	16:30～19:00		
	鈴木　享	月～金	16:30～19:00		
生化学講座 分子医化学分野	金子　桐子	月・火・水・木	16:00～18:00	分子医化学分野 スタッフルーム	内線：5751
	鈴木　亘	月・火・木	16:00～18:00		
	髙橋　隼一郎	月・火・水・木	16:00～18:00		
微生物学講座 感染症学・免疫学分野	村木　靖	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　教授室（308）	内線：5792
	海部　知則	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（307）	
	小田切　崇	月・火・水・木・金	12:00～13:00	微生物学講座　スタッフルーム（306）	
	石川　静麻	月・火・水・木・金	12:00～13:00		
薬理学講座 情報伝達医学分野	平　英一	火・水	16:30～17:30	薬理学講座　スタッフルーム（365）	内線：5821
	ﾊｻﾝ ｱﾘﾌ ｳﾙ	月・火・水・木・金	16:00～17:00		
	小原　真美	月・水・金	16:00～17:00		
病理学講座 機能病態学分野	片岡　竜貴	火・水	12:00～13:00	病理学講座　教授室（455）	内線：5920
	中村　啓哉	木・金	12:00～13:00	研究室	
	伊藤　謙	水・木	12:00～13:00		
	松﨑　駿	月・水	12:00～13:00		
法科学講座 法医学分野	髙宮　正隆	火	12:00～12:20	医局	内線：5682
	森川　剛	火	12:00～12:20		
衛生学公衆衛生学講座	丹野　高三	月～金	16:15～18:00	講座 研究室	内線：5775
	赤坂　憲	月～金	16:15～18:00		
	田鎖　愛理	月～金	16:15～18:00		
	事崎　由佳	月～金	16:15～18:00		
	下田　陽樹	月～金	16:15～18:00		
	高梨　信之	月・火・水・金	16:15～18:00		

内科学講座 消化器内科分野	松本　主之	水	17:00～18:00	医局	内線：6222、6223
	黒田　英克	水	17:30～18:30		
	宮坂　昭生	水	17:30～18:30		
	梁井　俊一	水	17:00～18:00		
	柿坂　啓介	火・木	16:00～18:00		
	鳥谷　洋右	水	17:00～18:00		
	永塚　真	水	17:00～18:00		
	佐々木　裕	水	17:00～18:00		
	遠藤　啓	水	16:30～17:00		
	吉田　雄一	水	16:00～16:30		
	阿部　珠美	水	18:00～18:30		
	鈴木　彰子	水	12:30～13:30		
	星　綾乃	水	17:00～18:00		
	大友　康司	水	17:00～18:00		
	佐々木　登希夫	水	16:30～17:00		
	今成　慧祐	水	16:30～17:30		
	本多　俊介	水	16:30～17:30		
	藤原　裕大	水	16:30～17:00		
内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科分野	石垣　泰	火	15:00～16:00	医局	内線：6271
	高橋　義彦	金	16:00～17:00		
	瀬川　利恵	木	12:00～13:00		
	武部　典子	月	16:00～17:00		
	長谷川　豊	金	9:30～10:30		
	小田　知靖	火	12:00～13:00		
	冨樫　弘文	水	16:00～17:00		
	千田　愛	水	12:00～13:00		
	千葉　拓	月	9:00～10:00		
	川島　智美	水	12:00～13:00		
	吉田　絵里子	水	15:00～16:00		
内科学講座 腎・高血圧内科分野	旭　浩一	火	12:15～13:15	教授室	内線：6416
	吉川　和寛	火	12:15～13:15	医局	
	河嶋　英里	火	12:15～13:15		
	野田　晴也	火	12:15～13:15		
	岡本　好生	火	12:15～13:15		
内科学講座 循環器内科分野	森野　禎浩	月～金	12:00～13:30	循環器内科医局	内線：6413
	石田　大	月～金	12:00～13:30		
	大和田　真玄	月～金	12:00～13:30		
	房崎　哲也	月～金	12:00～13:30		
	肥田　頼彦	月～金	12:00～13:30		
	二宮　亮	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　礼佑	月～金	12:00～13:30		
	芳沢　美知子	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　航	月～金	12:00～13:30		
	二宮　開	月～金	12:00～13:30		
	澤　陽平	月～金	12:00～13:30		
	浅野　峻見	月～金	12:00～13:30		
	登坂　憲吾	月～金	12:00～13:30		
	佐々木　健太	月～金	12:00～13:30		
内科学講座 呼吸器内科分野	川田　一郎	火・木・金	14:30～17:00	医局	内線：6251
	長島　広相	月・水・金	16:30～17:00		
	秋山　真親	火	16:30～17:00		
	内海　裕	月・水・金	16:30～17:00		
	堀井　洋祐	火・水・木	16:30～17:00		
	片桐　紘	月・木・金	16:30～17:00		

内科学講座リウマチ・膠原病・アレルギー内科分野	藤本　穣	木（第4除く）	9:00～12:00	医局	内線：6471
	村田　興則	木	9:00～17:00		
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00		
	駒ヶ嶺　正嗣	金	9:00～12:30		
	大河原　知治	水	9:00～12:00		
	舟嶋　英志	金	9:00～17:00		
	昆　康弘	水（第1.3）	14:00～17:00		
内科学講座 血液腫瘍内科分野	伊藤　薫樹	火	16:30～17:00	教授室	内線：6401
	小宅　達郎	火・木	17:00～18:00	医局・西6階血液病棟	
	古和田　周吾	月・火・木	17:00～18:00		
	岡野　良昭	火・水	17:00～18:00		
	佐藤　剛	火・水	17:00～18:00		
	西谷　真来	月・火・水	12:00～15:00		
	前田　峻大	火・水	17:00～18:00		
内科学講座 脳神経内科・老年科分野	前田　哲也	木	16:00～17:00	脳神経内科・老年科　医局	内線：6431,6432
	板橋　亮	水	16:00～17:00		
	工藤　雅子	月・火	16:00～17:00		
	石塚　直樹	金	16:00～17:00		
	赤坂　博	水	16:00～17:00		
	鈴木　真紗子	木	16:00～17:00		
	岩岡　和博	水	16:00～17:00		
	髙橋　真	水	16:00～17:00		
	髙橋　健太	水	16:00～17:00		
	津田　圭介	水	16:00～17:00		
	大井　清貴	水	16:00～17:00		
	田口　啓太	水	16:00～17:00		
	寺内　貴廣	水	16:00～17:00		
外科学講座	佐々木　章	火	15:00～17:00	外科学講座 教授室	内線：6220
	新田　浩幸	火	14:00～17:00	外科学講座 教授室	
	鈴木　信	火	14:00～17:00	外科学講座　医局	
	梅邑　晃	火	14:00～17:00		
	井原　欣幸	火	14:00～17:00		
	藤野　順子	火	10:00～11:00		
	馬場　誠朗	水	14:00～17:00		
	石田　和茂	火	14:00～17:00		
	八重樫　瑞典	木	9:00～11:00		
	武田　大樹	火	14:00～17:00		
	二階　春香	水	14:00～17:00		
	安藤　太郎	火	14:00～17:00		
	佐々木　教之	火	14:00～17:00		
	天野　総	火	14:00～17:00		
	瀬川　武紀	火	14:00～17:00		
	天野　怜	火	14:00～17:00		
	川島　到真	火	14:00～17:00		
	熊谷　秀基	水	14:00～17:00		
	棚橋　洋太	火	14:00～17:00		
	菊地　晃司	火	14:00～17:00		
脳神経外科学講座	赤松　洋祐	月～金	17:00～18:00	脳神経外科学講座　医局	会議等の予定がありますので、事前に医局に電話をして確認をお願いします。 （9：00～16：00） 内線：6422,6421
	別府　高明	火	17:00～18:00		
	石垣　大哉	月～金	17:00～18:00		
	佐藤　雄一	月・水・木	17:00～18:00		
	佐浦　宏明	月～金	17:00～18:00		
	吉田　純	月～金	17:00～18:00		
	大志田　創太郎	月～金	17:00～18:00		
	筒井　章太	月～金	12:00～13:00		
	柳原　普	月～金	17:00～18:00		

心臓血管外科学講座	金　一	水・金	17:00～18:00	西5階心臓血管外科　医局	内線：6411
	小泉　淳一	水・木	17:00～18:00		
	枝木　大治	月～金	17:00～18:00		
	齋藤　大樹	月～金	17:00～18:00		
	塩屋　雅人	月～金	17:00～18:00		
	田林　東	月～金	17:00～18:00		
	正木　直樹	月～金	17:00～18:00		
呼吸器外科学講座	齊藤　元	月～金	8:30～17:00	呼吸器外科学講座　医局	内線：6505
	出口　博之	月～金	8:30～17:00		
	友安　信	月～金	8:30～17:00		
	重枝　弥	月～金	8:30～17:00		
	兼古　由香	月～金	8:30～17:00		
	岩井　英頌	月～金	8:30～17:00		
整形外科学講座	田島　吾郎	水	9:00～12:00	整形外科学講座　医局	内線：6562
	佐藤　光太朗	木	10:00～11:00		
	丸山　盛貴	木	17:00～18:00		
	大竹　伸平	木	16:00～17:00		
	三又　義訓	月	14:00～17:00		
	及川　伸也	金	9:00～10:00		
	及川　龍之介	火	16:00～17:00		
	鈴木　忠	金	9:00～10:00		
	村上　賢也	火	15:00～17:00		
	山部　大輔	水	17:00～18:00		
	楊　寛隆	金	17:00～18:00		
	千葉　佑介	金	9:00～10:00		
	和田　俊太郎	金	16:00～17:00		
	松浦　真典	水	8:30～9:30		
	髙橋　裕孝	水	8:30～9:30		
	月村　悦子	水	8:30～9:30		
形成外科学講座	櫻庭　実	水・金	17:00～18:00	医局	内線：6571
	本多　孝之	水・金	16:00～17:00		
	小野寺　文	水・金	16:00～17:00		
	三橋　伸行	木・金	16:00～17:00		
	阿部　桃子	月～金	15:00～16:30		
	山﨑　友和	月・水	16:00～17:00		
産婦人科学講座	馬場　長	火	16:00～17:00	産婦人科学講座　医局	内線：3750
	小山　理恵	金	16:00～17:00		
	庄子　忠宏	金	16:00～17:00		
	利部　正裕	金	16:00～17:00		
	岩動　ちず子	金	16:00～16:30		
	永沢　崇幸	金	16:00～17:00		
	尾上　洋樹	火	16:00～17:00		
	羽場　厳	金	16:00～17:00		
	川村　花恵	金	16:00～17:00		
	佐々木　佳夏子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　翔	講義終了後に受け付ける			
	髙取　恵里子	講義終了後に受け付ける			
	佐藤　千絵	講義終了後に受け付ける			
	海道　善隆	金	16:00～17:00		
	村上　一行	講義終了後に受け付ける			
	鈴木　南奈子	講義終了後に受け付ける			
	黒川　絵里加	講義終了後に受け付ける			
	武蔵　実久	講義終了後に受け付ける			
	岡田　有加	講義終了後に受け付ける			
	髙木　駿	講義終了後に受け付ける			

小児科学講座	赤坂　真奈美	月・木	17:00～18:00	医局	内線：3701
	石川　健	火	12:00～13:00		
	齋木　宏文	木	12:00～17:00		
	外舘　玄一朗	火・木	13:00～17:00		
	鳥谷　由貴子	火・水・木・金	15:00～17:00		
	中野　智	火	12:00～13:00		
	松本　敦	月・水	17:00～18:00		
	三浦　翔子	水・金	14:00～16:00		
	水間　加奈子	月・火・金	12:00～13:00		
	草野　修司	月・火・金	12:00～13:00		
	朝倉　賀子	月・火・木・金	14:00～18:00		
	八鍬　瑛子	火・木	11:00～12:00		
	谷藤　幸子	月・火	12:00～14:00		
	浅見　麻耶	月・火	9:00～17:00		
	佐藤　啓	水・木	12:00～14:00		
	小野寺　千夏	金	12:00～14:00		
	田金　星都	月～木	16:00～17:00		
	滝沢　友里恵	木・金	12:00～14:00		
	千田　悠太郎	火・水	16:00～17:00		
	吉田　太郎	月・木・金	14:00～16:00		
	阿部　志津香	月～金	11:00～17:00		
	齋藤　寛治	月・金	16:00～17:00		
	鈴木　幸之介	月・水・木	9:00～17:00		
	高橋　学	火・木	14:00～16:00		
	千葉　智子	月・火・木・金	9:00～11:00		
	豊島　浩志	月・水・木	14:00～17:00		
耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座	中西 啓	月	17:00～19:00	医局	内線：6302
	片桐　克則	木・金	17:00～19:00		
	及川　伸一	火	10：00～17：00		
	亀井　昌代	火・木	17:00～		
	阿部　俊彦	火・木・金	17:00～		
	桂　彩	火・水	17:00～		
	土田　宏大	月	18:00～18：30		
眼科学講座	黒坂　大次郎	月	17:00～18:00	眼科学講座　医局	内線：6582
	橋爪　公平	月	16:00～17:00		
	新田　順福	月	17:30～18:30		
	及川　誠	月	17:30～18:30		
	清野　太郎	月	17:30～18:30		
	橋浦　哲哉	月	14:00～16:00		
	伊藤　愉一胤	月	17:00～18:00		
	今泉　利康	月	17:00～18:30		
	大島　広之	月	17:00～18:00		
	福田　一央	月	17:00～18:00		
皮膚科学講座	天野　博雄	水	17:00～18:00	皮膚科学講座　医局	内線：6543
	角田　加奈子	月	10:00～12:00		
	渡部　大輔	木	17:00～18:00		
	三浦　慎平	火	17:00～18:00		
	渡辺　彩乃	水	16:00～17:00		
	井上　剛	水	17:00～18:00		

泌尿器科学講座	小原　航	水	9:00～10:00	泌尿器科学講座　医局	内線：6551
	阿部　貴弥	月	9:00～10:00		
	杉村　淳	水	18:00～19:00	内丸MC控室	
	兼平　貢	火	18:00～19:00	泌尿器科学講座　医局	
	加藤　廉平	月	18:00～19:00		
	前川　滋克	火	18:00～19:00		
	五十嵐　大樹	火	18:00～19:00		
	塩見　叡	火	18:00～19:00		
	井藤　綾人	火	18:00～19:00		
	阿部　正和	火	18:00～19:00		
	田村　大地	海外留学中	海外留学中		
	久野　瑞貴	火	18:00～19:00		
神経精神科学講座	大塚　耕太郎	火	16:30～18:00	矢巾附属病院10階 神経精神科学講座　医局	内線：2011
	八木　淳子	金	12:00～13:00		
	三條　克巳	水	17:00～18:00		
	福本　健太郎	火	16:00～17:00		
	山家　健仁	火	16:00～17:00		
	内出　希	金	10:00～12:00		
	三田　俊成	水	16:00～17:00		
	吉岡　靖史	月	16:00～17:00		
	本多　笑奈	木	9:00～10:00		
放射線医学講座	田中　良一	月・金	16:00～16:30	放射線科　医局	内線：6322
	加藤　健一	月・水・木・金	16:00～16:30		
	鈴木　智大	火・木	16:00～17:00	放射線科　読影室	内線：2121
	田村　明生	火～金	16:00～17:00	放射線科　医局	内線：6322
	鈴木　美知子	月・木・金	9:00～10:00	放射線科　読影室	内線：2121
	折居　誠	月・金	16:00～17:00		
	小原　牧子	水	12:00～13:00		
	川島　和哉	月・金	15:00～17:00		
	曽根　美都	月・金	15:00～17:00		
	向井田　瑛佑	水・木	16:00～17:00		
	藤原　純平	月・金	15:00～17:00		
麻酔学講座	熊谷　基	月～金	16:30～	麻酔科管理室	内線：2465
	大畑　光彦	月～金	16:30～		
	脇本　将寛	月～金	16:30～		
	水間　謙三	月～金	16:30～		
	久慈　昭慶	月～金	16:30～		
	中野　雄介	月～金	16:30～		
	田村　雄一郎	月～金	16:30～		
	畠山　知規	月～金	16:30～		
	宮田　美智子	月～金	16:30～		
	小川　祥平	月～金	16:30～		
	髙橋　裕也	月～金	16:30～		
	栗原　寛人	月～金	16:30～		
	新居　正季子	月～金	16:30～		
臨床検査医学・感染症学講座	仲村　究	火	14:00～17:00	臨床検査医学・感染症学講座　教授室	内線：6331
	藤原　亨	木	12:00～13:00	臨床検査医学・感染症学講座　医局	
	小野寺　直人	木	9:00～10:00		
	熊谷　亜希子	月	12:30～13:30		
	七崎　之利	月	13:00～14:00		
	髙橋　敬太	木	11:00～12:00		
	日比谷　健司	火	9:00～12:00		

救急・災害医学講座	眞瀬　智彦	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	髙橋　学	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	藤田　友嗣	月～金	12:00～13:00		
	菅　重典	月～木	12:00～13:00		
	佐藤　寿穂	月～金	12:00～13:00		
	吉直　大佑	月～金	12:00～13:00		
	森野　豪太	月～金	12:00～13:00		
	野々口　マリア	月～金	12:00～13:00		
	横藤　壽	月～金	12:00～13:00		
	富永　綾	火・水	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	藤原　弘之	火・木	14:00～17:00		
	金子　拓	火・木	14:00～17:00	災害センター　研究室	内線：5565
	寺山　茉莉	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2682、2683
	星　眞太郎	月～金	12:00～13:00		
総合診療医学講座	下沖　収	月	17:00～18:00	医局	内線：#6304
	大間々　真一	月	17:00～18:00		
	髙橋　智弘	木	17:00～18:00		
	米田　真也	月・火・水	16:00～17:00		
	山田　哲也	月・火	17:00～18:00		
岩手県高度救命救急センター	藤野　靖久	月～金	12:00～13:00	救急センター　医局	内線：2683
	小鹿　雅博	月～金	12:00～13:00		
	千田　光平	月～金	12:00～13:00		
	三﨑　俊斉	月～金	12:00～13:00		
	丹田　実	月～金	12:00～13:00		
	石井　修平	月～金	12:00～13:00		
	佐々木　秀策	月～金	12:00～13:00		
	八鍬　一貴	月～金	12:00～13:00		
	藤本　健太郎	月～金	12:00～13:00		
	石田　馨	月～金	12:00～13:00		
	藤澤　良介	月～金	12:00～13:00		
	佐藤　貴紀	月～金	12:00～13:00		
病理診断学講座	柳川　直樹	月～金	17:00～	医局	内線：2393
	刑部　光正	月～金	17:00～		
	杉本　亮	月～金	17:00～		
	伊藤　一洋	月～金	17：00～		
臨床腫瘍学講座	板持　広明	月	15:00～17:00	医局	内線：2083
	岩谷　岳	水・木	17:00～19:00		
	遠藤　史隆	金	15:00～17:00		
医療安全学講座	肥田　圭介	木	12:00～14:00	医療安全管理部	内線：6112
睡眠医療学科	西島　嗣生	火・水	17:00～19:00	睡眠医療学科　医局	内線：#3358 emailでの連絡可
	細川　敬輔	月・火・木	17:00～19:00		
	細川　里絵	水	9:00～12:00		
臨床遺伝学科	鈴森　伸宏	金	16:00～17:00	臨床遺伝学科　医局	内線：#3258
	山本　佳世乃	金	16:00～17:00		
	吉田　明子	水	16:00～17:00		
	小林　有美子	金	16:00～17:00		
	勝部　暢介	月	16:00～17:00		
緩和医療学科	木村　祐輔	月～水	17:00～18:00	緩和医療学科　医局	内線：3364
	鴻巣　正史	月・火・金	17:00～18:00		
	中村　聖華	月・火	17:00～18:00		
放射線腫瘍学科	有賀　久哲	火	17:00～18:30	医局	内線：6322
	菊池　光洋	月	17:00～18:00		
	及川　博文	火	17:00～18:00		
	家子　義朗	月	17:00～18:00		
	瀬川　昂史	月	12:00～13:00		
リハビリテーション医学講座	西村　行秀	月・火	月：14:00～17:00 火：10:00～12:00	教授室	内線：3733
	西山　一成	火・金	火：　9:00～12:00 金：10:00～12:00	リハビリテーション科医室	内線：3731
災害・地域精神医学講座	赤平　美津子	火	17:00～18:00	神経精神科学講座　医局	内線：2371

いわて東北メディカル・メガバンク機構臨床研究・疫学研究部門	永井　雅人	随時	随時	医局	内線：5464
いわて東北メディカル・メガバンク機構生体情報解析部門	須藤　洋一	月～金	12:30～13:30	医局	内線：5472
	山﨑　弥生	月～金	10:00～12:00		
	楠　詩織	月～金	10:00～12:00		
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

医歯薬総合研究所　オフィスアワー一覧

「オフィスアワー」とは、授業科目等に関する学生の質問・相談等に応じるための時間として、教員があらかじめ示す特定の時間帯のことである。

所属	氏名	曜日	時間帯	場所	備考
学長	小笠原　邦昭	水	10:00～12:00	学長室	事前に学長室内線5001に連絡しアポイントを取ること
副学長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所長	仲　哲治	月～金	9:00～17:00	創薬・医療機器開発教授室	内線：5635
医歯薬総合研究所創薬・医療機器開発部門	西塚　哲	火・木	火：16:00～17:00木：12:00～13:00	教授室	内線：5685
	世良田　聡	月・木	13:00～17:00	107室	内線：5635
	鈴木　悠地	木	9:00～17:00	医局	内線：6471
	阿保　亜紀子	水・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5686
	真柳　平	月～金	16:00～17:00	神経科学研究部門	内線：5711
	開　勇人	火・木・金	10:00～17:00	スタッフルーム（102室）	内線：5687
医歯薬総合研究所基盤的研究部門	寺崎　一典	随時	随時	医局	内線：3331
	山下　典生	月・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	上野　育子	月・火・水	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	佐々木　敏秋	随時	随時	医局	内線：3331
	若井　淳	水	12:00～13:00	動物研究センター	内線：5390
	松田　豪	火・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
	森　太志	水・木・金	15:00～17:00	超高磁場先端MRI研究センター	内線：5370
非常勤（客員）講師	授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には各科目のコーディネータを通じて連絡すること。				

オフィスアワーについて

オフィスアワーとは、学生が教員に学業や大学生活全般について広く質問をしたり、相談あるいは指導等を受けるために開かれた時間です。
有効に利用してください。
希望者は、分野ごとに記載されている下記一覧表を確認の上、各教員の実施方法に従って面談を受けてください。

所属		氏名	曜日	時間帯	備　考
薬科学講座	創薬有機化学分野	河野　富一	月・水・金	12:00~13:00	場所：創薬有機化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		辻原　哲也	火・木・金	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム2 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		稲垣　祥	火・水・木	17:00~18:00	場所：創薬有機化学分野スタッフルーム1 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	天然物化学分野	田浦　太志	月～金	12:00~13:00 16:00~18:00	場所：天然物化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		浅野　孝	月～金	16:00~18:00	場所：天然物化学分野スタッフルーム
	構造生物薬学分野	野中　孝昌	金	16:20~17:00	場所：Moodleの構造生物薬学分野コース Zoomによるオンライン面談。予約不要。
		阪本　泰光	月～金	16:30~17:30	場所：構造生物薬学分野スタッフルーム 質問の際には、教科書、ノートおよび筆記用具を持参してください。 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
	分析化学分野	藤本　康之	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分析化学分野スタッフルーム(東研究棟4階 454) 左記以外でも在室時は対応可。
生物薬学講座	機能生化学分野	關谷　瑞樹	月～金	12:00~13:00 16:30~19:00	場所：機能生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	生体防御学分野	大橋　綾子	月～金	12:05~12:55	場　所：生体防御学分野にて（東研究棟3階 352-353） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。 質問の際は、教材や筆記用具を持参すること。
		錦織　健児	月～金	16:10~18:00	
病態薬理学講座	分子細胞薬理学分野	奈良場　博昭	月～金	12:00~13:00 17:00~19:00	場所：分子細胞薬理学分野教授室 左記以外でも在室時は可
		藤原　俊朗	月・火・木	16:10～18:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム（西研究棟356）等 左記以外でも在室時は可
			水・金	18:00～19:00	
		髙橋　巌	月～金	12:00~13:00 16:10~17:00	場所：分子細胞薬理学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	臨床医化学分野	野口　拓也	月～金	16:00~19:00	場所：臨床医化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
医療薬科学講座	創剤学分野	杉山　育美	月～金	16:10~17:30	場所：創剤学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬物代謝動態学分野	幅野　渉	月～金	16:00~18:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 左記の時間帯以外でも在室時は相談可。
		寺島　潤	月～金	9:00~17:00	場所：薬物代謝動態学分野（東研究棟4階 459～461） 在室時は随時対応
	衛生化学分野	杉山　晶規	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		米澤　穂波	月～金	17:00~19:00	場所：衛生化学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
臨床薬学講座	臨床薬剤学分野	工藤　賢三	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		朝賀　純一	月～金	17:00~19:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム315 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
		高橋　宏彰	月～金	16:30~18:00	場所：臨床薬剤学分野スタッフルーム317 左記の時間帯以外でも在室時は相談可能。
	情報薬科学分野	西谷　直之	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野教授室 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		佐京　智子	月～金	16:30~18:00	場所：情報薬科学分野スタッフルーム 左記の時間帯以外でも在室時は相談可
		氏家　悠貴	火～金	13:00~17:00	
	地域医療薬学分野	松浦　誠	月～金	16:10~18:00	場所：地域医療薬学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可
	薬学教育学分野	白石　博久	月～金	12:10~12:50	場所：薬学教育学分野スタッフルーム 左記以外でも在室時は可

※非常勤教員は、授業終了後に教室で質問を受け付ける。後日質問がある際には科目責任者を通じて連絡すること。

看護学部　オフィスアワー　一覧

オフィスアワーとは、学生が各科目の教員に学業や大学生活全般について質問、相談、あるいは指導等を受けるために設けられている時間です。学生に対して広く開かれた時間ですので、有効に活用して下さい。質問や相談等を希望する学生は、曜日・時間帯を確認し、各教員の研究室にて面談を受けて下さい。

看護学部

所属		担当教員	曜日	時間帯	備　考
共通基盤看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	基礎	野里　同	火･水･木	16：30～17：30	研究室19　内線5403 nozato@iwate-med.ac.jp
		柏木　ゆきえ	水	16：00～17：00	研究室8　内線5401　事前アポイントがあれば随時可 kasiwagi@iwate-med.ac.jp
		小林　由美子	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5402　事前アポイントがあれば随時可 yumikoba@iwate-med.ac.jp
		松田　悠史	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5406　メールでの事前連絡があれば随時可 matsuy@iwate-med.ac.jp
	成人	佐藤　奈美枝	月	16：00～17：00	研究室6　内線5419　事前連絡があれば随時可 namies@iwate-med.ac.jp
		伊藤　奈央	火・木	16：00～17：00	研究室20　内線5358　事前アポイントがあれば随時可 naoito@iwate-med.ac.jp
		小坂　未来	火・金	15：30～16：30	研究室13　内線5404　事前連絡があれば調整可 mkosaka@iwate-med.ac.jp
		三上　邦子	月・金	16：30～17：30	研究室13　内線5303 mikamik@iwate-med.ac.jp
		畑中　るり子	木	16：00～17：00	研究室9　内線5425 hatanrur@iwate-med.ac.jp
地域包括ケア講座（マルチメディア教育研究棟４階）	地域	岩渕　光子	木	12：00～13：00	研究室5　内線5416　事前連絡があれば随時可 iwabuchi@iwate-med.ac.jp
		藤澤　純子	月・金	12：00～13：00	研究室9　内線5359　事前連絡があれば随時可 fujisawa@iwate-med.ac.jp
		赤井　純子	火・木	12：00～13：00	研究室9　内線5426　メールでの事前連絡があれば随時可 jakai@iwate-med.ac.jp
		五日市　瑠美子	水・木	12：00～13：00	研究室9　内線5202　事前連絡があれば随時可 rumikoi@iwate-med.ac.jp
	老年	舘向　真紀	火･水･木	16：00～17：00	研究室15　内線5407　事前アポイントがあれば随時可 makiy@iwate-med.ac.jp
		菊池　佑弥	火･水･木	16：00～17：00	研究室9　内線5405　事前アポイントがあれば随時可 yuyakkc@iwate-med.ac.jp
	精神	遠藤　太	木	16：30～18：00	研究室3　内線5417　事前アポイントがあれば随時可 futoshie@iwate-med.ac.jp
		熊地　美枝	水・木	16：00～17：00	研究室4　内線5201　事前連絡があれば随時可 kumachi@iwate-med.ac.jp
		髙崎　邦子	火・木	16：30～17：30	研究室16　内線5418　事前連絡があれば調整可 takasaki@iwate-med.ac.jp
成育看護学講座（マルチメディア教育研究棟４階）	小児	髙橋　亮	水	16：30～17：00	研究室17　内線5203　事前連絡があれば調整可 tryo@iwate-med.ac.jp
		伊東　佐由美	月～金	16：00～17：00	研究室14　内線5409　事前連絡があれば随時可 sayumii@iwate-med.ac.jp
	母性	蛎﨑　奈津子	月	15：00～17：00	研究室7　内線5353　事前連絡があれば随時可 kakizaki@iwate-med.ac.jp
		遊田　由希子	水・木	12：00～14：00	研究室11　内線5355　事前連絡があれば随時可 yuuda@iwate-med.ac.jp
		西里　真澄	月・水	15：00～17：00	研究室10　内線5354　事前連絡があれば随時可 nishima@iwate-med.ac.jp
		髙橋　淳美	火･木･金	16：00～17：00	研究室14　内線5427　事前連絡があれば随時可 atsumi@iwate-med.ac.jp
看護専門基礎講座（東研究棟２階）		遠藤　龍人	水・木	14：00～16：00	研究室2　内線5420　メールでの事前アポイントメントが望ましい ryuendo@iwate-med.ac.jp
		塚本　恭正	月～金	15：00～17：00	研究室3　内線5421 tsukamot@iwate-med.ac.jp
		一ノ渡　学	水・木	15：00～17：00	研究室4　内線5422　事前アポイントがあれば随時可 gakuichi@iwate-med.ac.jp
看護学部		非常勤教員	授業終了後、教室にて質問等を受け付けます。 後日質問等がある場合は、科目責任者を通じて連絡して下さい。		